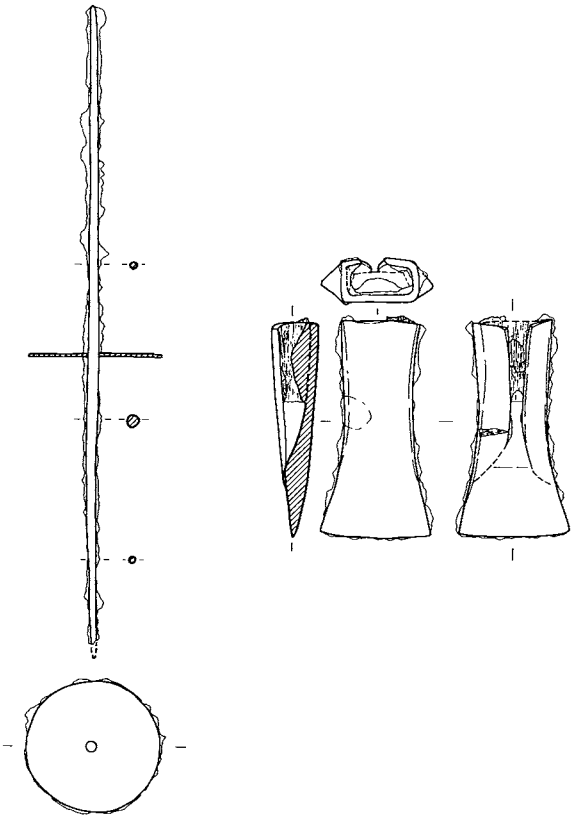
熊本大学埋蔵文化財調査報告書第5集

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅴ

（1998・2007年度）



2009

熊本大学埋蔵文化財調査室

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅴ

（1998・2007年度）

2009

熊本大学埋蔵文化財調査室

巻頭図版（1）

1．黒髪町遺跡9810調査地点調査区全景

2．本庄遺跡9807調査地点の遺構群

1．本庄遺跡9801・0712調査地点出土の青銅製帯金具

2．本庄遺跡9801調査地点15号土坑

序　　文

1998年度は年度末に理学部自然科学系の大学院建物建設の補正予算がついて、それまでも大学病院や医学部内での建物建設が目白押しであったのに加え、さらに発掘調査を行なわねばならず、1年を通じて多忙な年であった。また、2007年度も大学病院構内を中心として病棟建て替えや図書講義棟の建設、附属小中学校の改修などに伴う発掘調査が目白押しであった。

本書はこの1998年と2007年に実施された熊本大学の構内で実施された発掘調査の成果を公開し、一般市民の方に埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうとともに、学術研究資料としての利用を図るものである。

黒髪北地区で実施された文化部室建設に伴う発掘調査では、黒髪北地区で広い面積を発掘した初めてのものであった。調査の結果、それまで構内では見つかっていなかった縄文時代早期の包含層が確認され、立田山の麓から斜面にかけての高い標高の地点には、それまで最も古いと考えてきた縄文時代後期より古い遺構・遺物が存在することが明らかになった。また弥生時代中期を中心とした遺物群も本遺跡が黒髪式土器の標式遺跡であることを証明するように、一帯に該期の遺構・遺物が濃密に存在していることを裏付けた。

黒髪南地区で実施された理学部自然科学系大学院建物の建設地では、7世紀末～8世紀後半を中心とした竪穴住居址群が密集して検出された。黒髪地区にある本学および周辺は古代においても重要な拠点にあたり、古代豪族建部の君の居住地や古代駅制の駅家「蚕養」駅の推定地として注目されている。本地点の住居址群は、これらに出仕した下級役人たちの居住地が郡家の周囲にきわめて濃密に存在することを証明している。

また、医学部や大学病院の所在する本荘地区においても1998年・2007年度を合わせて3件の発掘調査が実施され、7世紀後半～8世紀代の竪穴住居址群を中心とした遺構群が多数発見された。青銅製の帯金具や硯などの存在から官衙関連の施設の存在も想定できるが、明確な遺構は把握できていない。本地域も縄文時代後期から弥生時代前期、古墳時代中期、古代などの遺構が濃密な複合遺跡である。

附属小中学校の所在する京町地区における調査では、古代や弥生時代の遺構遺物が検出された。

本学における再開発に伴う埋蔵文化財に対する取り組みは、今年で15年目を迎えるが、この間、調査にご協力を惜しまれなかった熊本市教育委員会、熊本県教育庁および周辺市町村の文化財ご担当各位に感謝申し上げます。今後も文化財の保護と普及
に努力していきたいと思います。

平成21年3月25日

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会

委員長　伊藤　重剛

例　　言

1．本報告書は、熊本大学再開発計画によって熊本大学敷地内において実施された各種建築工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査室が1998・2007年度に実施した発掘調査に関するものである。
2．本書に収録した成果報告は、1998・2007年度に埋蔵文化財調査室が実施した発掘調査報告とそれに関連する立会調査などの成果のうち、（黒髪北）9802調査地点、（黒髪南）9810調査地点、（本荘中）9801調査地点、（本荘北）9807調査地点・0712調査地点、（京町）0719調査地点・0721調査地点の７つの発掘調査に関するものである。
3．上記調査地点の報告にあたっては、下記のように地区ごとに分けて報告する。
　Ⅱ章：黒髪北地区　9802調査地点
　Ⅲ章：黒髪南地区　9810調査地点
　Ⅳ章：本荘中地区　9801調査地点
　Ⅴ章：本荘北地区　9807調査地点・0712調査地点
　Ⅵ章：京町地区　0719調査地点・0721調査地点
　Ⅶ章：自然科学分析報告
4．以上の調査を実施した1998年度と2007年度の埋蔵文化財調査室の組織と調査体制は以下のとおりである。
　1998年度　室　　長：甲元眞之（文学部教授）
　　調　査　員：小畑弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）（８月以降）
　　事務補佐員：大坪志子（７月まで）・松嶋木綿子（８月以降）
　2007年度　室　　長：木下尚子（文学部教授）
　　調　査　員：小畑弘己（文学部准教授）・大坪志子（文学部助教）・江頭俊介（施設部技術補佐員）
　　事務補佐員：中川木綿子
5．遺物番号は地区ごとに１から番号を付けている。写真図版中の番号はこれに一致する。
6．本文は、小畑弘己（Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ-１）、大坪志子（Ⅱ）、江頭俊介（Ⅴ-２・Ⅵ）、高椋浩史（九州大学大学院：Ⅶ）が執筆した。
7．本書に使用した遺構実測図に関しては、小畑弘己・大坪志子・江頭俊介をはじめとする調査に参加した熊本大学考古学研究室学生、埋蔵文化財サポートシステムによるものである。
8．本書に使用した遺物実測図は、小倉　卓、辻村美代子、藤木　聡、長谷智子、山嵜早苗、小畑、大坪（Ⅱ章・Ⅲ章・Ⅳ章・Ⅴ-１章）、江頭（Ⅴ-２章・Ⅵ章）が製作した。
9．本書に使用した図版の製図は小畑、大坪、増井弘子、鬼塚美枝、首藤優子、江口　路（Ⅱ章・Ⅲ章・Ⅳ章・Ⅴ-１章）、江頭俊介（Ⅴ-２章・Ⅵ章）が行った。
10．遺構実測及び製図には手描による記録とともに遺跡調査汎用システム（カタタ Ver. 3- アーケオテクノ社）、アイシン精機株式会社の遺跡実測支援システム「遺構くん」及び製図システム「トレース３Ｄくん」を使用した。
11．本書に使用した現場写真は小畑、大坪、江頭が、遺物写真は江頭、小山正子、末吉美記がこれを撮影した。
12．本書で使用した遺物観察表は、江口、鬼塚、首藤、長谷、山嵜、小畑、大坪、江頭が作成した。
13．本書に掲載した出土遺物および記録類は、すべて熊本大学埋蔵文化財調査室に保管している。
14．本書の編集は小畑が行った。

本 文 目 次

Ⅰ　構内遺跡と調査の概要

1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要 …… 1

2. 調査に至る経緯 …… 4

3. これまでの調査と本書収録の調査 …… 5

Ⅱ　黒髪北地区の調査

1. 文化部室取設工事に伴う発掘調査（9802調査地点）……17

（1）調査の目的と経過 ……17

（2）調査区の基本層序 ……20

（3）検出遺構 ……22

（4）出土遺物 ……22

（5）まとめ ……27

Ⅲ　黒髪南地区の調査

1. 理学部自然科学等総合実験棟新営工事に伴う発掘調査（9810調査地点）……33

（1）調査の目的と経過 ……33

（2）調査区の基本層序 ……33

（3）検出遺構 ……36

（4）出土遺物 ……51

（5）まとめ ……58

Ⅳ　本荘中地区の調査

1. 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営に伴う発掘調査(9801調査地点)…65

（1）調査の目的と経過 ……65

（2）調査区の基本層序 ……67

（3）検出遺構 ……67

（4）出土遺物 ……71

（5）まとめ ……74

Ⅴ　本荘北地区の調査

1. 薬学部注射患者毎セット支給室取設工事に伴う発掘調査（9807調査地点）……79

（1）調査の目的と経過 ……79

（2）調査区の基本層序 ……79

（3）検出遺構 ……81

（4）出土遺物 ……85

（5）まとめ ……88

2. 東病棟新営工事に伴う発掘調査（0712調査地点）

（1）調査の目的と経過 ……91

（2）調査区の基本層序 ……92

（3）検出遺構 ……94

（4）出土遺物……108

（5）まとめ……123

Ⅵ　京町地区の調査
1. 教育学部附属小中学校校舎等改修工事に伴う発掘調査（0719調査地点）……131
（1）調査の目的と経過……131
（2）調査区の基本層序……132
（3）検出遺構……135
（4）出土遺物……135
（5）まとめ……135
2. 教育学部附属小中学校校舎等改修機械設備工事に伴う発掘調査（0721調査地点）……139
（1）調査の目的と経過……139
（2）調査区の基本層序……139
（3）検出遺構……140
（4）出土遺物……143
（5）まとめ……146
Ⅶ　自然科学分析報告
黒髪町遺跡9704調査地点甕棺出土人骨報告……149

挿　図　目　次

図1　黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）……2
図2　黒髪北地区における調査地点位置図（1/2000）……18
図3　9802調査地点遺構配置実測図（1/200）……19
図4　9802調査区壁土層断面実測図（1/100）……21
図5　9802調査地点検出遺構および出土遺物実測図1（1/20・1/40・1/3）……23
図6　9802調査地点出土遺物実測図2（1/3）……24
図7　9802調査地点出土遺物実測図3（1/3）……25
図8　9802調査地点出土遺物実測図4（1/3）……26
図9　9802調査地点出土遺物実測図5（1/2）……28
図10　黒髪南地区における調査地点位置図（1/2000）……34
図11　9810調査地点遺構配置実測図（1/200）……35
図12　9810調査地点西壁・南壁土層断面実測図（1/100）……36
図13　1・3・8号溝土層断面実測図（1/50）……37
図14　2号竪穴住居址実測図（1/50）……38
図15　7号竪穴住居址実測図（1/50）……40
図16　11号竪穴住居址実測図（1/50）……41
図17　310・280号竪穴住居址実測図（1/50）……42
図18　200号竪穴住居址実測図（1/50）……43
図19　320号竪穴住居址実測図（1/50・1/20）……44
図20　6号竪穴住居址実測図（1/50）……45
図21　250・359・358・390・507・348号竪穴住居址実測図（1/50）……46
図22　4・210・220号竪穴住居址実測図（1/50）……47
図23　270・370号竪穴住居址実測図（1/50）……48
図24　240・230・5号竪穴住居址実測図（1/50）……49
図25　138号土坑実測図（1/50）……51

図26　9810調査地点出土遺物実測図１
（１／４）……52
図27　9810調査地点出土遺物実測図２
（１／４）……53
図28　9810調査地点出土遺物実測図３
（１／４）……54
図29　9810調査地点出土遺物実測図４
（１／４・１／２）……55
図30　9810調査地点出土遺物実測図５
（１／４）……56
図31　9810調査地点出土遺物実測図６
（１／２）……57
図32　本荘中地区における調査地点位置図
（１/2000）……65
図33　9801調査地点遺構配置実測図（１/200）
……66
図34　調査区壁・各遺構土層断面実測図
（１/100・１/40）……68
図35　28号竪穴住居址・５号掘立柱建物址実測
図（１/50）……70
図36　15号土坑実測図（１/20）……71
図37　9801調査地点出土遺物実測図１
（１／４）……72
図38　9801調査地点出土遺物実測図２
（１／４・１／２）……73
図39　9801調査地点出土遺物実測図３
（１／４・１／２）……74
図40　本荘北地区における調査地点位置図
（１/2000）……80
図41　9807調査地点遺構配置・壁土層実測図
（１/200・１/100）……81
図42　３・４・50号竪穴住居址実測図
（１/50）……82
図43　100・200・300・400号掘立柱建物址・道
路跡実測図（１/100）……84
図44　9807調査地点出土遺物実測図１
（１／４）……86
図45　9807調査地点出土遺物実測図２
（１／４）……87
図46　0712調査地点基本土層断面模式図……92
図47　0712調査地点遺構配置図（１/200）…93
図48　１・３・255・256・266号溝実測図
（１/100）……95
図49　98・107・108号竪穴住居址実測図
（１/50）……97
図50　128・174号竪穴住居址実測図（１/50）
……99
図51　145・178号竪穴住居址実測図（１/50）
……101
図52　140・175号竪穴住居址実測図（１/50）
……102
図53　２・44・24・59・60号竪穴住居址実測図
（１/50）……104
図54　177・180・287号竪穴住居址実測図
（１/50）……105
図55　144・230号竪穴住居址実測図（１/50）
……107
図56　１・255・256号溝出土土器実測図
（１／４）……109
図57　３号溝、98・107・108・128・174号竪穴
住居址出土土器実測図（１／４）……110
図58　145・178・140・44・２・59号竪穴住居
址出土土器実測図（１／４）……112
図59　177・287・175・144号竪穴住居址出土土
器実測図（１／４）……114
図60　230号竪穴住居址、ピット、包含層、攪
乱出土土器実測図（１／４）……116
図61　刻書土器・石器（１／４）・鉄器実測図
（１／２）……118
図62　鉄器・銅製品（１／２）・縄文土器実測図
（１／４）……120
図63　縄文土器・石器実測図（１／４）……121
図64　打製石鏃・黒曜石剥片実測図
（１／２）……123
図65　南調査区壁土層断面実測図
（１/200）……132
図66　体育館調査区の基本土層断面模式図 132
図67　0719・0721調査地点調査区配置図
（１/1000）……133
図68　0719調査地点遺構配置図（１/200） 134

図69　2・1号竪穴住居址実測図（1 /50）……136
図70　0719調査地点出土土器実測図（1 / 4）・石器実測図（1 / 2）……137
図71　0721調査地点中庭・体育館西側・構内中央道路内調査区基本土層断面模式図 140
図72　0721調査地点中学校中庭調査区遺構配置図（1 /200）……141
図73　0721調査地点体育館西側・構内中央道路内調査区遺構配置図（1 /200）……142
図74　0721調査地点出土遺物実測図1（1 / 4）……144
図75　0721調査地点出土遺物実測図2（1 / 4）……145
図76　471・541号墓出土人骨残存部位 ……150

図　版　目　次

図版1　9802調査地点 ……153
写真1　西区北壁（南東より）
写真2　181号土坑（西より）
写真3　3号溝（西区）（西より）
写真4　5号溝（南より）
写真5　作業風景（西より）
図版2　9802調査地点 ……154
写真6　石斧出土状況（北より）
写真7　1号溝（東区）（西より）
写真8　1号溝掘り下げ状況（東より）
写真9　遺物出土状況（北より）
写真10　調査区（西区）全景（東より）
図版3　9802調査地点・9802調査地点出土遺物1 ……155
写真11　押型文土器出土状況（北より）
写真12　縄文・弥生土器出土状況（北より）
写真13　東区全景（西より）
写真14　調査委員会現地説明会
図版4　9802調査地点出土遺物2 ……156
図版5　9802調査地点出土遺物3 ……157
図版6　9802調査地点出土遺物4 ……158
図版7　9802調査地点出土遺物5 ……159
図版8　9802調査地点出土遺物6 ……160
図版9　9802調査地点出土遺物7 ……161
図版10　9802調査地点出土遺物8 ……162
図版11　9802調査地点出土遺物9 ……163
図版12　9802調査地点出土遺物10 ……164
図版13　9810調査地点 ……165
写真15　調査区全景1（西より）
写真16　調査区中央（南より）
図版14　9810調査地点 ……166
写真17　調査風景1（東より）
写真18　調査風景2（南西より）
写真19　調査風景3（西より）
写真20　調査風景4（北より）
写真21　調査風景5（南より）
写真22　3号溝（西より）
写真23　3号溝土層断面（西より）
写真24　1号溝南壁土層断面（北東より）
図版15　9810調査地点 ……167
写真25　1号溝土層断面（北より）
写真26　10号溝（西より）
写真27　8号溝土層断面（西より）
写真28　2号竪穴住居址（南西より）
写真29　2号竪穴住居址竈（北より）
写真30　2号竪穴住居址竈掘り下げ状況（南西より）
写真31　2号竪穴住居址竈遺物出土状況（北西より）
写真32　6・7号竪穴住居址（南より）
図版16　9810調査地点 ……168
写真33　6・7号竪穴住居址（南より）
写真34　11号竪穴住居址（南より）
写真35　11号竪穴住居址竈（南より）
写真36　11号竪穴住居址鉄器出土状況
写真37　310号竪穴住居址土層断面（南より）
写真38　310号竪穴住居址（南より）
写真39　310号竪穴住居址竈（南より）

写真40　310号竪穴住居址（東より）
図版17　9810調査地点 ……169
写真41　320号竪穴住居址（西より）
写真42　320号竪穴住居址ピット内壷出土状況（北東より）
写真43　6号竪穴住居址掘り下げ状況（南より）
写真44　6号竪穴住居址遺物出土状況（南より）
写真45　6号竪穴住居址竈（南より）
写真46　250号竪穴住居址土層断面（西より）
写真47　250・593号竪穴住居址（南より）
写真48　359号竪穴住居址（西より）
図版18　9810調査地点 ……170
写真49　359号竪穴住居址内粘土（南より）
写真50　359号竪穴住居址竈（南西より）
写真51　348号竪穴住居址（西より）
写真52　348号竪穴住居址焼土断面（南より）
写真53　348号竪穴住居址（南より）
写真54　4号竪穴住居址（西より）
写真55　4号竪穴住居址竈（西より）
写真56　220号竪穴住居址（南より）
図版19　9810調査地点 ……171
写真57　220号竪穴住居址掘り下げ状況（東より）
写真58　220号竪穴住居址竈（南より）
写真59　220号竪穴住居址遺物出土状況（南より）
写真60　280号竪穴住居址（西より）
写真61　280号竪穴住居址（東より）
写真62　230号竪穴住居址（西より）
写真63　230号竪穴住居址竈（西より）
写真64　270号竪穴住居址竈上部焼土（北東より）
図版20　9810調査地点 ……172
写真65　270号竪穴住居址土器出土状況（南より）
写真66　270号竪穴住居址竈（西より）
写真67　270号竪穴住居址紡錘車出土状況（南より）
写真68　270号竪穴住居址内焼土（南より）
写真69　270号竪穴住居址土層断面1（南西より）
写真70　270号竪穴住居址土層断面2（北東より）
写真71　270号竪穴住居址（南より）
写真72　270号竪穴住居址焼土断面（西より）
図版21　9810調査地点 ……173
写真73　270号竪穴住居址（南より）
写真74　370号竪穴住居址（南より）
写真75　290号土坑（東より）
写真76　350号竪穴住居址（南より）
写真77　390号竪穴住居址（南より）
写真78　5号竪穴住居址掘り下げ状況（西より）
写真79　346号竪穴住居址（西より）
写真80　138号土坑（東より）
図版22　9810調査地点 ……174
写真81　138号土坑焼土検出状況（東より）
写真82　現地説明会
写真83　調査風景6（南西より）
写真84　調査風景7（南東より）
写真85　調査区全景2（西より）
図版23　9810調査地点出土遺物1 ……175
図版24　9810調査地点出土遺物2 ……176
図版25　9810調査地点出土遺物3 ……177
図版26　9810調査地点出土遺物4 ……178
図版27　9810調査地点出土遺物5 ……179
図版28　9810調査地点出土遺物6 ……180
図版29　9810調査地点出土遺物7 ……181
図版30　9801調査地点 ……182
写真86　調査区全景（東より）
写真87　Ⅰ区全景（北西より）
写真88　Ⅱ区全景（北東より）
写真89　3号溝（東より）
写真90　3号溝土層断面（南西より）
図版31　9801調査地点 ……183
写真91　3号溝出土骨（北西より）
写真92　1号溝全景（北東より）
写真93　1号溝土層断面（北東より）

写真94　1号溝人骨出土状況（東より）
写真95　30号溝土層断面（北より）
写真96　31号溝土層断面（北より）
写真97　2号溝土層断面（北より）
写真98　4号溝遺物出土状況（南より）
図版32　9801調査地点 ……184
写真99　4号溝土層断面（南より）
写真100　25号溝遺物出土状況（南より）
写真101　25号溝（北東より）
写真102　27号竪穴住居址（北西より）
写真103　28号竪穴住居址（北東より）
写真104　28号竪穴住居址竈（北東より）
写真105　26号竪穴住居址（南東より）
写真106　5号掘立柱建物址（南より）
図版33　9801調査地点・9801調査地点出土遺物1 ……185
写真107　15号土坑遺物出土状況（東より）
写真108　15号土坑出土坏（東より）
写真109　発掘調査風景（東より）
写真110　現地説明会
図版34　9801調査地点出土遺物2 ……186
図版35　9801調査地点出土遺物3 ……187
図版36　9801調査地点出土遺物4 ……188
図版37　9807調査地点 ……189
写真111　調査区全景1（西より）
写真112　南壁土層断面（北より）
写真113　調査風景（東より）
写真114　調査区西半（西より）
写真115　調査区全景2（西より）
図版38　9807調査地点 ……190
写真116　1・7号竪穴住居址（西より）
写真117　1号竪穴住居址（西より）
写真118　1号竪穴住居址遺物出土状況（南より）
写真119　2号道路跡（東より）
写真120　2号道路2号溝（東より）
写真121　3号竪穴住居址硬化面（南より）
写真122　3号竪穴住居址（南より）
写真123　3号竪穴住居址竈（西より）
図版39　9807調査地点 ……191
写真124　4号竪穴住居址（西より）
写真125　4号竪穴住居址（北西より）
写真126　4号竪穴住居址遺物出土状況（西より）
写真127　5号竪穴住居址（西より）
写真128　34号竪穴住居址（北より）
写真129　50号竪穴住居址（西より）
写真130　100号掘立柱建物址（西より）
写真131　200号掘立柱建物址（南より）
図版40　9807調査地点・9807調査地点出土遺物1 ……192
写真132　300号掘立柱建物址（南東より）
写真133　400号掘立柱建物址（南東より）
写真134　405号ピット須恵器蓋出土状況（北西より）
図版41　9807調査地点出土遺物2 ……193
図版42　9807調査地点出土遺物3 ……194
図版43　0712調査地点 ……195
写真135　1号溝（北西より）
写真136　255・266号溝（南西より）
写真137　256号溝（南西より）
写真138　256号溝（北東より）
写真139　3号溝検出状況（北西より）
写真140　107・108号竪穴住居址（西より）
写真141　108号竪穴住居址出土紡錘車（北より）
写真142　108号竪穴住居址出土鉄鏃（北より）
図版44　0712調査地点 ……196
写真143　98号竪穴住居址床面（西より）
写真144　98号竪穴住居址竈（西より）
写真145　98号竪穴住居址銙帯出土状況（西より）
写真146　98号竪穴住居址「寺」刻書土器（南より）
写真147　98号竪穴住居址完掘状況（西より）
写真148　128号竪穴住居址・調査区北東側（西より）
写真149　140号竪穴住居址完掘状況（北西より）

写真150　174号竪穴住居址完掘状況（東より）
図版45　0712調査地点 ……197
写真151　145号竪穴住居址完掘状況（東より）
写真152　178号竪穴住居址床面（北より）
写真153　調査区中央竪穴住居址群（北西より）
写真154　178号竪穴住居址鉄鏃149出土状況
写真155　178号竪穴住居址鉄鏃150出土状況
写真156　２号・44号竪穴住居址完掘状況（北西より）
写真157　60号竪穴住居址完掘状況（南東より）
写真158　59号竪穴住居址床面（南東より）
図版46　0712調査地点 ……198
写真159　59号竪穴住居址炉断面（北東より）
写真160　59号竪穴住居址炉出土土器（南東より）
写真161　59号竪穴住居址付近出土土器（南西より）
写真162　177号竪穴住居址出土土器（南東より）
写真163　177号竪穴住居址出土土器（南東より）
写真164　177号竪穴住居址完掘状況（南より）
写真165　287号竪穴住居址完掘状況（南東より）
写真166　175号竪穴住居址完掘状況（南東より）
図版47　0712調査地点 ……199
写真167　144号竪穴住居床面（南東より）
写真168　144号竪穴住居址土器103出土状況
写真169　144号竪穴住居址土器102出土状況
写真170　144号竪穴住居址完掘状況（南東より）
写真171　230号竪穴住居址完掘状況（北西より）
写真172　17号ピット掘削状況（南より）
写真173　調査区北東側完掘状況（北東より）
写真174　調査区中央部完掘状況（北西より）
図版48　0712調査地点 ……200
写真175　調査区北側（北西より）
写真176　調査区南側（北西より）
図版49　0712調査地点 ……201
写真177　調査区全景（北西より）
写真178　調査区遠景（北より）
図版50　0712調査地点出土遺物１ ……202
図版51　0712調査地点出土遺物２ ……203
図版52　0712調査地点出土遺物３ ……204
図版53　0712調査地点出土遺物４ ……205
図版54　0712調査地点出土遺物５ ……206
図版55　0712調査地点出土遺物６ ……207
図版56　0712調査地点出土遺物７ ……208
図版57　0712調査地点出土遺物８ ……209
図版58　0712調査地点出土遺物９ ……210
図版59　0719調査地点 ……211
写真179　南調査区遺構検出状況（西より）
写真180　２号竪穴住居址検出状況（南西より）
写真181　２号竪穴住居址床面検出状況（南西より）
写真182　１号竪穴住居址床面検出状況（南西より）
写真183　南調査区完掘状況（東より）
写真184　北調査区西側完掘状況（西より）
写真185　体育館内調査区完掘状況（南より）
写真186　中学校校舎内調査区西側試掘（南より）
図版60　0719調査地点 ……212
写真187　中学校校舎内調査区西側試掘（西より）
写真188　中学校校舎内調査区西側試掘（南より）
写真189　中学校校舎内調査区西側試掘（南より）
写真190　中学校校舎内調査区中央完掘状況（北より）
写真191　中学校校舎内調査区東側完掘状況

（南より）
写真192　中学校校舎内調査区南側完掘状況（東より）
写真193　小学校校舎内調査区完掘状況（西より）
写真194　小学校校舎内調査区完掘状況（北西より）
図版61　0719調査地点出土遺物 ……213
図版62　0721調査地点 ……214
写真195　中庭調査区表土剥ぎ（東より）
写真196　中庭調査区調査風景１（東より）
写真197　中庭調査区調査風景２（西より）
写真198　１号土坑遺物検出状況（南東より）
写真199　３号土坑土層断面（南より）
写真200　52号土坑土層断面（南より）
写真201　中庭調査区南側完掘状況（東より）
写真202　中庭調査区東側完掘状況（南より）
図版63　0721調査地点 ……215
写真203　中庭調査区東側完掘状況（東より）
写真204　中庭調査区中央部完掘状況１（南より）
写真205　中庭調査区中央部完掘状況２（北より）
写真206　中庭調査区西側完掘状況（東より）
写真207　体育館西側調査区調査風景（北より）
写真208　硬化面１検出状況（北より）
写真209　体育館西側調査区北側完掘状況（北より）
写真210　体育館西側調査区中央部完掘状況（北より）
図版64　0721調査地点 ……216
写真211　体育館西側調査区中央部完掘状況（南より）
写真212　体育館西側調査区南側完掘状況（西より）
写真213　構内中央道路調査区西側完掘状況１（西より）
写真214　構内中央道路調査区西側完掘状況２（北より）
写真215　構内中央道路調査区東側完掘状況（西より）
写真216　硬化面２遺物検出状況１（西より）
写真217　硬化面２遺物検出状況２（西より）
写真218　硬化面２検出状況（東より）
図版65　0721調査地点出土遺物１ ……217
図版66　0712調査地点出土遺物２ ……218

表　目　次

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧表……１
表２　既往調査地点と本書収録調査地点一覧表……５
表３　9802調査地点出土遺物一覧表……30
表４　9810調査地点出土遺物一覧表……59
表５　9801調査地点出土遺物一覧表……76
表６　9807調査地点出土遺物一覧表……89
表７　0712調査地点出土遺物一覧表 ……124
表８　0719調査地点出土遺物一覧表 ……138
表９　0721調査地点出土遺物一覧表 ……147
表10　四肢骨計測値 ……152

Ⅰ　構内遺跡と調査の概要

1．熊本大学敷地と構内遺跡の概要

熊本大学が保有する敷地は、熊本市内の黒髪地区・本荘地区・九品寺地区・大江地区・宇留毛地区・京町地区・城東地区及び下南部地区の８区、市外の合津地区・阿蘇地区の２地区に分散しており、それぞれ埋蔵文化財の包蔵地となっている（表１）。

法・文・教育・工学・理学部の校舎が設置されている黒髪地区は黒髪町遺跡（熊本市埋蔵文化財地図№８－88）に含まれる。本遺跡は熊本市中心部のほぼ北東端に位置する立田山（標高151.6m）の南西部の緩斜面が、西を坪井川の作る沖積面と南を白川河岸の低位段丘によって囲まれる東西900m、南北1000mの遺跡群であり、縄文時代から歴史時代に至る遺構・遺物を包蔵している。遺跡発見の経緯は昭和11年に遡り、大学に隣接する熊本県立中学済々學（現済々黌高校）の校庭から甕棺２基が発見されたことに始まる。また昭和40年には隣接する九州女学院敷地においてやはり弥生時代中期の甕棺や古墳時代の須恵器甑などを発見するに至り、その重要性が認識されるに至った。黒髪式土器の指標遺跡である。このように弥生時代を中心とした遺跡としての認識が高いが、1983年に実施された済々黌高校内における新たな調査によって古代の竪穴住居址と土師器・須恵器・黒色土器などの関連遺物が出土し、その中には「寺門」銘の墨書土器が含まれているなど古代飽田郡における拠点的な性格をもった遺跡であることが予想された（『新熊本市史料編第１巻考古資料』新熊本市史編纂室1996）。古代官道や駅伝制の研究上、文献で推定されていた延喜式にみる「養蚕駅」、旧飽田郡家の推定地としても注目を集めてきた（木下1975・1995）が、近年ではこれまでの周辺遺跡での発掘成果および文献資料の検討、そして本調査室による発掘成果を受けて、済々黌高校から本学黒髪地区周辺が飽田郡司建部公の居所であり、飽田郡家として比定するなどの積極的な意見が展開されている（鶴嶋1997）。このように、本遺跡は先史時代のみならず、古代律令制下の駅伝制を考える上できわめて重要なものである。本報告において２地点の発掘調査記録を収録している。

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧表

No	地区名（学部名）	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備考
1	黒髪北地区（法・文・教・大学センター） 黒髪北地区(教育学部附属養護学校)	熊本市黒髪２丁目40－１ 熊本市黒髪５丁目17－１	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市黒髪２丁目39－１	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区(教育学部附属小・中学校)	熊本市京町本丁５－12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市城東５－９	熊本城址	城館址・熊本城関東遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市新南部居屋敷240－１	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	合津マリンステーション	上天草市松島町大字合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘中地区（医学部）	熊本市本荘２丁目２－１	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院）	熊本市本荘１丁目１－１	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址 墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	本荘南地区（保健学科）	熊本市九品寺４丁目24－１	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	薬学部	熊本市大江本町５－１	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	大江地区	熊本市渡鹿４丁目１－１	大江遺跡	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区（職員宿舎）	熊本市黒髪７丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安	

図１　黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（１/25000）

医学部附属病院および医学部がある本荘地区は、本庄遺跡（熊本大学病院敷地遺跡）（熊本市埋蔵文化財地図№8－95）を包括する。本遺跡は黒髪町遺跡と同じく熊本平野を形成する扇状地形の中央を流れる白川の河岸堤防上に位置する遺跡であり、標高は13～12mである。附属病院の所在する白川寄りの地点が標高が高く、南東部（医学部側）へと緩やかに傾斜する地勢である。敷地内を白川より分岐した小河川が暗渠として流れており、古来この一帯は流道を変えながら幾本もの小河川が流れていた可能性が高い。『熊本市中央北地区文化財調査報告書』（熊本市教育委員会1980）によれば、1963年ごろ本大学医学部附属病院の敷地内から須恵器、土師器、布目瓦片類が採集されており、遺跡の存在が確実であるとされ、遺跡としての認定を受けている。しかし、その後本敷地内において学術的な発掘調査は一度も実施されておらず、遺跡の詳細な内容に関しては本調査室における調査が実施されるまで不明であった。しかし、先の報告の中では、東側に隣接する仙崇寺小松原墓地（現在の小松原公園）内においても須恵器片が採集され、遺跡の包含地がより広いことが想定されていた。このため、1995年に道路を挟んで隣接する医学部敷地内において計画されたRI総合センター遺伝子実験施設の建築に先立ち試掘調査を実施したところ、良好な状態で古代の遺構群が検出され、遺跡の広がりを確認することができた。よって、遺跡の範囲は東西500m、南北500mを超えるものと推定される。なお、本報告は本大学附属病院内で実施した2件の発掘調査と医学部構内で実施した1件の発掘調査の記録を収録した。医学部短期医療短大の位置する九品寺地区は、この遺跡の範囲に入る。本格的な発掘調査が実施されていないため、詳細は不明であるが、敷地中央部における立会調査において古代の遺物包含層が確認されている。今回は2地点の発掘成果を収録した。

薬学部が所在する薬学部地区は、大江遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図№8－93）の南西端に位置する。また、本学大江総合運動場は本遺跡群の北東端に位置している。地形は本庄遺跡とほぼ同じで、白川河岸に隣接し、標高は13～20mである。本遺跡群は詫間郡家および渡鹿廃寺などの推定地を含む熊本市内でも有数の大規模（東西1.8km、南北1.7km）かつ貴重な古代を中心とした遺跡群であり、これまで60次にわたる調査が実施され、各種遺物を伴って、8・9世紀代を中心とした古代竪穴住居址群、掘立柱建物址、道路址、溝址などが検出されている（新熊本市史編纂室1996）。本学が実施した調査においては、大江総合運動公園整備に伴う調査によって古代関連の遺物・遺構群が発見された他は、薬学部敷地の北西部において古代包含層の一部を確認しているにすぎない。薬学部敷地内においては大規模な建替えが最近実施されたが、この際の試掘によって、構内の東側では遺構や包含層は存在せず、北西部に絞られる様相が明らかになってきた。

附属中学校・小学校の所在する京町地区は京町台遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図№8－45）（東西400m、南北350m）に包括され、同遺跡群内には熊本市立京陵中学校と熊本営林局も含まれる。本台地は熊本平野の北部にある阿蘇4火砕流（凝灰岩）が形成した標高30～40mの平坦な台地であり、東西両側はそれぞれ坪井川と井芹川が流れて急峻な崖地を形成している。この天然の要害ともいうべき地の利を活かして台地の南端には熊本城が築かれており、周辺の台地上には武家屋敷が築かれていた。本遺跡における発掘調査の嚆矢は、1966年、営林署内の宿舎改築工事の際、遺構は検出されなかったが、重弧文をもつ弥生式土器、土師器、瓦器片が少量出土したことであり、現在では弥生時代遺跡として認定されている（熊本市文化財調査会1971）。これまでの発掘成果によると、構内の西側を中心として弥生時代～近世の遺構・遺物が確認されている。今回は2地点の発掘成果を収録した。

理学部附属臨海実験所の占地する合津地区は、熊本県天草郡松島町大字合津に所在する。遺跡は本地区のある松島の南西部端、標高12mの丘陵端部に位置する。この松島を含めた一帯は有明海から不知火海へ抜ける海上交通の要衝にあたり、天草で唯一の形象埴輪を出土したカミノハナ古墳群や長沙

連古墳、大戸鼻古墳群など重要な古墳が密集しているように、古来より重要な拠点として意識されていたところでもある。また、縄文時代にはカルワ島遺跡や柳遺跡のように海岸部や海底に位置する遺跡群が数多く発見されている。理学部の臨海実験所は、1956年に天草で始めて発見された縄文時代遺跡として著名な前島貝塚（熊本県遺跡地図57－013）とその東部にある梅殿古墳（同014）の隣接地にあたり、同貝塚の広がりが実験所敷地内に残存する可能性も大きく、古墳関連の遺構の存在も予想されるような位置にある（熊本県教育委員会1968）。実際、1996年に実験所の北部丘陵斜面にある宿舎が建設された際、建設業者によって７本の石斧が発見されているし、実験所の船着場南側の海岸では本学考古学研究室の学生諸氏によって縄文時代早期～前期を中心とした土器や石器が採集されている。よって実験所内とその周辺は縄文時代の遺跡・遺構が存在する可能性がきわめて高いところとして周知されていたところであった。本地区においては、1995年に臨界実験所実験棟改築工事に伴う発掘調査によって、前島貝塚が貝塚ではなく、本丘陵上には縄文時代早期の縄文時代早期の遺物包含層や遺構群が存在することが明らかになった（熊本大学埋蔵文化財調査室1996・小畑2001）。

2．調査に至る経緯

熊本大学の校地は先に示したように８地区に分散しており、どの校地も狭隘化してきているため、かねてから校地の移転などが議論されてきた。昭和60年に当時の熊本県知事から校地移転を検討する旨の申し出があり、その件について学内で議論され、本荘地区の医学部・附属病院を除き他の地区は現地再開発が決定された。本荘地区も平成５年に現地再開発することが決定されたので、全学が現地再開発で取り組むこととなった。その後それぞれの地区での再開発構想が検討され、基本的な計画が出来上がった地区から文教施設費を概算要求し、それらが認められたところから再開発事業が始まった。一方、黒髪地区などにおいては、従来から建設工事などによって古代や先史時代の遺物が発見されていたにもかかわらず、埋蔵文化財包蔵地としては周知されていなかった。

平成５年10月から黒髪南地区において情報処理センターの建設工事が始まったところ、熊本市教育委員会文化課から工事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨の連絡があり、同課へ出向き確認したところ、平成５年４月１日から熊本市文化財保護審議会において黒髪地区などが埋蔵文化財の包蔵地として追加指定されていることが判明した。そこで大学が計画している建設工事の予定地に係わる試掘調査の届を同課に提出して、調査を依頼した。試掘調査の結果では、ほとんどの建設工事に先立ち発掘調査が必要であるということになった。

今後の発掘調査について同課に相談したところ、以下のような回答があった。

①国の機関（大学等）は考古学研究室などがあって専門のスタッフを擁していることでもあり、熊本大学においてもそのような機関を設け、そこが実施機関として発掘調査を担当願いたい。

②熊本市が平成６年度発掘調査の依頼を受けたとしても、それを実施する場合、既に他の発掘調査予定が半年分はあるので、急いでも９月または10月頃から調査を始めることとなる。

以上のことから、熊本大学の再開発事業には事前の試掘および発掘調査を行うことが必須条件であり、そのためには大学独自の調査組織を早急に設けることが必要となった。まずは発掘調査組織の中心となってもらうべく、文学部考古学研究室に協力を依頼し、このことについて承諾を得た後、急ぎ委員会などの組織作りを行い、責任体制を確立するための作業が始められた。本学の状況および他大学に既に設置されている同種組織の内容を勘案しながら検討した結果、熊本大学埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」と略する）を設けることとなった。また、この調査委員会の下に熊本大学埋

蔵文化財調査室（以下「調査室」と略する）を置き、発掘調査の実務を担当することとした。

平成６年４月７日をもって熊本大学埋蔵文化財委員会規則が定められ、調査委員会が設置され、委員会内に調査室が置かれ、平成６年５月16日、委員会委員の委嘱、調査室長および調査員・事務補佐員が就任し、正式に調査室業務が始動した。調査室発足後は、文学部考古学研究室の甲元眞之教授をはじめとしたスタッフの多大なる協力のもと平成６年度建設予定地の調査を中心に発掘調査が実施された。それ以後の経緯については『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』を参照されたい。

３．これまでの調査と本書収録の調査

以後平成21年３月末日現在まで、再開発計画に則り行われた事業の事前調査として、表２のような調査が実施されてきた。本書はこの中から1998・2007（一部）年度に実施した発掘調査の成果を報告する。試掘・立会調査などについては年報において既報告であるので、本書からは除外した。1998年度は黒髪北地区において文化部室取設その他工事に伴う発掘調査（9802調査地点）と黒髪南地区において理学部自然科学等総合実験棟新営工事に伴う発掘調査（9810調査地点）、本荘北地区において大学病院薬剤部注射患者毎セット支給室等取設工事に伴う発掘調査（9807調査地点）、本荘中地区において医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター建設に伴う発掘調査（9801調査地点）などの発掘調査が実施された。2007年度は本荘北地区において２件、京町地区において２件の発掘調査が実施されたが、うち東病棟新営に伴う発掘調査（0712調査地点）、教育学部附属小中学校校舎等改修工事に伴う発掘調査（0719調査地点）と教育学部附属小中学校校舎等機械設備改修工事に伴う発掘調査（0721調査地点）の計３件の発掘報告を本書に掲載している。

表２　既往調査地点と本書収録調査地点一覧表

1994年度							
94・4・15～17	9401	（黒北）運動場整備（照明塔建設）工事	発掘調査	128㎡	古代	古代土師器・須恵器	年報１
94・4・21	9402	（黒北・南）基幹整備（教育学部エレベーター室取設）工事	発掘調査	47.5㎡	現代	ガラス・磁器片	年報１
94・4・25	9403	（黒北・南）地区基幹整備（工学部エレベーター室取設）工事	発掘調査	48㎡		包含層確認・土器片	年報１
94・5・13～14	9404	（黒北）福利施設建設予定地の樹木移植	立会調査	30㎡	古代		年報１
94・5・17～6・25	9405	（京町）附属中学校舎者建設工事	発掘調査	400㎡	弥生・近世	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・近世陶磁器・砥石・銅銭・瓦・ガラス瓶	本報告Ⅰ
94・5・20/23/24	9406	（黒北）武夫原運動場整備（集水枡埋設）工事	発掘調査	100㎡	古代		年報１
94・5・23～7・28	9407	（黒北）福利施設建設工事	発掘調査	1,290㎡	古代		本報告Ⅰ
94・8・1～8・10	9408	（渡鹿）グランド集水枡整備工事	発掘調査 立会調査	40.4㎡	古代	土師器	本報告Ⅰ
94・8・11	9409	（黒北）武夫原器具庫新営工事・外灯基礎工事	立会調査	23.4㎡		包含層に達せず遺構なし，土師器片．	年報１
94・8・12	9410	（京町）附属中学校電気引き込み配線工事	立会調査	13㎡		遺構・遺物なし	年報１
94・8・22	9411	（黒北）基幹整備（附属図書館スロープ取設）工事	立会調査	25.5㎡		包含層に達せず，遺構・遺物なし．	年報１
94・9・12～10・31	9412	（黒南）工学部実験棟新営工事	発掘調査	743.6㎡	古代	古代竪穴住居址，古代土師器・須恵器・瓦・土製印・鉄器・縄文土器	本報告Ⅰ
94・11・14～12・22	9413	（渡鹿）グランド整備工事	発掘調査	200㎡	縄文・古代	古代竪穴住居址・道路址，古代土師器・須恵器・布目瓦・砥石・鉄器・縄文土器・石器	本報告Ⅰ
95・1・17～21	9414	（黒北）福利施設設備工事	立会調査	169㎡		遺構・遺物なし	年報１
95・1・9～11、1・26～2・1	9415	（黒南）工学部共同溝工事	立会調査	50㎡		遺構・遺物なし	年報１
95・2・27	9416	（城東）附属幼稚園排水管敷設工事替工事	立会調査	129.7㎡		遺構・遺物なし	年報１
95・3・15～23	9417	（黒南）福利施設設備工事	立会調査				

1995年度							
95・4・25～5・2	9501	（黒南）工学部研究実験棟新営Ⅰ期共同溝建設工事	発掘調査	90㎡	古代～近世	古代竪穴住居址・柱穴・溝，縄文後期土器片・古代土師器・須恵器	本報告Ⅰ
95・5・9～10	9502	（黒南）工学部附属工学機器センター新営工事	試掘調査	20㎡	古代	包含層確認・古代土師器・須恵器	年報2
95・5・15～16	9503	（黒南）工学部RI研究実験棟建設及び基礎掘削	試掘調査	20㎡	古代	集石，古代土師器・須恵器	年報2
95・5・29/30・6・21	9504～06	（黒南）工学部研究実験棟新営電気設備（その2）に伴う高圧ケーブル埋設	立会調査	38㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・8・21		（黒南）工学部通信設備埋設	立会調査	14㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・8・22	9508	（黒南）事務局前外灯配線改修	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・9・8～10・12	9509	（合津）理学部附属臨海実験所実験棟改築工事	発掘調査	298㎡	縄文	集石，縄文早期土器・石器	年報2
95・11・2	9510	（黒南）工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴うガス配管	立会調査		古代	古代包含層確認・古代土器片	年報2
95・11・6～8	9511	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設及び外溝切り替え	試掘調査	200㎡	古代	古代包含層確認・竪穴住居址，古代土師器・須恵器	年報2
95・11・13～16	9512	（黒南） 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う排水枡設置	発掘調査	60㎡	古代	古代竪穴住居址・柱穴・包含層，縄文後期土器片・古代土師器・須恵器	本報告Ⅰ
95・11・17	9513	（黒南） 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う外溝	立会調査			遺構・遺物なし	年報2
95・11・17	9514	（黒南） 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う外溝	立会調査		古代	古代土師器・須恵器片	年報2
95・11・21～22	9503	（黒南） 工学部RI研究実験棟建設に伴う基礎掘削	立会調査		古代	古代土師器・須恵器	年報2
95・11・22	9515	（黒南） 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う外溝	立会調査		古代	包含層確認・古代土師器	年報2
95・11・24	9511	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設工事	立会調査			一部包含層確認・遺構・遺物なし	年報2
95・11・28～29	9516	（黒南） 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う外溝	発掘調査	72㎡	縄文～古代	包含層・柱穴，縄文土器片・古代土師器	本報告Ⅰ
95・12・1	9511	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設に伴う外溝切替	立会調査			包含層確認・遺構・遺物なし	年報2
95・12・4	9517	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設に伴う樹木移植	立会調査			遺構・遺物なし	年報2
95・12・5	9518	（黒南） 工学部RI研究実験棟建設に伴う外溝工事	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・12・12～14	9519	（黒南） 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴うガス配管	立会調査		古代	古代柱穴・溝，古代土師器・須恵器	年報2
95・12・18	9520	（黒北） 教養部前道路改修	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・12・25～96・2・22	9511	（本荘南） 医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設	発掘調査	976.9㎡	縄文・古代	古代竪穴住居址・掘立柱建物・溝・道路・方形竪穴遺構・土壙，縄文土器・石器・古代土師器・須恵器・鉄器	本報告Ⅰ
96・3・1	9521	（黒南）工学部校舎新営	試掘調査		弥生	弥生土壙・ピット，弥生中期土器	年報2
96・3・8	9522	（黒北）文法学部・第五高等学校記念館庭園植栽工事	立会調査		古代	包含層確認・古代土師器	年報2
96・3・21	9523	（城東）教育学部附属幼稚園水遊び場兼足洗い場設備寄贈受入	立会調査			遺構・遺物なし	年報2
96・3・25～26	9524	（京町）教育学部附属小学校給排水管取替工事	立会調査	27.6㎡		遺構・遺物なし	年報2
1996年度							
96・4・19	9601	（本荘北）医学部校舎建設	試掘調査	33㎡	古代	古代包含層・溝，古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ
96・5・10	9602	（黒北）法文学部記念植樹	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・5・10～6・24	9603	（黒南）工学部校舎建設	発掘調査	1000㎡	縄文・弥生・古代	縄文後期包含層・古代竪穴住居址・溝・掘立柱建物・土壙・柱穴，縄文後期土器・弥生中期土器・古代土師器・須恵器・鉄器・瓦	本報告Ⅳ
96・5・13	9604	（黒北）教育学部ATMネットワーク付設工事	立会調査	40㎡	近代	遺構・遺物なし	年報3
96・5・14	9605	（京町）教育学部附属小学校ATMネットワーク付設工事	立会調査	14㎡		近代磁器	年報3
96・5・15	9606	（大江） 薬学部ATMネットワーク付設工事	立会調査			遺構・遺物なし	年報3
96・6・17	9607	（黒北）法文学部外灯設置工事	立会調査	4㎡	古代	一部包含層確認，古代須恵器	年報3
96・6・19	9608	（黒南）工学部RI実験棟配線工事	立会調査	21㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・8・5	9609	（黒北）入試保管庫建設工事（試掘）	発掘調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・8・6～9	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う樹木移植・貯水槽建設工事（1・2・3区）	発掘調査	45.7㎡	古墳・古代	古墳時代前期竪穴住居址・古代竪穴住居址，古墳時代土師器・古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ
96・8・22～27	9601	（本荘北） 医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設（4区）	発掘調査	37.4㎡	古代	竪穴住居址・柱穴，古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ
96・8・29～30	9601	（本荘北） 医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設（5区）	発掘調査	28.2㎡	古代	竈址，古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ
96・9・6	9610	（黒北）教養部夏目漱石像建立	試掘調査	9㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・10・1～9	9601	（本荘北） 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事（6区）	発掘調査	104.3㎡	古代	古代道路・竪穴住居址，古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ
96・10・11～97・1・17	9601	（本荘北）医学部校舎本体工事（本調査区）	発掘調査	1686㎡	縄文・古墳・古代	縄文包含層・古墳土壙・古代道路・竪穴住居址・掘立柱建物・土壙・近代墓地，縄文後期土器・古墳／古代土師器・須恵器・鉄器・石器	本報告Ⅳ
96・10・21～29	9601	（本荘北） 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事（7・8・9区）	発掘調査	62.5㎡	古代	古代竪穴住居址・竈，古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ
96・11・12～13	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事（10区）	発掘調査	21.8㎡	古代	古代竪穴住居址，古代土師器・須恵器	本報告Ⅳ
96・11・12	9611	（黒南）工学部外灯付設工事	立会調査	0.4㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・12・18	9612	（黒南）工学部電線埋設工事	立会調査	74.8㎡		遺構・遺物なし	年報3
97・3・3～31	9613	（黒南）工学部研究実験棟Ⅱ新営機械設備工事	立会調査	175㎡		遺構・遺物なし	年報3
97・3・7	9614	（黒南）工学部衝撃エネルギー実験所火薬庫取設工事	立会調査	109㎡		遺構・遺物なし	年報3

1997年度							
97・4・8	9701	（本荘南）医学部情報リテラシー教育施設電気設備その他の改修工事	立会調査	21㎡		一部包含層を確認・遺構なし，古代土器片	年報4
97・5・7	9702	（黒南） 理学部ヘリウム棟増築・ヘリウム管埋設工事	立会調査	126.6㎡		遺構・遺物なし	年報4
97・5・28	9703	（本荘北） 医学部外来臨床研究棟血液製剤管理室取設工事	試掘調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報4
97・7・28～11・4	9704	（黒南） 工学部校舎新営工事	発掘調査	1783.3㎡	弥生・古代・近世	弥生時代甕棺墓・古代竪穴住居址・溝・掘立柱建物・柱穴・近世墓，弥生中期甕棺・土師器・鉄器・古代須恵器・近世陶磁器	本報告Ⅳ
97・10・29	9705	（京町） 教育学部附属中学校女性立像建立	立会調査	2.6㎡		遺構・遺物なし	年報4
97・10・22	9706	（黒北） 法文学部龍南健児像建立	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし	年報4
97・11・11～98・3・31	9707	（本荘北） 医学部基礎研究棟屋外配線工事	立会調査	370㎡	古代・近代	近代墓地・古代土壙・柱穴，甕・人骨・墓石等・古代土器	年報4
98・1・30～2・12	9708	（黒北） 法・文・教育学部外灯設備増設工事	立会調査	61.9㎡	古代	溝	年報4
98・2・3～2・13	9709	（黒南）管財係黒髪6号宿舎取り壊し工事	立会調査	116㎡	古代	一部包含層を確認・遺構なし，磨耗した古代土器	年報4
1998年度							
98・4・14	9804	（黒南）工学部校舎建設に伴う排水管撤去工事	立会調査	10㎡		掘削により遺構なし	年報5
98・6・26～7・2	**9801**	**（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発センター新営支障配管替工事**	立会調査	2.4㎡	古代	遺構・遺物認められず	年報5
98・7・6	**9801**	**（本荘南）同樹木伐採工事**	立会調査			遺構・遺物なし	年報5
98・7・13	9809	（黒南）工学部3号館電気設営工事	立会調査	3㎡	古代	遺物包含層を確認	年報5
98・7・28～9・10	**9801**	**（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発センター新営工事**	発掘調査	972㎡	縄文・古代・近世	竪穴住居址・掘立柱建物・溝・土坑	本書
98・9・21～22	9803	（黒北）文化部室取設工事に伴う樹木移植工事	立会調査	9㎡		遺物・遺構なし	年報5
98・9・25～11・6	**9802**	**（黒北）文化部室取背設その他の工事**	発掘調査	575㎡	縄文・弥生・近世	縄文土器・弥生土器・石器等・土壙・溝・縄文・弥生遺物包含層確認	本書
98・9・28	9805	（本荘北）大学病院病棟新営工事	試掘調査	10㎡	古墳・古代	古墳・古代土器	年報5
98・9・29	9806	（本荘北）大学病院中央診療棟新営工事	試掘調査	5㎡		河成砂礫層を検出，遺構・遺物なし	年報5
98・9・30	**9807**	**（本荘北）大学病院薬剤部注射患者毎セット支給室等取設工事**	試掘調査	2㎡	古代	遺物包含層・柱穴検出，古代土器片	本書
98・10・6	9808	（黒南）工学部1・9号館電気埋設工事	立会調査	30㎡		遺構面に達せず，遺物なし	年報5
98・10・28～11・20	**9807**	**（本荘北）大学病院薬剤部注射患者毎セット支給室等取設工事**	発掘調査	175㎡	古代	縄文土器・石鏃等 古代竪穴住居址・土壙・溝・近代溝	本書
98・11・2	**9801**	**医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター関連図書館解体工事**	発掘調査	139㎡		削平のため存在せず	本書
98・12・14～12・18	**9810**	**（黒南）理学部自然科学等総合実験棟新営支障配管替工事**	立会調査	35㎡	古代	遺物包含層・柱穴検出，古代土器片	年報5
98・12・16	**9802**	**（黒北）文化部室新営排水管敷設工事**	立会調査	35㎡	古代	遺構面確認・遺構・遺物はなし	年報5
98・12・17～99・1・10	9805	（本荘北）大学病院病棟新営に伴う支障配管替工事	立会調査	333㎡	古代	竪穴住居址，古代土器片	年報5
99・1・12	9811	（黒南）工学部実験室新設工事	試掘調査	14㎡	縄文後期	土器	年報5
99・1・21～3・25	**9810**	**（黒南）理学部自然科学等総合実験棟新営工事**	発掘調査	1,098㎡	縄文・古代・近代	縄文土器・石鏃等，古代竪穴住居址・柱穴・溝・近世溝	本書
99・2・2	**9802**	**（黒北）環境整備事業に伴う文化部室解体**	立会調査	260㎡		遺構・遺物なし	年報5
99・2・10	**9802**	**（黒北）環境整備事業に伴う建築工事**	立会調査	40㎡		遺構面には達せず，遺物なし	年報5
99・2・18	**9802**	**（黒北）環境整備事業に伴う植樹工事**	立会調査	12.3㎡		地表下2ｍで弥生時代遺物包含層・遺構面を確認，遺構・遺物なし	年報5
99・2・9～3・9	**9802**	**（黒北）環境整備事業に伴う電気配線工事**	立会調査	4㎡		地表下90cmで水田土を検出，遺構・遺物なし	年報5
99・3・11～12	9812	（大江）渡鹿団地東側ブロック塀改修工事	立会調査	70㎡		包含層・遺構面確認，遺構・遺物なし	年報5
99・3・10～31	9801	**（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営に係る配管切替工事**	立会調査	57.5㎡	古代	一部包含層・遺構面確認（ピット）・遺物なし	年報6
1999年度							
99・4・5～8・31	9901	（本荘北）病棟（軸）新営工事	発掘調査	2,405㎡	縄文・古墳・古代・近代	縄文時代石器・玉・古墳時代住居址・溝・土師器・古代住居址・柱穴溝・土壙墓・土師器・須恵器・鉄器・胞衣壺・土鏡・近代溝	年報6
99・6・14～7・14	9902	（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営電設工事立会	立会調査	40㎡	古代	古代柱穴，溝，遺物を少量検出	年報6
99・6・17	9903	（黒南）工学部研究実験棟Ⅱ-2-2新営工事に伴う植樹立会	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報6
99・7・19/26	9904	（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営基礎工事立会	立会調査	2㎡	古代	遺構・遺物なし	年報6
99・7・29～7・30	9905	（黒南）自然科学研究科・理学部総合研究実験棟新営ガス設営工事	立会調査	50㎡		遺物・遺構なし	年報6
99・7・2～8・7	9906	（黒南）自然科学研究科・理学部総合研究実験棟新営電気設営工事立会	立会調査	200㎡	古代	古代溝6条・柱穴2個，古代土器片少量を検出	年報6
99・9・22～10・5	9907	（黒南）工学部実験用プレハブ新築工事	発掘調査	136.5㎡	縄文前期～晩期	ピット群，縄文土器片出土	年報6
99・11・24～11・25	9908	（黒東）附属養護学校給食室増改築工事	試掘調査	42㎡	近世以降	トレンチ2本設定して調査したが，遺構なし，近世磁器片	年報6
00・2・14～3・24	9909	（黒南）工学部衝撃・極限環境研究センター・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー棟新営工事	試掘調査	1,853㎡	近世・近代	畑址・墓地，近世陶磁器，煙管，銅・鉄銭	年報6
00・1・25	9910	（本荘北）血液照射管理室増改築試掘	試掘調査	2㎡		攪乱著しく，遺構・遺物ともに確認できず	年報6

00・3・6～14	9911	（黒南）水生動物飼育舎建築工事	発掘調査	70.9㎡		縄文土器・古代土師器・須恵器	年報7
00・3・14	9912	（黒南・東）外灯取設工事立会	立会調査	3㎡		遺物・遺構ともに確認できず	年報6
00・3・2	9913	医学部液化窒素供給設備新設工事立会	立会調査	7.84㎡		遺構・遺物なし	年報6
00・3・16～17	9914	（本荘南）さく井設備工事立会	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報6
2000年度							
00・4・7	0001	（黒南）水生動物飼育舎新営給水管設営工事	立会調査	6.1㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・4・11	0002	（黒南）水生動物飼育舎新営電気設営工事	立会調査	4.1㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・4・17	0003	（本荘北）附属病院格納庫移設工事	試掘調査	5.8㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・10・23	0004	（黒南）工学部衝撃・極限環境研究センター・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー棟新営電気設営工事	立会調査	18㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・10・30	0005	（黒南）工学部植栽工事	立会調査	63㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・11・6～22	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備第3井戸入水槽設営工事（Ⅰ区）	発掘調査	119.4㎡	縄文・古墳古代	縄文時代石器・古墳時代柱穴・住居址・土師器・須恵器	年報7
00・11・22	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備第1井戸入水槽設営工事	試掘調査	4㎡	近・現代墓地	近・現代墓石・墓壙・遺骨	年報7
00・11・27～29	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備給水管配管工事	立会調査	85.5㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・12・4～13	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備排水管配管工事（Ⅱ区）	発掘調査 立会調査	32㎡	縄文・古代	土壙状遺構・縄文時代石器・土師器・ガラス玉・鉄器・須恵器	年報7
00・12・8～01・1・10	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備電気設営工事（Ⅳ区）	立会調査	31.5㎡	古代	遺構なし，土師器数点	年報7
00・12・19～20	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備排水管配管工事（Ⅲ区）	発掘調査 立会調査	20.4㎡	古代	住居址・土師器	年報7
00・12・26～28	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備給水管配管工事	立会調査	100.7㎡	近・現代墓地	近代墓壙・墓石・遺骨	年報7
01・1・29	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備排水管配管工事（Ⅴ区）	立会調査	7㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・1・22～30	0007	（京町）附属中学校体育器具庫新営工事	発掘調査	119.4㎡	弥生・古代	弥生・古代土師器・鉄器・土製紡錘車	年報7
01・2・5	0008	（黒北）生涯学習境域研究センタースロープ取設工事	立会調査	28㎡		撹乱のため遺物・遺構なし	年報7
01・2・6～9	0009	（黒南）理学部1・2号館身体障害者用設備整備工事	立会調査	70㎡	古代	包含層を確認，古代土師器・須恵器	年報7
01・2・16～19	0010	（黒北）体育系部室解体・新営工事	立会調査	372㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・2・22	0011	（大江）旧食堂解体撤去工事・旧ボイラー室解体撤去工事	立会調査	132㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・5～6	0012	（黒北）外灯取付工事	立会調査	3㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・6	0013	（大江）屋内運動場〔尚武館〕取り壊し工事	立会調査	500㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・22	0014	（黒北）旧生活協同組合事務所解体撤去工事	立会調査	66㎡		遺物・遺構なし	年報7
2001年度							
01・4・9～7・3	0101	（本荘北）附属病院医学部総合研究棟新営工事	発掘調査	1733.75㎡	古墳・古代・近世・近代	住居址・溝・畑址・墓鉄鏃・土師器・須恵器	年報8
01・5・14	0102	（黒南）基幹・環境整備	試掘調査	4.8㎡			年報8
01・5・14	0103	京町団地高圧ケーブル改修工事	立会調査	59.5㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・7・9～26	0102	（黒南）基幹・環境整備	発掘調査	418.5㎡	縄文	縄文土器・寛永通宝・風倒木痕・防空壕	年報8
01・7・4～10・29	0104	（本荘北）附属病院基幹・環境整備（共同溝設置）	発掘調査	1,023.8㎡	縄文・弥生・古墳・古代	住居址・溝・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・鉄鏃・青銅器	年報8
01・7・13	0105	（京町）正門取設工事	立会調査	7.12㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・7・30～11・14	0106	（黒北）大学教育研究センター等改修工事	立会調査	3,907㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・7・31	0107	（大江）薬学部共同実験棟改修工事	立会調査	97.84㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・8・1/13	0108	（京町）キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・8・2/21	0109	（黒北）キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	58㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・8・27	0110	（大江）薬学部キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	20㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・9・4	0111	（本荘南）医学部キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	2.78㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・8・22/9・4	0112	（黒北）食堂南側テラス整備工事	立会調査	662㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・9・14/10・1	0113	（本荘南）医療技術短期大学キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	105㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・9・17	0114	（本荘北）附属病院キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	38㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・10・19	0115	（黒南）理学部2号館南側排水工事	立会調査	8.4㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・10・22～02・2・19	0116	（本荘北）附属病院基幹・環境整備（A～D地区・ボイラー設備更新等）	立会調査	426.4㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・12・8～02・2・9	0117	（本荘北）医学部総合研究棟新営機械設備工事	立会調査	133.1㎡	古代	住居址・柱基礎 土師器・須恵器	年報8
01・12・12～02・2・4	0118	（黒南）基幹・環境整備（特高変電設備等・植栽その他）	立会調査	111.7㎡		遺構・遺物なし	年報8
02・2・25～3・20	0119	（本荘北）医療用ガス供給設備室取設工事	発掘調査	205.8㎡	縄文・古墳・古代	住居址・溝・掘立柱建物址・縄文土器・土師器・須恵器・鉄鏃	年報8
02・3・18	0120	（本荘北）総合研究棟周辺環境整備工事	立会調査	1492.7㎡		遺構・遺物なし	年報8
02・3・18	0121	（本荘北）附属病院西病棟（仕上Ⅱ）新営工事	立会調査	1076.4㎡		溝？・遺物なし	年報8
02・3・22	0122	（本荘北）附属病院西病棟電気設備工事（仕上Ⅱ）	立会調査	54㎡		遺構・遺物なし	年報8
2002年度							
02・4・3～4	0201	（黒北）大学教育研究センターC棟空調機取設工事給排水及び室外機基礎工事	立会調査	29.3㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・4・15～16	0202	（黒北）外灯設備工事	立会調査	199㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・4・17	0203	（黒南）インキュベーション施設新営工事	試掘調査	3㎡			年報9
02・4・17	0204	（黒南）総合研究棟新営工事	試掘調査	4㎡			年報9
02・4・24	0205	（黒南）食堂裏エコクリーンソイル工事	立会調査	0.73㎡		遺構・遺物なし	年報9

02・5・20～29	0206	（黒南）総合研究棟新営に伴う樹木移植工事	発掘調査	28㎡		甕棺	年報9
02・5・30～8・2	0203	（黒南）インキュベーション施設新営工事	発掘調査	810㎡	近世	畑址	年報9
02・6・3	0207	（黒南）総合研究棟新営一次掘削に伴う電気工事	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・6・12～8・14	0204	（黒南）総合研究棟新営工事	発掘調査	2,803㎡	縄文・古墳・古代	住居址・溝・火葬墓・縄文土器・土師器・須恵器	年報9
02・7・2	0208	（黒北）図書館南側学生部駐車場拡張工事	立会調査	24㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・8・29	0209	（京町）附属小学校スロープ取設工事	立会調査	13㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・10・1～10・3・11・18	0210	（黒南）工学部樹木移植工事	発掘調査	61.19㎡		包含層・縄文土器・石鏃	年報9
02・10・7	0211	（本荘北）医学部総合研究棟新営工事（渡り廊下部分）	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・12・3/5/11	0212	（黒南）通用門拡幅工事	立会調査	480㎡		遺構・遺物なし	年報9
	0213	（本荘北）総合研究棟新営電気設備工事	立会調査	216㎡		遺構・遺物なし	年報9
03・2・7	0214	（本荘北）基幹環境整備外灯工事	立会調査	216㎡		遺構・遺物なし	年報9
03・2・18	0215	（大江）薬学部実験動物慰霊碑建立工事	立会調査	3.4㎡		遺構・遺物なし	年報9
03・2・21	0216	（黒北）外灯設備工事	立会調査	18.5㎡		遺構・遺物なし	年報9
03・3・7	0217	（本荘南）体育部室（プレハブ）新設工事	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報9
03・3・10	0218	（黒北）外灯設備工事	立会調査	27㎡	古代	住居址・土師器・須恵器・砥石	年報9
03・3・11	0219	（本荘南）塀新設工事	立会調査	36㎡		遺構・遺物なし	年報9
03・3・26	0220	（新南部）教育学部新南部農場竹藪・畑地境界掘り	立会調査	40㎡	古代	住居址・柱穴・溝，古代土師器・須恵器	年報9
2003年度							
03・4・10	0301	（黒南）工学部薬品庫新設工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・4・10	0302	（黒南）総合研究棟共同溝設備工事	試掘調査	9.6㎡		土師器	年報10
03・5・20	0303	（黒南）事務局排水管修理工事	立会調査	16.8㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・6・2～7・2	0304	（本荘北）基幹・環境整備工事	発掘調査	333.5㎡	縄文・古墳・弥生・古代	住居址・溝・縄文石器・弥生土器・土師器・近代磁器	年報10
03・7・18	0302	（黒南）総合研究棟共同溝設備工事	立会調査	296㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・8・19	0305	（京町）附属小・中学校フェンス取設工事	立会調査	44.3㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・8・6～9・12	0302	（黒南）総合研究棟共同溝設備工事（Ⅰ区）	発掘調査	168.2㎡			年報10
03・9・4～9・8	0306	（本荘南）医療技術短期大学部北側駐車場環境整備工事	立会調査	539.2㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・9・5	0307	（薬）大江総合研究棟給排水管および電気工事	立会調査	7.54㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・9・29	0308	（宇留毛）小頑宿舎1棟揚水管漏水修理工事	立会調査	3.64㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・10・2	0309	（本荘南）動物慰霊碑新設工事	立会調査	4.02㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・10・1～10・10	0302	（黒南）総合研究棟共同溝設備工事	発掘調査	253.5㎡	近代・古代	溝・ピット・陶磁器・土師器・弥生土器	年報10
03・10.27		（黒北）教室新築工事	試掘調査	13.75㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・11・6		（薬）記念館建設工事	試掘調査	7.4㎡	古代	土師器	年報10
03・11・17～28	0310	（本荘南）発生医学研究センター施設整備事業	立会調査	557㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・11・26	0302	（黒南）総合研究棟共同溝設備工事（ガス管）	立会調査	3.6㎡		遺構・遺物なし	年報10
03・12・9		（本荘南）発生医学研究センター整備事業本体工事	試掘調査	26.58㎡			年報10
03・12・10	0311	（本荘北）中央診療棟（軸）設営工事	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報10
04・1・13	0312	薬草園取設工事	立会調査	11.2㎡		遺構・遺物なし	年報10
04・1・14	0307	（薬）大江総合研究棟給排水管及び電気工事	立会調査	45.5㎡		遺構・遺物なし	年報10
04・1・15～19	0313	（黒北）教室新築工事	立会調査	398.8㎡		遺構・遺物なし	年報10
04・1・23～27	0314	（本荘南）医学部Ｂ棟・Ｅ棟・ＲＩ・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,567㎡	古代	溝・ピット・土師器	年報10
04・1・30	0315	（本荘北）東側駐車場整備工事	立会調査	30.7㎡		遺構・遺物なし	年報10
04・2・9～2・16	0316	（黒南）理学部4号館周辺プレハブ等設置工事	立会調査	83㎡			年報10
04・2・23	0317	（本荘北）僧樹の木移植	立会調査	16㎡			年報10
04・3・4	0318	（黒北）附属養護学校門横市道水道修理工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	
04・3・5～9	0314	（本荘南）医学部Ｂ棟・Ｅ棟・ＲＩ・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,567㎡	中世・古代	溝・ピット・陶磁器・土師器	年報10
04・3・9	0319	（黒北）井戸改修工事	立会調査	23㎡		遺構・遺物なし	
04・3・9	0320	（黒北）福利施設空調設備取設工事	立会調査	13.19㎡		遺構・遺物なし	
04・3・10	0321	（黒南）外灯設備工事	立会調査	3.4㎡		遺構・遺物なし	
04・3・10	0322	（黒南）総合研究棟外灯設備工事	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	
04・3・10	0313	（黒北）教室新築工事	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	
04・3・10	0323	（黒北）教室新築工事（空調機取設）	立会調査	44㎡		遺構・遺物なし	
04・3・11	0324	（本荘南）外灯設備工事	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	
04・3・11	0325	（本荘南）外灯設備工事	立会調査	11.2㎡		遺構・遺物なし	
04・3・15	0326	（黒北）外灯設備工事	立会調査	3.54㎡		縄文土器片	
04・3・16	0327	（薬）外灯設備工事	立会調査	11.8㎡		遺構・遺物なし	
04・3・17	0323	（黒北）教室新築工事（植栽）	立会調査	8.92㎡	古代	土師器・須恵器片	
04・3・22	0328	（京町）教育学部附属小中学校街路灯設備工事	立会調査	7㎡		遺構・遺物なし	
04・3・19	0329	（黒北）消火栓応急処置	立会調査	1.08㎡		遺構・遺物なし	
2004年度							
04・4・7	0401	黒髪団地北地区教室新築工事（渡廊下設置）	立会調査	33.8㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・4・9		本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	試掘調査	10.44㎡	古代	溝？・土師器	年報11
04・4・13～5・31	0402	本荘団地南地区発生医学研究センター建設工事	発掘調査	1241.75㎡	古代	土師器・須恵器・縄文土器	年報11
04・5・26		黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事	試掘調査	7.76㎡	古代	ピット・土師器	年報11
04・5・14 04・10・14	0403	本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	立会調査	150㎡	古代	土師器	年報11
04・5・21	0404	薬学部地区植物園棚支柱ほか設置工事	立会調査	3.3㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・6・25	0405	薬学部地区宮本記念館新営機械設備及びその他工事	立会調査	68.48㎡		遺構・遺物なし	年報11

04・6・28		本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備工事	試掘調査	10㎡	古代・縄文	土師器・縄文土器・土壙	年報11
04・5・24 04・5・26 04・6・4 04・10・26～28 04・11・12 04・11・29	0406	薬学部地区宮本記念館（仮称）建設工事（旧建物撤去・樹木撤去・電気配線・給水管配管・ガス管配管・樹木移植）	立会調査	1332.4㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・7・26	0408	宇留毛団地小磧宿舎揚水管漏水配管改修工事	立会調査	26.2㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・7・29 04・8・6 04・8・20	0409	黒髪団地北地区記念碑設置工事	立会調査	72㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・8・23		黒髪団地南地区理学部駐輪場取設工事	試掘調査	11㎡	古代	柱穴・須恵器・土師器	年報11
04・8・9 04・8・10～11 04・11・5 04・11・11	0410	黒髪団地北地区熊本大学大学院社会文化科学研究科研究室新築工事	立会調査	370㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・8・17～19・23 04・9・3 04・9・14～22 05・1・27～	0411	本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備（ポンプ室・ＲＩ実験棟取壊・ガス切替・水道プラグ止・周辺設備関連）工事	立会調査 発掘調査	420㎡		土師器・須恵器・縄文土器・竪穴住居址・溝・ピット	年報11
04・9・16	0412	本荘団地北地区附属病院都市ガス漏配管修理工事	立会調査	5.7㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・9・16	0413	京町地区附属中学校台風被害による倒木起し	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・9・16	0414	黒髪団地南地区工学部台風被害による倒木起し	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・9・21	0415	薬学部地区宮本記念館新営機械設備及びその他工事	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・9・21	0416-1	本荘団地北地区附属病院台風被害による倒木起し	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・9・21	0416-2	本荘団地南地区医学部台風被害による倒木起し	立会調査	1.5㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・10・12	0417	黒髪団地北地区重要文化財案内板設置工事	立会調査	0.5㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・10・12	0417	黒髪団地南地区重要文化財案内板設置工事	立会調査	0.5㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・10・19	0418	黒髪団地北地区夏目漱石記念碑標柱設置工事	立会調査	0.3㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・10・22	0419	本荘団地北地区附属病院福利厚生施設引込配線工事	立会調査	2.23㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・11・1～28	0411	本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備	発掘調査	551㎡	縄文・古墳・古代	竪穴住居址・掘立柱建物址・溝・畑・土師器・須恵器・縄文土器・鉄鏃・勾玉・石器	年報11
04・11・26	0420	薬学部地区テニスコート整備工事	立会調査	695㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・11・29	0421	黒髪団地南地区さく井設備工事	立会調査	43㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・12・6	0422	本荘団地北地区中央診療棟（軸）工事	立会調査	66.39㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・12・15		黒髪北地区情報ネットワーク館関連工事	試掘調査	18㎡	古代	住居址・柱穴・須恵器・土師器	年報11
04・12・24	0423	黒髪団地北地区記念館（木造）取壊工事	立会調査	754㎡		遺構・遺物なし	年報11
04・1・11	0424	本荘団地北地区ポンペ庫取設工事	立会調査	14.5㎡		遺構・遺物なし	年報11
05・2・1～2・7～9	0425	黒髪北地区情報ネットワーク館事前工事（配管工事）	立会調査	160.08㎡	古代	土師器・須恵器	本報告Ⅲ
05・2・21～3・30、5・9～6・10	0425	黒髪北地区情報ネットワーク館建設工事	発掘調査	1170.4㎡	古代	土師器・須恵器	本報告Ⅲ
05・2・4・8～9	0426	本荘団地北地区防火水槽取設工事	試掘・発掘調査	84㎡	中～近世	土師器・須恵器・馬骨・胴銭	年報11
05・2・4	0427	黒髪団地北地区資料館前水道管漏水修理工事	立会調査	1.5㎡		遺構・遺物なし	年報11
05・2・21～22	0428	黒髪団地南地区樹木移植工事	立会調査	19㎡		遺構・遺物なし	年報11
05・2・21	0429	薬学部地区雨水設備工事	立会調査	4.25㎡		遺構・遺物なし	年報11
05・2・28、3・14、4・1	0430	本荘団地南地区駐車場環境整備工事	立会調査	1,846㎡			
05・3・1	0431	黒髪南地区事務局倉庫新営工事	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし	
05・3・1	0432	教育学部附属中学校卒業記念植栽等工事	立会調査	0.945㎡		遺構・遺物なし	
05・3・1	0433	教育学部附属幼稚園掲示板設置工事	立会調査	0.81㎡		遺構・遺物なし	
05・3・2	0434	黒髪南地区工学部危険薬品庫改修工事（仮称）	立会調査	192.5㎡		遺構・遺物なし	
05・3・9	0435	黒髪南地区さく井設備工事（追加分）	立会調査	5.6㎡		遺構なし・土師器	
05・3・10・15・16・18	0436	黒髪南地区事務局倉庫改修工事	立会調査	62.14㎡		遺構なし	
05・3・14・16	0437	大江地区薬学部外灯設備工事	立会調査	8.1㎡		遺構・遺物なし	
05・3・22	0438	教育学部附属幼稚園遊具取設工事	立会調査	4.14㎡		遺構・遺物なし	
05・3・23	0439	黒髪南地区樹木植栽工事	立会調査	6㎡		遺構・遺物なし	
05・3・24	0440	教育学部附属中学校洗濯機置き場新設工事	立会調査			遺構・遺物なし	
05・3・24	0441	教育学部附属小学校遊具取設工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	
05・3・24	0442	（本荘北）附属病院福利厚生ガス管工事	立会調査	9.18㎡		遺構・遺物なし	
05・3・24	0443	（本荘北）中央診療棟連絡棟Ⅱ管工事	立会調査	0.8㎡		遺構・遺物なし	
05・3・25	0444	黒髪東地区教育学部附属養護学校給水管漏水改修工事	立会調査	1.74㎡		遺構・遺物なし	
05・3・28	0445	黒髪南地区事務局前樹木移植工事	立会調査	3.355㎡		遺構・遺物なし	
2005年度							
05・4・19～4・20	0501	本荘団地南地区駐車場環境整備工事（追加）	立会調査	28㎡	古代	土師器・須恵器	年報12
05・4・27	0502	医学部附属病院排水貯留槽ポンプアップ排水管補修	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・2・4～6・10	0425	（黒髪）情報ネットワーク館本体工事	発掘調査	1065.2㎡	縄文・古代	竪穴住居址・掘立柱建物・縄文土器・土師器・須恵器・黒色土器	本報告Ⅲ
05・5・30、6・4～6・5 6・14	0503	（本荘）発生医学研究センター施設整備事業（外構）	立会調査	2337.2㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・6・7 6・10	0504	小磧宿舎埋設ガス配管漏れ補修・新設工事	立会調査	7㎡		遺構・遺物なし	年報12

05・6・9～6・10 6・12	0505	（医病）基幹・環境整備（設備・曳き家前）	立会調査	55.96㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・6・20	0506	（大江）薬学部テニスコートフェンス取設	立会調査	2.28㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・6・21	0507	（本荘中）敷地境界ブロック改修工事	立会調査	10.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・7・8	0508	（黒髪）情報ネットワーク館仮設進入路工事	立会調査	40.9㎡	古代	土師器・須恵器	年報12
05・7・13～7・14 7・19～9・30	0509	（医病）基幹・環境整備（曳き家・移動先）	発掘調査	1147㎡	縄文・弥生 古墳・古代	住居址・溝・土師器・須恵器	年報12
05・7・19	0511	本荘団地北地区雨水配管補修	立会調査	7.6㎡	古代	包含層・土師器・須恵器	年報12
05・8・1	0512	教育学部附属幼稚園物置設置	立会調査	0.96㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・2～8・3	0513 工④	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	立会調査	9.7㎡	古代	土師器・須恵器	年報12
05・8・2～8・25	0513 理②	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	198.75㎡	古代	土師器・須恵器	年報12
05・8・5	0514	医学部南地区テニスコート内給水設備工事	立会調査	19.94㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・5～8・10	0513 工⑤	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	立会調査	17.8㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・8～8・18	0513 工①	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	発掘調査	80.88㎡	古代	住居址・土師器・須恵器	年報12
05・8・18	0515	本荘団地（南地区）駐車場環境整備工事（その2）、追加変更	立会調査	235.98㎡	古代	住居址・土師器・須恵器	年報12
05・8・18～8・23	0515 工⑥	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	14.7㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・19～8・29	0513 工⑬	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－4	立会調査	259.㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・24	0516	本荘団地中地区外灯設備工事	立会調査	11.4㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・23～8・29	0513 工⑫	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	17.2㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・25	0513 工⑦	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	立会調査	14.7㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・25	0513 工⑧	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	86.1㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・25	0513 理③	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	立会調査	65.㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・25	0513 理④	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	立会調査	120.25㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・29～8・30	0513 工⑪	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	24.6㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・8・30～9・1	0513 工⑩	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	20.4㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・1～9・13	0513 理①	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	発掘調査	67.6㎡	縄文・古代	竪穴住居址・縄文土器・土師器・須恵器	年報12
05・9・1. 9・20	0517	（医病）基幹・環境整備（曳き家・現在地）	立会調査	1337㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・4～9・5	0513 理⑤	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	立会調査	48.75㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・12～9・27	0513 工⑨	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	43.9㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・13	0518	附属病院都市ガス設備改修工事	立会調査	29㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・14	0519	（黒髪北）学務部倉庫取設工事	立会調査	157.76㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・15	0513 工⑭	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－5	立会調査	0.79㎡		包含層・ピット	年報12
05・9・15	0513 工⑮	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業―1	立会調査	40.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・15	0520	本荘団地北地区入退院棟前スロープ取設工事	立会調査	17.18㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・15	0521	本荘団地（北地区）台風倒木引起し	立会調査	2.355㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・16～10・2	0513 工②	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	97.342㎡	古代	土師器・須恵器	年報12
05・9・16	0522	医学部附属病院管理棟屋外給水バルブ取替工事	立会調査	2.25㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・9・27	0523	（医病）中央診療棟（仕上）	立会調査	57.6㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・10・11～11・7	0513 工③	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2，3	立会調査	150㎡	古代	住居址・溝・土師器・須恵器	年報12
05・10・11	0524	本荘団地（北地区）駐車ゲート整備工事	立会調査	261.33㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・10・13～10・14. 10・17～10・18	0525	（黒髪）情報ネットワーク設備工事	立会調査	73.6㎡	古代	柱穴・土師器・須恵器	年報12
05・10・14	0526	埋文調査室内部改修機械設備工事	立会調査	2.0㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・10・19～10・20	0527	（黒髪北）文法学部本館スロープ整備工事	立会調査	44㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・10・21	0528	工学部ものづくり実習室新営工事	立会調査	810㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・10・25	0529	（医病）外来臨床研究棟玄関前環境整備工事	立会調査	381.12㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・10・26	0530	薬学部温床室（苗床温室）補修工事	立会調査	5.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・11・4	0531	旧情報処理センター屋外階段取設工事	立会調査	9㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・11・7	0532	教育学部附属養護学校給水引き込み湯水補修	立会調査	3.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・11・7	0533	（黒北）ボイラー室給水管補修工事	立会調査	1.1㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・11・16. 11・21	0534	黒髪南地区囲障改修工事	立会調査	124.3㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・11・29 12・15	0513 工⑯	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	48㎡	古代	住居址・柱穴	年報12

05・11・29～12・5	0513理⑥	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	発掘調査	24㎡	古代	住居址・溝・ピット・土師器・須恵器	年報12
05・12・4	0513工⑰	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	117.4㎡	古代	土師器	年報12
05・12・7	0513工⑱	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	87㎡	古代	ピット・土師器・須恵器	年報12
05・12・9	0513工⑲	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	25㎡	古代	包含層・土師器・須恵器	年報12
05・12・12	0513工⑳	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2，5	立会調査	㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・12	0535	教育学部新南部農場竹藪抜根	立会調査	455.7㎡		柱穴	年報12
05・12・13	0513工21	（黒髪南）工学部他校舎改修等施設整備事業－1	立会調査	0.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・13	0513工22	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・13	0513工23	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	立会調査	87.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・13	0513工24	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	18㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・14	0513理⑦	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	86.6㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・14	0536	医学部弓道場設備工事	立会調査	82.73㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・15	0513理⑧	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1，2	立会調査	286.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・16	0537	理学部プレハブ倉庫新営工事	立会調査	167㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・19～12・21，12・26 06・1・6～1・11，2・27～3・2	0538	（黒髪）情報ネットワーク館設備工事（追加）	立会調査	70.235㎡	古代	土師器・須恵器	年報12
05・12・22	0539	本荘団地（中地区）ゴミ置場取設	立会調査	48.51㎡		遺構・遺物なし	年報12
05・12・26	0513理⑨	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・4～1・19	0513理⑩	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	発掘調査	89㎡	古代	住居址・土師器・須恵器	年報12
06・1・5	0513理⑪	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	70㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・10，1・25	0540	本荘団地（南地区）埋設ガス管改修工事	立会調査	61.8㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・17	0513工25	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－7	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・20	0513工26	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－7	立会調査	708㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・26，2・2 2・10 2・27	0541	（黒髪南）理学部駐輪場整備工事（追加・再追加含む）	立会調査	1110.6㎡	古代	土師器・須恵器	年報12
06・1・23	0513工27	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－7	立会調査	45.4㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・24	0513工28	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－2	立会調査	12㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・26	0513工29	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－1	立会調査	40㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・27	0542	（医病）基幹・環境整備（曳き家・移動経路）	立会調査	1464㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・1・30	0513工30	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業－3	立会調査	656.1㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・2・13	0543	附属病院職員厚生施設園庭整備	立会調査	338.9㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・2・16，3・13	0544	（医病）基幹・環境整備（設備・曳き家後）	立会調査	39㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・2・17	0545	教育学部附属幼稚園ブランコ用ゴムマット布設	立会調査	12㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・2・24，3・7～3・8，3・13，3・16～3・17	0546	（黒髪）情報ネットワーク館新営工事に伴う外構工事	立会調査	1837㎡	古代	住居址・土師器・須恵器	年報12
06・3・10	0547	（黒髪）北地区学生会館西側バイク置場設置工事	立会調査	48㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・3・13	0548	本荘団地（中地区）渡り廊下設置	立会調査	5.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・3・24	0549	（医病）外来化学療法センター屋外汚水配管工事	立会調査	1.92㎡		遺構・遺物なし	年報12
06・3・30	0550	ぎ木補修工事	立会調査	0.91㎡		遺構・遺物なし	年報12
2006年度							
06・4・11	0601	教育学部附属中学校テニスコート移設	立会調査	5.94㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・4・11	0602	（黒髪北）接地工事	立会調査	6㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・4・11	0603	（黒髪北）資料館改修工事	発掘調査	32.1㎡	古代	土師器	年報13
06・4・11～4・12	0604	（黒髪北）資料館改修工事（屋外排水）	発掘調査	25.12㎡	古代	土師器	年報13
06・4・12	0606	工学部研究実験用車庫取設工事	立会調査	49.05㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・4・13	0605	放送大学案内板取設工事	立会調査	1.5㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・4・18～4・19	0607	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-9	立会調査	5.2㎡		遺構・遺物なし	年報13

06・4・21	0608	（黒髪北）前面歩道配管補修工事	立会調査	1.3㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・4・24	0609	理学部駐輪場ガス洩れ補修	立会調査	1.7㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・5・2	0610	教育学部附属小学校遊具新設	立会調査	0.98㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・5・11	0611①	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・5・22 5・25	0611 ②	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	129㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・5・22	0612①	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	発掘調査	1.1㎡	古代	柱穴・土師器	年報13
06・5・22～ 5・24	0612②	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6	発掘調査	24㎡	古代	柱穴・土師器・須恵器	年報13
06・6・12	0614	（黒髪）環境安全センター給水配管補修	立会調査	0.57㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・6・19	0613	附属病院中央診療棟新営電気設備工事	立会調査	72.4㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・6・22 6・28 7・3	0615	附属病院中央診療棟新営機械設備（衛生）工事	立会調査	153㎡	古代	土師器・須恵器	年報13
06・6・27 7・7	0612③	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-1	立会調査	21.98㎡	古代	土師器・須恵器	年報13
06・8・7	0616	教育学部附属中学校給水管補修工事	立会調査	1.7㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・8・11	0617	（黒髪）プール附属家等環境配慮改修（アスベスト処理）工事	立会調査	0.59㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・8・11	0618	医学部附属病院駐車場側溝修理	立会調査	8.75㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・8・21	0619	教育学部附属養護学校屋外人工芝張替その他工事	立会調査	420.51㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・8・24～ 8・25	0611③	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-3	立会調査	20.7㎡			年報13
06・8・31～ 9・1	0611④	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	64.1㎡	古代	溝・土師器	年報13
06・9・7	0620	教育学部附属小学校プール系統給水漏水補修工事	立会調査	2.8㎡			年報13
06・9・11	0611⑤	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	49.64㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・9・12	0611⑥	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	140㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・9・14～ 9・15	0611⑦	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	32.96㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・9・20～ 9・21	0611⑧	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	55.1㎡			年報13
06・10・2	0611⑨	黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-2	立会調査	10.5㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・10・2	0621	（黒髪）プール附属家等環境配慮改修（アスベスト処理）工事その2	立会調査	44㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・10・2 10・27 10・30 11・13	0622	（医病）環境整備（西側駐車場等）工事	発掘調査	8,077.5㎡ (50.68㎡)	古代	土師器・須恵器	年報13
06・10・10 10・12	0623	黒髪団地外灯取設その他工事	立会調査	26.79㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・10・13	0624	附属病院設備管理棟アキュームレータードレン管漏れ修理	立会調査	2.16㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・10・16	0625	（医病）基幹・環境整備（外灯）工事	立会調査	296.4㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・10・19	0626	（医病）基幹整備（ボイラー設備他更新）工事	立会調査	106.7㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・10・25	0627	（大江地区）雨水設備工事	立会調査	0.24㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・11・2	0628	医学部附属病院管理棟北側外灯撤去工事	立会調査	2.8㎡			年報13
06・11・17 11・27 12・4	0629	（本荘）医学部保健学科校舎改修電気設備工事	立会調査	239.4㎡	古代	土師器	年報13
06・11・20	0630	黒髪南地区工学部通用門周辺植栽	立会調査	15㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・11・30	0631	渡鹿団地防火用水撤去工事	立会調査	56.93㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・12・1	0632	事務局正門樹木植替え	立会調査	3.36㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・12・15 12・18～ 12・25 12・27～ 12・28 07・1・4～ 1・9	0612④	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6	発掘調査	162.7㎡	古代	土師器・須恵器・動物骨	年報13
06・12・19	0633	本荘北地区南側駐車場歩道環境整備工事	立会調査	2943.79㎡		遺構・遺物なし	年報13
06・12・25 07・4・2	0634	（本荘）医学部保健学科校舎改修機械設備工事	立会調査	113.36㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・1・10～ 1・11 1・19	0635	附属養護学校ガス漏れ緊急立会	立会調査	13.45㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・1・18 1・22～ 1・23	0636	理学部4号館昇降路取設工事	発掘調査	30.35㎡	古代	土師器・須恵器・礫	年報13
07・1・30	0637	（本荘）医学部保健学科校舎改修工事	立会調査	341.2㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・2・1	0638	（宇留毛）ゴミ置き場取設工事	立会調査	35㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・2・20	0639	（本荘）医学部保健学科校舎CT用接地工事	立会調査	4.35㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・2・26	0640	黒髪団地北地区知命堂ガス漏れ調査	立会調査	1.52㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・3・1	0641	（本荘中）医学部門衛所取り壊し工事	立会調査	52.42㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・3・6	0642	宇留毛団地災害復旧工事	立会調査	134.82㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・3・8	0643	（黒髪南）理学部温室取り壊し工事	立会調査	101.7㎡	古代	土師器	年報13
07・3・8	0644	（南地区）西側囲障改修工事	立会調査	55.28㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・3・12	0645	本荘南地区テニスコート埋設給水管漏水工事	立会調査	763㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・3・20	0646	（医病）環境整備（救急棟改修）機械設備工事	立会調査	5.77㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・3・22	0647	（教）附属幼稚園囲障改修工事	立会調査	25.7㎡		遺構・遺物なし	年報13
07・3・26	0648	（医病）環境整備（山崎記念館外部改修）工事	立会調査	1.15㎡		遺構・遺物なし	年報13

2007年度							
07・4・10	0701	（教）附属養護学校東門等改修工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・4・12		（本荘）医学部図書講義棟新営工事	試掘調査		古代	溝・柱穴・土器	年報14
07・4・13	0702	教育学部附属幼稚園飼育小屋取設工事	立会調査	18.21㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・4・16 4・20	0703①	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6	立会調査	61㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・5・7～ 5・8	0704	（黒髪南）新営工事に伴う樹木移植工事	立会調査	446㎡	古代	土師器・須恵器	年報14
07・6・7		（医病）東病棟新営工事	試掘調査				
07・6・13	0705	（医病）東病棟新営に伴う支障配線替工事（電気設備）	立会調査	7㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・6・19 6・21 6・27	0703②	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-13	立会調査	469.2㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・6・20	0706	本荘南地区保健学科通用門整備	立会調査	17.4㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・6・20		黒髪北地区総合研究棟新営工事	試掘調査			柱穴・土器	年報14
07・6・25	0703③	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-13	立会調査	31.4㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・6・26 6・29 7・10 7・18～ 7・19	0707	（本荘）医学部図書講義棟新営工事	立会調査			（一次掘削立会）	年報14
07・6・28	0708	大教センター南側雨水管つまり修理	立会調査	1.50㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・6・29	0709	（本荘北）仮設渡り廊下取設工事	立会調査	43.5㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・7・3	0703④	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6,14	立会調査	36㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・7・4	0710	（京町）教育学部附属小中学校仮設校舎取設工事（変更）	立会調査	40㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・7・9～ 7・10	0703⑤	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6	立会調査	58.75㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・7・17	0711	（医病）基幹・環境整備（旧中央診療棟取り壊しに伴う電気設備）工事	立会調査	8.34㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・7・17	0703⑥-1	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-13	立会調査	1,576.6㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・7・19	0703⑥-2	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-13	立会調査	300.08㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・7・30～ 9・3	0707	（本荘）医学部図書講義棟新営工事	発掘調査	1,590㎡	縄文・古代	縄文時代石器・縄文土器・土師器・須恵器・古代鉄器	年報14
07・8・7	**0712**	**（医病）東病棟新営工事**	立会調査	24㎡		（一次掘削）	本書
07・8・10	0713	薬学部屋外給水管漏水修理工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・8・22	0714	（黒髪南）理学部1,2号館掲示板取設工事	立会調査	15.7㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・8・23	0715	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-19	立会調査	2.09㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・8・27～ 10・25	**0712**	**（医病）東病棟新営工事**	発掘調査	589.29㎡	縄文・古墳・古代・近世	縄文土器・土師器・須恵器・石器・古代鉄器・鋼製袴帯・馬骨・宋銭	本書
07・9・3	0716	本荘南地区駐車場出入口整備	立会調査	294.8㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・9・14 10・3	0717	（医病）基幹・環境整備（旧中央診療棟取り壊しに伴う機械設備）工事	立会調査	93.7㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・9・25～ 9・27 10・2	0703⑦	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6,16	発掘調査	275.5㎡	古代	住居士・ピット・土師器・須恵器	年報14
07・9・27 10・1～ 10・2	0718	（大江）薬学部本館耐震改修工事	発掘調査	264.32㎡	古代	溝・土師器	年報14
07・10・4 10・15～ 10・16 10・22 10・25	**0719**	**（京町）教育学部附属小中学校校舎等改修工事**	立会調査	308.68㎡	弥生・古代	ピット・弥生土器・土師器	本書
08・1・30～ 1・31 2・13							
07・10・19	0720	事務局南側等屋外給水管補修工事	立会調査	2.5㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・10・26～ 11・28	**0719**	**（京町）教育学部附属小中学校校舎等改修工事**	発掘調査	230.3㎡	弥生・古代	竪穴住居・ピット・溝・弥生土器・土師器・須恵器・打製石鏃	本書
07・12・3～ 12・4 12・6～ 12・7 08・1・18	**0721**	**（京町附属小中）校舎等機械設備改修**	立会調査	1,309.05㎡	弥生・古代・近世・近代	竪穴住居・ピット・弥生土器・土師器・須恵器・近世，近代陶磁器	本書
07・12・5	0722	（黒髪）工学部8号館内部改修その他工事	立会調査	97㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・12・5 12・11	0723	（黒髪）工学部8号館内部改修電気設備工事	立会調査	14.1㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・12・7 12・10 12・12	0724	（本荘中）医学部基礎研究棟（C棟とりこわし）工事	立会調査	1,000㎡	古代	土坑・ピット・土師器	年報14
07・12・7	0725	（京町）教育学部附属小・中学校校舎等改修電気設備工事	立会調査	90㎡		遺構・遺物なし	年報14
07・12・10 12・17～ 12・18 08・1・16～ 1・17	0703⑧-1	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6,18	立会調査	148.75㎡	古代？	ピット	年報14
07・12・14～ 12・27	0721	（京町附属小中）校舎等機械設備改修	発掘調査	112.65㎡	弥生・古代・近世・近代	竪穴住居・ピット・近代土坑・弥生土器・土師器・須恵器・近世，近代陶磁器	年報14
07・12・19	0726	医学部基礎研究棟北側喫煙所	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報14
08・1・16	0703⑨	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-20	立会調査	94.5㎡		遺構・遺物なし	年報14

08・1・22	0727	（黒髪）工学部８号館耐震改修機械設備工事	立会調査	12㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・1・22	0728	（黒髪）工学部８号館内部改修機械設備工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・1・23	0703 ⑧-2	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6,18	立会調査	89㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・1・25	0703 ⑩	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-10	立会調査	2.04㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・1・29 ～ 1・30	0703 ⑧-3	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6,18	立会調査	96.7㎡	古代	土師器	年報 14
08・2・1 2・4	0703 ⑧-4	（黒髪南）工学部他校舎改修施設整備等事業-6,18	立会調査	53.02㎡	古代	土師器	年報 14
08・2・14	0729	（黒髪南）ボイラー等撤去工事	立会調査	38.8㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・2・25	0730	（黒髪北）教育学部附属特別支援学校防火用水槽撤去工事	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・2・27	0731	（黒髪南）旧情報処理センター改修	立会調査	2.5㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・2・29	0732	（本荘）特別高圧受電棟増築工事	立会調査	9㎡	土師器		
08・3・11 3・26	0733	（医病）旧中央診療棟とりこわし工事	立会調査	84㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・3・17	0734	（黒髪北）排水路開口部フェンス設置工事	立会調査	50.3㎡			
08・3・21	0735	医学部保健学科ボイラー用地下重油タンク撤去工事	立会調査	40㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・3・21	0736	（大江北）薬学部消防用水槽撤去工事	立会調査	73.3㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・3・25	0737	（黒髪南）ボイラー煙突撤去工事	立会調査	208㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・3・27	0738	（本荘南）医学部保健学科記念碑取設工事	立会調査	36.5㎡		遺構・遺物なし	年報 14
08・3・31	0739	（黒髪北）出庫注意灯取設工事	立会調査	10.135㎡		遺構・遺物なし	年報 14
2008年度							
08・4・2	0801	（医病）旧中央診療棟とりこわし工事（追加）	立会調査	20㎡		遺構・遺物なし	
08・5・7	0802	附属中学校散水復旧工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	
08・5・20	0803	薬学部薬草園管理舎ガス管改修工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし	
08・5・26	0804	（本荘北）駐輪場取壊し工事	立会調査	11.1㎡		遺構・遺物なし	
08・6・5	0805	（黒髪南）ボイラー室南側給水管漏水修理	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	
08・6・6 6・19 6・23 6・26 7・4 7・10 7・18 7・28 8・25 12・1 12・8	0806	（黒髪）南地区福利施設支障配管替工事	立会調査	306.46㎡	古代	土師器	
08・6・20 6・25 ～ 7・1 7・28 ～ 7・30 12・4 12・18 ～ 12・19	0806	（黒髪）南地区福利施設支障配管替工事	発掘調査	125.2㎡	古代	溝・ピット・土師器・須恵器・近代陶磁器・石器	
08・6・9 ～ 6・10	0807	（本荘）医学部図書講義棟新営機械設備工事	立会調査	29.7㎡		遺構・遺物なし	
08・6・18	0808	（黒髪北）有機系廃液処理施設東側給水管漏水修理	立会調査	0.3㎡		遺構・遺物なし	
08・6・23 7・1 7・3 ～ 7・4 7・15 ～ 7・16	0809	（黒髪南）福利施設樹木移植工事（追加）	立会調査／発掘調査	23.5㎡	古代	溝・住居址・土師器・石器	
08・7・10	0810	宇留毛団地給水管補修工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	
08・7・11	0811	（黒髪南）共用棟Ⅱ４階改修電気設備工事	立会調査	3.6㎡		遺構・遺物なし	
08・7・14	0812	（黒髪南）掲示板移設工事	立会調査	41.1㎡		遺構・遺物なし	
08・7・15	0813	（本荘中）医学部基礎棟内都市ガス配管漏れ修理	立会調査	2.42㎡		遺構・遺物なし	
08・8・18	0814	（医病）東病棟新営工事	立会調査	8㎡	弥生	溝発見	
08・8・20 ～ 8・22	0814	（医病）東病棟新営工事	発掘調査	212㎡	弥生・古代	弥生土器・土師器・須恵器	
08・8・21	0815	（本荘南）こばと保育園支障基礎等撤去工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	
08・8・21	0816	（本荘中）医学部基礎棟内市水道配管漏れ修理	立会調査	1.77㎡		遺構・遺物なし	
08・8・29	0817	宇留毛団地油タンク警報線補修工事	立会調査	0.96㎡		遺構・遺物なし	
08・9・1	0818	（黒髪北）ポンプ室西側給水管漏水修理	立会調査	2.1㎡		遺構・遺物なし	
08・9・9 ～ 9・10	0820	（黒髪北）文法学部本館改修南側支障物撤去工事	立会調査	80.2㎡		遺構・遺物なし	
08・9・9	0821	本荘団地（北地区）看護師宿舎埋設ガス管修理	立会調査	7.4㎡		遺構・遺物なし	
08・10・6	0822	本荘南地区保健学科東側囲障整備	立会調査	30㎡		遺構・遺物なし	
08・10・9 10・10 ～ 11・28	0819	（渡鹿）体育館耐震改修その他工事	一次掘削／発掘調査	694.95㎡	縄文・古墳・古代	縄文土器・石器、古墳時代玉、土師器・石器・人骨	
08・10・10	0823	教育学部附属特別支援学校漏水調査補修工事	立会調査	4.8㎡		遺構・遺物なし	
08・10・15	0824	（本荘南）医学部保健学科喫煙所取設工事	立会調査	0.8㎡		遺構・遺物なし	
08・10・28	0825	（医病）電力工事負担金	立会調査	120.5㎡		遺構・遺物なし	
08・10・29	0826	（黒髪南）共用棟黒髪３樹木伐採・移植工事	立会調査	44.55㎡			
08・11・4	0827	五高開校 120 周年記念植樹	立会調査	0.25㎡		遺構・遺物なし	
08・11・6	0828	（本荘）こばと保育園改築電気設備工事	立会調査	10.7㎡			
08・11・10	0829	（黒髪北）学務部プレハブ倉庫改修機械設備工事	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	
08・10・10	0823	教育学部附属特別支援学校漏水調査補修工事	立会調査	4.8㎡		遺構・遺物なし	

08・10・15	0824	（本荘南）医学部保健学科喫煙所取設工事	立会調査	0.8㎡		遺構・遺物なし
08・10・28	0825	（医病）電力工事負担金	立会調査	120.5㎡		遺構・遺物なし
08・10・29	0826	（黒髪南）共用棟黒髪３樹木伐採・移植工事	立会調査	44.55㎡		
08・11・4	0827	五高開校 120 周年記念植樹	立会調査	0.25㎡		遺構・遺物なし
08・11・6	0828	（本荘）こばと保育園改築電気設備工事	立会調査	10.7㎡		
08・11・10	0829	（黒髪北）学務部プレハブ倉庫改修機械設備工事	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし
08・11・18 11・19～ 11・21	0830	（本荘）こばと保育園新営機械設備工事（変更２）	一次掘削／ 発掘調査／ 立会調査	5㎡	古代	土師器・石器
08・11・18 11・20 12・24	0831	（渡鹿）体育館耐震改修機械設備工事	発掘調査	113.3㎡		遺構・遺物なし
08・12・1	0832	文法学部講義室北側給水管漏水調査	立会調査	1.04㎡		遺構・遺物なし
08・12・3	0833	（黒髪北）教育学部本館東側汚水枡補修工事	立会調査	1.4㎡		遺構・遺物なし
08・12・10	0834	（本荘中）共用研究棟新営工事（変更）	立会調査	14.13㎡		黒曜石
08・12・11 12・15～ 12・19 09・1・13～ 2・19	0835	（医病）東病棟新営機械設備（衛生）工事（変更）	一次掘削／ 発掘調査	580㎡		ピット・住居址・土師器・須恵器・弥生土器・縄文土器・石器・鉄器
08・12・22 12・24～ 12・25 09・1・5～ 継続中	0836	（黒髪北）教育学部本館・文法学部本館改修機械設備工事（変更その１、その２）	一次掘削／ 発掘調査	456.54㎡	古代	溝・住居址・ピット・土師器・須恵器・石器
08・12・24	0837	五高開校 120 周年記念植樹（追加）	立会調査	0.3㎡		遺構・遺物なし
08・12・26	0838	（黒髪北）教育学部本館改修南側耐震補強工事	立会調査	60㎡		遺構・遺物なし
09・1・20	0839	（黒髪南）備蓄倉庫取設工事	立会調査	43.5㎡		遺構・遺物なし
09・1・22	0840	（黒髪南）南地区ボイラー室改修工事	立会調査	5㎡		遺構・遺物なし
09・2・2	0841	（黒髪南）ものづくり実習室Ⅱ新営に伴う支障樹木伐採・移植工事	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし
09・2・4	0842	（本荘）医学部図書講義棟増築機械設備工事	立会調査	7.2㎡		遺構・遺物なし
09・2・5	0843	（黒髪北）ボイラー煙突撤去工事	立会調査	5㎡		遺構・遺物なし
09・2・12	0844	（黒髪北）教育学部本館・文法学部本館改修電気設備工事（変更）	立会調査	9.6㎡		遺構・遺物なし
09・2・12	0845	（黒髪南）福祉施設新築工事	立会調査	1.6㎡		遺構・遺物なし
09・2・13	0846	（城東町）附属幼稚園北門改修工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし
09・2・13～ 継続中	0847	（黒髪北）教育学部本館改修（変更）	立会調査	683.18㎡		遺構・遺物なし
09・2・13～ 継続中	0848	（黒髪北）文法学部本館改修（変更）	立会調査	269.93㎡		遺構・遺物なし
09・2・16	0849	黒髪団地（北地区）外灯増設その他工事	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし
09・2・16	0850	（渡鹿）体育館耐震改修機械設備工事（追加）	発掘調査 （立会調査）	13.32㎡		遺構・遺物なし
09・2・17	0851	（医病）水路蓋改修工事	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし
09・2・18	0852	（黒髪南）排水ポンプ電源工事	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし
09・2・18	0853	（黒髪南）ものづくり実習室Ⅱ新営電気設備工事	立会調査	0.5㎡		遺構・遺物なし

Ⅱ　黒髪北地区の調査

1．文化部室取設工事に伴う発掘調査（9802調査地点）

（1）調査の目的と経過

a．調査地と調査経緯

本調査は年度当初の計画には含まれない調査であった。6月に施設部から埋蔵文化財調査室に相談があり、両者協議の結果9月上旬に調査を開始することになった。黒髪北地区の環境整備事業として生協・学生会館周囲の文化系サークル部室の新設移転、構内道路敷設替え、樹木の移植・植樹、及び排水管敷設工事、電気設備工事が計画され、まず文科系サークル部室建設予定地の調査を行い、旧建物を解体・撤去の後に排水管敷設・電気設備・樹木の移・植樹に伴う立会を行った。調査は当初9月上旬に開始する予定であったが、調査区内及び周囲にあって調査の支障となる樹木の移転作業が遅れたため、同月22日より1次掘削を開始し、25日から調査を開始した。これまでの調査結果では古代の遺物包含層及びその下の暗褐色土層の下が遺構検出面であったが、本調査区では地表下約1mで古代の遺物包含層に達し、この下に二枚の層を挟んで、地表下1.2mと1.4mでそれぞれ弥生・縄文時代の遺物包含層を検出した。

調査は排土処理の都合上調査区を東西半分に分け、西側から開始した。検出された遺構は近世遺構の溝が大小合わせて7条と集石のある土壙およびピット群である。溝は大きいもの3条が調査区を斜め（北東―南西）に横切るように走っており、最大のものを境に調査区の北側と南側で包含層・基盤層の土質が異なり、遺構・遺物の分布状況にも偏りが見られた。1号溝以北は弥生・縄文時代の遺物包含層が良好な状態で遺存しており、土器や石器がある程度のまとまりをもって出土した。遺構は土壙のみである。南側では細く浅い溝が3条と無数のピットが検出された。南側の台地の方が若干高くなっており、弥生･縄文時代の包含層は残っておらず、埋土の直下が遺構検出面である。遺構検出面の土はにぶい黄褐色のシルト質土層である。一部で硬い基盤層が露出していたため、全ての遺構の調査が終了した時点でこのシルト質土層を除くことにした。このシルト質土層中より多くの押型文土器が出土したのは予想外であった。地形上、東側半分はこの押型文土器を含むシルト質土層が調査範囲の大方を占めることが予想されたが、果たして東側は近年までの建造物の影響も少なくこの押型文土器を含む層が広い範囲で確認された。遺構は少なかったものの、多くのピットの実測と予想外の包含層の判明で当初の予定より進行状況は遅れをとり、室長には祝日を返上して測量のご協力をいただいた。調査期間を延長し、11月6日に現地説明会を実施し、この日をもって調査を終了した。

b．調査の経過

1998年9月25日　本体部（575㎡）発掘調査開始。
1998年9月28日　包含層を掘削、遺構検出作業。29日、ピット群掘り下げ。
1998年10月1日　3号溝内集石検出、小溝完掘。1号溝掘削開始。
1998年10月6日　1号溝北側掘削、181号集石土壙検出。
1998年10月14日　Ⅰ区写真撮影。地山を確認掘削、縄文早期土器が出土。
1998年10月22日　Ⅱ区一次掘削開始。26日作業員による作業開始。
1998年10月27日　1号溝完掘。他遺構検出、29日ピット群の掘削開始。
1998年10月30日　Ⅱ区写真撮影。全体掘削・測量。
1998年11月6日　現地説明会・発掘調査終了。

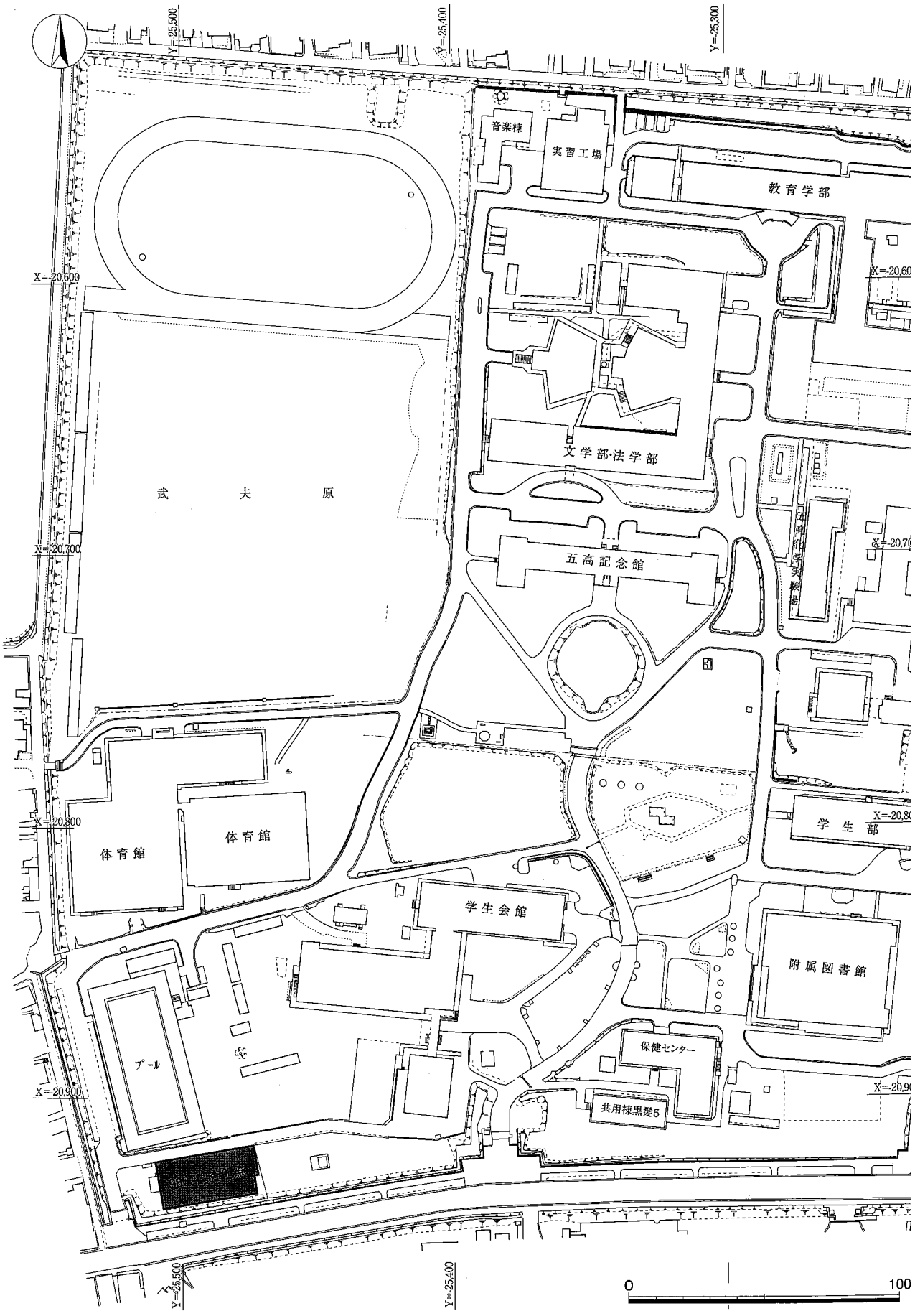


図２　黒髪北地区における調査地点位置図（１ /2000）

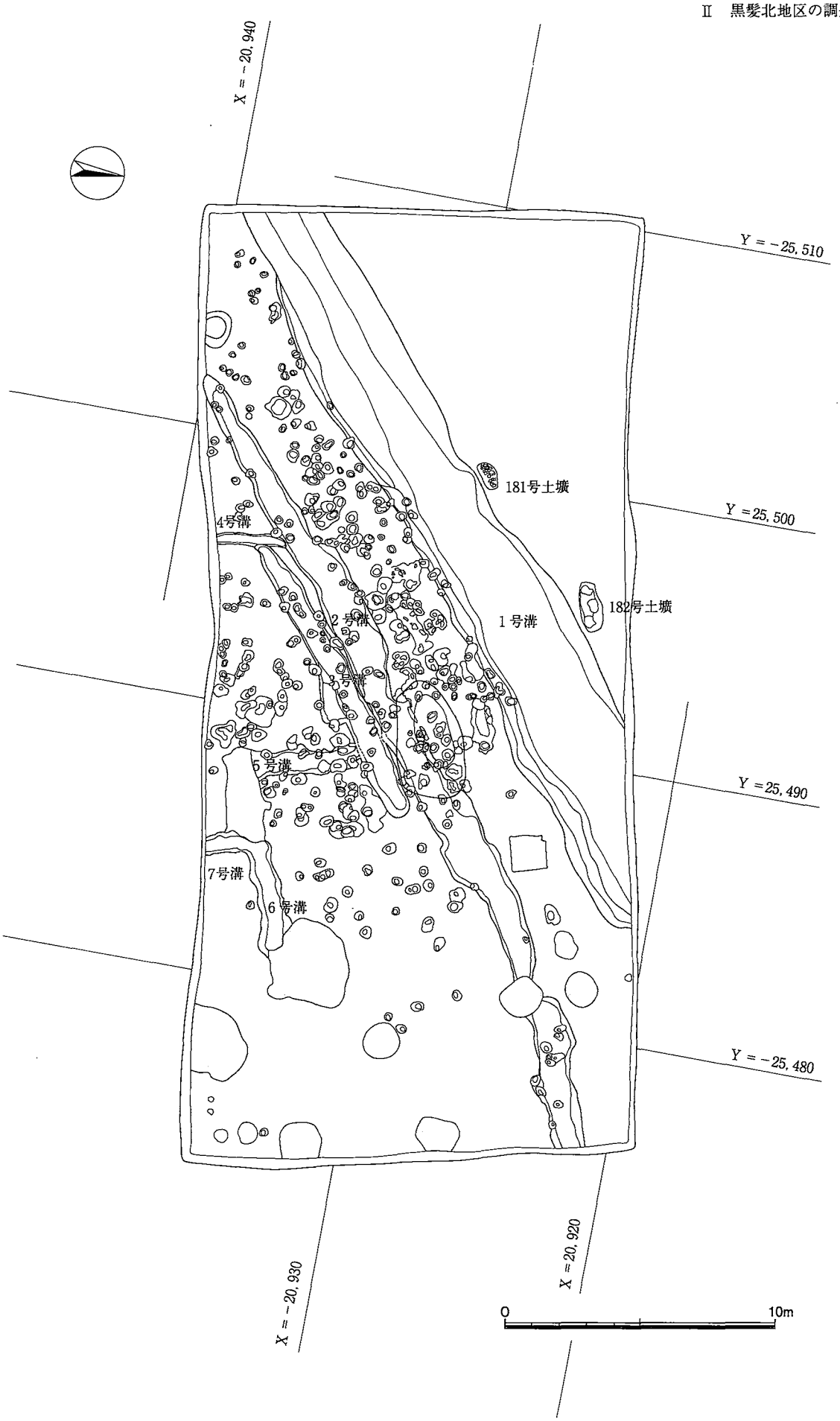


図３　9802調査地点遺構配置実測図（１/200）

c. 調査の組織

調　査　員：大坪志子

事 務 担 当：松嶋木綿子

発掘作業員：岡崎光子・岡田イツ代・押方富江・甲斐田末男・黒木タケ子・古賀敬子・小細工洋子・坂本礼子・白石美智子・新里亮人・橋口剛士・番山明子・藤原由博・堀川貞子・松井昭子・水上順子・森川征子・森川　護・森田ミドリ

整理作業員：藤木　聡・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・首藤優子・末吉美紀・土田ちえみ・長谷智子・林田恵子・増井弘子・山嵜早苗

調査協力者：藤本圭司、江島賢一、河合章行、熊本茂仁、冨永明子、峯崎麻帆（熊本大学考古学研究室）

（2）調査区の基本層序

今回の調査地点は、白川右岸の標高18mの地点にあたる。近年まであった黒髪３号宿舎の跡地である。宿舎建物の基礎や、それ以前のものと思われる建物基礎、井戸、排水用浄化桝などがあったが、それほど遺構面の破壊はなかった。

今回の調査では、黒髪の南地区とは異なり縄文時代・弥生時代の遺物包含層が古代の遺物包含層と分離して確認された。古代の遺物包含層（Ⅴ層、厚さ10cm）は地表下約１ｍで確認された。西壁及び北壁の観察から第Ⅴ・Ⅶ層上面のⅣ層までは造成による客土であろう。Ⅶ層（厚さ20cm）は混入物のないきれいな土であるが遺物は観察されなかった。Ⅸ層（厚さ10cm）及び第ＸⅠ層（厚さ10cm）が弥生時代・縄文時代の遺物包含層である。いずれの層も非常に粘性の高い粘土質土層である。Ⅸ層上のⅧ層は色調の違いで分層したが粘性があり、Ⅶ層が下のⅨ層の影響を受けたものと思われる。

調査区は、北東―南西に走る１号大溝によって北側台地と南側台地に分けられ、南側台地が若干高くなっている。また、溝の方向に沿って全体的に西側に傾斜しており、東西端での比高差は１ｍに達する。縄文時代・弥生時代の粘土質の包含層は北側台地でのみ観察された。南側台地で古代の遺物包含層はほとんど確認されなかったが、調査区東側の北壁とその付近で観察でき、ここでは地山の直上であった。本遺跡ではにぶい黄褐色のシルト質層を地山層と認識している。今回この層が南側台地に広がっていたが、一部で硬い地山層下の基盤が露出していた。シルト質層の二次堆積の可能性があったため、シルト質層を掘り下げてみることにした。その結果押型文土器を含む良好な縄文時代早期の遺物包含層であることが判明した。

以上のことから南側台地では押型文土器を含むシルト質層上に黒褐色の縄文・弥生時代の遺物包含層を挟まずに古代の包含層があることがわかった。北側が一段低いため、縄文時代以降の文化層の削平を受けず、南側では削平されたと思われる。

大溝を境に北側台地の地山層・包含層は非常に粘性の高い粘土質土層であるのに対し、南側台地では地山層・包含層はともに粘性のない土である。遺構の分布状況からみても、利用の様相が全く異なっている。

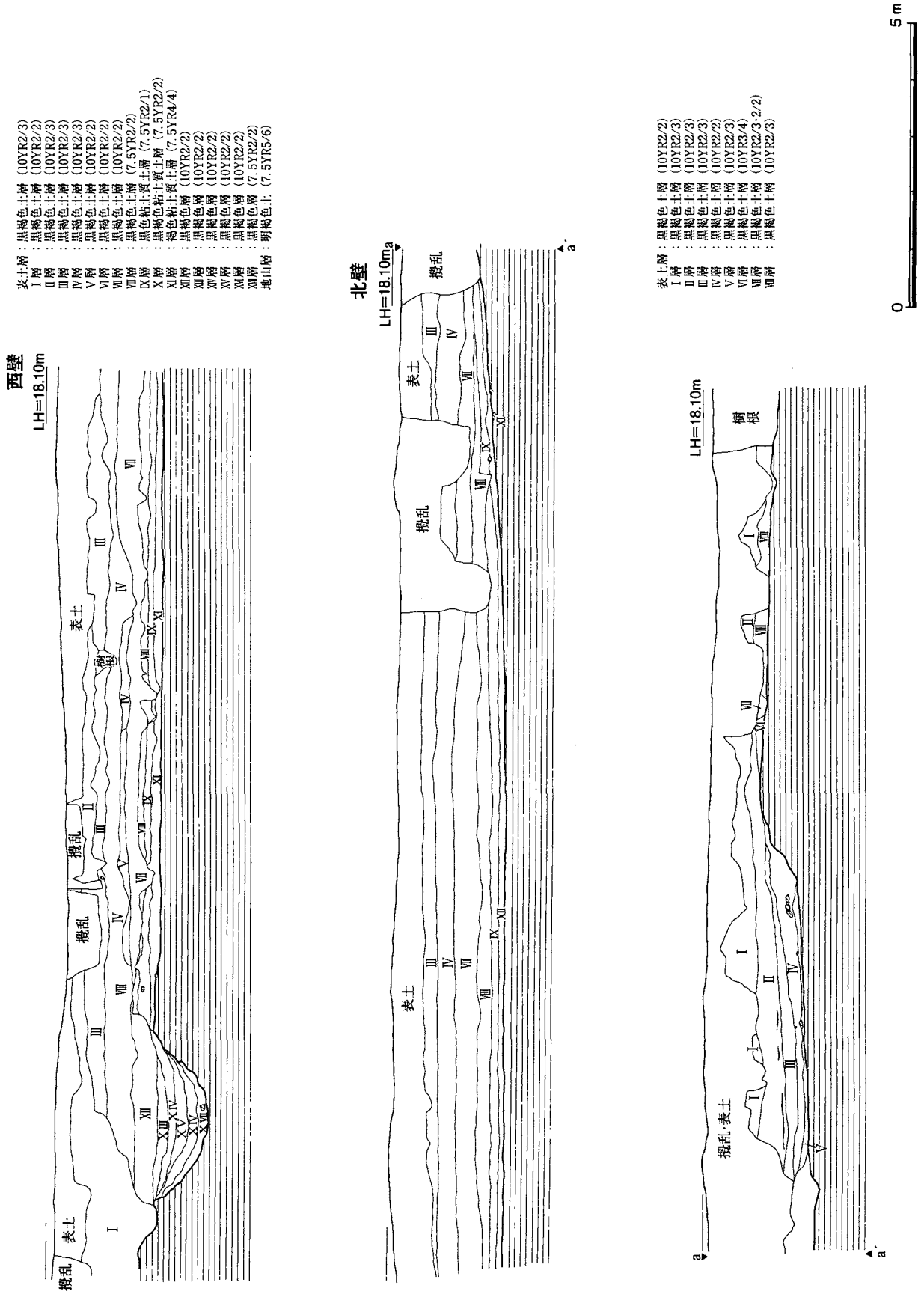


図 4　9802調査区壁土層断面実測図（1 /100）

（3）検出遺構

本調査区においては縄文時代および弥生時代の明確な遺構は検出されなかった。多くのピットは検出されたが、建物等の構造物を成す様子はない。近世以降のものと思われる溝が7条検出された以外に住居等の検出はなかった。

＜縄文時代の遺構＞

ピットのなかで、ある程度まとまった遺物が出土したのが113号ピットである（図5）。113号ピットは南側台地のシルト質層（押型文土器包含層）に掘りこまれている。上面が削られた影響もあり、土器片がかなり散乱した状態であったがそれぞれ鉢とみられる。ピット群が分布する南側台地は遺物の出土がほとんど無いことを考慮すると、状況から113号ピットに伴うものと思われる。

＜土壙＞（図5）

北側台地で2基の土壙が検出された。4.7mほど離れて溝に沿うように位置していた。

181号土壙は長さ約1.2m、幅0.6mの楕円形である（図5）。検出面からの深さは20cmであるが、本来はかなり深かったものと思われる。土壙内には大小の丸い河原石や角礫がつまっていた。

182号土壙も楕円形で、長さ約1.75m、幅約0.8mである。土壙内に集石はなかった。

181号土壙のように土壙に石をつめる形態は近世墓に例があり、両者とも墓壙の可能性も考えられるが人骨等の出土はなかった。出土遺物としては182号土壙から後世の流れ込みによる弥生時代の甕の口縁と土師器の口縁の破片が1点ずつ出土したのみである。

＜溝＞

1号溝（図3）

検出された溝の中で最も大きく、幅約2m、深さは最も深い部分で1mである。調査区を北東―南西に貫く。溝の方向はE－50°－Nで西に向かって傾斜している。東半分は0.6～0.7m程度の深さで断面は浅い逆台形を呈する整然とした溝である。溝の中間あたりで急な勾配で深くなり、西半分の断面はU字形を呈する。遺物は近世～近代の土器片や石器の他、後世の流れ込みと思われる縄文土器・弥生土器が出土した。

2・3・6号溝＜図3・5＞

1号溝に付随するように並行に走る溝群である。2・3号溝は途中で境が消えてしまうが、切り合い関係は不明である。両者とも、ほぼ中央地点で集石が見られた。黒曜石の剥片と鉄製品、炭化物がわずかに出土した他には遺物はなかった。

4・5・7号溝＜図3＞

4・5・7号溝は調査区をほぼ南北に走っている。現状で幅は0.4～1m、深さは0.2～0.4mである。

これら7条の溝の相互の前後関係を確認できたものはほとんどないが、5号溝が2・3号溝を切っていることが確認できた。南北に走る溝がほぼ同時期とすれば、北東―南西に走る溝より南北に軸をとるものが新しいであろう。

（4）出土遺物

縄文土器

出土遺物は約150点であるが、今回の調査で最も多かったのが縄文土器であり、押型文土器がその主体を占めた。主要なものを図6～7に示した。

5～14は口縁部である。外器面は山形文、楕円文がある。5～11は口縁部内面に原体条痕を施し、

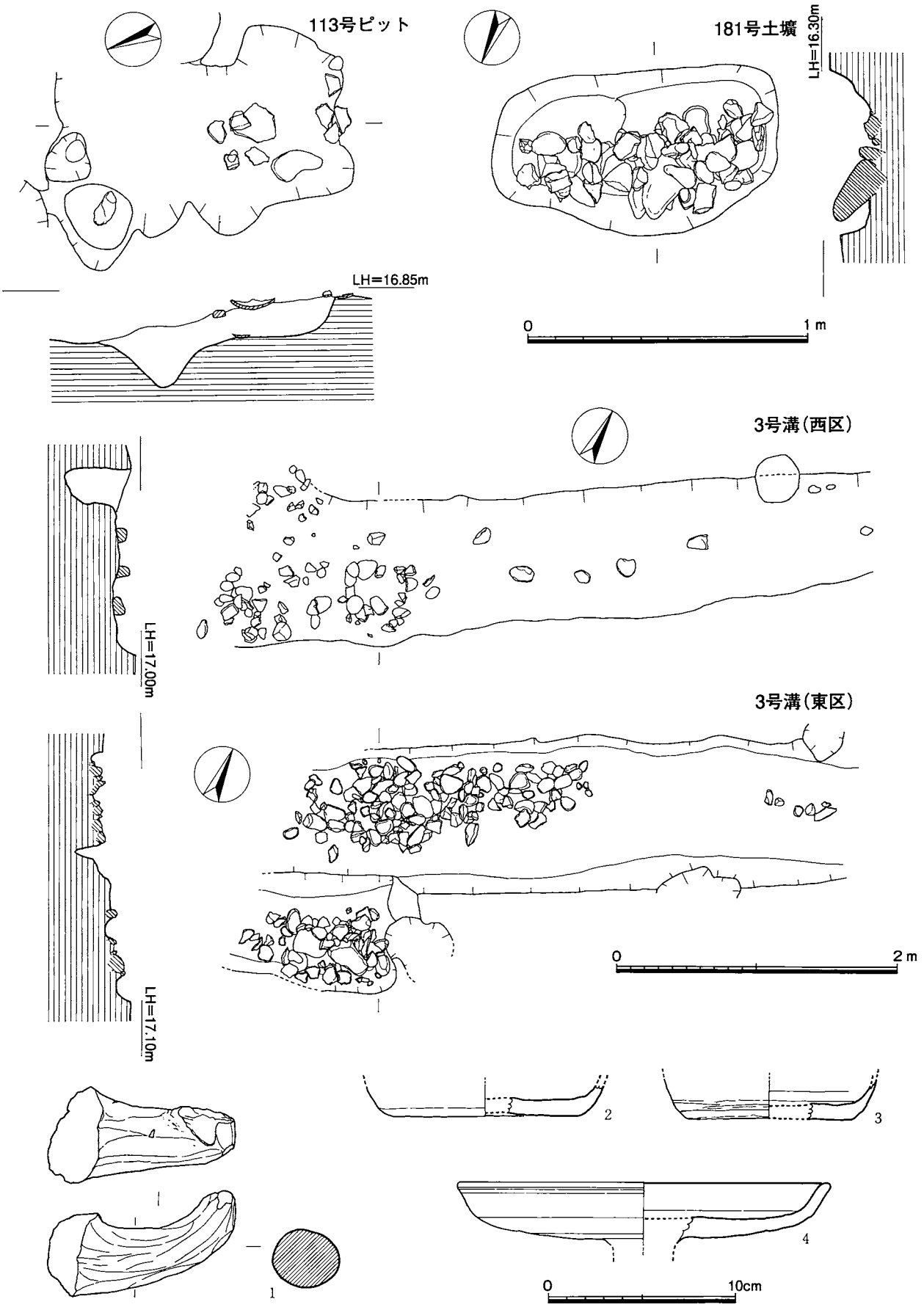


図５　9802調査地点検出遺構および出土遺物実測図１（１/20・１/40・１/３）

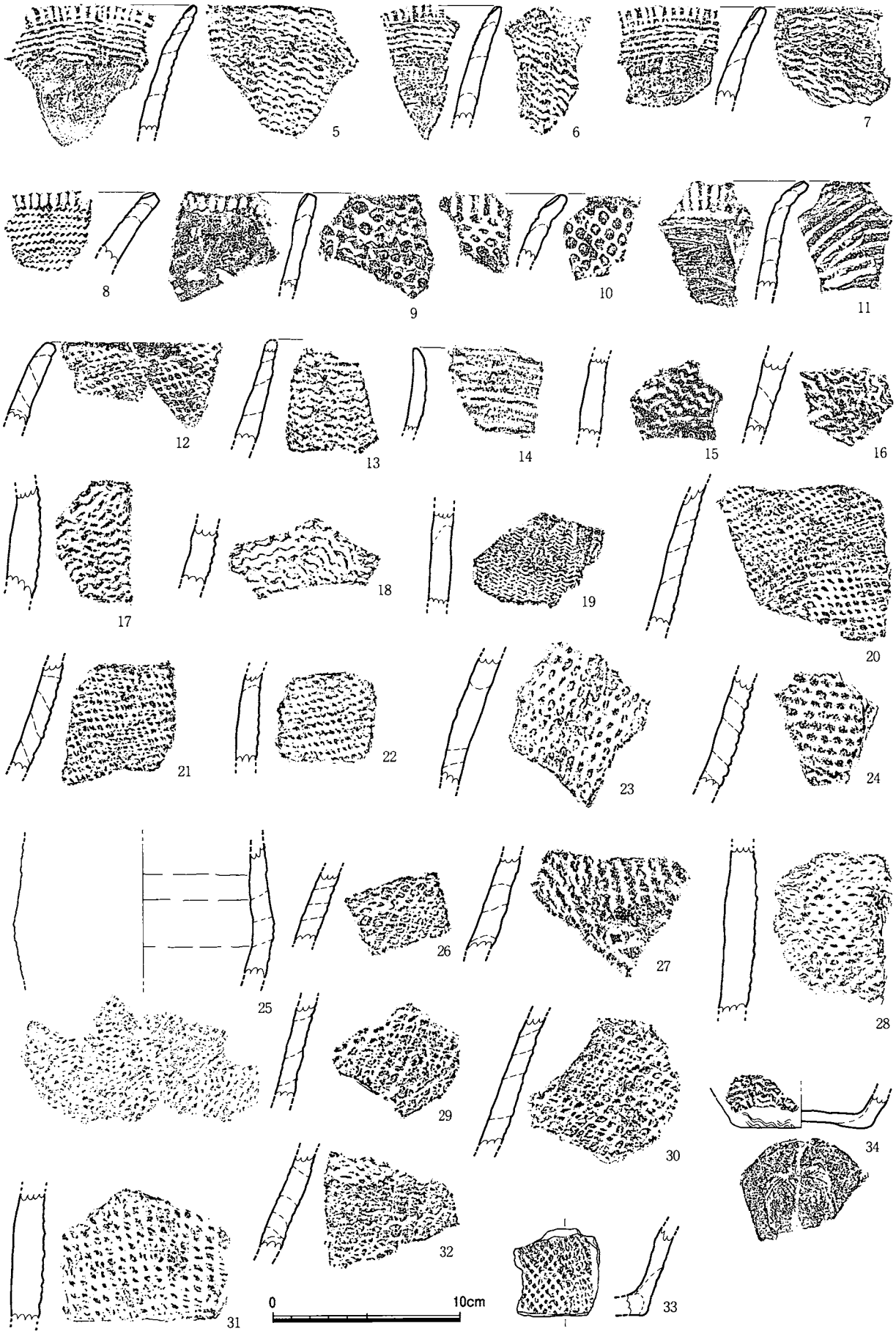


図 6　9802調査地点出土遺物実測図 2 （1 / 3）

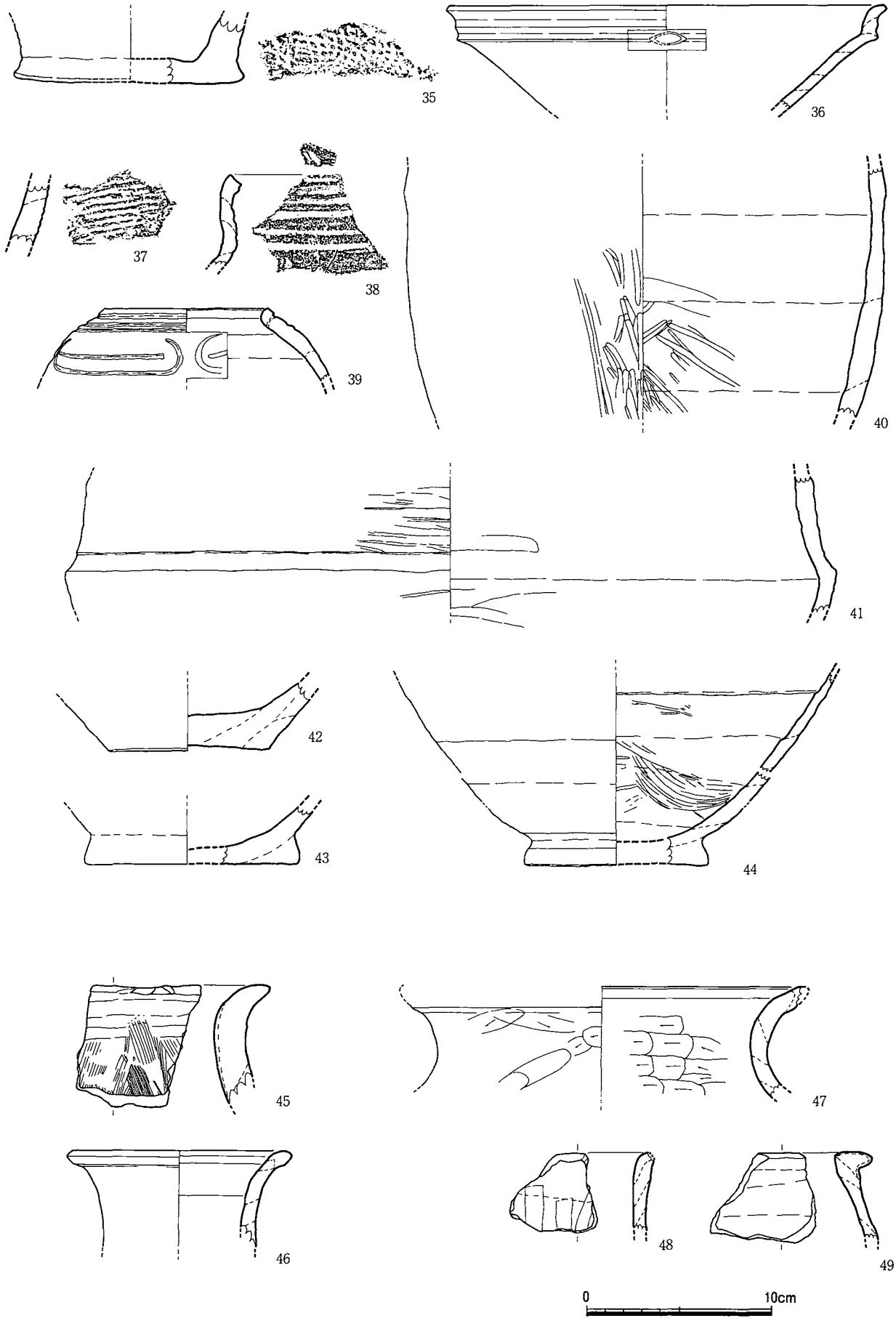


図７　9802調査地点出土遺物実測図３（１／３）

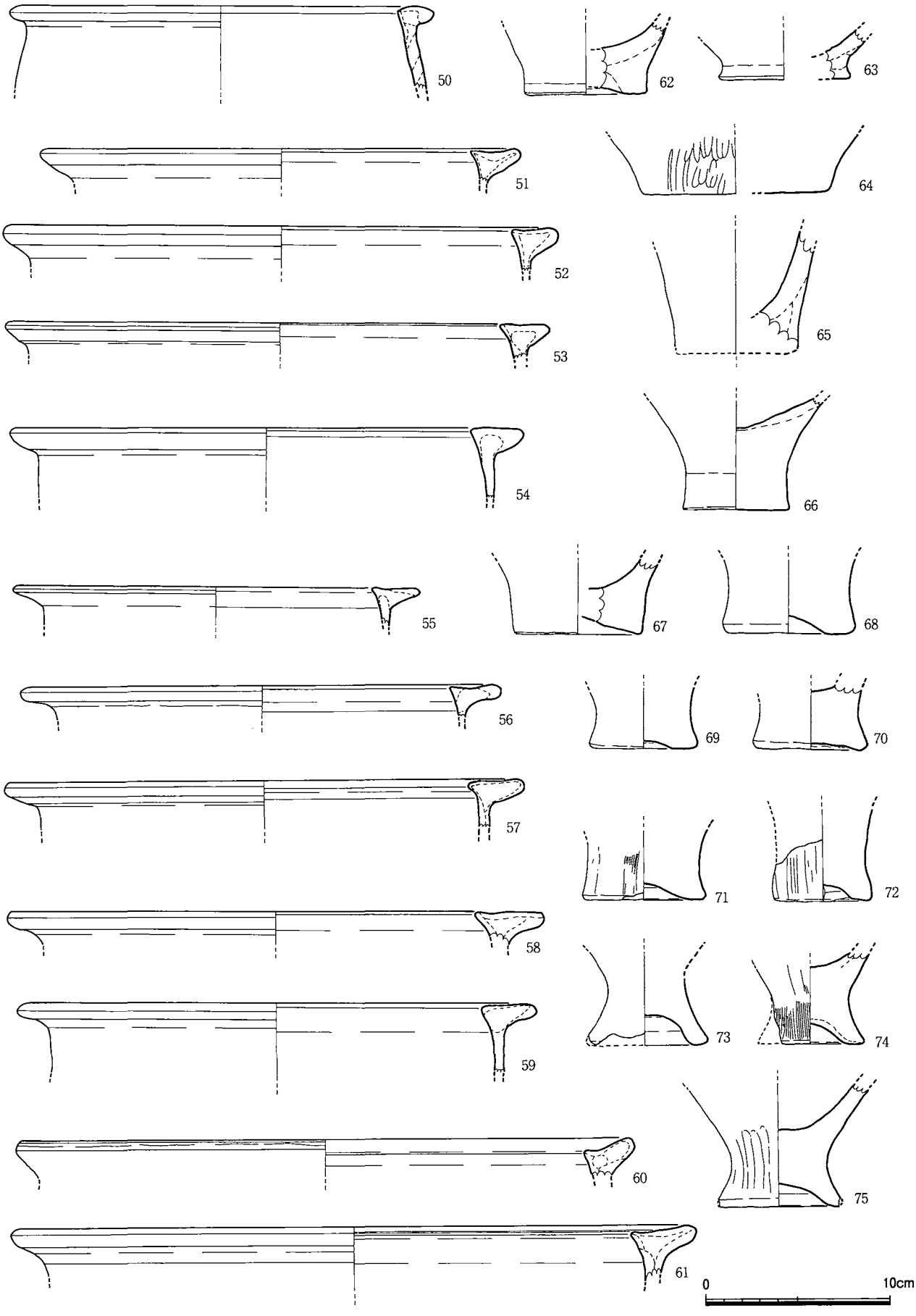


図 8　9802調査地点出土遺物実測図 4 （1 / 3）

下に条痕文や山形文、楕円文を施文している。15～32は胴部片で、楕円文、菱形文、山形文があり、それらはさらに細分される。33～35は鉢形土器の底部である。

36は鳥井原式の浅鉢の口縁部である。38は鐘崎式の口縁部である。39は無頸で口がすぼまる。文様は太郎迫式や東日本の亀ヶ岡式系統に類似するが、やや簡略的である。胎土が他の縄文土器とは異なり、他地域からの搬入品の可能性が高い。40～41は晩期（41は御領式か天城式）の鉢の胴部、42～44は同じく晩期の底部と思われる。

弥生土器

今回の調査では甕の口縁部・底部及び壺底部が出土した。図７：19～図８：61は甕の口縁であるが、みな外への突出は小さい。55～59は若干口縁が広いものの、須玖式のような広さはない。60・61は立ち上がり気味で内湾し中九州後期の特徴を示している。壺の口縁はいずれも前期の範疇であろう（図７：47・48）。

図８：62～75は甕底部であるが、須玖式と黒髪式の特徴を備えたものが見られる。ただし、平底のものは厚みがあり早い段階の可能性もある。

石　器

包含層及び１・３号溝から若干の石器が出土した。確実に遺構に伴うものはない。

黒曜石製の石鏃（図９：77～79）と石核（同81）、楔形石器（同93）および黒曜石と安山岩製の剥片の15点である。剥片は安山岩製が１点のみ、ほかはすべて黒曜石である。また、弥生時代の包含層からは磨製石斧の基部、刃部が出土した。これらは同一個体の破片と思われる（同84～86）。

石斧は全部で２点分存在する。76は刃部を中心に打ち欠いたあと研磨した痕がある。また、タールと思われる黒い付着物があるが、出土状況からみて後世のマンガン等の水性作用による鉱物付着は考えられず、柄の装着剤であろうと考えられる。

その他の時代の遺物

遺構に伴うものはなく、溝や包含層からの出土である。古代以降の遺物は非常に少なく、土師器片が数点である。土師皿、高坏、坏の脚部、甑の把手部分がある（８世紀中葉～後半）。また、南側台地に掘りこまれた２m弱四方の土壙には、磁器がかなり入っていた。廃棄したものとして取り扱ったが、破損状態はそれほど悪くなく、木箱等に収納していた可能性がある。その中の一つに「肥前官窯」の銘があった。これと共に形状不明の鉄製品と釘数本が出土した。現代のものと思われる。

（５）まとめ

黒髪北地区においてある程度の面積をもって発掘調査が行われたのは、1994年度に実施された福利施設新営工事に伴う調査以来である。

今回、この黒髪北地区の調査において古代の遺物包含層と縄文・弥生の遺物包含層が分離して確認された。1997年度に南地区で行われた工学部校舎新営工事に伴う調査地点（9704）と旧国道57号線を挟んで対峙するが、南地区での調査ではシルト質層（基盤の沖積層）の上は古代の遺物包含層が堆積しており、9802地点の東半分の層序と同様であった。これは福利施設地点でも同様である。9802地点東半分でも古代の遺物包含層は確認されたがレベルは他の地点とほぼ同じことから、一段低くなった西側に縄文時代・弥生時代の包含層が良好な状態で遺存しているものと考えられる。

基盤の層が標高16.50m以下の地点では今回確認された縄文～弥生期の包含層が検出される可能性が高いと考えられる。

今回の調査のもう一つの発見は、我々が遺構面（地山）と称しているシルト質層中から押型文土器

図９　9802調査地点出土遺物実測図５（１／２）

が多量に出土したことである。このことについて、福利施設の調査概報（熊本大学埋蔵文化財調査室年報第１集1994）にはこのシルト質層に押型文土器が含まれている可能性についての示唆があるが、今回の調査結果はこれを裏付けることになった。

本調査地点では顕著な遺構や遺物の検出はなかったが、以上のような調査区内における遺構・遺物の分布や土質の違いなど、１号溝の検出と南北台地の様相の把握は、土地利用の一端を示してくれる。五高時代、五高本館（現五高記念館）南側が畑地として利用されていたころ、１号溝の北側約20m付近には水路が通っており、１号溝はこの水路の古い流路か、それに付随するものであったことが考えられる。また、溝を挟む台地の高さの差は、断層の可能性が考えられる。断層面の隙間（破砕帯）は水の通り道となる場合が多い。非常に水分が多い１号溝北側は、周辺が古来より水利用の頻繁な場所であったものと推察される。水場として利用され、遺構の構築はなく、遺物包含層が保全されたのかもしれない。大学に隣接する済々黌高校と、大学構内9704調査地点では甕棺墓が発見されているが、周辺では弥生時代以前の生活址はまだ発見されていない。今後はこの縄文～弥生期の包含層の北側および東側の範囲確認など情報が得られてゆけば、大学構内および周辺の縄文時代や弥生時代の遺跡解明の端緒となるのではないだろうか。

黒髪北地区における調査は件数自体少なく、規模もあまり大きくない。このため他地区と比べて遺跡に関する情報は極めて少ない。今回、西端ながら黒髪北地区と南地区を繋ぐ地点で得た知見は、今後の調査において重要な示唆となろう。

表 3　9802調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残　存　量	特　徴	色　　調	出土遺構	備　　考
5	1	土師器	甑	口径 底径 器高	取手のみ	内： 外：ナデ，削り	内：Hue 外：Hue　10YR 7 / 4	Ⅱ区50901	
	2	土師器	坏	口径 底径　10.05 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 8 / 4 外：Hue　10YR 8 / 4	包含層（番号50279）	
	3	土師器	坏	口径 底径　9 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 8 / 4	包含層（番号50387）	
	4	土師器	高坏	口径　20 底径 器高	1 / 5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 6 外：Hue　2.5YR 6 / 6	1 号溝	
6	5	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：条痕文 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	包含層（番号50908）	口縁部に原体条痕
	6	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：条痕文 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	包含層（番号50874） 3と接合	口縁部に原体条痕
	7	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：条痕文 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	Ⅱ区2と接合	口縁部に原体条痕
	8	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：山形文 外：ナデ	内：Hue　10YR 6 / 3 外：Hue　10YR 6 / 3	地山直	口縁部に原体条痕
	9	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：横ナデ 外：楕円文	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 7 / 4	縄文時代包含層	口縁部に原体条痕
	10	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：楕円文 外：楕円文	内：Hue　10YR 7 / 6 外：Hue　10YR 5 / 3	番号50892	口縁部に原体条痕
	11	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：条痕文	内：Hue　7.5YR 7 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 3	2 号溝	口縁部に原体条痕，外面にスス？
	12	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：横ナデ 外：楕円文	内：Hue　7.5YR 5 / 6 外：Hue　5 YR 6 / 6	地山直上，包含層	
	13	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 3 外：Hue　10YR 6 / 3	550ピット	
	14	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：条痕文	内：Hue　2.5YR 4 / 2 外：Hue　2.5YR 4 / 6	縄文時代包含層	
	15	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：横ナデ 外：山形文	内：Hue　7.5YR 6 / 6 外：Hue　5 YR 6 / 6	416ピット	
	16	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：横ナデ 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 5 / 3	包含層（番号50821）	
	17	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：横ナデ 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	包含層（番号50824）	
	18	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 3 外：Hue　10YR 5 / 3	包含層（番号50823）	
	19	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：横ナデ 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 5 / 4	包含層（番号50531）	
	20	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：楕円文	内：Hue　7.5YR 6 / 6 外：Hue　10YR 5 / 4	包含層（番号50907）	
	21	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：楕円文	内：Hue　10YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 6 / 6	1 号溝	
	22	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：横ナデ 外：楕円文	内：Hue　7.5YR 6 / 6 外：Hue　5 YR 6 / 6	包含層	
	23	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：楕円文	内：Hue　10YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 6	包含層（番号50905）	
	24	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：楕円文	内：Hue　2.5Y 6 / 3 外：Hue　10YR 7 / 4	1023ピット	
	25	縄文土器 (押型文土器)	鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：楕円形押し型文	内：Hue　10YR 6 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	番号50601，番号50575， 番号50724，番号50600， 番号50609	
	26	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：削り 外：楕円文	内：Hue　5 YR 5 / 6 外：Hue　5 YR 5 / 6	1 号溝	
	27	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：削り 外：楕円文	内：Hue　5 YR 5 / 6 外：Hue　7.5YR 5 / 6	包含層	
	28	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：楕円文	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　2.5Y 7 / 4	包含層（番号50801）	
	29	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：削り 外：楕円文	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　7.5YR 5 / 4	包含層	
	30	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：削り 外：楕円文	内：Hue　5 YR 5 / 6 外：Hue　7.5YR 5 / 6	包含層	
	31	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：縦ナデ 外：楕円文	内：Hue　2.5Y 7 / 4 外：Hue　10YR 7 / 4	包含層	
	32	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：削り 外：菱形文	内：Hue　10YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 6	弥生時代包含層	
	33	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	底部片	内：ナデ 外：楕円文	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　5 YR 6 / 6	包含層（番号50893）	

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残 存 量	特　徴	色　　調	出土遺構	備　　考
	34	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	底部片	内：削り 外：山形文	内：Hue　10YR 7 / 3 外：Hue　10YR 7 / 3	392ピット，379ピット	
7	35	縄文土器 (押型文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	底部片	内：ナデ 外：楕円文	内：Hue　7.5YR 6 / 4 外：Hue　5 YR 5 / 6	1号溝	
	36	縄文土器 (鳥井原式)	浅鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue　10YR 4 / 2 外：Hue　10YR 4 / 2	一括	
	37	縄文土器 (条痕文土器)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：横ナデ 外：条痕文	内：Hue　10YR 5 / 3 外：Hue　10YR 7 / 4	1号溝上層	
	38	縄文土器	浅鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 7 / 4	包含層（番号50226）	外面に沈線
	39	縄文土器	浅鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部1 / 3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 4 / 2 外：Hue　10YR 4 / 2	包含層（番号50423）	外面に沈線文
	40	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ，磨き 外：ナデ，磨き	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	113ピット	
	41	縄文土器 (天城式)	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：横ナデ 外：横ナデ	内：Hue　2.5YR 6 / 3 外：Hue　2.5YR 6 / 3	1号溝	
	42	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径　8.6 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 6 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	包含層（番号50540）	
	43	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径　11.75 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 5 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 6	包含層（番号50390）	
	44	縄文土器	深鉢形土器	口径　10 底径 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 7 / 4	113ピット，番号50328，番号50560，縄文時代包含層	
	45	土師器	甕	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue　10YR 6 / 2 外：Hue　7.5YR 7 / 6	包含層（番号50902）	
	46	弥生土器	壺	口径　12 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 7 / 1 外：Hue　10YR 8 / 4	包含層（番号50046）	
	47	弥生土器	壺	口径 底径 器高	頸部片	内：ナデ，ヘラ削り 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 8 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 4	包含層（番号50386）	
	48	弥生土器	壺	口径 底径 器高	破片	内：ナデ，ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue　10YR 6 / 1 外：Hue　7.5YR 8 / 4	弥生時代包含層	
	49	弥生土器	甕	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 8 / 3 外：Hue　7.5YR 8 / 6	包含層（番号50290）	
8	50	弥生土器	甕	口径　23 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 8 / 3 外：Hue　10YR 8 / 3	包含層（番号50141）	
	51	弥生土器	甕	口径　26 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナエ	内：Hue　10YR 8 / 4 外：Hue　10YR 8 / 4	136ピット	
	52	弥生土器	甕	口径　30 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナエ	内：Hue　10YR 8 / 3 外：Hue　10YR 8 / 3	1号溝上層	
	53	弥生土器	甕	口径　29.4 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナエ	内：Hue　7.5YR 8 / 8 外：Hue　7.5YR 8 / 8	包含層（番号50062）	
	54	弥生土器	甕	口径　27.8 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 5 / 3 外：Hue　7.5YR 5 / 3	包含層（番号50280）	
	55	弥生土器	甕	口径　22 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナエ	内：Hue　10YR 6 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	包含層（番号50052）	
	56	弥生土器	甕	口径　26 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナエ	内：Hue　10YR 6 / 3 外：Hue　10YR 6 / 3	包含層（番号50187）	
	57	弥生土器	甕	口径　28 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 7 / 4～8 / 4 外：Hue10YR 4 / 1	90ピット	
	58	弥生土器	甕	口径　29 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナエ	内：Hue　10YR 7 / 2 外：Hue　10YR 3 / 1	154ピット	
	59	弥生土器	甕	口径　28 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 8 / 3 外：Hue　10YR 8 / 3	包含層（番号50385）	
	60	弥生土器	甕	口径　33.4 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 外：Hue　2.5Y 4 / 2	包含層（番号50011）	
	61	弥生土器	甕	口径　37 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 8 / 3 外：Hue　10YR 8 / 3	2号溝	
	62	弥生土器	甕	口径 底径　6.6 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 5 / 6 外：Hue　5 YR 5 / 6	包含層（番号50041）	
	63	弥生土器	甕	口径 底径　7.1 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 6	包含層	
	64	弥生土器	甕	口径 底径　10 器高	底部片	内：外：ナデ	内：Hue　7.5YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 7 / 4	1号溝	
	65	弥生土器	甕	口径 底径 器高	破片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 外：Hue　10YR 7 / 4	包含層（番号50005）	
	66	弥生土器	甕	口径 底径　5.8 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 7 / 2 外：Hue　10YR 8 / 6	包含層（番号50100）	
	67	弥生土器	甕	口径 底径　6.8 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 5 / 4 外：Hue　5 YR 7 / 6	包含層（番号50167）	

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残　存　量	特　徴	色　　調	出土遺構	備　　考
8	68	弥生土器	甕	口径 底径　7.2 器高	底部片	内： 外：ナデ	内：Hue 外：Hue　2.5YR 6 / 6～6 / 8	包含層（番号50144）	
	69	弥生土器	甕	口径 底径　5.9 器高	底部片	内： 外：ナデ，ハケ目	内：Hue　10YR 5 / 2 外：Hue　10YR 4 / 2～5 / 2	包含層（番号50384）	
	70	弥生土器	甕	口径 底径　6.2 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR1.7/ 1 外：Hue　2.5YR 6 / 6～6 / 8	包含層（番号50168）	
	71	弥生土器	甕	口径 底径　6.6 器高	底部片	内： 外：ナデ，ハケ目	内：Hue　10YR 6 / 2 外：Hue　10YR 6 / 4	包含層（番号50884）	
	72	弥生土器	甕	口径 底径　5.3 器高	底部片	内： 外：ナデ，ハケ目	内：Hue　5 YR 6 / 4 外：Hue　10YR 7 / 4	3 号溝	
	73	弥生土器	甕	口径 底径　6.8 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ，ヘラナデ	内：Hue　10YR 6 / 2 外：Hue　10YR 7 / 4	1 号溝	
	74	弥生土器	甕	口径 底径　5.8 器高	底部片	内：ナデ 外：ハケ目	内：Hue　10YR 5 / 1 外：Hue　7.5YR 7 / 6	1 号溝	
	75	弥生土器	甕	口径 底径　6.5 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ，ヘラナデ	内：Hue　10YR 4 / 2 外：Hue　10YR 8 / 4	包含層（番号50022）	
9	76	石器	石斧	長　8.8 幅　4.3 厚　2				1 号溝	重量110 g，安山岩
	77	石器	打製石鏃	長　2.1 幅　1.4 厚　0.35				包含層（番号50329）	重量0.6 g，黒曜石
	78	石器	打製石鏃	長　2.2 幅　1.55 厚　0.5				包含層	重量0.9 g，黒曜石
	79	石器	打製石鏃	長　3.25 幅　1.7 厚　0.4				包含層	重量1.4 g，黒曜石
	80	石器	剥片	長　1.9 幅　3.0 厚　0.7				包含層（番号50171）	重量2.7 g，安山岩
	81	石器	石核	長　2.9 幅　2.9 厚　1.6				包含層（番号50078）	重量9.1 g，黒曜石
	82	石器	剥片	長　4.0 幅　1.85 厚　0.9				1 号溝	重量3.2 g，黒曜石
	83	石器	剥片	長　2.6 幅　1.8 厚　0.7				3 号溝	重量2.3 g，黒曜石
	84	石器	石斧	長　6.3 幅　5.44 厚　3.55	頭部			番号50332	重量156 g，黒色片岩
	85	石器	石斧	長　2.6 幅　1.8 厚　0.7	刃部			番号50352	重量66 g，黒色片岩
	86	石器	石斧	長　2.6 幅　1.8 厚　0.7	胴部片			番号50321	重量49 g，黒色片岩
	87	石器	調整剥片	長　1.88 幅　0.71 厚　4.2				Ⅱ区	重量0.3g，黒曜石
	88	石器	剥片	長　4.0 幅　1.85 厚　0.9				番号50444	重量1.7g，黒曜石・頭部欠損
	89	石器	剥片	長　2.63 幅　2.14 厚　0.65				包含層	重量2.9g，黒曜石・使用痕あり
	90	石器	調整剥片	長　1.39 幅　162 厚　3.9				包含層	重量0.7 g，黒曜石
	91	石器	剥片	長　2.30 幅　2.23 厚　3.70				1 号溝	重量0.9 g，黒曜石・折れ
	92	石器	剥片	長　1.78 幅　2.06 厚　3.5				1 号溝上層	重量0.8g，黒曜石
	93	石器	剥片	長　1.39 幅　1.36 厚　3.6				1 号溝上層	重量0.5g，黒曜石
	94	石器	剥片	長　2.26 幅　2.22 厚　1.09				2 号溝ベルト東	重量4.9g，黒曜石・折れ
	95	石器	剥片	長　2.08 幅　2.02 厚　0.8				番号50877	重量3.0g，Aso－4 系黒曜石
	96	石器	石核 （楔形石器）	長　2.59 幅　1.33 厚　1.01				2 号溝ベルト東	重量4.0g，黒曜石
	97	石器	剥片	長　2.22 幅　2.44 厚　6.70				315ピット	重量1.7g，黒曜石
	98	石器	剥片	長　3.11 幅　1.12 厚　0.65				番号50899	重量2.9g，Aso－4 系黒曜石
	99	石器	剥片	長　1.80 幅　2.28 厚　0.62				1022ピット	重量2.2g，黒曜石

Ⅲ　黒髪南地区の調査

1．理学部自然科学等総合実験棟新営工事に伴う発掘調査(9810調査地点)

(1) 調査の目的と経過

a．調査地と調査経緯

今回の調査は平成8年度補正予算によって年末に急進浮上した事業である。12月2日施設部建築課長より補正予算がついたとの連絡が入り、埋蔵文化財調査委員会委員長北野隆教授および調査室長甲元眞之教授を交え施設部との協議を行った。3月末日工事着工のため、1月下旬より発掘調査をお願いしたいとの申し出であった。これに対し調査室では1・2月は年次報告書の作成期間であり、実務的に無理がある、また調査期間が短いため、調査が窮屈になるとの回答をしたが、建築工事は大学全体の問題であり、今回の予算を見送ることはできないとの施設部の返事であった。よって、年報作成業務の一部および現場測量を委託することで、調査を了承した。

調査は建築工事に先立ち、支障配管の切り替えに伴う立会調査を12月14日より4日間実施し、1月中旬より表土・撹乱層の1次掘削を開始した。

b．調査の経過

1998年12月14日～12月18日　支障配管切替部試掘調査（35㎡）。
1999年1月21日　建物本体部（1,098㎡）発掘調査開始・重機にて撹乱などを撤去。
1999年1月25日　住居址3基を確認・1号溝掘り始める。
1999年1月27日　測量基準点移設。
1999年2月2日　北東部で遺構検出。
1999年2月4日　中央部にて多数の住居址が重複しているのを確認。
1999年2月16日　調査区西側にて縄文の包含層を掘り下げ開始。
1999年3月1日　各住居址の掘り方を検出開始。
1999年3月17日　調査区全体の空中写真撮影。
1999年3月25日　発掘調査終了。

c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己・大坪志子
事 務 担 当：松嶋木綿子
発掘作業員：江島賢一・岡崎光子・岡田イツ代・押方富江・甲斐田末男・河合章行・河野義勝・熊本茂仁・黒本タケ子・古賀敬子・小細工洋子・白石美智子・新里売人・鈴木笠子・高松礼子・溜渕俊子・番山明子・福田久美子・福田はつ子・藤原由博・松川石子・水上順子・宮村邦子・村上幸子・森川征子・森川　護・森田ミドリ・古田ひろこ
整理作業員：江口　路・鬼塚美枝・小山正子・首藤優子・末吉美紀・土田ちえみ・長谷智子・林田恵子・増井弘子・山嵜早苗

(2) 調査区の基本層序（図12)

調査地は理学部校舎の中庭の駐車場として利用されていたため、砂利が撒かれていた（Ⅰ層)。その下部は現代の撹乱土（Ⅱ層）で、厚さ20cmである。その下に淡茶褐色の堅く締まった近世以降の耕作土（Ⅲ層－黒褐色土10YR 3／3）があり、その下部が黒褐色土の遺物包含層（Ⅳ･Ⅴ層）である。

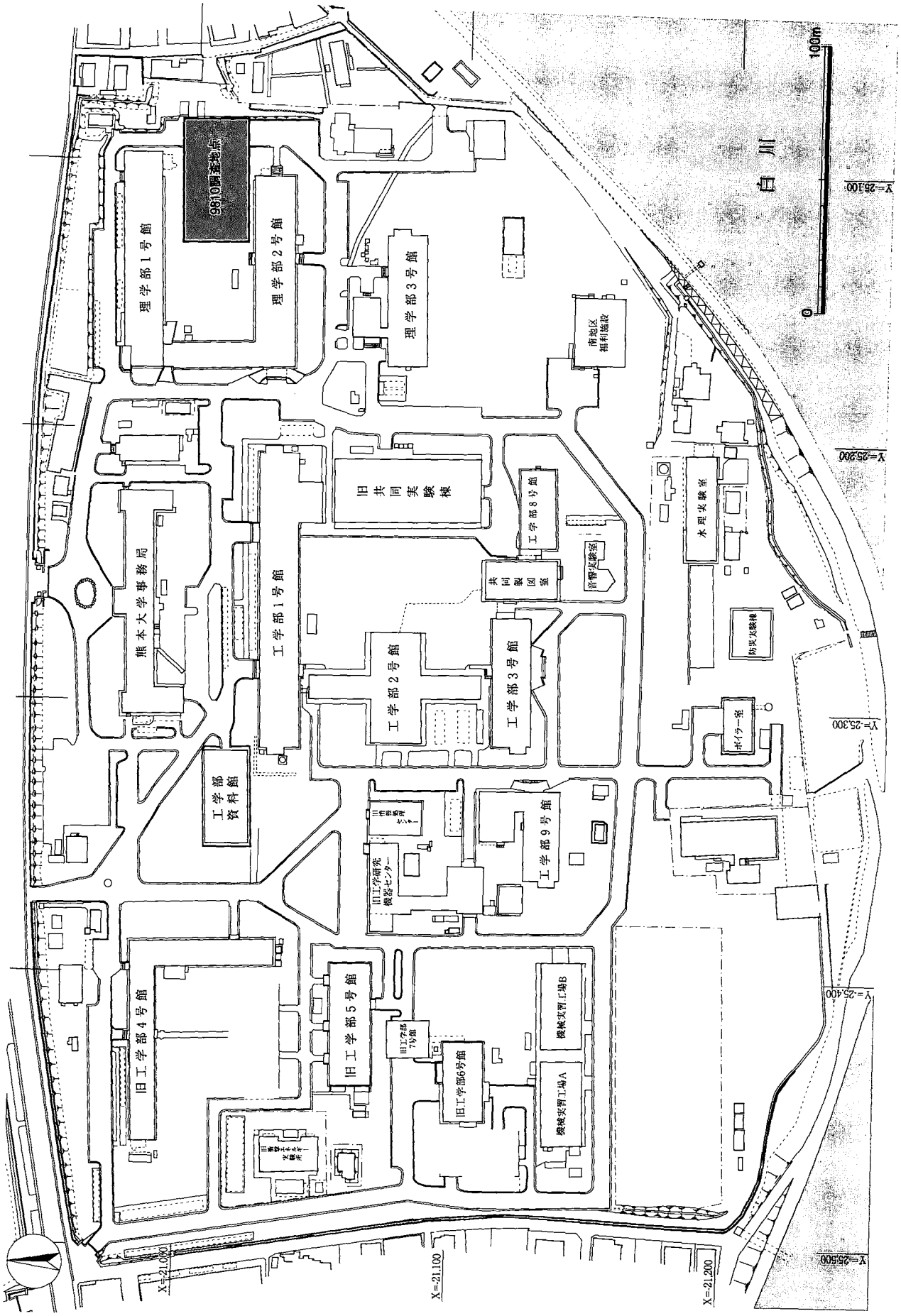


図10　黒髪南地区における調査地点位置図（1 /2000)

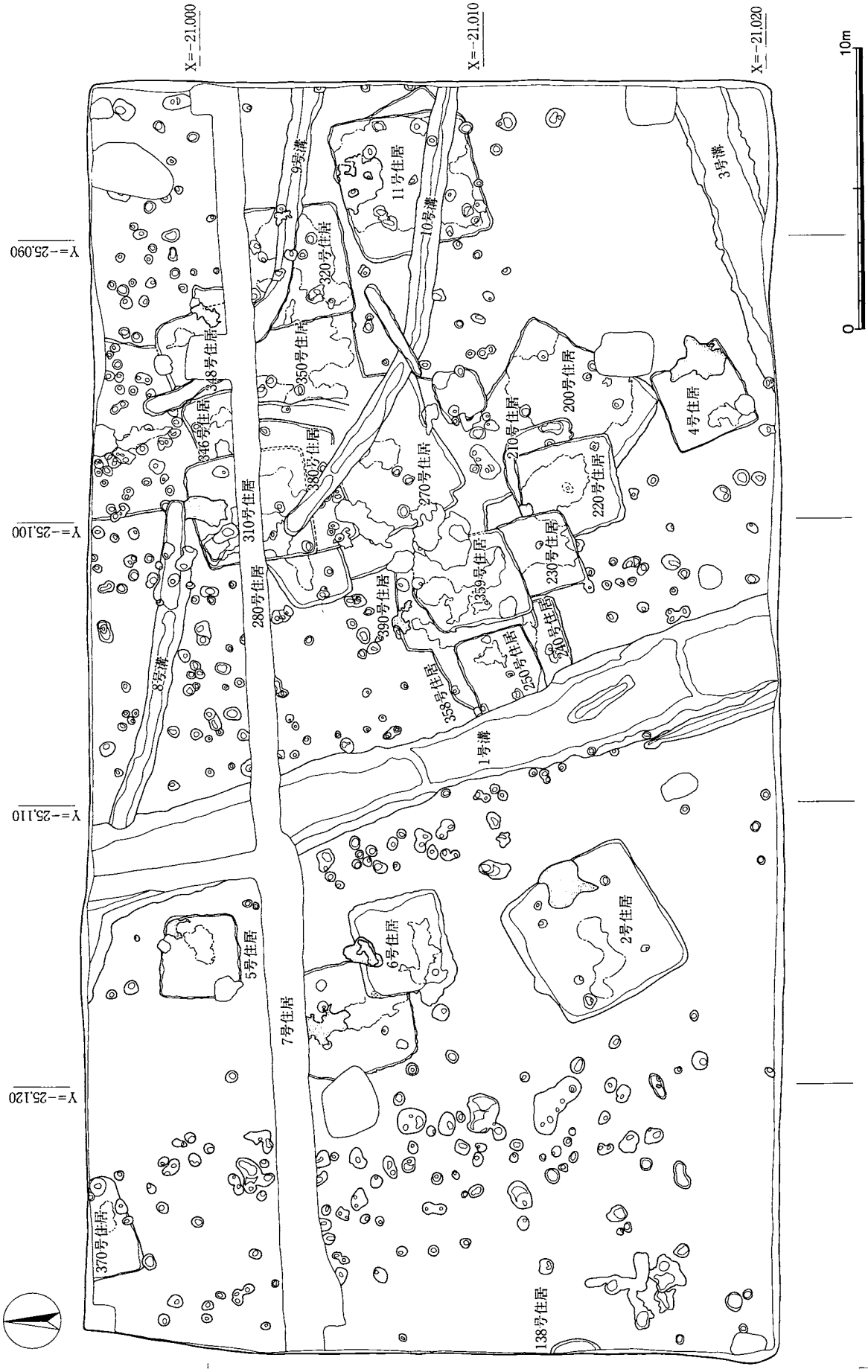


図11　9810調査地点遺構配置実測図（1 /200）

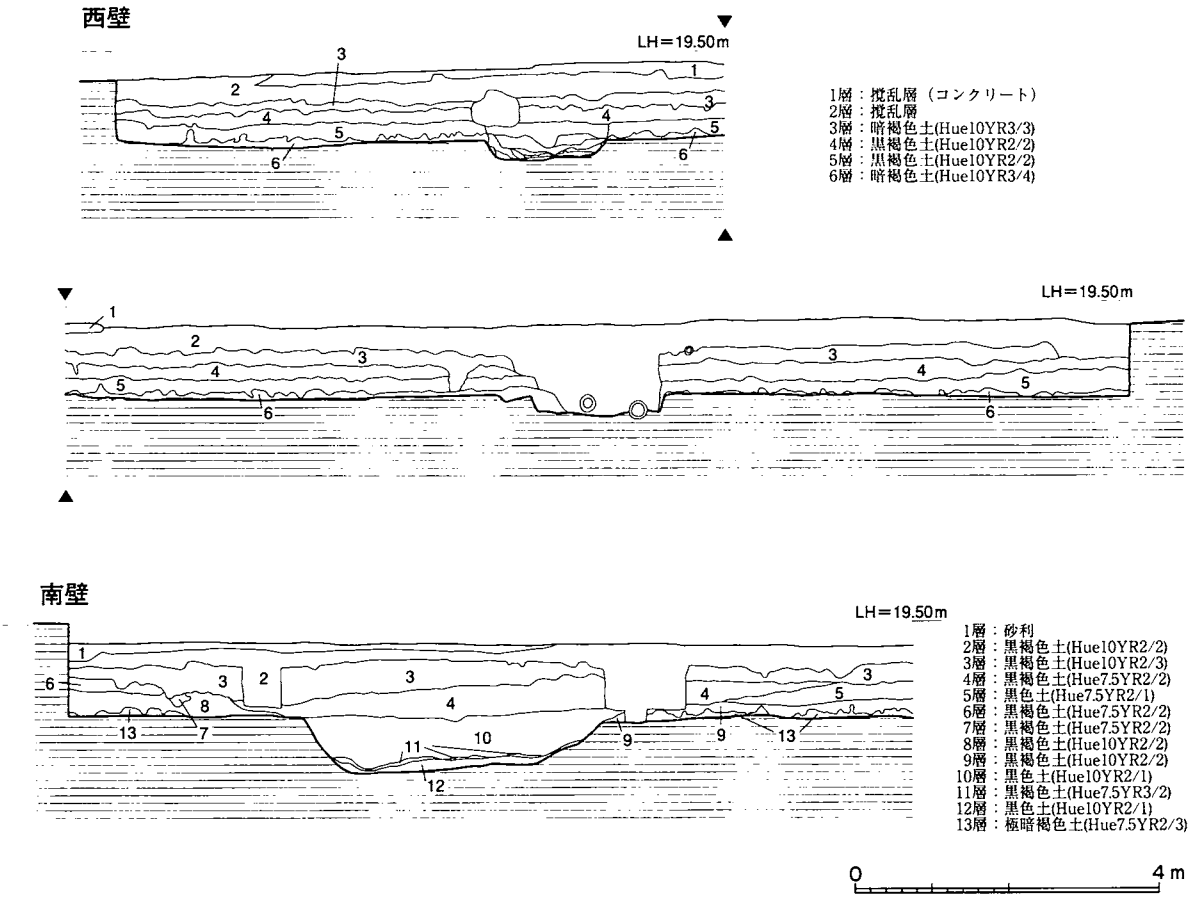


図12　9810調査地点西壁・南壁土層断面実測図（1 /100）

この層は色の濃淡によって、Ⅳ層－黒褐色土層（10YR 2 / 2）（厚さ30cm）とⅤ層－黒褐色土層（10YR 2 / 3）（厚さ20cm）の二枚の層に区分される。古代遺構の掘り込み面はこのⅤ層の上位面である。厚さは40cmほどである。この下は黄褐色土（暗褐色土層）で、いわゆる地山土であるが、上の黒褐色土と本層の漸移部から縄文時代の遺物が出土する。

撹乱部分の断面を見ると、この地山土は厚さ20cmほどで、その下には火山ガラスを含む黒褐色の固い土層（厚さ20cmほど）が堆積しており、黒髪北地区の上位段丘上（五高記念館以北）で確認していたが、この南地区では初めての発見である。科学的分析は行っていないが、姶良丹沢火山灰のガラスではないかと思われる。この層の下は段丘基盤層である砂礫層へと続く。

また、今回の調査で気がついた点として、樹木並木のある北側半分は土の乾燥が著しく、色調や硬度がかなり異なるという点が上げられる。乾燥が激しいため遺構の検出が難しく、狭い面積の場合上位の耕作土と見間違う危険性もあり、とくに立会調査などでは留意せねばならない事項であろう。

（3）検出遺構

検出した遺構の種類と数は以下のとおりである。

近世　溝1条

中世末？　溝1条

古代（7世紀末～9世紀前半）　竪穴住居址24基、土壙2基、溝3条、柱穴多数である。

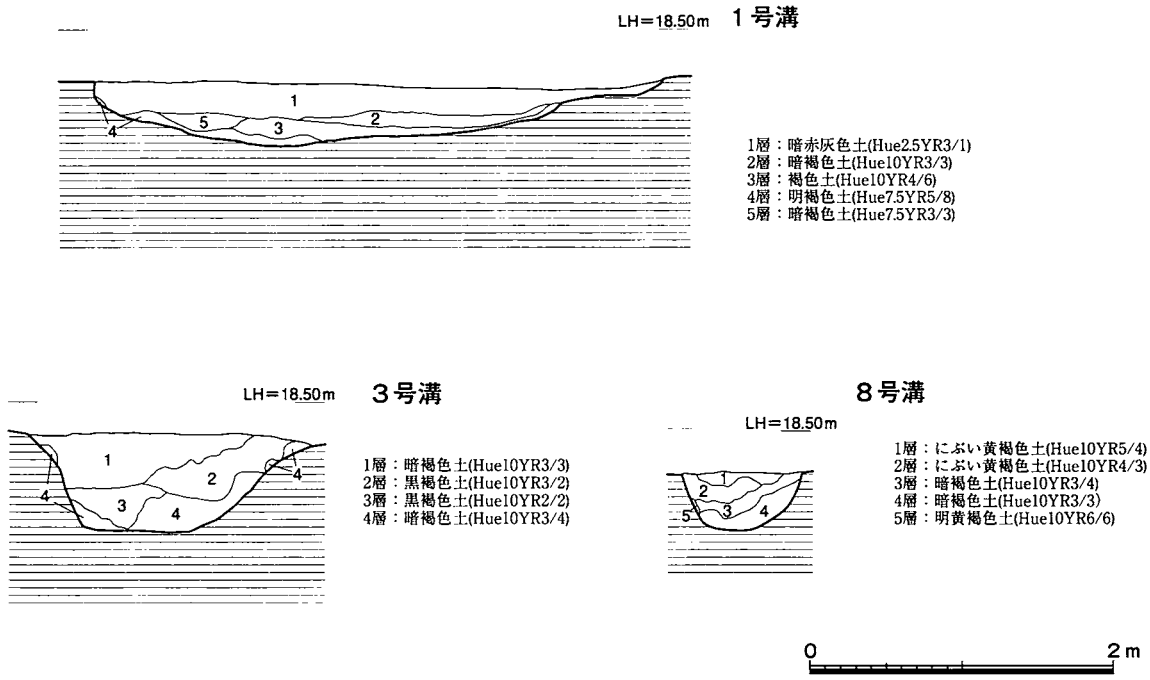


図13　1・3・8号溝土層断面実測図（1 /50）

＜溝＞

1号溝（図11・13）

調査区を横断するようにほぼ南北方向に走る幅3～4m、深さ0.4mの濠である。断面形は逆台形で、古代の土器片ばかりが出土するが、わずかに明の染付磁器片が出土しており、中世末期のものと考えられる。底面は一様でなく、調査区中央で20cmほど高くなっている。

3号溝（図11・13）

調査区の南東隅をかすめるように東西方向に走る幅約2m、深さ0.7mの溝である。これは近世以降のもので、段丘崖に沿って掘られたものであろう。9412や9501、9704調査地点などの溝と連なる可能性もある。断面形は逆台形を呈する。

9・10号溝（図11）

調査区の北東部を並行してカーブしながら北へ走る幅1m弱、深さ0.5mの溝であるが、調査区北部で切れている。覆土中から越州窯青磁の蓋が発見されており、また、壁清掃中に鉄斧（図26：25）が1点出土している。9世紀前半代のものと考えられる。

8号溝（図11・13）

ほぼ東西に向かう断面形逆台形の幅1m弱、深さ0.4mの溝である。時期は9世紀前半代のものと考えられる。1号溝を挟んで西側はプランが明確でなかったが、1号溝が広がるものと思い掘り上げている部分は8号溝の続きの可能性もある。

＜竪穴住居址＞

竪穴住居址はその規模と構造から大きく2種類に分かれる。1辺が5mほどで四隅に主柱をもつタイプ（2・7・11・310・200・320号住居址）と1辺が3mほどの小形の住居で竪穴内に柱穴のないタイプ（6・250・359・358・390・347・348・349・4・210・220・270・370・230・240・5号住居址）である。前者が時期的に先行し、7世紀末から8世紀前半ごろのもの、後者が8世紀後半を中心とした時期のものと考えられる。

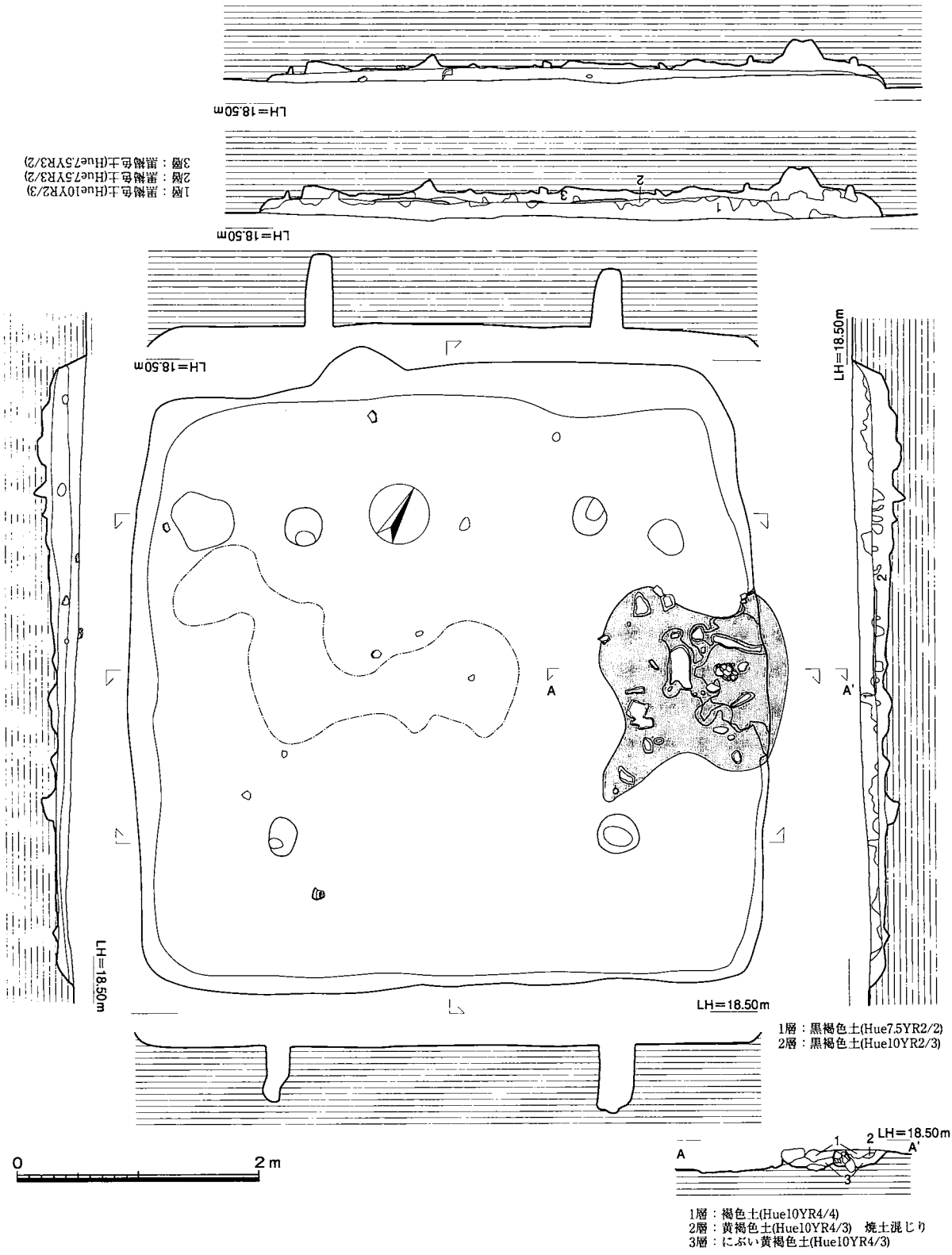


図14　2号竪穴住居址実測図（1 /50）

2号竪穴住居址（図14）

調査区南西部、1号溝際で検出した竪穴住居である。東西・南北辺ともほぼ5ｍの長さで、東辺中央に竈をもつ。深いところで30cmあまりの壁の立ち上がりが残っている。柱穴はおよそ2.5ｍの間隔

を置いて四角形に４個設けられている。中央から西側にかけて幅１ｍほどの硬化した床面が認められた。この位置からみて竈と反対方向の西側が入り口であった可能性が高い。竈周辺から若干の土器片が出土した。

７号竪穴住居址（図15）

調査区西側中央部に位置する竪穴住居で、６号住居に南東隅を切られる。また、北側辺は埋設管の掘り方によって破壊されている。東西４ｍ、南北４ｍ（推定）のほぼ正方形に近い平面プランをもつ。竈は北辺中央にある。柱穴は４個で、南北方向が２ｍ間隔、東西方向が1.3m間隔で、東西方向に狭い配置となっている。深いところで20cmあまりの壁の立ち上がりをもつ。竈前面から柱間を通って南辺近くまで幅１ｍほどの硬化した床面が観察され、入り口は南側にあったものと推定される。竈周囲から土器片がわずかに出土している。

11号竪穴住居址（図16）

調査区東側中央部で検出した竪穴住居で、１辺の長さがおよそ５ｍの正方形を呈する。中央部を10号溝が東西に貫いている。竈は北辺中央部に設けられている。柱穴は４本であり、東西・南北ともに２ｍの間隔で配置されている。柱は住居プラン中央より若干東側へ偏っている。硬化した床面は竈や柱を取り囲み、ほぼ住居の床面全体に認められる。残りの壁の立ち上がりはおよそ20cmである。竈周辺を中心として土器片が散乱した状態で出土した。

310号竪穴住居址（図17）

調査区北側中央部東寄りに位置する竪穴住居である。南東部は切り合いが激しく、平面を把握することができなかった。ただし、南西隅は把握できているので、住居の規模は、東西3.8m、南北４ｍに復元できる。覆土は焼土混じりのものであった。壁の立ち上がりは10cmほどで、残り具合はあまりよくない。竈は北辺中央部に配置される。中央部は現代の埋設管の掘り方で破壊される。柱穴は北側２個を確認しているが、南西部のものは10号溝に破壊されており、南東部は検出できていないが、本来は２ｍ間隔で４個配置されていたものと考えられる。竈の対向辺側を中心として硬化した床面を確認した。

200号竪穴住居址（図18）

調査区南東部で検出した竪穴住居であるが、西側を210・220号住居址に破壊され、西側辺は把握していない。ただし柱穴４個の配置から推定して、東西は４ｍほどであったと考えられる。南北辺は5.3mである。柱穴の間隔は南北方向2.7m、東西方向２ｍである。南北東辺で竈は確認できていないため、西辺に存在したと思われるが、破壊が著しく、痕跡を把握できなかった。住居の壁の立ち上がりは深いところで15cmほどしか残存していない。４個の柱を取り巻くように、硬化した床面を確認できた。

320号竪穴住居址（図19）

調査区北東部、11号住居址の北側で検出した竪穴住居である。北辺と中央部を現代埋設管の掘り方と９号溝に破壊されている。東辺の９号溝で削られた部分に竈の痕跡があり、この部分に竈が配置されていたことを知ることができる。柱穴４個が確認でき、その柱間は東西1.8m、南北２ｍである。東西方向は４ｍであるが、南北辺も柱穴の間隔から推定して４ｍほどであったと推定される。住居壁の立ち上がりは15cmほどで、残存状態は悪い。竈前面から西南方向に幅1.3mほどの帯状に硬化した床面を確認した。９号溝に一部破壊されているが、住居のほぼ中央に当たる部分に直径25cm、深さ20cmほどの円形のピットがあり、その中から土師器の小壷（図27：42）が口を上に向けやや傾いた状態で発見された（写真図版17：42）。胴部に外側から径５㎜ほどの孔を開けており、なんらかの祭

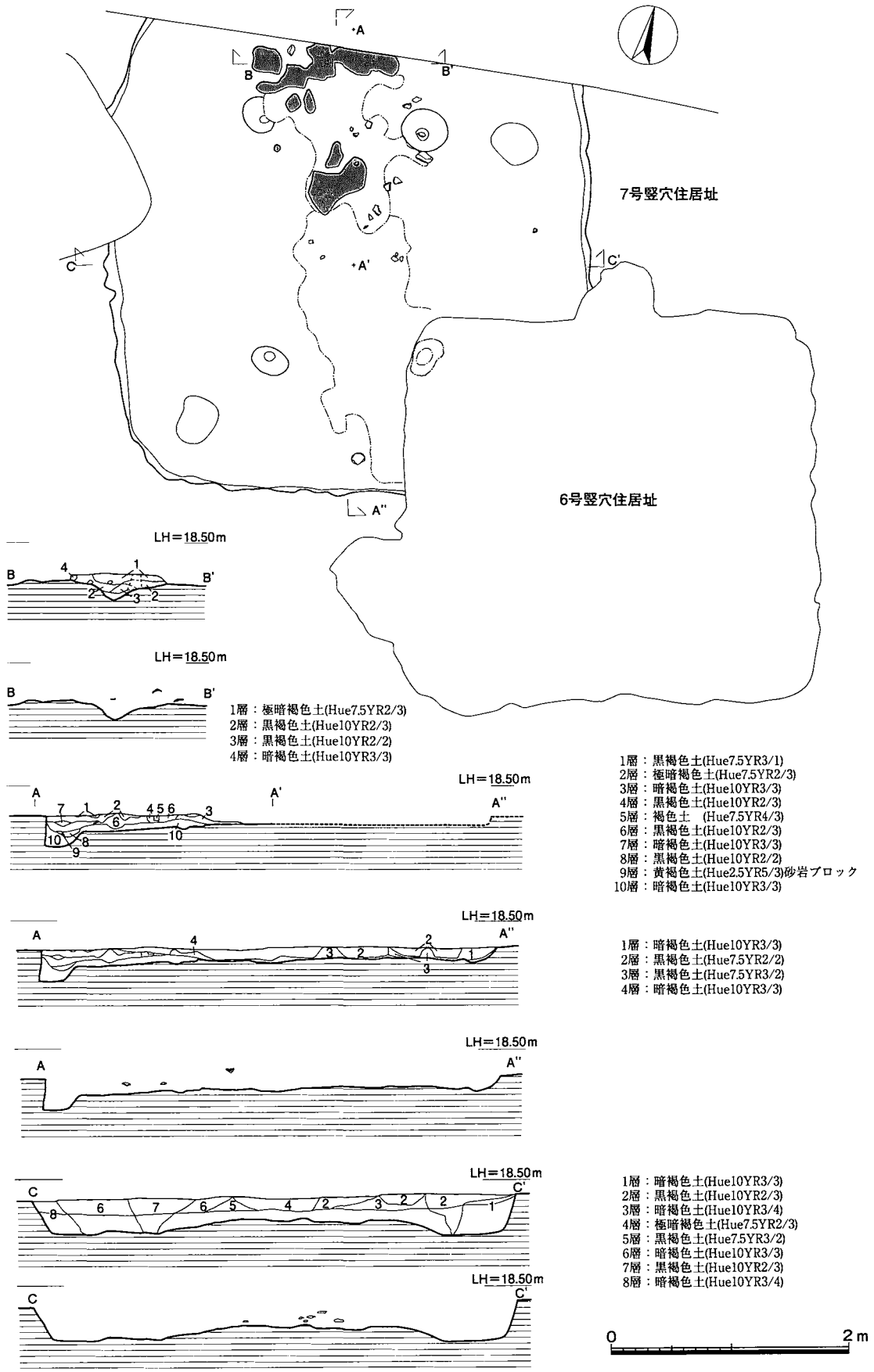


図15　7号竪穴住居址実測図（1 /50）

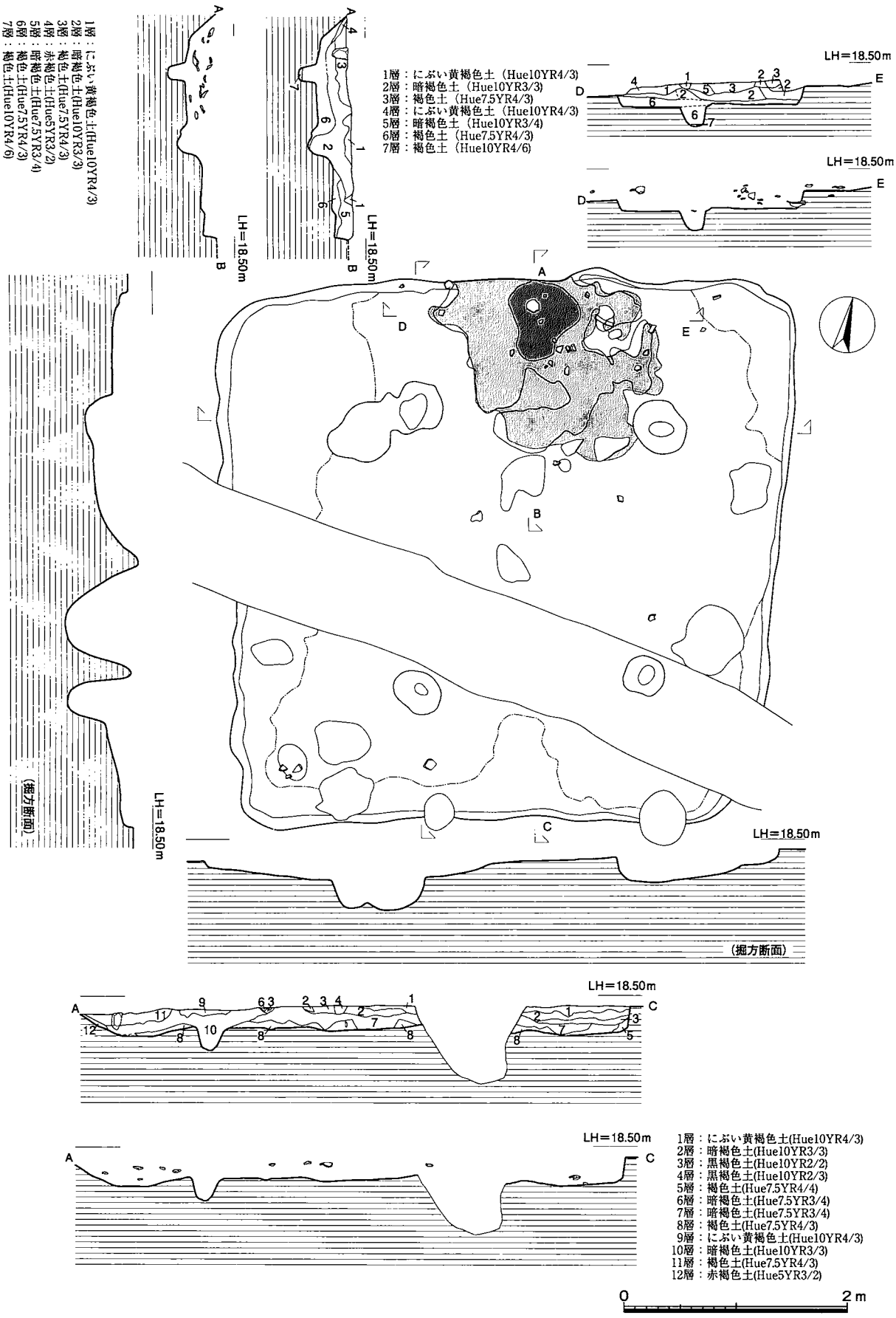


図16　11号竪穴住居址実測図（1 /50）

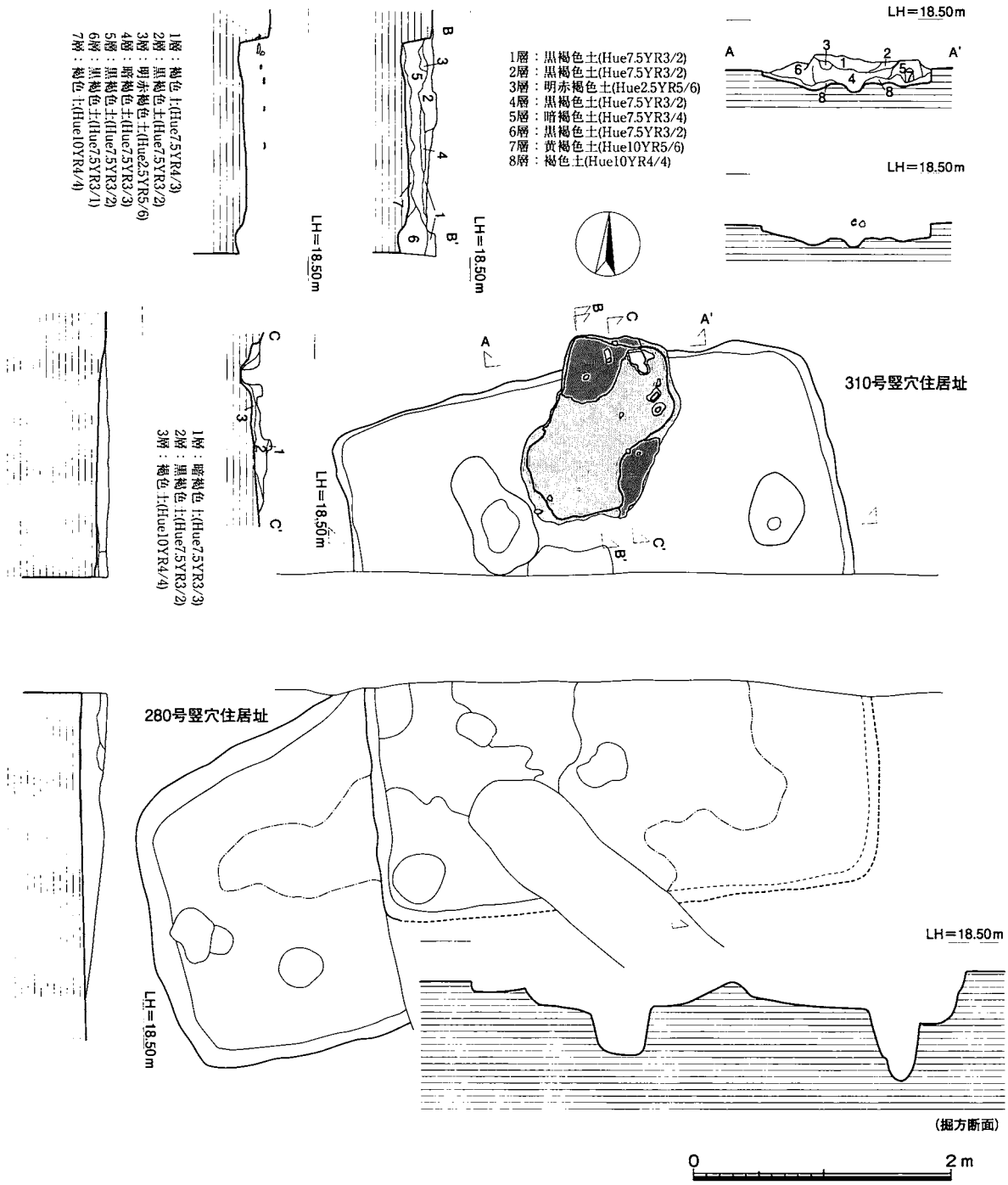


図17　310・280号竪穴住居址実測図（1 /50）

祀行為によるものと考えられる。住居使用時かそれ以後のものであるかは不明である。また、床面から鉄鏃1点（図27：43）も出土している。

6号竪穴住居址（図20）

調査区西側中央、1号溝に接したところにある正方形の竪穴住居である。1辺の長さは3.4mで、北辺中央に竈を配置する。検出面よりかなり深い部分まで掘削されており、壁の立ち上がりは40cmほど残っている。内部および掘り方中に柱穴は検出できなかった。南部辺付近に硬化した床面を確認した。土器片は床から浮いた状態で、竈付近だけでなく住居址全体に散在していた。

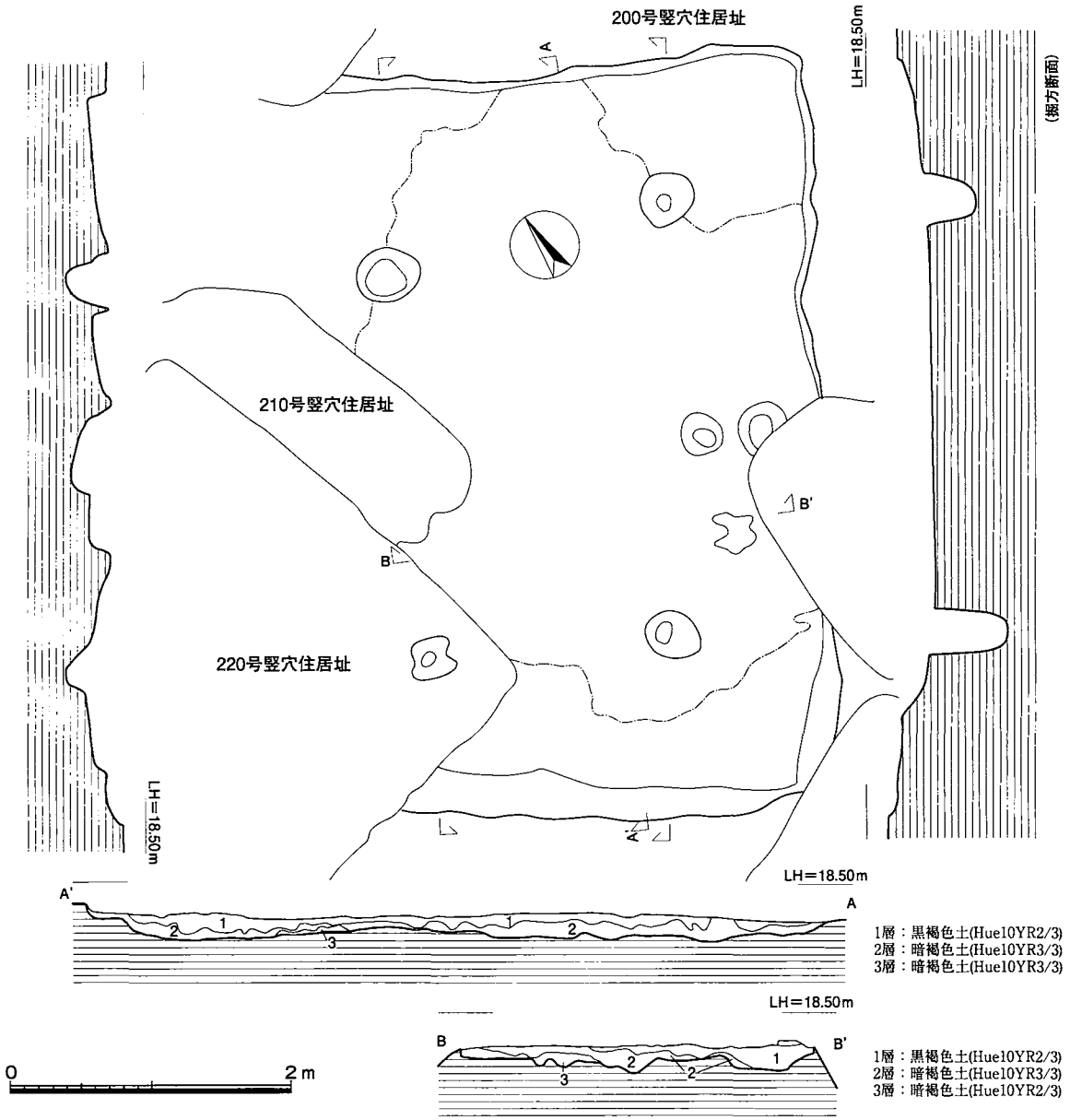


図18　200号竪穴住居址実測図（1 /50）

250号竪穴住居址（図21）

調査区のほぼ中央部、多数の住居が集中する部分で確認した竪穴住居である。1号溝に西辺を削平されている。現存部で南北辺が2.5m、東西が2.5mである。竈は南北辺および東辺で確認できていないので、破壊されている西辺にあったものと思われる。住居内に柱穴は確認できていない。残存する壁の立ち上がりは30cmほどである。東側中央部に硬化した床面が認められる。

359号竪穴住居址（図21）

250号住居址に東接するやや不整な長方形を呈する竪穴住居である。南北辺3.7m、東西辺3.3mを測る。東辺中央部に広く焼土が分布する範囲があるが、堆積が薄く、竈として認定できなかった。住居内にも南側を中心に焼土の堆積した部分を確認している。壁の立ち上がりは10cmほどできわめて残りが悪い。住居内からは柱穴は検出できなかった。南部および南西部に暗赤褐色の焼土の堆積がみられ、西辺中央付近には白い粘土が混じる灰層と思われる堆積が認められた。焼土の中からは炭化したセンダンの実が出土した。北辺中央から南西側に硬化した床面が認められた。

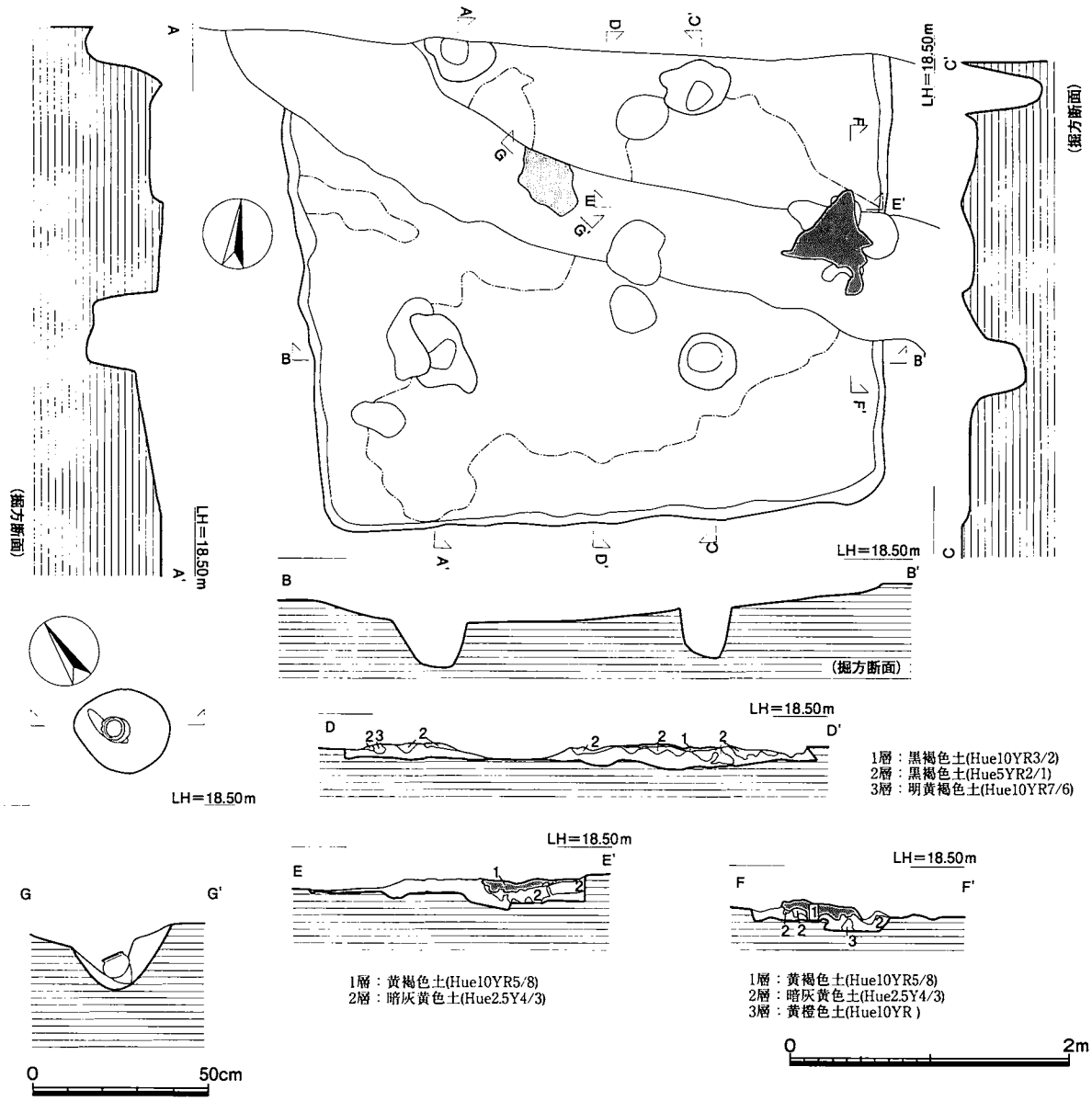


図19　320号竪穴住居址実測図（1 /50・1 /20）

358号竪穴住居址（図21）

250号住居址の北側に住居の深さ10cmほどの一辺を確認したが、390号住居址との切り合い関係は不明であった。

390号竪穴住居址（図21）

359号住居址の北側で検出したほぼ北辺に竈をもち、北方向を向いた竪穴住居である。竈は北辺と認識した辺の中央からやや西寄りに存在している。硬化した床面が帯状に連なっている。他の辺は明確に把握できなかった。北辺の長さは３ｍ強である。壁の立ち上がりは10cm以下である。

348号竪穴住居址（図21）

調査区北東部に位置する竪穴住居であるが、撹乱や他の遺構に切られ、北東隅部分のみ確認できたにすぎない。東辺中央部に竈を付設する。竈周辺から少量の土器片が出土した。竈の掘り方は40cmと深い。住居壁の立ち上がりは10cmほどと、残りが悪い状態である。

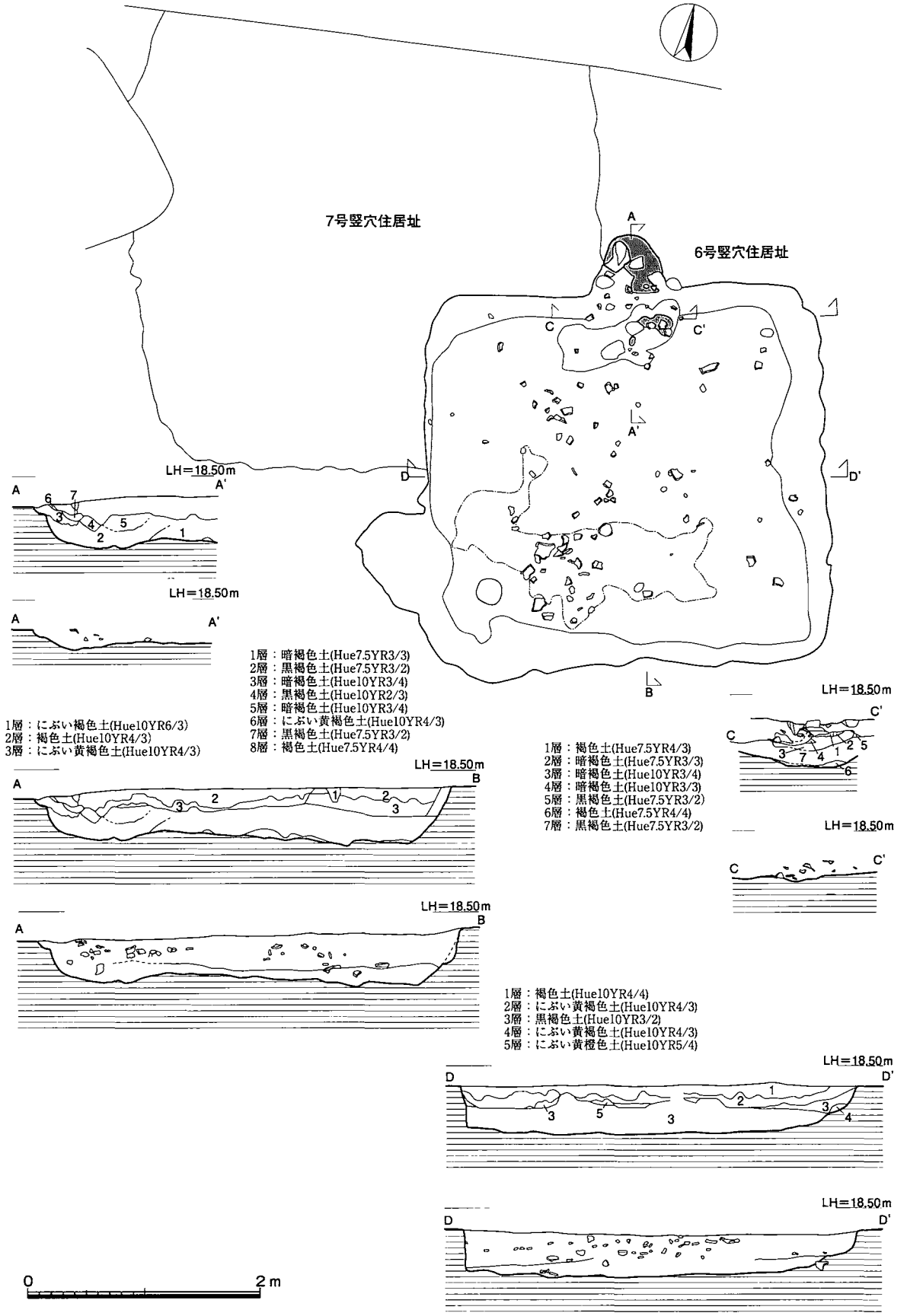


図20　6号竪穴住居址実測図（1 /50）

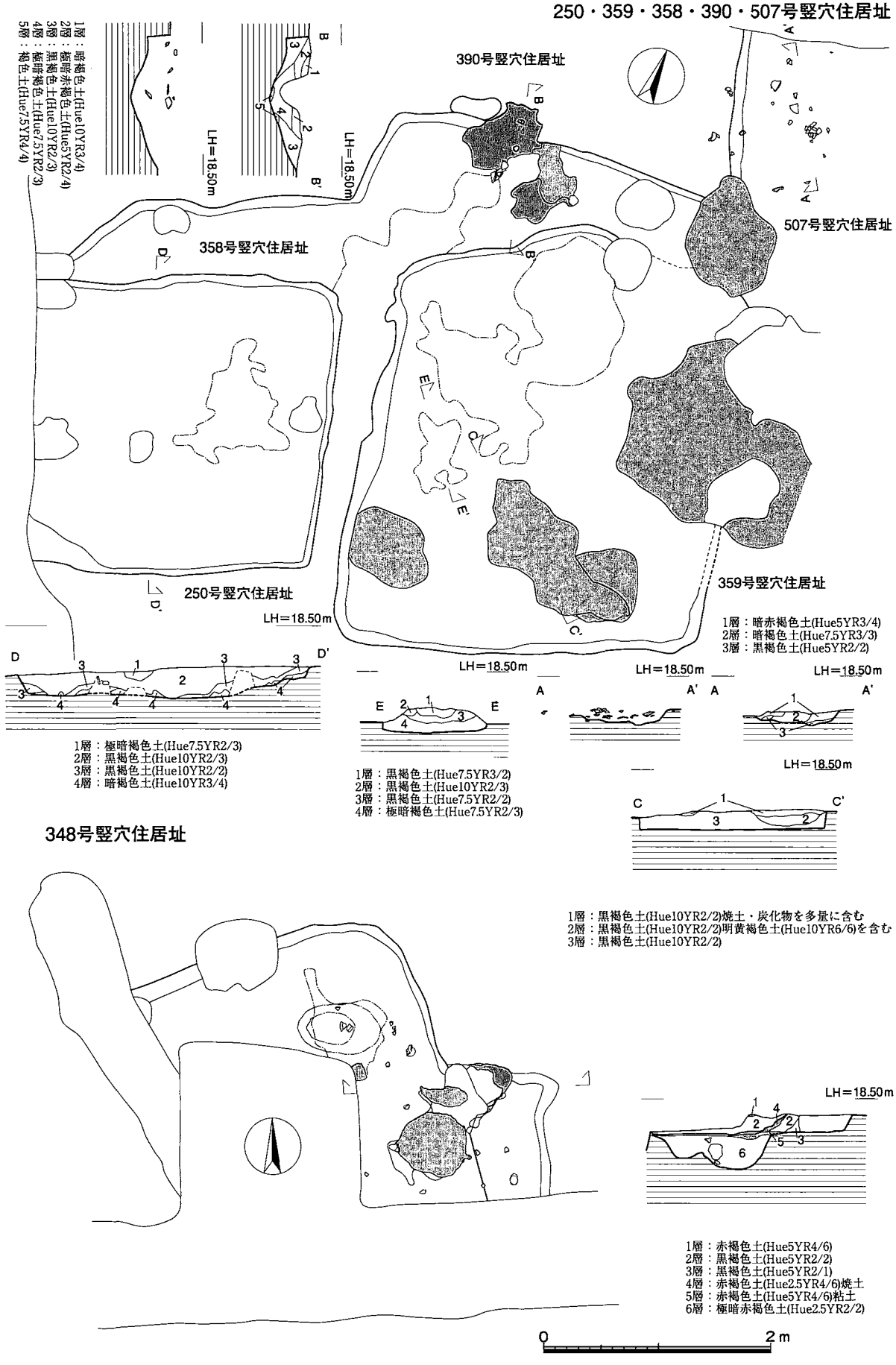


図21　250・359・358・390・507・348号竪穴住居址実測図（1 /50）

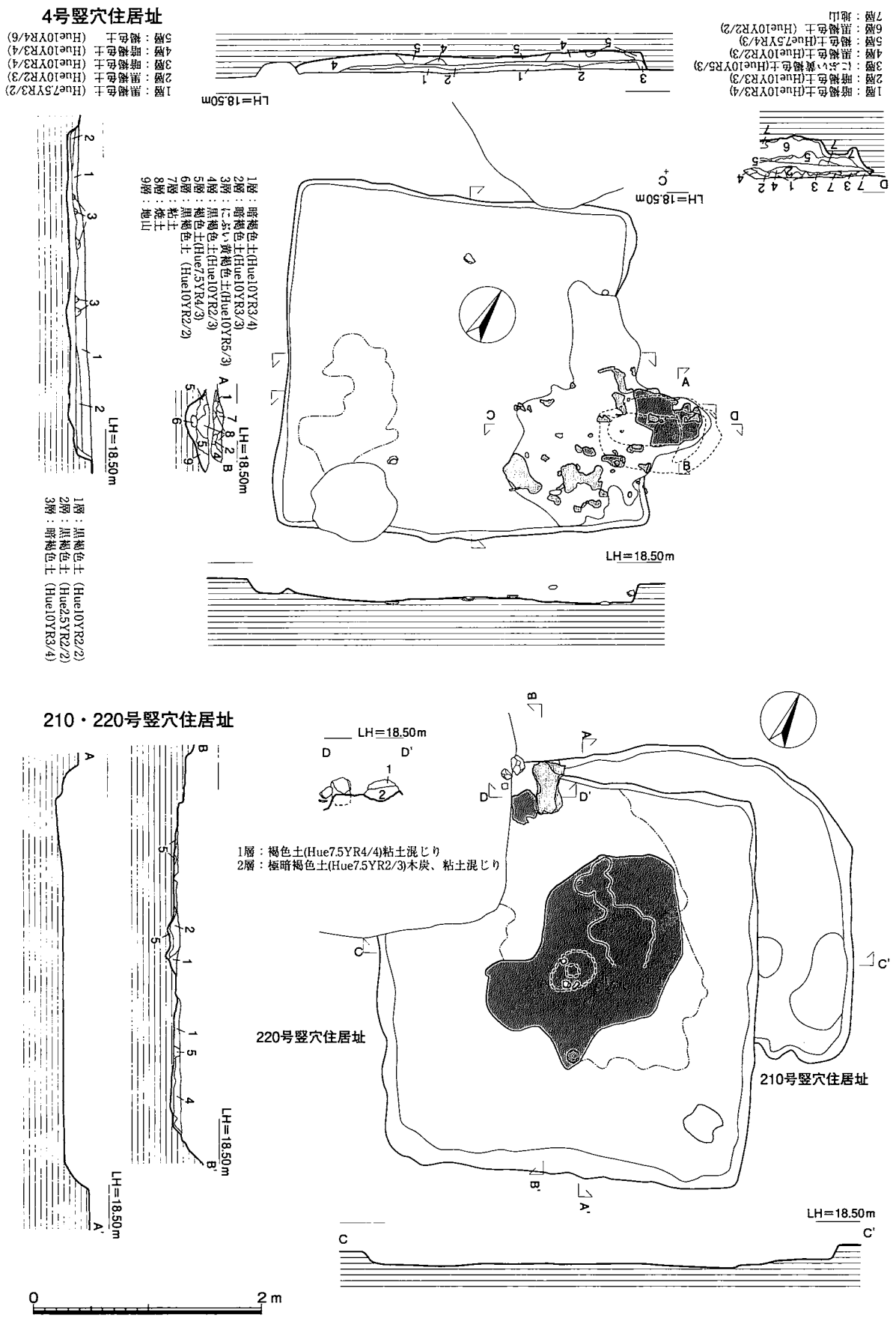


図22　4・210・220号竪穴住居址実測図（1/50）

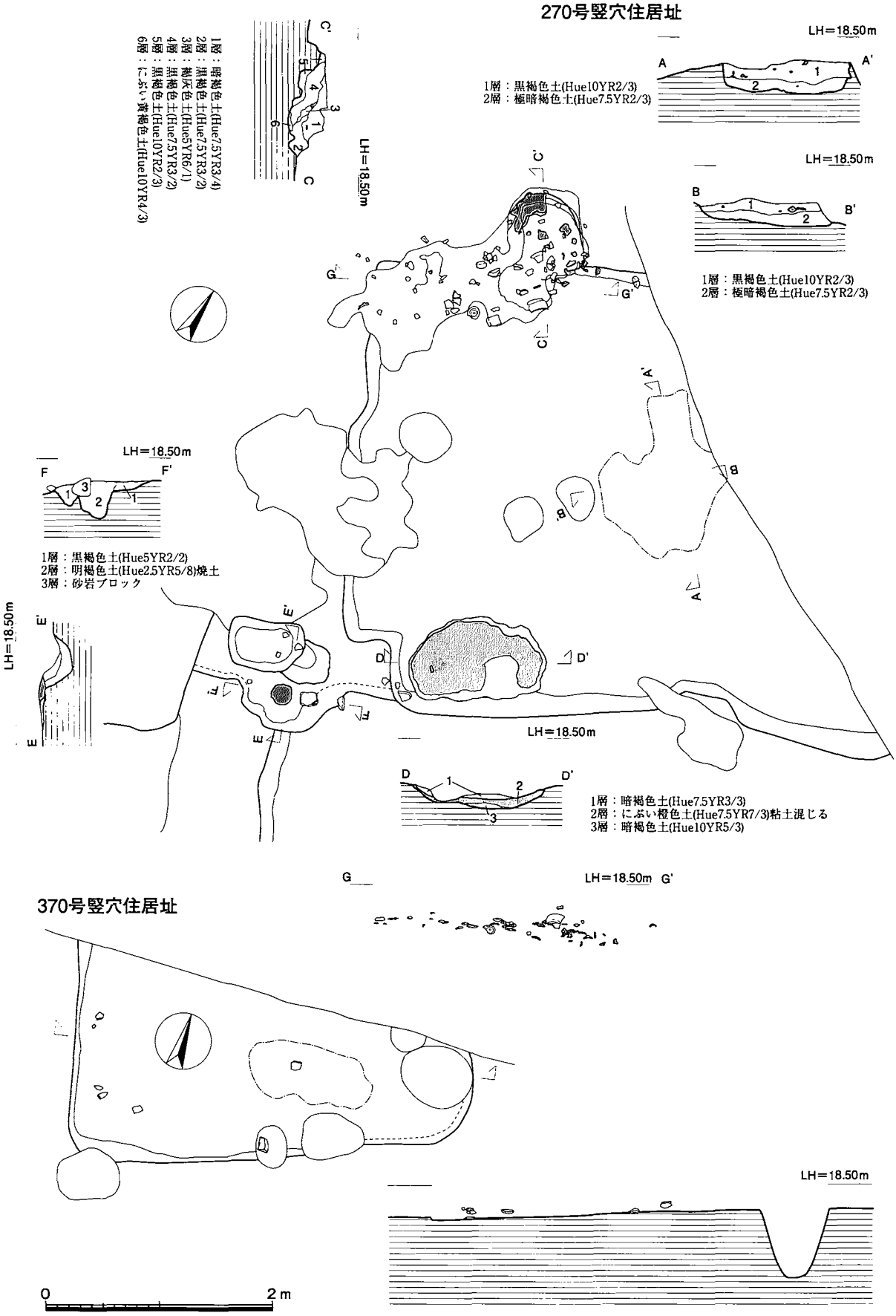


図23　270・370号竪穴住居址実測図（1 /50）

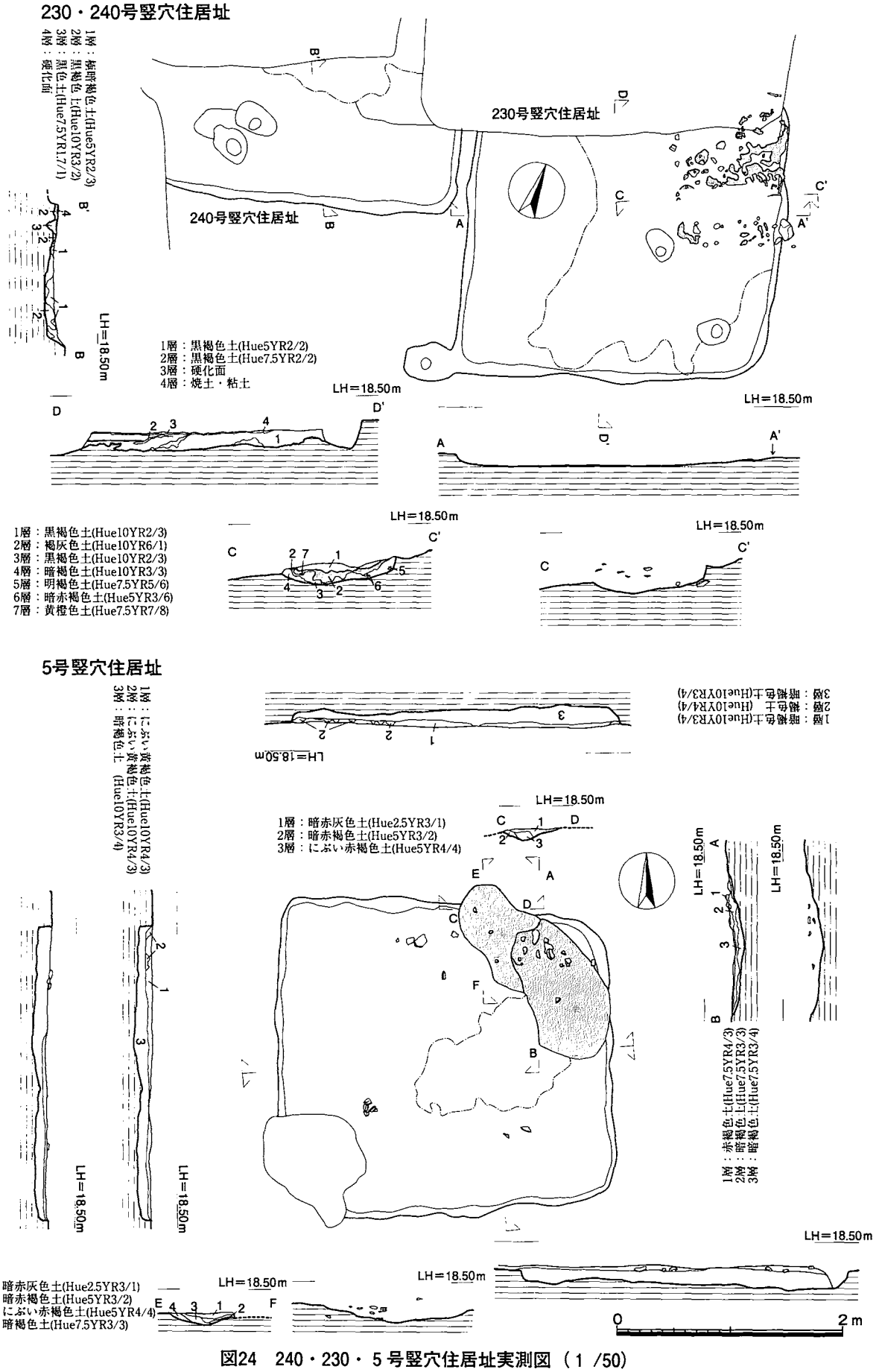


図24　240・230・5号竪穴住居址実測図（1/50）

4号竪穴住居址（図22）

調査区の東南部、3号溝に接するところで検出した正方形の竪穴住居である。壁の立ち上がりは15cmほどである。1辺が3mほどで、東辺の南寄りの部分に竈が設けられている。住居内からは柱穴は検出していない。西辺に接して竈と対向する部分に硬化した床面が確認できた。土器片は竈周辺から検出している。

210・220号竪穴住居址（図22）

調査区中央部南東側の住居の集中する部分から検出した竪穴住居である。220号は1辺が3.5mあまりで、北辺中央西寄りに竈をもつ。竈から中央部にかけて硬化した床面を確認しているが、その上部に焼土が堆積していた。住居内では柱穴は検出していない。住居の壁の立ち上がりは10cmほどで、残り具合はよくない。

220号は210号に切られており、ほぼ重なることから構造は不明である。1辺が2.5mほどの正方形の竪穴住居と思われる。壁の立ち上がりは15cmほどである。

270号竪穴住居址（図23）

住居集中部のほぼ中央に位置する1辺の長さが4mほどの竪穴住居である。南東部に隅部が2箇所あり、重複した住居址二軒である可能性もある。北部隅に竈が突出している。周辺より土器片が多数出土した。竈の対向部に粘土混じりの灰層の堆積が認められた。住居の壁の立ち上がりはおよそ10cmである。10号溝に東半分を破壊されているが、接する部分の床から鉄製紡錘車（図28：68）が出土している。

370号竪穴住居址（図23）

調査区北西隅で検出した竪穴住居であり、北半分は調査区外に延びる。木の根のために土壌の乾燥の激しい部分にあたり、検出が難しく、辛うじて壁の立ち上がりを捉えたものである。よって壁の立ち上がりは5cmほどしか残存していない。東西辺の長さは3.5mである。

230号竪穴住居址（図24）

中央の住居集中部の南西側に位置する359号住居に切られ北半分が破壊されている。1辺が2.7mほどの正方形を呈するものと思われる。東辺の北寄りに白い粘土と砂岩礫が認められ、竈が存在した可能性が高い。中央部には火を受けたと思われる硬化した床面を確認できた。住居壁の立ち上がりは5cmほどしか確認できなかった。

240号竪穴住居址（図24）

230号住居址に隣接する竪穴住居であり、南東隅と南辺が残るのみである。よって規模は不明である。壁の立ち上がりは10cmほどである。

5号竪穴住居址（図24）

調査区北部、1号溝西側で検出した1辺3mあまりの方形の竪穴住居である。北東隅に竈をもつ。それに連なって中央部にかけて幅1mほどの硬化した床面が認められる。住居の壁の立ち上がりは10cmほどである。土器片は竈周辺を中心として分布しているが、一部離れた部分からも出土している。

280号竪穴住居址（図11）

調査区北東部、310号住居に切られる東西辺が3mほどの竪穴住居である。東側半分を310号住居址に破壊される。北側に硬化した床面があり、南側はパミス状の焼土を含む土で覆われていた。

このほか、明確なプランは把握できなかったが、310号住居址と320号住居址の間で380号・350号・346号、359号の北側に507号などの住居址の一部と思われる硬化床面や焼土堆積層などを検出している。

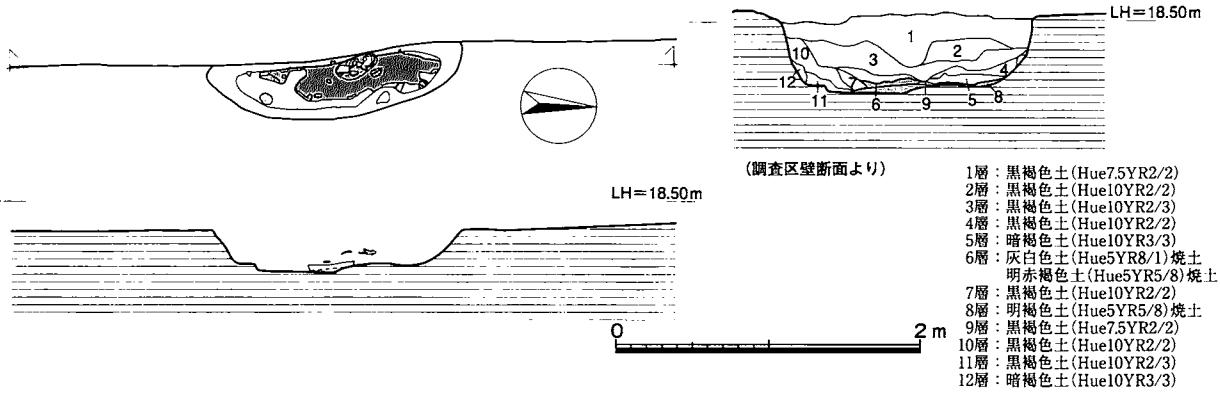


図25　138号土坑実測図（1 /50）

＜土坑＞

290号土坑（図11）

調査区南東部、住居址集中部の東側、200号住居址の北部に接する1.5×1.7mの長方形の土坑である。覆土中に若干の焼土が南東部を中心に堆積していた。壁の立ち上がりは5cmほどで、残り具合はきわめて悪い。

138号土坑（図25）

調査区南西部の壁際で検出した1.7×0.4mほどの土坑であるが、竪穴住居址の一部である可能性もある。深さが60cmほどである。掘り下げると土器片とともに赤い焼土層が認められ、その下部には厚い木炭を含む炭混じりの灰層が堆積していた。焼失住居の可能性もある。

（4）出土遺物

3号溝出土遺物（図26：1～13）

皿や碗を中心とした唐津系と伊万里系の陶器・磁器の各種器種の破片（1～12）が出土しており、18世紀代のものが主体を占めるものと思われる。天草砥石の破片（13）も出土している。

1号溝出土遺物（図26：14～18）

遺物の主体は周辺に遺構や包含層のある古代の須恵器や土師器片（15～18）であるが、1点のみ時期のわかる明染付碗（C類）（14）が出土している。よって、本溝は16世紀後半代のものと思われる。

9・10・8号溝出土遺物（図26：19～29）

9号溝からは須恵器坏（19）および土師器の大皿もしくは焙烙（鍋）（20）の破片が出土している。20に関しては近世以降のものの可能性があるが、破片が小さく不明である。

10号溝からは21の越州窯青磁の蓋の破片が出土しており、おおよそ9世紀前半代の時期が考えられる。また壁際から鉄斧（25）が検出された。

8号溝からはより古い時期の土師器や須恵器も出土しているが、27の土師器碗にみるように、これも9世紀前半代の時期を示している。よって、これら溝はほぼ同じ時期のものと考えられる。

1群住居址出土遺物1（図26・27：30～43）

大型で四本柱をもつ竪穴住居のグループに入る住居址（2・7・11・310・200・320号）から出土したものである。30の須恵器坏は深い器形をもち、31・34の土師器坏は底部がヘラ削りのまま放置されている点などから7世紀代に入るものと思われる。35から43に関しては若干新しい様相も窺えるが、8世紀前半代までに収まるものと思われる。

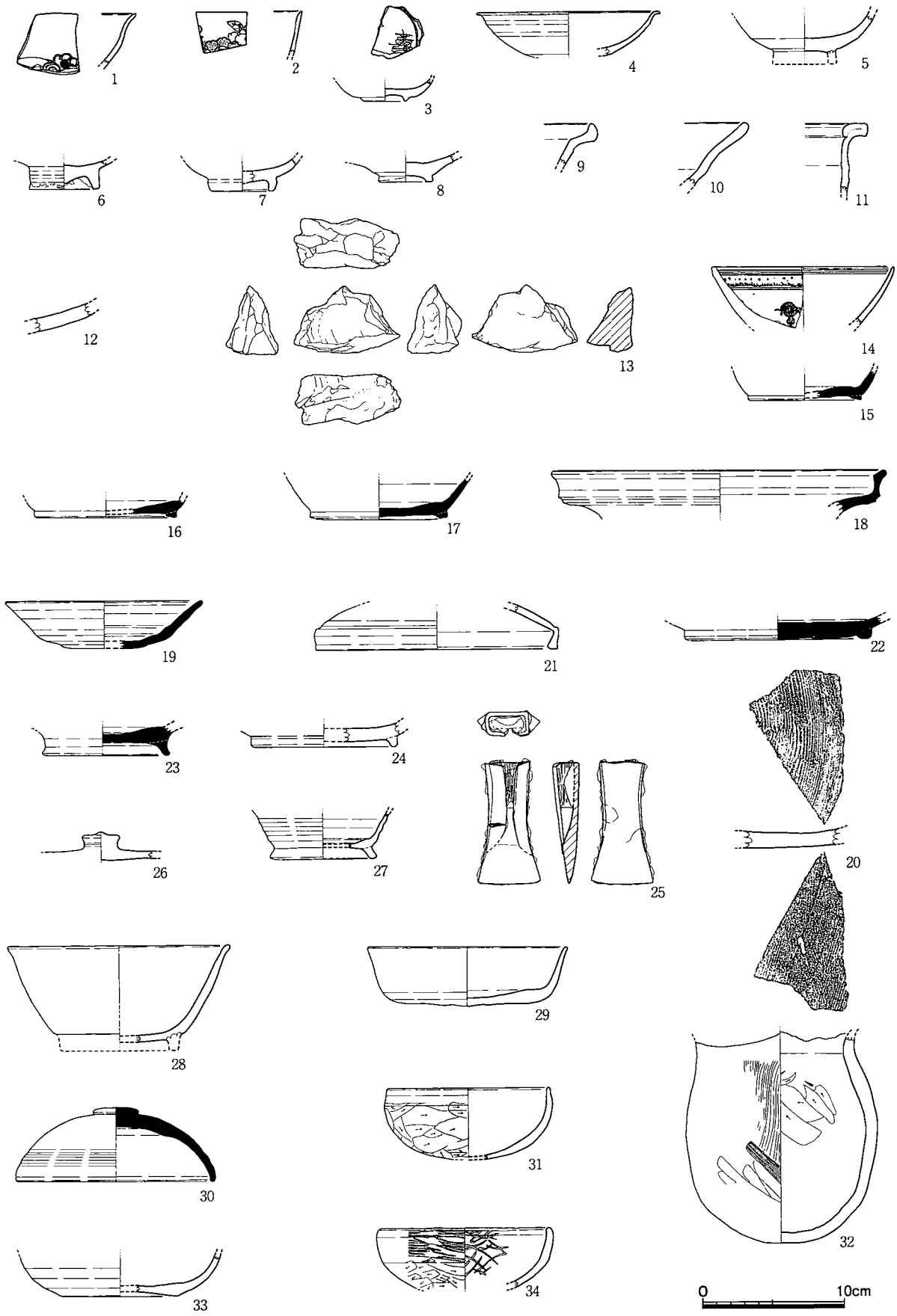


図26　9810調査地点出土遺物実測図１（１／４）

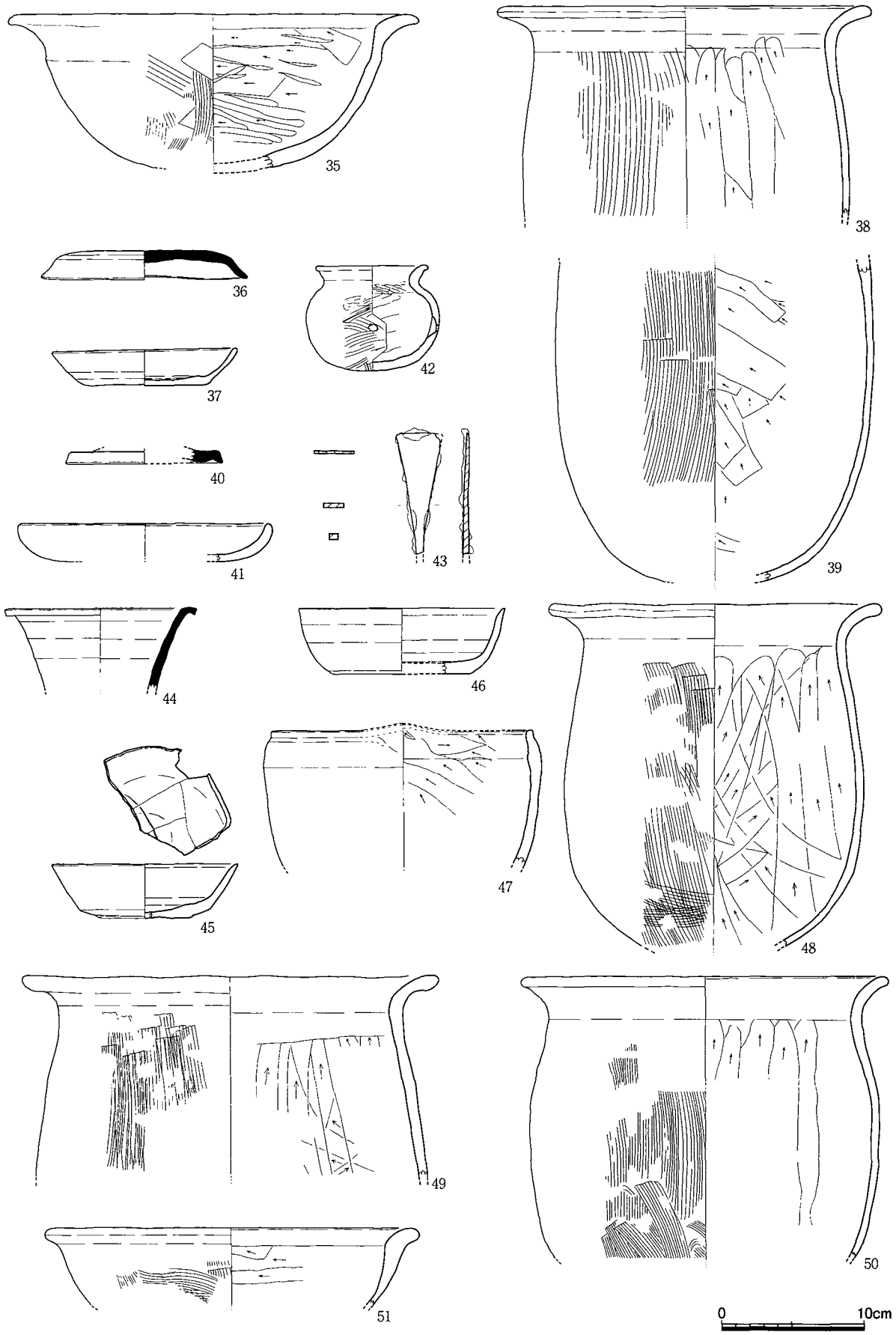


図27　9810調査地点出土遺物実測図２（１／４）

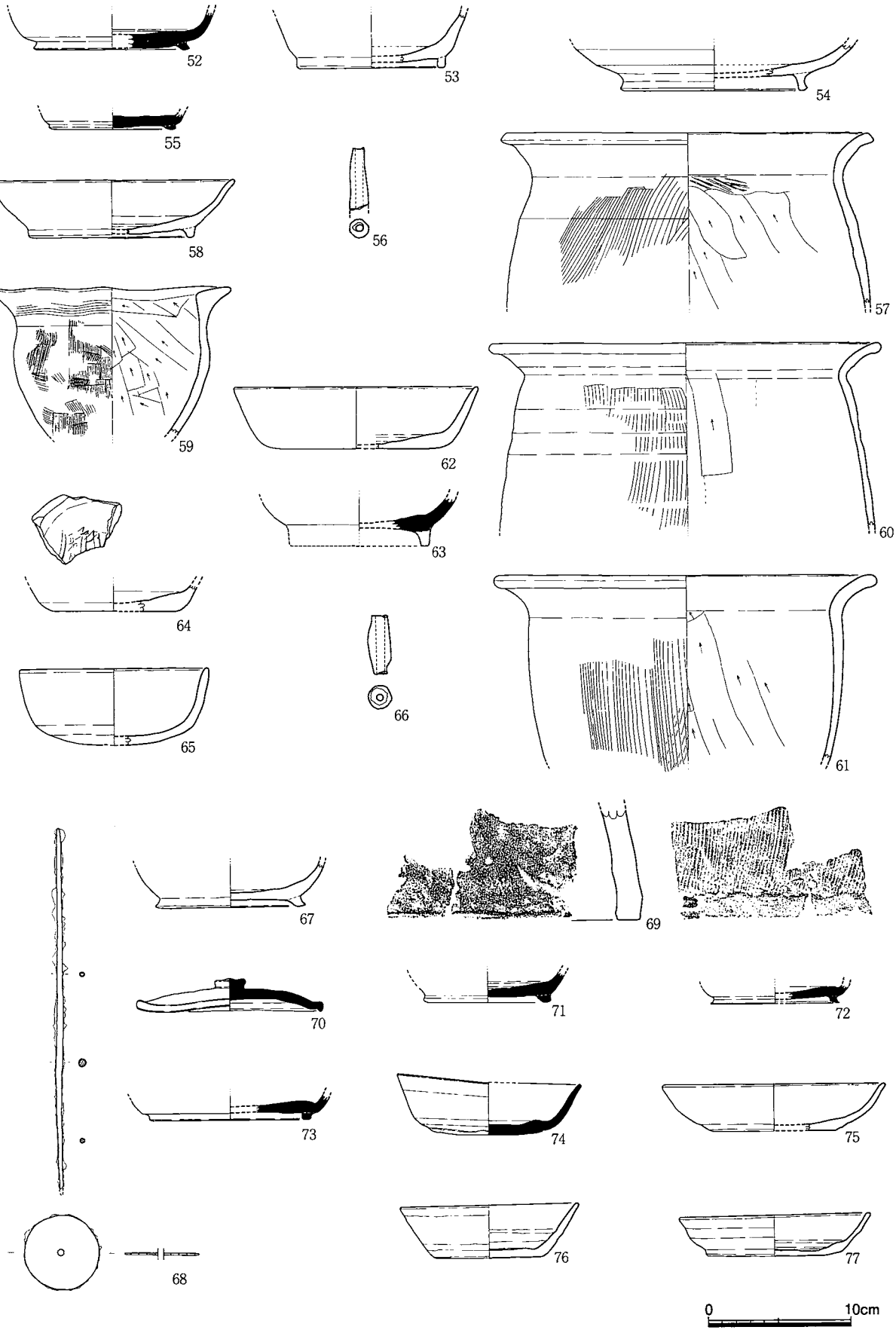


図28　9810調査地点出土遺物実測図３（１／４）

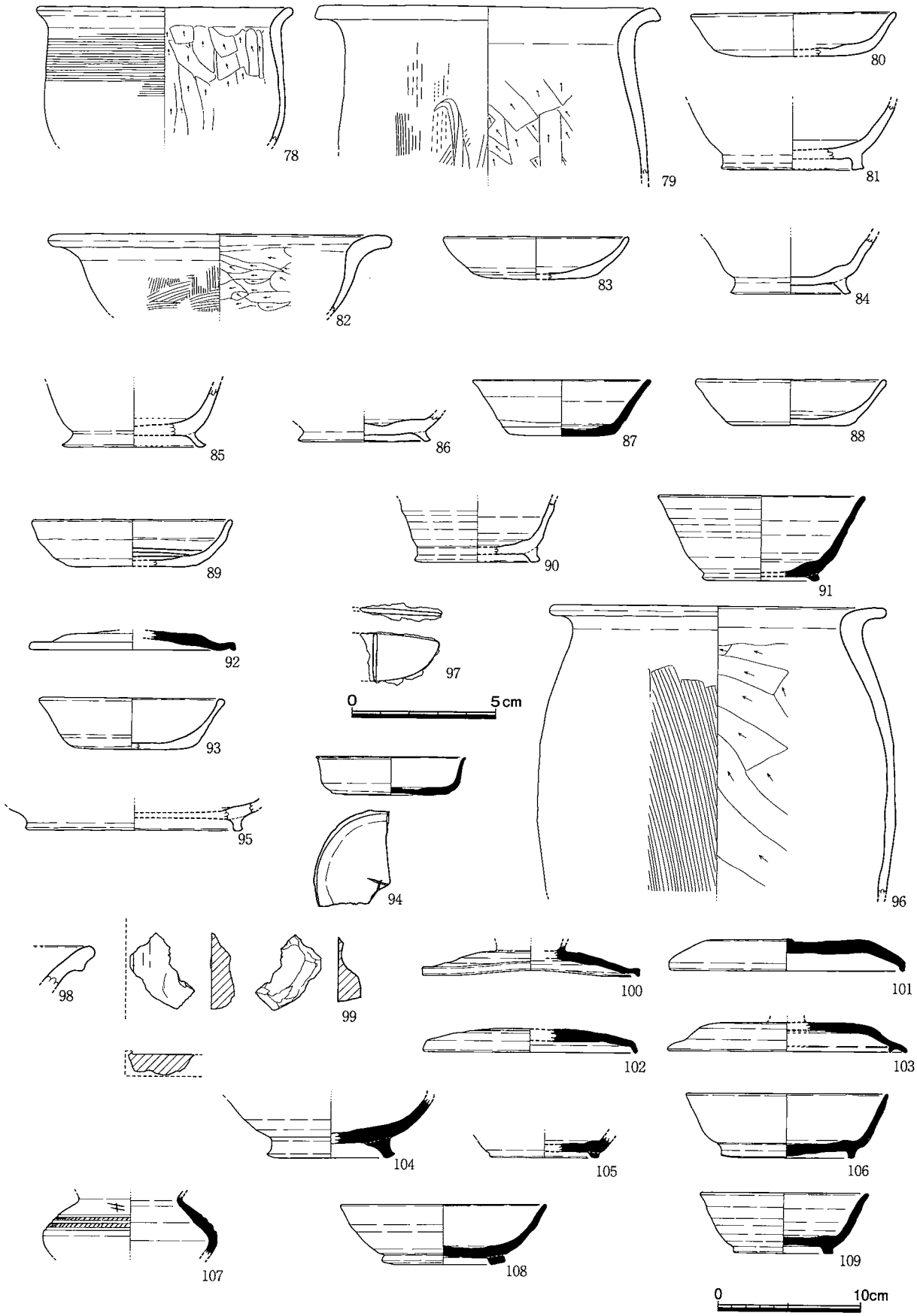


図29　9810調査地点出土遺物実測図４（１／４・１／２）

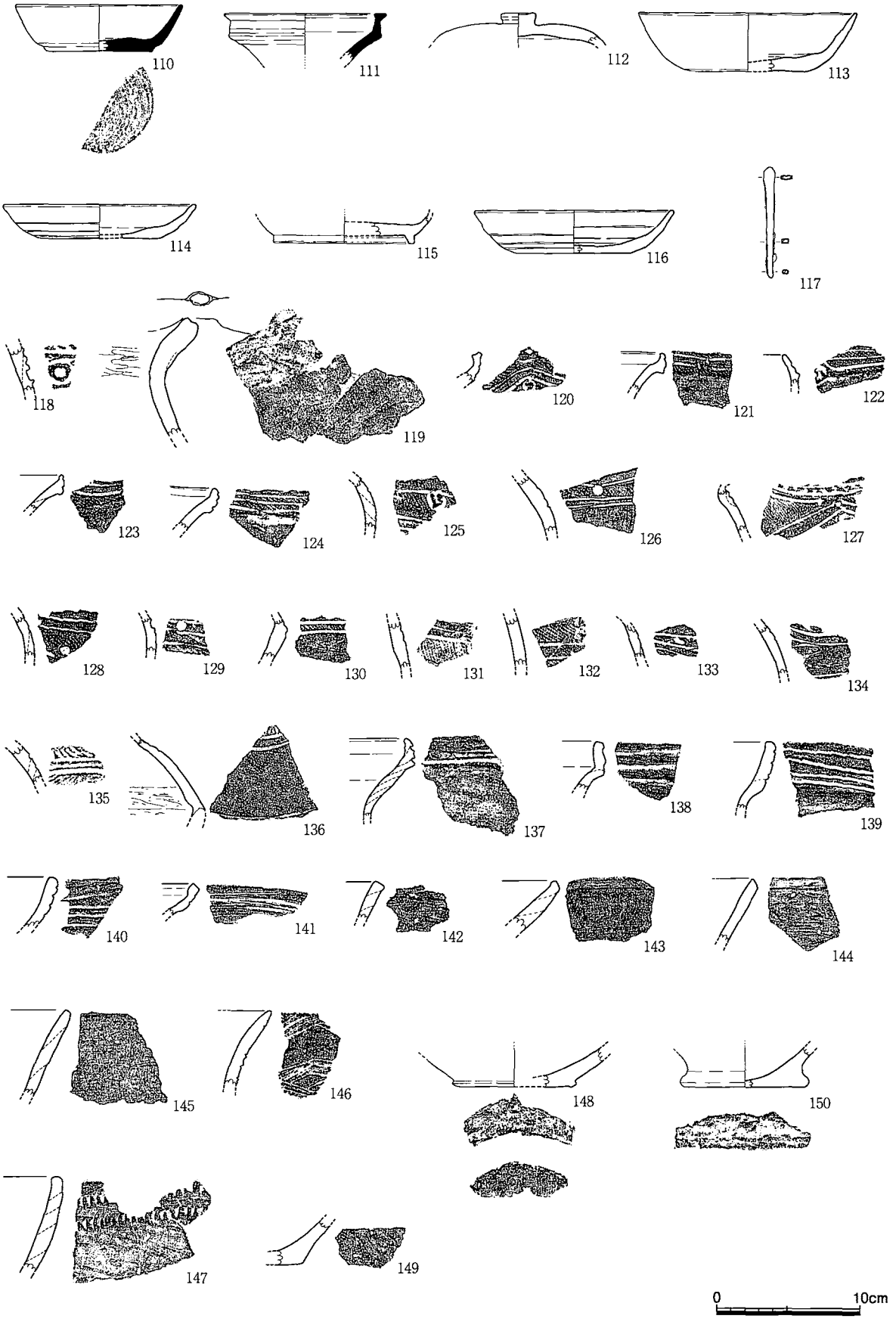


図30　9810調査地点出土遺物実測図５（１／４）

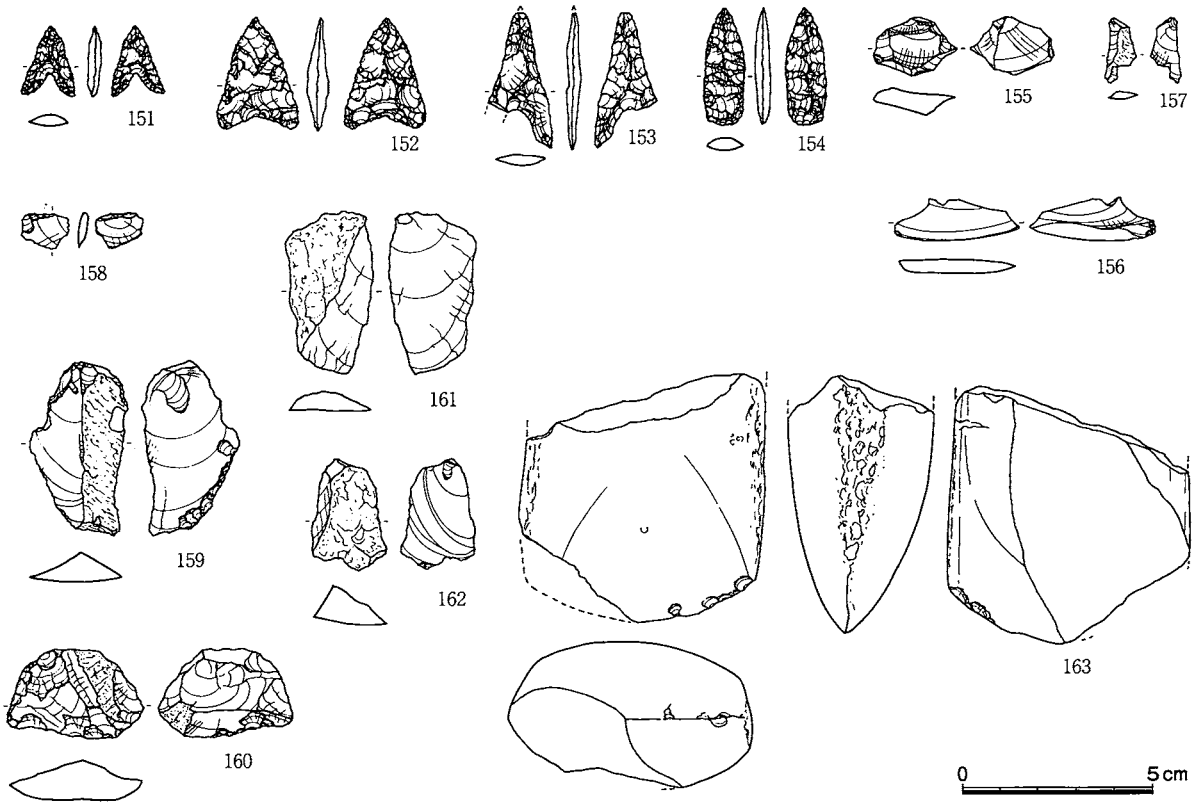


図31　9810調査地点出土遺物実測図６（１／２）

２群住居址出土遺物（図27・28・29：44～89）

小型で住居内に柱穴を持たない竪穴住居のグループに入る住居址（６・250・359・220・280・270・340・370・230・240・290・350・380号）から出土したものである。須恵器蓋・坏・碗・壷・甕、土師器坏・皿・碗・鉢・甕が主体を成す。69は270号住居址から出土した移動式竈の基部の破片である。64は220号住居址から出土した土師器坏の破片であるが、内面に刻書があるが、判読できない。このほか、土錘（56・66）や鉄器（56・97）などが出土している。

その他遺構出土の遺物（図29：85～97）

ピットや焼土などの各種遺構から出土した遺物を図示している。土師器・須恵器の各種容器が主体を占めている。８世紀後半～９世紀前半代のものを含み、ほぼ遺構群の年代と一致する。

その他の遺物（図29・30：98～117）

包含層および撹乱層などから出土した遺物を図示した。99は撹乱層から出土したが中世以降の硯の破片と思われる。紫色の石材であり、「赤間石」（凝灰岩）と思われる。

このほか、359号住居址の焼土の中から、炭化したセンダンの実、モモの核などが出土している。また、11号住居址・380号住居址からもモモの核がそれぞれ１個出土している。

縄文土器・石器（図30：118～150，図31：151～163）

包含層および古代遺構内・覆土から検出した縄文時代の遺物を図示した。土器（118～150）は後期前半～晩期初頭のものを主体としており、深鉢・鉢形土器がほとんどである。石器は、石鏃（151～154）、黒曜石剥片（155～162）、石斧（163）がある。

（5）まとめ

今回の調査では、20基以上の竪穴住居址が検出され、とくに東側中央部から北側にかけて3時期以上の切り合いが認められることは、本地区周辺が古代の集落址の中心地域であり、周辺にはより多数の竪穴住居址を始めとする遺構が残存している可能性が予想され、改めて本遺跡の重要性が認識されたものと考える。その時期は7世紀後半～8世紀後半を主体とするものである。その住居を切るように道路の側溝を現すような溝（9・10号溝）が掘られており、9世紀代になると、集落としての構造に変化が認められるようである。

住居を始めとする遺構の覆土には焼土と炭化物がかなり多量に含まれている。西側壁中央にかかって検出された138号遺構は厚さ2 cmあまりの材を残すなど、焼失住居の可能性もある。また、中央から北東にかけて重複する8世紀後半代の小さな竪穴住居群は炭化材や焼土を含み、これらも焼失住居の可能性が高い。

また柱穴は竪穴住居址と一部重なる部分もあるが、それ以外のところに集中してみられる箇所もある。残念ながら建物として把握することはできていないが、方向がほぼ竪穴住居址と同じであり、ほぼ同じ時期の掘立柱建物と考えられる。

また、今回の調査では住居址内の灰や焼土中に含まれる炭化物の中に植物の種子を発見し、簡便な道具によってフローテーション作業の試みを行った。現在分析中であるが、センダンやモモの核以外に炭化米およびその他の種子が認められる。このような作業は当時の食生活や生活環境を知る上で有効な作業であり、これを契機に本格的なフローテーションを導入して現在に至っている。これらの分析結果は、他の地点での成果とあわせて報告したい。

表４　9810調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
26	1	磁器　染付	碗	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：青白色 外：青白色	３号溝	
	2	磁器　染付	碗	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：白色　赤絵 外：白色	３号溝	
	3	磁器	小皿	口径 底径　3 器高	１／８	内：ナデ 外：ナデ	内：少しくすんだ明緑灰色 外：明緑灰色	３号溝	
	4	陶器	碗	口径　12.8 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：削り	内：Hue　５Ｙ６／２ 外：Hue　５Ｙ６／２	３号溝	
	5	陶器	皿	口径 底径 器高	１／４	内：ナデ 外：一部削り	内：Hue　2.5Y ７／４ 外：Hue　2.5Y ７／４	３号溝	外面　高台削り出し
	6	陶磁器	碗	口径 底径　4.9 器高	底部のみ	内：ナデ 外：ナデ	内：明青灰色 外：明青緑灰色	３号溝	砂目あり 外面　高台削り出し
	7	磁器	碗	口径 底径　4.4 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ，一部削り	内：Hue　10GY ７／１ 外：Hue　10GY ７／１	３号溝	外面　高台削り出し
	8	陶器	碗	口径 底径　3.8 器高	底部のみ	内：ナデ 外：底面及び外面一部削り出し	内：Hue　2.5Y ５／３ 外：Hue　５ YR ５／４	３号溝	
	9	陶器	擂鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ，口縁部削り出し	内：Hue　10YR ３／４ 外：Hue　10YR ３／３	３号溝	
	10	陶器	大皿	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：削り出し	内：Hue　2.5Y ５／３ 外：Hue　2.5Y ５／３	３号溝	
	11	陶磁器	甕	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，口縁部削り 外：ナデ，口縁部削り	内：Hue　2.5YR ３／３ 外：Hue　2.5YR ４／２	３号溝	
	12	陶器	皿	口径 底径 器高	破片	内：ナデ 外：削り	内：Hue　2.5Y ３／３ 外：Hue　7.5YR ４／２	３号溝	
	13	石製品	砥石	長さ　4.8 幅　7.4 厚さ　3.6		内： 外：	内：Hue 外：Hue	３号溝	流紋岩
	14	染付	碗	口径　13 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10GY ８／１ 外：Hue　10GY ８／１	Ｍ１溝　採集	絵付け
	15	須恵器	碗	口径 底径　8 器高	１／４	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5Y ５／１ 外：Hue　2.5Y ５／１	Ｍ１溝　南１層	
	16	須恵器	碗	口径 底径　10 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ，底面ヘラ切り	内：Hue　2.5Y ７／１ 外：Hue　2.5Y ７／１	Ｍ１溝北１層	
	17	須恵器	碗	口径 底径　9.6 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　５Ｙ５／１ 外：Hue　５Ｙ５／１	Ｍ１溝北２層	外面底面の一部に自然釉あり
	18	須恵器	壷	口径　23.6 底径 器高	口縁部片	内：ハケ目 外：ナデ	内：Hue　2.5Y ７／１ 外：Hue　7.5Y ７／１	Ｍ１溝　トレンチ	内外面一部自然釉あり
	19	須恵器	坏	口径　13.8 底径　6 器高　3.3	１／４	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　2.5Y ６／２ 外：Hue　５Ｙ６／２	９号溝	焼きムラあり
	20	土師器	鍋（大皿）	口径 底径 器高	底部片	内：ハケ目，回転ナデ 外：ハケ目	内：Hue　10YR ６／３ 外：Hue　５ YR ６／６	９号溝	焼きムラあり
	21	越州窯青磁	蓋	口径　16.9 底径 器高	口縁部片	内：ヘラ削り，回転ナデ 外：ヘラ削り，回転ナデ	内：Hue　7.5Y ７／１（内部色） 外：Hue　7.5Y ６／２（釉色）	10号溝	内外面に青磁釉あり
	22	須恵器	碗	口径 底径　13 器高	底部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　2.5Y ７／１ 外：Hue　５Ｙ７／１	10号溝上層	外面に自然釉あり
	23	須恵器	碗	口径 底径　8.5 器高	底部のみ	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　2.5Y ７／１ 外：Hue　2.5Y ７／１	10号溝下層	
	24	土師器	碗	口径 底径　10.2 器高	底部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　7.5YR ７／６ 外：Hue　５ YR ７／６	10号溝上層	
	25	鉄器	斧	長さ　8.6 幅　4.4 厚さ　1.8	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	10号溝	
	26	土師器	蓋	口径 底径 器高	１／８	内：ナデ，削り 外：ナデ，削り	内：Hue　2.5YR ５／８ 外：Hue　2.5YR ５／８	８号溝東側	赤色化粧土
	27	土師器	碗	口径 底径　7.4 器高	底部１／５	内：回転ナデ，ヘラ削り 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　10YR ８／４ 外：Hue　7.5YR ８／４	８号溝	内面に赤色化粧土あり 外面焼きムラあり
	28	土師器	碗	口径　15.6 底径 器高	１／４	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5YR ６／６ 外：Hue　５ YR ６／４	Ｍ８　東側	赤色化粧土
	29	土師器	坏	口径　14 底径　10.8 器高　4.2	１／４	内：ナデ 外：ナデ，底面ヘラ切り	内：Hue　7.5YR ８／４ 外：Hue　7.5YR ８／４	Ｍ８　東側	
	30	須恵器	蓋	口径　14 底径 器高　5.2	１／２	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　５Ｙ７／２ 外：Hue　５Ｙ７／１	２号竪穴住居址Ｐ６・覆土	
	31	土師器	坏	口径　11.4 底径 器高	１／４	内：磨き 外：ヘラ削り，ナデ	内：Hue　2.5YR ５／６ 外：Hue　５ YR ７／６	２号竪穴住居址Ｐ７	丹塗り
	32	土師器	甕	口径 底径 器高		内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue　2.5YR ５／８ 外：Hue　５ YR ５／８	２号竪穴住居址竈	焼きムラあり

図	番号	遺物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
26	33	土師器	坏	口径 底径 8.2 器高	1／3	内：回転ナデ 外：回転ナデ，底部ヘラ削り	内：Hue 5 YR 6／6 外：Hue 7.5YR 7／6	7号竪穴住居址Ｐ3	
	34	土師器	坏	口径 12.4 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き，ヘラ削り	内：Hue 2.5YR 4／6 外：Hue 2.5YR 5／6	7号竪穴住居址掘方	丹塗り
27	35	土師器	鉢	口径 28.8 底径 器高	1／4	内：ナデ，削り，一部磨き 外：ナデ，ハケ目	内：Hue 7.5YR 8／4 外：Hue 5 YR 7／4	11号竪穴住居址竈	外面全体にスス多く付着
	36	須恵器	蓋	口径 14.4 底径 器高 2	1／2	内：ナデ，削り 外：ナデ，削り	内：Hue 2.5Y 6／1 外：Hue 2.5Y 6／1	310号竪穴住居址Ｐ1	外面口縁部に自然釉あり
	37	土師器	坏	口径 13 底径 8.6 器高 2.6	2／3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 5 YR 6／4 外：Hue 5 YR 7／4	310号竪穴住居址Ｐ2	
	38	土師器	甕	口径 26.4 底径 器高	口縁部片	内：ヘラ削り 外：口縁部横ナデ，胴部ハケ目	内：Hue 7.5YR 7／3 外：Hue 7.5YR 8／3	310号竪穴住居址竈・346号遺構	内面にスス付着
	39	土師器	甕	口径 底径 器高	1／8	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue 7.5YR 7／4 外：Hue 7.5YR 8／4	310号竪穴住居址	
	40	須恵器	高坏	口径 11 底径 器高	脚部片	内：ナデ，ヘラ削り 外：ナデ，ヘラ削り	内：Hue 2.5Y 6／1 外：Hue 2.5Y 6／1	200号竪穴住居址掘方	
	41	土師器	皿	口径 17.8 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，磨き 外：ナデ，ヘラ削り	内：Hue 2.5YR 4／6 外：Hue 2.5YR 4／6	320号竪穴住居址竈付近もしくは9号溝	丹塗り
	42	土師器	小壷	口径 7.9 底径 4 器高 7.4	ほぼ完形	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue 5 YR 6／6 外：Hue 5 YR 7／6	320号竪穴住居址	最大径 9.3ｃｍ・胴部に穿孔あり
	43	鉄器	鉄鏃	長さ 8.5 幅 3.1 厚さ 0.4	基部欠損	内： 外：	内：Hue 外：Hue	320号竪穴住居址	
	44	須恵器	壷	口径 13.4 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue 10YR 5／1 外：Hue 2.5Y 6／2	6号竪穴住居址	外面に自然釉あり
	45	土師器	坏	口径 13 底径 6.8 器高 3.7	1／4	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue 7.5YR 8／6 外：Hue 7.5YR 8／4	6号竪穴住居址	内面に刻書あり
	46	土師器	坏	口径 14.4 底径 9.6 器高 4.65	1／6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 5 YR 7／8 外：Hue 7.5YR 8／6	6号竪穴住居址 P35	少々焼きムラあり
	47	土師器	鉢	口径 18.4 底径 器高	口縁1／8	内：ナデ，削り 外：ナデ	内：Hue 10YR 7／3 外：Hue 10YR 8／2	6号竪穴住居址	口縁に丹が少し残っている，外面にコゲ？、スス付着
	48	土師器	甕	口径 23.4 底径 器高	1／6	内：口縁部回転ナデ，ヘラ削り 外：ハケ目	内：Hue 10YR 8／4 外：Hue 10YR 8／3	6号竪穴住居址	外面にスス付着
	49	土師器	甕	口径 29.2 底径 器高	口縁1／4	内：口縁部回転ナデ，削り 外：口縁部回転ナデ，ハケ目	内：Hue 7.5YR 6／6 外：Hue 10YR 8／4	6号竪穴住居址	
	50	土師器	甕	口径 25.8 底径 器高	1／4	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue 10YR 8／3 外：Hue 7.5YR 8／4	6号竪穴住居址	外面の一部にスス、コゲ多く付着
	51	土師器	鉢	口径 26.2 底径 器高	口縁1／4	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue 5 YR 7／6 外：Hue 5 YR 7／6	6号竪穴住居址	外面にスス、コゲ付着
28	52	須恵器	碗	口径 底径 10.8 器高	1／4	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue 5 Y 7／2 外：Hue 5 Y 8／2	250号竪穴住居址	外面に自然釉あり
	53	土師器	碗	口径 底径 10.4 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 5 YR 7／6 外：Hue 5 YR 7／6	250号竪穴住居址	
	54	土師器	大碗	口径 底径 13 器高	1／4	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue 2.5YR 6／8 外：Hue 2.5YR 6／8	359号竪穴住居址（281号遺構）	赤色化粧土
	55	須恵器	碗	口径 底径 8.8 器高	底部1／3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 5 Y 8／1 外：Hue 2.5Y 8／1	359号竪穴住居址（381号遺構）	外面に自然釉あり
	56	土製品	錘	長さ 幅 1.3 厚さ 1.3	一部欠損	内： 外：ナデ	内：Hue 外：Hue 5 YR 6／6	359号竪穴住居址（563号遺構）	
	57	土師器	甕	口径 26 底径 器高	口縁、胴部片	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue 10YR 8／2 外：Hue 7.5YR 8／3	359号竪穴住居址（283号・281号Ｐ9・P13・P19）	内外面に煮たき痕あり 外面にスス多く付着
	58	土師器	高台付皿	口径 17.2 底径 11.6 器高 4	1／4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 5 YR 7／6 外：Hue 7.5YR 7／4	507号竪穴住居址Ｐ3	焼きムラあり
	59	土師器	甕	口径 16.6 底径 器高	1／5	内：削り 外：ハケ目，ナデ	内：Hue 7.5YR 6／6 外：Hue 5 YR 6／8	507号竪穴住居址Ｐ1	
	60	土師器	甕	口径 27.4 底径 器高	口縁、胴部片	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue 2.5Y 8／2 外：Hue 7.5Y 8／2	507号竪穴住居址Ｐ4・P8・281号Ｐ4・260号硬化面西側）	
	61	土師器	甕	口径 26.8 底径 器高	口縁1／8	内：口縁横ナデ，ヘラ削り 外：口縁横ナデ，ハケ目	内：Hue 10YR 8／3 外：Hue 10YR 6／3	507号竪穴住居址Ｐ6・包含層攪乱	内外面に一部スス付着
	62	土師器	坏	口径 17 底径 11 器高 4.3	1／3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5YR 8／3 外：Hue 5 YR 5／6	220号竪穴住居址（348号Ｐ1）	
	63	須恵器	碗	口径 底径 10 器高	1／4	内：ナデ 外：ヘラ削り	内：Hue 5 Y 5／1 外：Hue 5 Y 5／1	220号竪穴住居址（4号Ｐ1・1号溝南側1層）	
	64	土師器	坏	口径 底径 8.7 器高	底部1／8	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5YR 7／4 外：Hue 7.5YR 7／4	220号竪穴住居址	内面に線刻あり（判読不可）
	65	土師器	坏	口径 底径 13.2 器高	1／8	内：ナデ，ヘラ磨き 外：削り	内：Hue 10R 4／6 外：Hue 10R 4／6	220号竪穴住居址・210号竪穴住居址	丹塗り

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
28	66	土製品	錘	長さ　4.1 幅　1.6 厚さ　1.6	ほぼ完形	内： 外：ナデ	内：Hue 外：Hue　7.5YR 6 / 6	220号竪穴住居址	焼きムラあり
	67	土師器	碗	口径 底径　10.4 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 7 / 8 外：Hue　5 YR 7 / 8	280号竪穴住居址掘方	
	68	鉄器	紡錘車	長さ　35.2 幅(輪)　5.2		内： 外：	内：Hue 外：Hue	270号竪穴住居址	
	69	土師器	移動式竈	口径 底径 器高	底部片	内：削りの後ナデ 外：ハケ目	内：Hue　5 YR 7 / 6 外：Hue　5 YR 7 / 6	270号住居址竈付近・M230号住居掘方東	
	70	須恵器	蓋	口径　12.9 底径 器高　2.3	4 / 5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 B 6 / 1 外：Hue　5 B 6 / 1	270号竪穴住居址(289号Ｐ３)	口縁部の一部に自然釉あり
	71	須恵器	碗	口径 底径　8.9 器高	底部のみ	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　2.5Y 7 / 1 外：Hue　2.5Y 7 / 1	270号竪穴住居址・竈付近・(289号南Ｐ４)	
	72	須恵器	碗	口径 底径　9 器高	1 / 4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 B 6 / 1 外：Hue　N 5 / 0	270号竪穴住居址(289号南P13)	
	73	須恵器	碗	口径 底径　11.6 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 5 / 1 外：Hue　5 YR 5 / 1	270号竪穴住居址(289号P36)	
	74	須恵器	坏	口径　12.8 底径　7.9 器高　4.3	1 / 2	内：ナデ 外：ナデ，ヘラ削り	内：Hue　2.5Y 6 / 1 外：Hue　2.5Y 6 / 1	270号竪穴住居址(289P47・289号南側・286西側Ｐ１・289号トレンチ・289号焼土)	
	75	土師器	坏	口径　15.6 底径　8.6 器高　3.3	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 4 外：Hue　7.5YR 8 / 3	270号竪穴住居址(289号P21)	
	76	土師器	坏	口径　12.4 底径　7.6 器高　3.8	ほぼ完形	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 6 / 2 外：Hue　7.5YR 6 / 3	270号竪穴住居址(289号)	
	77	土師器	坏	口径　13.4 底径　9.5 器高　3	2 / 3	内：ナデ 外：ナデ，底面ヘラ切り	内：Hue　10R 5 / 8 外：Hue　7.5YR 6 / 6	270号竪穴住居址(289号)	内外面一部にスス付着，赤色化粧土
29	78	土師器	甕	口径　18 底径 器高	1 / 8	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue　7.5YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 4	270号竪穴住居址(289号P19・排土)	内、外面スス付着，外面吹き零れ痕あり
	79	土師器	甕	口径　24.2 底径 器高	1 / 4	内：ナデ，削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue　7.5YR 8 / 3 外：Hue　10YR 6 / 4	270号竪穴住居（289号・５号住居址Ｐ・D102)	内面口縁部にコゲ，外面に吹き零れ痕あり
	80	土師器	坏	口径　14.4 底径　9 器高　3.1	1 / 8	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 6	340号竪穴住居址(覆土)	
	81	土師器	鉢	口径 底径　10 器高	1 / 8	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　2.5YR 6 / 6 外：Hue　2.5YR 6 / 6	340号竪穴住居址(覆土)	
	82	土師器	鉢	口径　24 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，ヘラ削り 外：ナデ，ハケ目	内：Hue　2.5YR 6 / 8 外：Hue　2.5YR 6 / 6	370号竪穴住居址	焼きムラあり
	83	土師器	坏	口径　13 底径　8.2 器高　3	1 / 2	内：ナデ 外：ナデ，底面ヘラ切り	内：Hue　5 YR 7 / 6 外：Hue　5 YR 7 / 4	230号竪穴住居址(517号)	少し焼きムラあり
	84	土師器	碗	口径 底径　8.4 器高	1 / 4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5YR 5 / 6 外：Hue　2.5YR 6 / 8	240号竪穴住居址	赤色化粧土
	85	土師器	碗	口径 底径　10 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　5 YR 7 / 6 外：Hue　5 YR 7 / 6	290号土坑	赤色化粧土
	86	土師器	碗	口径 底径　9.2 器高	1 / 2	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　7.5YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 7 / 8	350号竪穴住居址Ｐ１	
	87	須恵器	坏	口径　12.4 底径　7.4 器高　3.9	1 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　N 6 / 0 外：Hue　N 5 / 0	380号竪穴住居址・380号と350号の間	口縁部に自然釉あり
	88	土師器	坏	口径　13.4 底径　8.2 器高　3.2	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ，ヘラ削り	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　2.5YR 6 / 8	380号竪穴住居址・380号と350号の間	赤色化粧土
	89	土師器	坏	口径　14 底径　9 器高　3.3	1 / 2	内：ナデ，ヘラ磨き 外：ナデ，ヘラ削り	内：Hue　5 YR 5 / 3 外：Hue　5 YR 7 / 3	380号竪穴住居址	底面の外面に焼きムラあり 外面一部にスス付着
	90	土師器	碗	口径 底径　8.8 器高	1 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 4	38号遺構・西側包含層ピット検出時	内外面に赤色化粧土あり
	91	須恵器	碗	口径　14.4 底径　8.2 器高　5.95	1 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　2.5Y 7 / 1 外：Hue　5 Y 7 / 1	309号遺構	焼きムラあり
	92	須恵器	蓋	口径　14.4 底径 器高	1 / 5	内：ナデ，削り 外：ナデ，削り	内：Hue　2.5Y 6 / 1 外：Hue　2.5Y 6 / 1	82号遺構	
	93	土師器	坏	口径　13 底径　8.8 器高　3.6	1 / 4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5YR 5 / 6 外：Hue　2.5YR 5 / 6	247号遺構	赤色化粧土
	94	須恵器	坏	口径　10.4 底径　8.2 器高　2.8	1 / 4	内：回転によるナデとロクロを止めてのナデ 外：ナデ	内：Hue　10BG 5 / 1 外：Hue　5 PB 6 / 1	447b 号遺構	刻書あり（判読不可）
	95	土師器	碗	口径 底径　15.2 器高	底部片	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　10R 6 / 8 外：Hue　10R 6 / 8	295号遺構	赤色化粧土
	96	土師器	甕	口径　23.7 底径 器高	口縁１ / 8	内：横ナデ，ヘラ削り 外：横ナデ，ハケ目	内：Hue　2.5YR 6 / 6 外：Hue　2.5YR 6 / 6	390号遺構・包含層	内面一部コゲ？，外面一部スス付着
	97	鉄器	刀子	長　1.32 幅　1.77 厚　0.31		内： 外：	内：Hue 外：Hue	175号遺構	
	98	陶器	鉢	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：削り，ナデ	内：Hue　2.5Y 7 / 2 外：Hue　2.5Y 7 / 2	包含層・住居検出時	

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残　存　量	特　徴	色　　調	出土遺構	備　　考
29	99	石製品	硯	口径 底径 器高	硯面一部	内： 外：	内：Hue 外：Hue　10YR 3 / 1	撹乱・包含層	赤間石？
	100	須恵器	蓋	口径　15.2 底径 器高	2 / 5	内：回転ナデ，ヘラ削り 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　7.5YR 6 / 3 外：Hue　7.5YR 5 / 3	撹乱・包含層・遺構検出時	内外面に自然釉あり
	101	須恵器	蓋	口径　16.6 底径 器高　2.2	1 / 4	内：削り，ナデ 外：削り，ナデ	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　5 Y 5 / 1	壁	外面に焼きムラあり
	102	須恵器	蓋	口径　15 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，ヘラ削り 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　2.5Y 6 / 2	カクラン包含層	
	103	須恵器	蓋	口径　16.8 底径 器高	1 / 5	内：回転ナデ，ヘラ削り 外：回転ナデ	内：Hue　10YR 7 / 3 外：Hue　7.5YR 7 / 4	トレンチ5・ピット・包含層	焼きムラあり
	104	須恵器	壷	口径 底径　8.8 器高	底部片	内：ナデ 外：ヘラ削り，ナデ	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　5 Y 5 / 1	東側・南側・包含層・住居検出時	
	105	須恵器	碗	口径 底径　7.6 器高	底部1 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　10Y 8 / 1 外：Hue　7.5Y 8 / 1	北東撹乱・包含層・住居検出時	
	106	須恵器	碗	口径　14.2 底径　9.4 器高　4.5	2 / 3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10BG 5 / 1 外：Hue　7.5Y 5 / 1	壁	
	107	須恵器	甕	最大径　12.2	胴部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，刻み目	内：Hue　2.5Y 6 / 1 外：Hue　2.5Y 5 / 1	撹乱・包含層・遺構検出時	
	108	須恵器	碗	口径 底径　8.6 器高	1 / 4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 3 / 1 外：Hue　2.5Y 3 / 1	東・南・包含層・住居検出時	
	109	須恵器	碗	口径　11.8 底径　7 器高　4.2	1 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　10Y 6 / 1 外：Hue　10Y 6 / 1	撹乱・包含層・遺構検出時	外面に自然釉あり
30	110	須恵器	坏	口径　11.6 底径　7.4 器高　3.3	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ，底面糸切り	内：Hue　7.5YR 7 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 4	東側・北半包含層・住居検出時	
	111	須恵器	壷	口径　11.2 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，ヘラ削り 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　2.5Y 7 / 2 外：Hue　5 YR 6 / 4 （釉色）	包含層・撹乱	外面口縁に自然釉あり
	112	土師器	蓋	口径 底径 器高	1 / 4	内：ナデ 外：削り，ナデ	内：Hue　5 YR 7 / 8 外：Hue　5 YR 7 / 8	壁	
	113	土師器	坏	口径　15.2 底径　8 器高　4.1	1 / 4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 4	壁・撹乱	底面に粘土くず付着
	114	土師器	坏	口径　13.4 底径　8.6 器高　2.4	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ，ヘラ磨き，底面削り	内：Hue　7.5YR 7 / 6 外：Hue　5 YR 7 / 6	壁・撹乱	外面に2ケ所圧痕あり
	115	土師器	碗	口径 底径　9.8 器高	1 / 8	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　5 YR 7 / 6	壁（北東）	
	116	土師器	坏	口径　13.8 底径　8 器高　3	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　2.5YR 6 / 8 外：Hue　2.5YR 6 / 8	壁	焼きムラあり
	117	鉄器	鏃	長さ　7.75 最大幅　0.8		内： 外：	内：Hue 外：Hue	包含層	
	118	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 7 / 3 外：Hue　10YR 7 / 3	346号遺構	沈線
	119	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，磨き 外：ナデ，削り	内：Hue　2.5Y 5 / 2 外：Hue　2.5Y 3 / 1	壁・撹乱	
	120	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5YR 5 / 6 外：Hue　2.5YR 5 / 6	220号竪穴住居址掘方	内面にヘラ線状痕，外面に縄文、沈線
	121	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue　5 YR 4 / 8 外：Hue　5 YR 4 / 8	4号竪穴住居址	口縁部に沈線、縄文、押型文
	122	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5YR 2 / 1 外：Hue　10YR 4 / 2	240号竪穴住居址焼土下	外面に縄文、沈線
	123	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，磨き 外：ナデ，磨き	内：Hue　5 YR 5 / 6 外：Hue　5 YR 4 / 4	4号竪穴住居址掘り方	口縁部に縄文、沈線
	124	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，磨き 外：ナデ，磨き	内：Hue　7.5YR 5 / 4 外：Hue　5 YR 5 / 6	297号遺構	口縁部に縄文、沈線
	125	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5YR 5 / 6 外：Hue　2.5YR 5 / 4	447c号遺構	外面に縄文、沈線
	126	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	肩部片	内：ナデ，磨き 外：ナデ，磨き	内：Hue　10YR 7 / 3 外：Hue　10YR 5 / 3	200号竪穴住居址掘方	外面に縄文、沈線文
	127	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 2 / 2 外：Hue　10YR 2 / 2	11号竪穴住居址掘方	外面に縄文、沈線文、押型文
	128	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ，ヘラ磨き 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 4 / 4 外：Hue　5 YR 4 / 4	包含層（番号51383）	外面に沈線文、押型文
	129	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5Y 6 / 2 外：Hue　10YR 6 / 2	9号溝	外面に沈線文 外面にスス付着
	130	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 5 / 4 外：Hue　7.5YR 5 / 4	2号竪穴住居址P3・ピット内	外面に縄文、沈線 外面にスス付着
	131	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 5 / 3 外：Hue　10YR1.7/ 1	包含層（番号51349）	外面に縄文、沈線文

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残　存　量	特　徴	色　　調	出土遺構	備　　考
30	132	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ、磨き 外：	内：Hue　10YR 7 / 3 外：Hue　10YR 7 / 3	3号溝	外面に縄文、沈線文、押型文
	133	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	破片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5Y 4 / 3 外：Hue　2.5Y 4 / 2	9号溝	外面に沈線文、押型文
	134	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5Y 5 / 2 外：Hue　2.5Y 4 / 1	420J 号遺構	外面に沈線文
	135	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	胴部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　2.5Y 5 / 3 外：Hue　2.5Y 3 / 2	200号竪穴住居址	外面に縄文、沈線文
	136	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	肩部片	内：ナデ、削り 外：ナデ、磨き	内：Hue　2.5Y 5 / 3 外：Hue　2.5Y 5 / 3	壁・撹乱	外面に押型、沈線文
	137	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　5 Y 4 / 1 外：Hue　10YR 3 / 2	北東部撹乱	口縁部に沈線文
	138	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 8 / 3	3号溝	口縁部につなぎ目あり
	139	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 8 / 4	東壁・撹乱	口縁部に沈線文
	140	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　10YR 6 / 3 外：Hue　7.5YR 6 / 3	包含層（番号51351）	口縁部に沈線文
	141	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　10YR 4 / 2 外：Hue　10YR 3 / 2	4号竪穴住居址覆土	口縁部に沈線
	142	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　7.5YR 5 / 3 外：Hue　10YR 5 / 3	包含層（番号50056）	
	143	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　10YR 7 / 3 外：Hue　10YR 7 / 4	撹乱	
	144	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、ヘラ磨き 外：ナデ、ヘラ磨き	内：Hue　10YR 7 / 2 外：Hue　10YR 3 / 1	446号遺構	
	145	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　7.5YR 6 / 6 外：Hue　7.5YR 5 / 4	10号溝	
	146	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 8 / 3 外：Hue　7.5YR 7 / 4	包含層（番号24660）	外面に線状文
	147	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 5 / 4 外：Hue　10YR 6 / 3	200号竪穴住居址掘方・4号竪穴住居址掘方	口縁部に刺突文
	148	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	底部片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue　7.5YR 5 / 4 外：Hue　5 YR 4 / 4	包含層（番号50002）	焼きムラあり
	149	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	底部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue　10YR 6 / 3 外：Hue　7.5YR 5 / 4	包含層（番号50008）	焼きムラあり
	150	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	底部1 / 3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 4 / 6 外：Hue　5 YR 5 / 6	6号竪穴住居址	焼きムラあり
31	151	石器	石鏃	長　1.72 幅　1.32 厚　0.31				包含層（番号51403）	重量0.6g，チャート
	152	石器	石鏃	長　2.79 幅　2.00 厚　0.50				包含層（番号51373）	重量1.9g，黒曜石
	153	石器	石鏃	長　3.37 幅　1.75 厚　0.33				包含層（番号50110）	重量1.0g，安山岩・片脚折れ
	154	石器	石鏃	長　2.92 幅　0.99 厚　1.01				包含層（番号51347）	重量1.2g，黒曜石
	155	石器	剥片	長　1.67 幅　2.35 厚　0.53				220号竪穴住居址	重量1.4g，黒曜石
	156	石器	剥片	長　1.18 幅　3.29 厚　0.63				473号遺構	重量1.2g，黒曜石
	157	石器	チップ	長　1.72 幅　0.93 厚　0.39				11号住居址	重量0.3g，黒曜石
	158	石器	調整剥片	長　0.96 幅　1.33 厚　0.19				包含層（番号51368）	重量0.3g，安山岩
	159	石器	使用痕のある剥片	長　4.30 幅　2.33 厚　0.75				3号溝	重量6.4g，黒曜石
	160	石器	加工痕のある剥片	長　2.34 幅　3.61 厚　1.19				撹乱	重量9.8g，チャート
	161	石器	黒曜石	長　4.27 幅　2.34 厚　0.80				包含層（番号50089）	重量9.8g，安山岩（岩戸産）
	162	石器	黒曜石	長　2.96 幅　1.97 厚　0.92				包含層	重量7.5g，黒曜石
	163	石製品	石斧	長　6.8 幅　6.6 厚　3.8				8号溝	重量169g，花崗岩

Ⅳ　本荘中地区の調査

1．医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営に伴う発掘調査（9801調査地点）

（1）調査の目的と経過

a．調査地と調査経過

今回の調査は平成８年度４月10日に開催された埋蔵文化財調査委員会において発掘調査が了承された事業の一つにあたり、周辺の状況から遺構の残りが良好であると判断されたため、試掘調査を行わず、即発掘調査を実施することとした。配水管切り替え・樹木伐採に伴う立会い調査を、６月26日～７月６日まで実施し、７月28日より本調査を開始した。調査は廃土処理の都合から、東側（Ⅰ区）と西側（Ⅱ区）に２分割して、Ⅰ区から調査を開始した。８月20日にⅠ区の調査を終了し、廃土を移動して８月26日からⅡ区の調査を開始した。Ⅱ区の調査は９月10日をもって無事終了したが、Ⅰ区において既存建物（図書館）下へ延びる溝を確認していたので、建物の取り壊し後、その下部を調査する予定であった。大学病院構内の発掘調査（9807）開始後間もない11月２日に建物が撤去された現地を重機によって遺構確認作業を行ったが、基礎コンクリート撤去の際、かなりの深さまで破壊しており、遺構はまったく残っていなかった。このため、この日をもって調査を終了した。なお、調査委員会による現地説明会は９月14日に実施した。

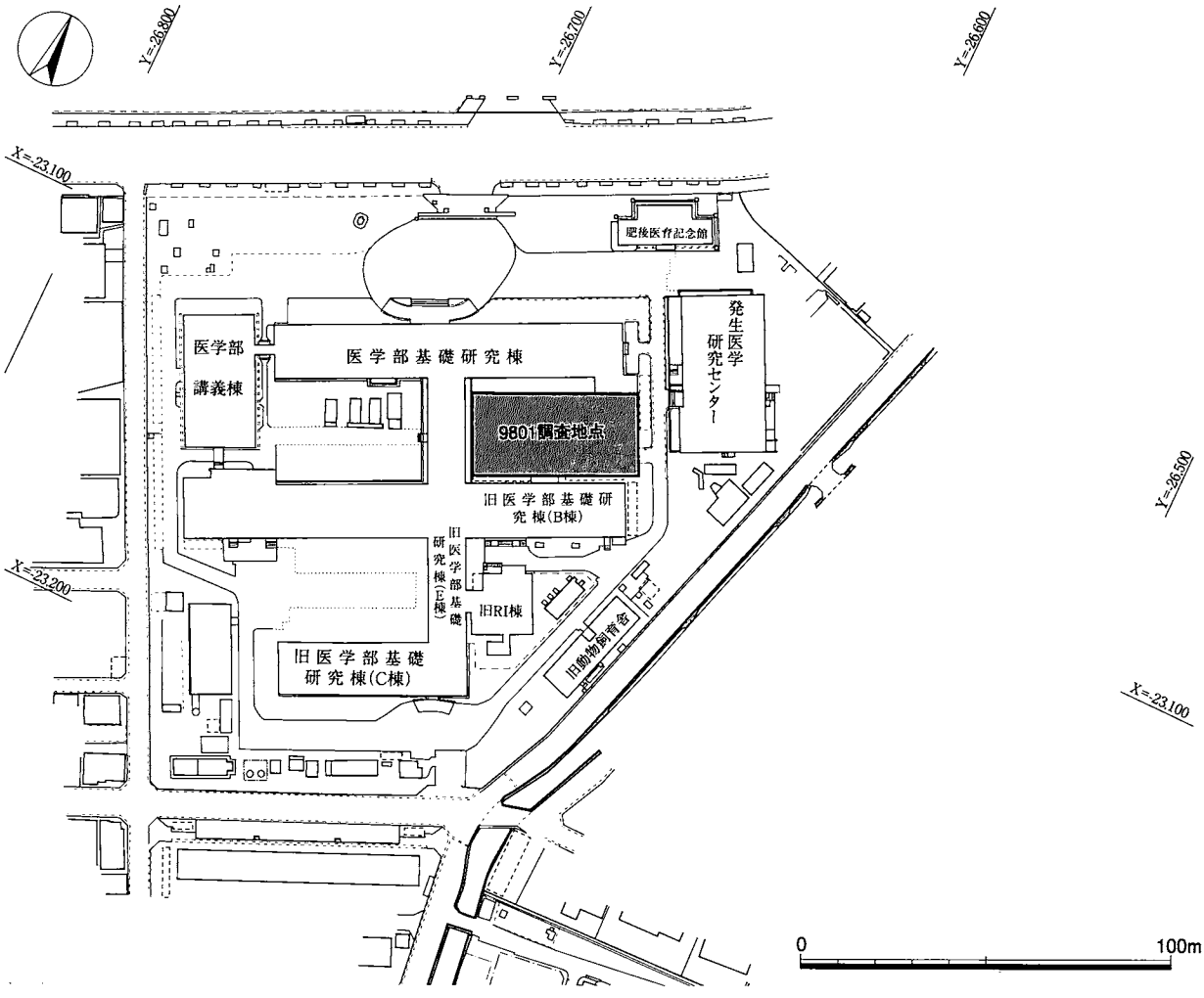


図32　本荘中地区における調査地点位置図（1 /2000）

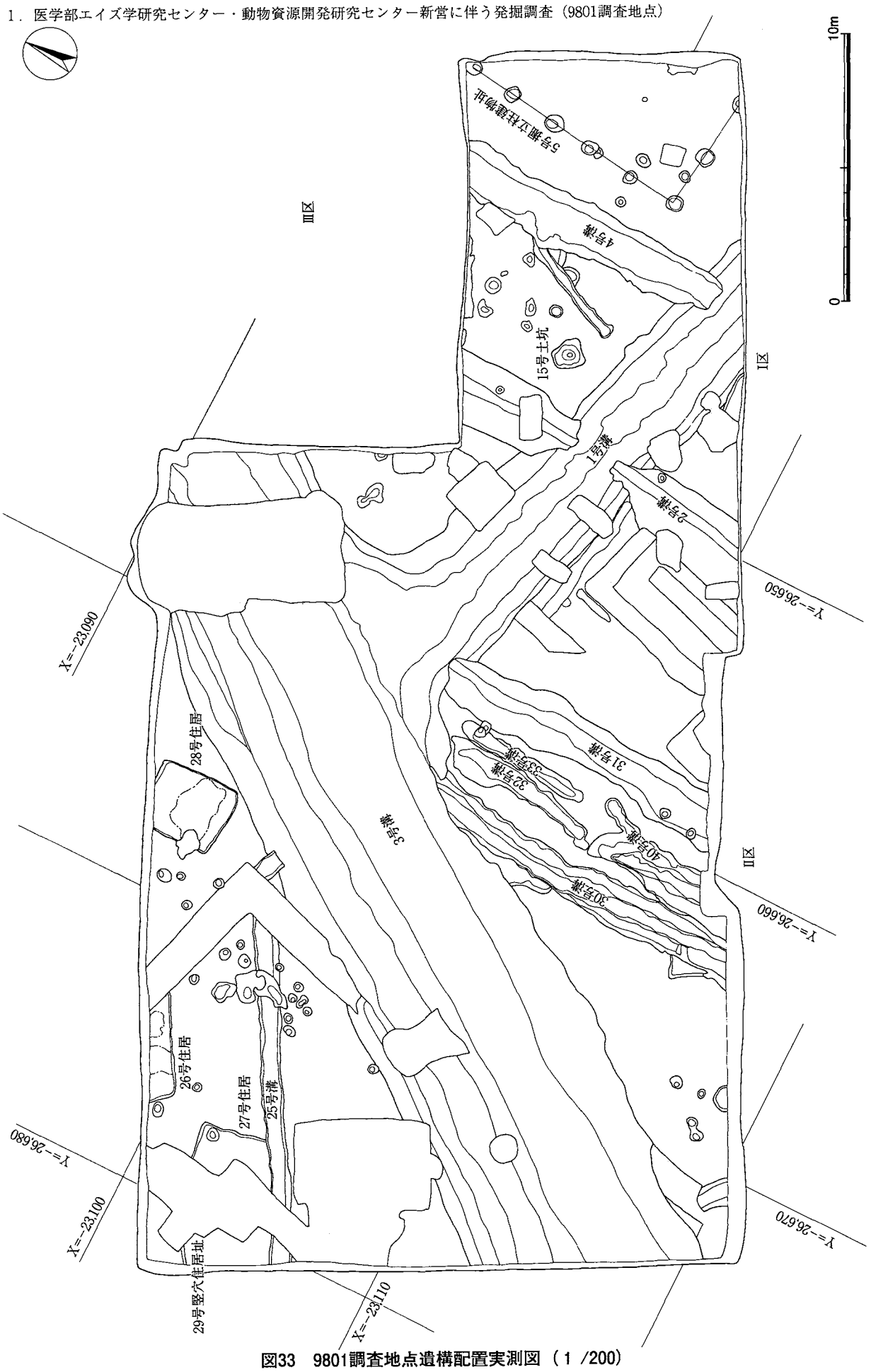


図33　9801調査地点遺構配置実測図（1 /200）

b．調査の経過

1998年７月28日　Ⅰ区調査開始。
1998年８月18日　Ⅰ区全体写真撮影。
1998年８月20・21日　Ⅱ区表土剥ぎ・排土移動。
1998年９月７日　Ⅱ区全体写真撮影。
1998年９月10日　発掘調査終了。

c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己・大坪志子
事務担当：松嶋木綿子
発掘作業員：江島賢一・岡崎光子・押方富江・緒方智子・甲斐田末男・黒木タケ子・古賀敬子・小細工洋子・白石美智子・新里亮人・高橋久美子・高松北子・土田ちえみ・橋口　剛・林田恵子・番山明子・福田久美子・藤江　望・藤木　聡・堀川貞子・松井昭子・丸山京子・水上順子・宮村邦子・森川征子・森川　護・森田ミドリ
整理作業員：江口　路・鬼塚美枝・小山正子・首藤優子・末吉美紀・土田ちえみ・長谷智子・林田恵子・増井弘子・山嵜早苗

（２）調査区の基本層序（図34）

本地点の基本層序は、同構内の旧調査地点（9511）とほぼ同じである。上からⅠ層－現代埋土（厚さ60～80cm）、Ⅱ層－黒褐色土層（10YR２／３）（厚さ40cm）、Ⅲ層－黒褐色土層（10YR２／２）（厚さ10～20cm）、Ⅳ層－黒褐色土層（10YR３／３）となり、その性格は、Ⅰ・Ⅱ層が現代埋土、Ⅲ層が近世・近代耕作土、Ⅳ・Ⅴ層が古代遺物包含層、Ⅴ層下部が縄文時代遺物包含層、Ⅵ層が地山となる。

本調査地点ではⅣ層とⅤ層の間に赤黒色の薄いマンガン沈殿層（2.5YR１／２）が認められ、これまで一括していた黒褐色土層が分離された。よって、今後、本層は古代の時期区分の鍵層となる可能性もある。

土色帳の表記によると、Ⅱ層～Ⅴ層まではすべて「黒褐色」という表現となるが、実感としては、Ⅲ層－「茶褐色」土層、Ⅳ・Ⅴ層－「黒褐色」土層、Ⅵ層－「黄褐色」土層であり、こちらの方が感覚に訴えやすく、通常の土層の呼び名としてはこちらを利用している（立会調査などでの表記法）。

（３）検出遺構

今回の調査で検出した主な遺構は、７～９世紀前半の溝８条、竪穴住居址３基、掘立柱建物１棟、土坑１基などである。このほか、近世の濠２条がある。

＜溝＞

３号溝（図33）

調査区を斜めに貫く、幅７ｍあまりの濠状の遺構であり、調査区の中央を北東から南西に斜めに走っている。東から延びる１号溝がこれに合流する。時期は本調査区検出遺構の中でももっとも新しい19世紀後半以降のものと考えられる。溝の方向はＮ－35°－Ｅで、水は南へ流下していたと考えられる。溝の断面形は逆台形を呈し、幅８ｍ、底辺幅４ｍ、深さ1.6mほどである。土層の堆積状況から一度に埋められた可能性もある。溝底からは部位や形状が不明な脆弱な動物骨の集積が２ヶ所ほど認められた。

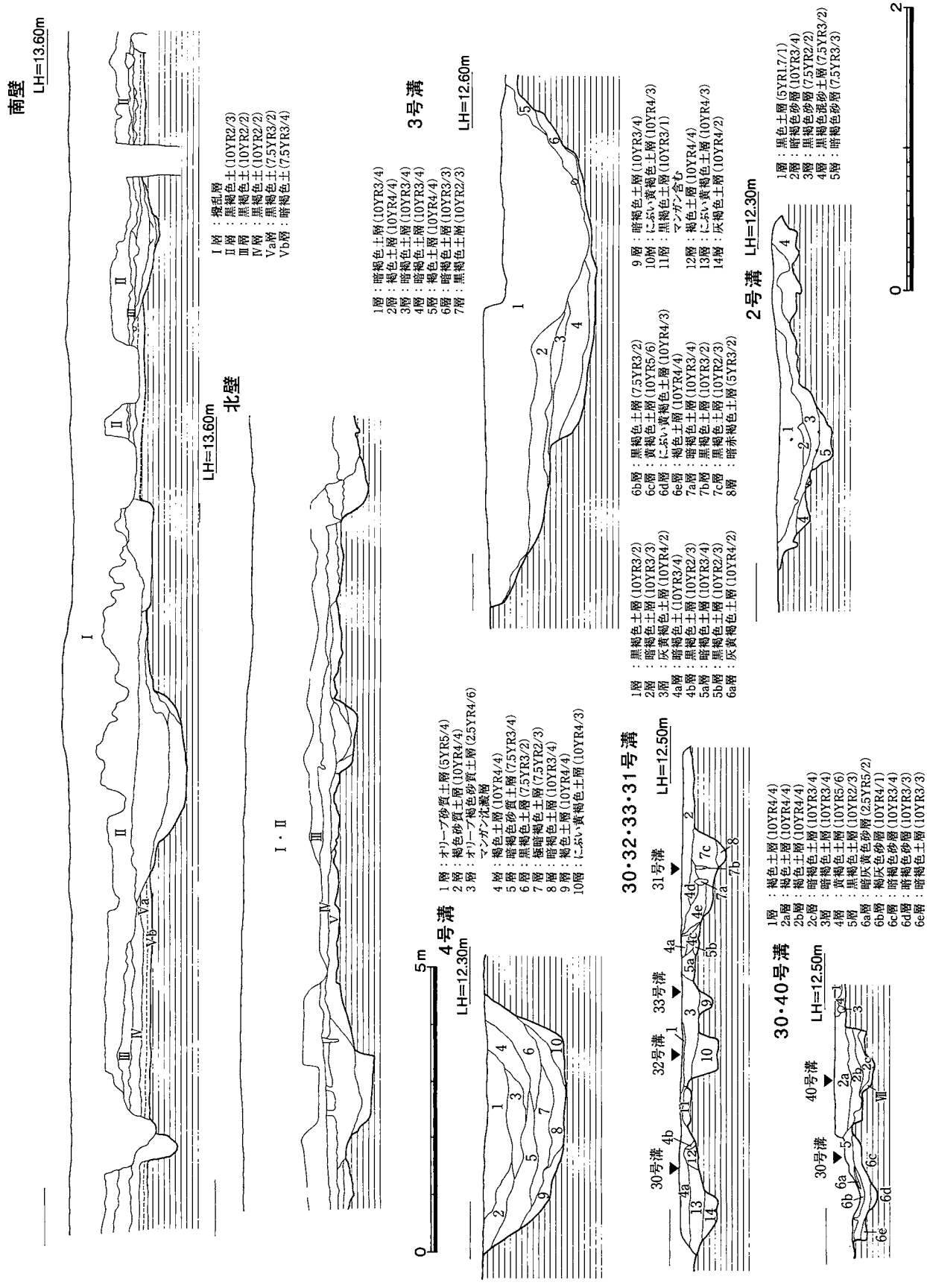


図34　調査区壁・各遺構土層断面実測図（1 /100・1 /40）

1号溝（図33）

3号溝と合流するE－25°－Sの溝である。検出面からの深さは1m、幅は4mで、断面形はほぼ逆台形である。3号溝と同時期と考えられる。

30～33・40号溝（図33）

調査区のほぼ中央部を南北方向に走る一連の溝群である。30号溝と31号溝は幅や深さともに明確な溝状を呈するが、他の溝は不整形で形状が一致しない。堆積層は砂層やマンガンの沈殿した固い層が互層となっており、水の影響を強く受けたことがわかる。遺物には古代を中心とした遺物が含まれている。

2号溝（図33）

Ⅰ区で検出した南北方向の溝である。幅2.5m、深さ0.4mで、中央部分にさらに幅40cm、深さ20cmの溝が付く二段掘りの構造をもつ。この面は水によるマンガン沈殿層で覆われ、非常に固い。この層の下にさらに皿状の掘り込みがあり、これが最初の溝の形状と思われ、マンガンの層を基準に上下2枚の層に区分した。この下層から青銅製の帯金具が出土した。上層の年代は8世紀後半代まで下る遺物が含まれるが、下層は7世紀後半～8世紀初頭の遺物を含み、設営時期はここまで遡るものと考えられる。よって蛇尾もこの時期に属すると考えられる。

4号溝（図33）

同じくⅠ区で検出した幅1.8m、深さ0.6mの断面形が逆台形の南北方向に走る溝である。溝中および基底部にマンガン沈殿層が存在し、層中でも3枚ほど確認できたが、遺物は5層下部のマンガン沈殿層を境に上下層に分けている。その遺物には、上層に8世紀後半までのものを含むが、下層には7世紀代の遺物を含むなど、時期的には2号溝とよく似ている。よって、溝の設営時期は2号溝とほぼ同じ時期と思われる。

なお、この4号溝は2号溝と平行し、南北に走ることから、道路の側溝とも考えられる。しかし、両者の形状が異なることやこの溝に流れ込む細い溝が道路面にあたる部分から検出されているため、今のところその可能性は保留しておきたい。

25号溝（図33）

Ⅱ区北西部で検出した幅70cm、深さ10～20cmの浅い溝である。方向は他の溝と異なり、調査区に平行するN－55°－Eである。遺物には6世紀末～7世紀初頭の須恵器・土師器片などが含まれていた。

＜竪穴住居址＞

28号竪穴住居址（図35）

Ⅱ区調査区北端で検出した竪穴住居である。竈を西壁にもち、縦2.5m、幅3.0mを測る。南寄りに硬化した床面が確認できた。柱穴は床内には検出できなかった。竈はすでに破壊されており、竈の材である砂岩ブロックや粘土とともに土器片が散在していた。焚口の焼けた基底面が30×50cmの範囲に残っていた。竈設営のための掘り穴が竈前面に直径70cm、深さ20cmで設けられている。竈からは土師器の甕形土器の破片が出土した。

26号竪穴住居址（図33）

調査区北壁に接して検出したもので、大半は調査区外へ延びる。検出面から深さ30cmほど残っており、硬化した床面を確認した。1辺は5mほどである。土師器坏が出土している。設営方向が25号溝と平行することから、25号溝と同時期の可能性もある。

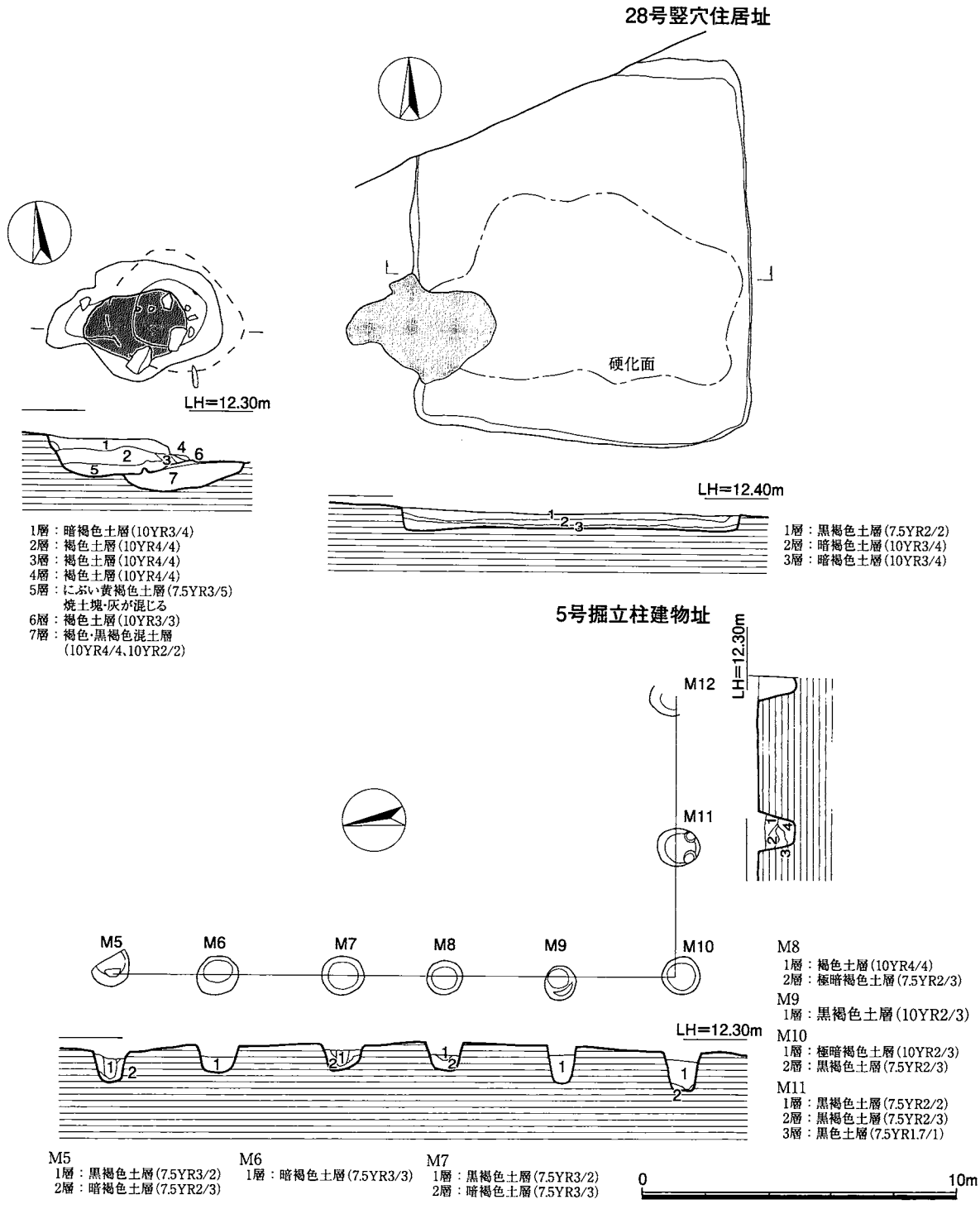


図35　28号竪穴住居址・5号掘立柱建物址実測図（1 /50）

27・29号竪穴住居址（図33）

調査区北西部で検出した方形の浅い遺構である。形状から竪穴住居としたが、性格を決定付ける明確な根拠はない。25号溝との切り合い関係も明らかではなかった。

＜掘立柱建物址＞

5号掘立柱建物址（図35）

Ⅰ区東端で確認した桁行5間、梁行2（以上）間の掘立柱建物である。柱間は90cmほどである。柱

穴は直径20～30cm、検出面からの深さ30cmほどのものである。方位は他の古代遺構と平行する南北方向である。約半分が調査区外に延びるため全体の規模は不明である。出土遺物は小片が多く、時期を決定しがたいが、方位などからみて８世紀後半以降のものであろう。

＜土　坑＞

15号土坑（図36）

Ⅰ区の２号溝と４号溝に挟まれた部分で検出した隅丸台形の土坑である。覆土は暗褐色土である。中央部に角礫９個があり、その下部より鉄鎌（図38：53）が出土した。礫には砂岩も含まれている。その下は一段深い直径70cm余りの穴となり、土師器坏が土坑の周縁から４個、穴の底に近い部分から１個出土した。北東隅に灰や骨混じりの層が堆積しており、掘り下げると一段深い穴を成していた。石や砂岩も焼けており、火葬墓とも考えられるが、副葬品としての土器がすべて欠損品であることから、ここではその可能性は保留しておく。

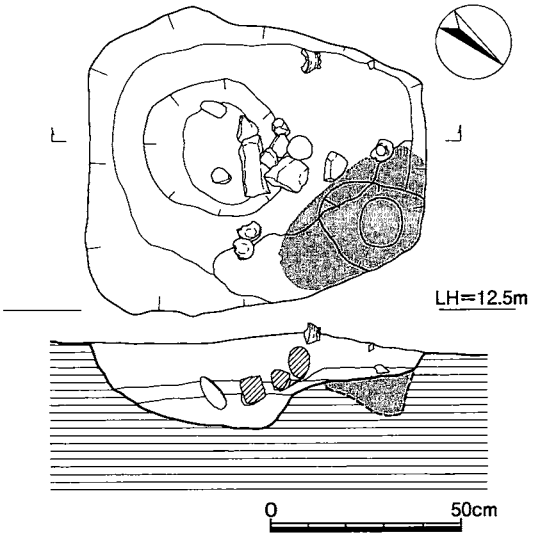


図36　15号土坑実測図（１/20）

（４）出土遺物

３・１号溝出土遺物（図37：１～8，写真図版33・34）

３号溝・１号溝からは１～８のような古代の須恵器坏・土師器・甑・布目瓦も出土しているが、写真図版33・34に示したような近世末～近代の陶磁器類が多量に出土している。陶器片を加工して直径３cmほどの丸い形にしたおはじきが３点ほど出土した（写真図版34上段２列中央）。

30～33・40号溝出土遺物（図37：９～29）

須恵器・土師器の坏・蓋・甕類を中心とした土器類が主体を占めている。19は須恵器の蓋を転用した硯であり、内面に墨痕が認められる。16は鞴の羽口の破片であり、先端部が解けてガラス質光沢をもつ。25は風化が激しくて、接点がみつからないが、同じ個体と思われ、図上で復元した。直径18cmの２段透かしをもつ須恵器の円面硯である。ただし、下段は透かしにならず、沈線で縦方向に連続した刻みを入れるのみである。これら遺物はおおよそ８世紀後半代に属するものである。

２・４号溝出土遺物（図37：30～34，図38：35～38）

上層からは図示したようなほぼ上記溝と同時期の遺物を含むが、下層は小片で図示していないが、反しのある須恵器蓋などが出土しており、７世紀後半～８世紀前半の時期が考えられる。青銅製の蛇尾（30）が下層から出土した。

25号溝出土遺物（図38：39～44）

本調査区の遺構の中でももっとも古相を示す遺物が出土している。須恵器坏（39）などからみて新しくても７世紀初頭を下ることはないものと思われる。土器類以外に土錘（44）が出土した。

26・28号竪穴住居址出土遺物（図38：45・46）

45は底面をヘラ削りした土師器の身の深い碗である。46は薄めの器壁をもつ甕形土器の口縁部破片である。

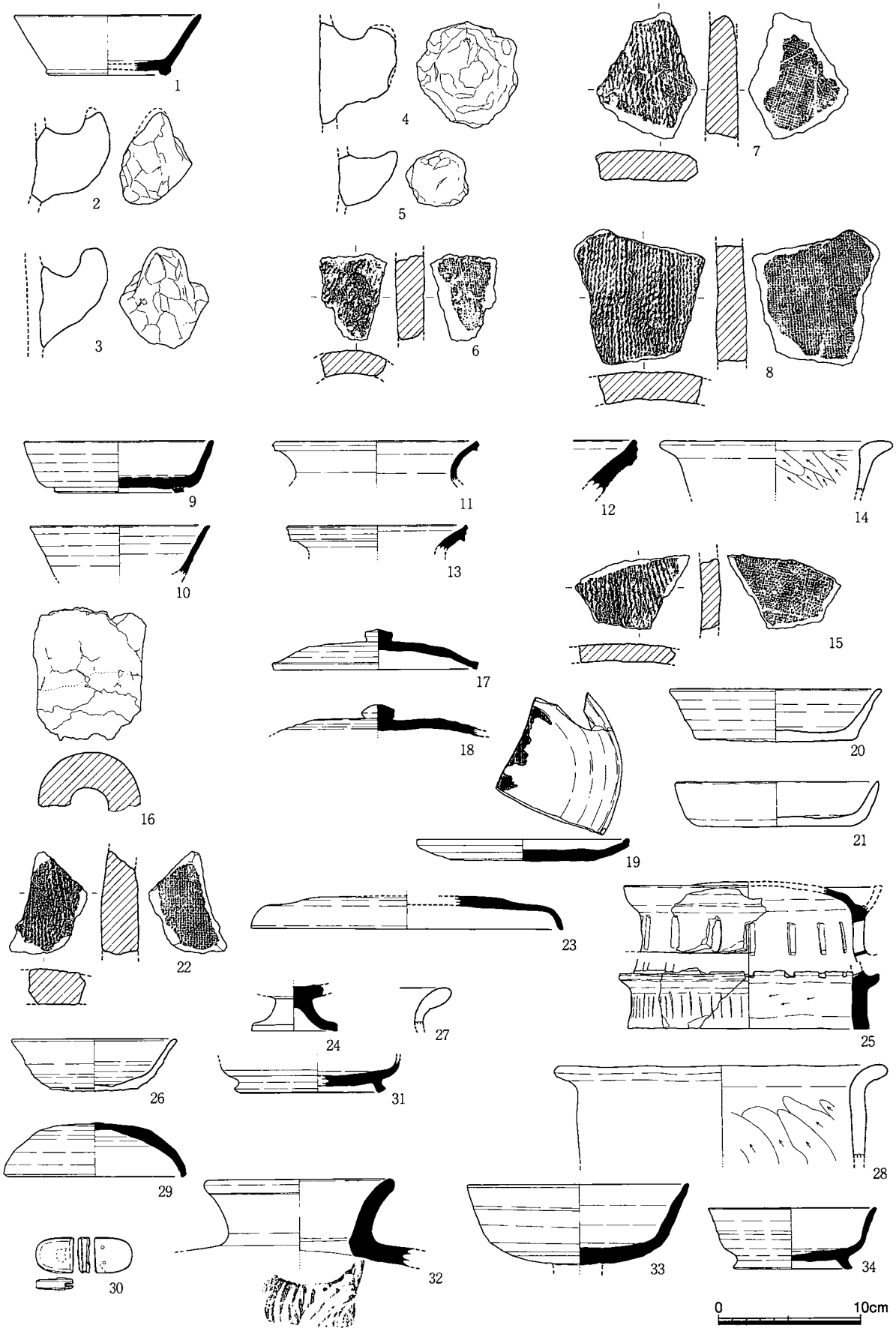


図37　9801調査地点出土遺物実測図１（１／４）

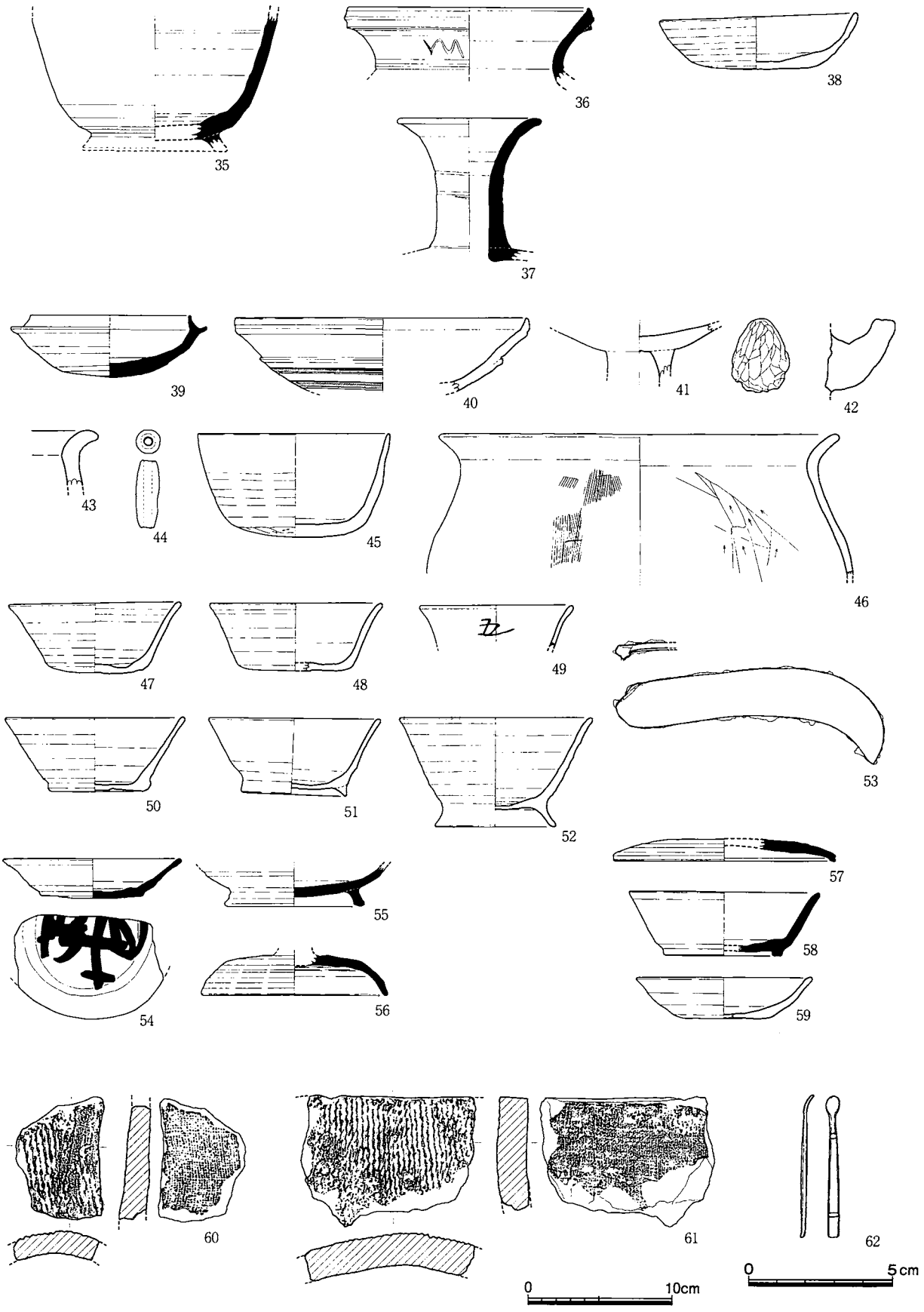


図38　9801調査地点出土遺物実測図２（１／４・１／２）

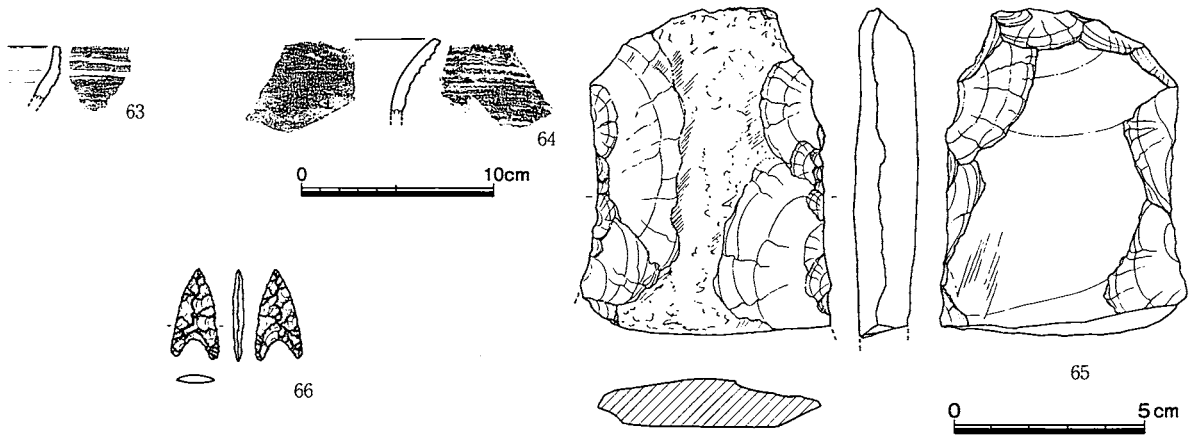


図39　9801調査地点出土遺物実測図３（１／４・１／２）

15号土坑出土遺物（図38：47～53）

破片も含めて４点の土師器坏（47～50）と土師器碗２点（51・52）が出土した。身が深く、器壁が外反する碗の特徴は９世紀前半以降の碗の特徴である。鉄鎌（53）は長さ14cm、幅3.4cm、厚さ3.4mmの完形品である。49の小片を除き、すべて煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性が高い。49は坏の口縁部破片であるが、外面に墨で「五（丑）」の字が書かれている。

その他の遺物（図38：54～62）

ピットや包含層から出土した主だった遺物を図示した。54は土師器坏であるが、底面に墨書で文字がかかれているが、判読できない。布目瓦（60・61）は１号溝などからも出土しており、わずかではあるが、瓦葺建物の存在を窺わせている。

縄文時代の遺物（図39：63～66）

包含層や古代の遺構から少量の縄文時代の遺物が出土している。土器は後期後半～晩期初頭のものであろう。打製石斧は二子山産と思われる安山岩を使用している。

（５）まとめ

今回の調査は、溝を中心とした遺構を検出したが、それら遺構群に３つの方向性が確認できた。

まず、７世紀代初の溝と考えられる小溝（25号溝）や26号竪穴住居址は、それ以降の時期のより東にふれた方位を示しており、７世紀後半期～９世紀前半の遺構がほぼ南北方向を基軸として設営されているのと対照的である。

南北方向（条里方向）を基軸とした古代の遺構で最も古いものは２号・４号溝であろう。設営時期は７世紀後半まで遡るものと思われる。この両者の性格は道路側溝の可能性もあるが、周辺の調査後にさらに検討を加えたい。

次の８世紀後半代～９世紀初には30・31号溝、それに挟まれた不整形の32・33・40号溝が属する。また、５号掘立柱建物址および28号竪穴住居址がこれに属する可能性がある。30～33号溝の溝内および周囲から土器片とともに硯片、平瓦片、鞴羽口片が出土しており、工房址および瓦葺建物の存在が予想される。

三番目の方向性は、１号溝および３号溝に代表されるように、近世以降、濠がやや方位を東に振って掘られている。

このような遺構にみられる方向性は大きな時期的まとまりと把握でき、今後、周辺遺跡の調査の際、遺構の時期把握に有効であろうと思われる。また、２号溝下層から発見された青銅製蛇尾は、希少なこの時期の帯金具例を新たに追加することとなり、成果の一つとして挙げられよう。

ただし、問題点としては、この２号・４号溝が条里のほぼ坪境に相当し、道路であれば坪境の道路として把握できるか否かが今後の検討課題として残ることである。また、調査区東端で検出した５号掘立柱建物址の発見は、それまで現在の川（クリーク）の状況から判断して、集落（生活遺構群）はあまり東に広がらないとの予想を覆すこととなった。これによって遺構の広がりはさらに東へ延びることが明らかになり、また、掘立柱建物のみで構成される区域が存在する可能性もあることから、今後の周辺の調査は注意を要する。

また、この一帯は遺構中に水成作用によるマンガン沈殿層が認められ、２号・４号溝のように時期区分の鍵になるものも存在する。今後はその成因および時期について地質学的に検討を重ねなければならない。

表5　9801調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
37	1	須恵器	碗	口径 13.1 底径 8.8 器高 4.3	1／4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 5 Y 6／1 外：Hue 5 Y 5／1	3号溝	
	2	土師器	甑	口径 底径 器高	取手のみ	内： 外：ナデ，削り	内：Hue 5 YR 6／6 外：Hue 5 YR 6／4	3号溝	
	3	土師器	甑	口径 底径 器高	取手のみ	内： 外：ナデ，削り	内：Hue 外：Hue 7.5YR 7／4	1号溝	
	4	土師器	甑	口径 底径 器高	取手のみ	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue 2.5YR 6／6 外：Hue 2.5YR 6／6	1号溝	
	5	土師器	甑	口径 底径 器高	取手のみ	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue 10YR 6／4 外：Hue 10YR 6／4	1号溝	
	6	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：縄目	内：Hue 2.5Y 6／1 外：Hue 2.5Y 4／1	1号溝	
	7	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：縄目	内：Hue 2.5Y 7／2 外：Hue 2.5Y 7／2	1号溝	
	8	瓦	布目瓦	口径 底径 器高		内： 外：	内：Hue 外：Hue	1号溝	
	9	須恵器	碗	口径 13.2 底径 9.0 器高 3.6	底部1／4	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue 5 Y 6／1 外：Hue 5 Y 5／1	30号溝	
	10	須恵器	碗	口径 12.6 底径 器高	口縁1／4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 7.5Y 5／1 外：Hue 10Y 4／1	30号溝	
	11	須恵器	壺	口径 14.4 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue 10Y 4／1 外：Hue 7.5Y 4／1	30号溝	内面に自然釉？
	12	須恵器	壺	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 5 Y 6／2 外：Hue 5 Y 6／2	30号溝	外面に波状文
	13	須恵器	壺	口径 12.6 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue 7.5Y 6／1 外：Hue 7.5Y 6／1	30号溝	外面に自然釉
	14	土師器	甕	口径 16.4 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ	内：Hue 10YR 6／3 外：Hue 5 YR 6／6	30号溝	
	15	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：縄目	内：Hue 10YR 6／2 外：Hue 10YR 7／4	30号溝	
	16	土製品	鞴羽口	口径 底径 器高	破片	内： 外：ナデ	内：Hue 5 YR 5／4 外：Hue 5 YR 6／6	30号溝	
	17	須恵器	蓋	口径 14.5 底径 器高 2.9	約3／4	内：ナデ，削り 外：ナデ，削り	内：Hue 5 Y 8／1 外：Hue 7.5Y 6／1	31号溝	
	18	須恵器	蓋	口径 底径 器高	1／3	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue 5 Y 5／2 外：Hue 5 Y 6／2	31号溝（Ⅱ）・包含層・397	
	19	須恵器	蓋転用硯	口径 15 底径 器高 1.5	1／6	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 外：Hue	31号溝	内面に墨痕、硯として使用
	20	土師器	坏	口径 15 底径 11.3 器高 3.7	2／3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 外：Hue	31号溝	底面ヘラ切り、内外面一部スス付着
	21	土師器	坏	口径 14.4 底径 10.8 器高 3.1	1／4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR 5／4 外：Hue 7.5YR 5／4	31号溝	
	22	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：縄目	内：Hue N 4／4 外：Hue N 5／5	31号溝	
	23	須恵器	蓋	口径 22 底径 器高	1／4	内：ナデ，削り 外：ナデ，削り	内：Hue N 5／0 外：Hue N 5／0	32号溝	
	24	須恵器	高坏	口径 底径 6 器高	脚部のみ	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue 7.5Y 5／1 外：Hue 7.5Y 6／1	M32	自然釉
	25	須恵器	円面硯	口径 底径 16.8 器高	破片	内：ナデ，削り 外：ナデ，線刻	内：Hue 5 Y 7／1 外：Hue 5 Y 7／1	30号溝・32号溝・包含層	
	26	土師器	坏	口径 11.4 底径 6.2 器高 3.7	1／2	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5YR 7／3 外：Hue 7.5YR 7／3	33号溝	
	27	土師器	甕	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 7.5YR 6／6 外：Hue 10YR 6／6	33号溝	
	28	土師器	甕	口径 23.5 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，削り 外：ナデ	内：Hue 5 YR 5／4 外：Hue 7.5YR 6／6	33号溝	
	29	須恵器	蓋	口径 12.8 底径 器高 3.8	1／2	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue 7.5Y 5／1 外：Hue 7.5Y 5／1	40号溝	
	30	青銅製品	錺具蛇尾	長 2.52 幅 2.63 厚 0.71	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	2号溝	重量14ｇ
	31	須恵器	碗	口径 底径 9.4 器高	1／4	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue N 5／0 外：Hue N 4／0	2号溝	
	32	須恵器	壺	口径 13.2 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，タタキ 外：ナデ，タタキ	内：Hue 2.5Y 7／2 外：Hue 2.5Y 7／2	2号溝	
	33	須恵器	高坏	口径 15.5 底径 器高	1／3	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue 2.5Y 6／2 外：Hue 2.5Y 6／1	4号溝	

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残　存　量	特　徴	色　　調	出土遺構	備　　考
37	34	須恵器	碗	口径　11.9 底径　8.4 器高　4.3	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 4 / 2 外：Hue　7.5YR 3 / 1	4号溝	
38	35	須恵器	壷	口径 底径 器高	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　7.5Y 5 / 1 外：Hue　10GY 3 / 1	4号溝	
	36	須恵器	壷	口径　16.9 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　5 YR 6 / 3 外：Hue　5 YR 6 / 3	4号溝	
	37	須恵器	長頸壷	口径　10.1 底径 器高	口縁、頸部のみ	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　2.5Y 5 / 2 外：Hue　N 5 / 0	4号溝	
	38	土師器	坏	口径　14 底径　6.9 器高　4	2 / 3	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　2.5YR 6 / 6 外：Hue　2.5YR 6 / 6	4号溝	
	39	須恵器	坏	口径　10.9 底径 器高　4.3	2 / 3	内：ナデ 外：ナデ，へラ削り	内：Hue　10Y 6 / 1 外：Hue　10Y 6 / 1	25号溝	内面にへら書
	40	土師器	鉢	口径　20.4 底径 器高	1 / 5	内：ナデ 外：ナデ，削り，ハケ目	内：Hue　5 YR 7 / 8 外：Hue　5 YR 7 / 8	25号溝	
	41	土師器	高坏	口径 底径 器高	破片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 4	25号溝	外面丹塗り？
	42	土師器	甑	口径 底径 器高	取手	外：ナデ，削り	外：Hue　10YR 6 / 4	25号溝	
	43	土師器	甕	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 4 外：Hue　10YR 8 / 4	25号溝	丹塗り
	44	土製品	錘	長さ　4.7 幅　1.65 厚さ　1.65	完形	外：ナデ	外：Hue　10YR 5 / 4	25号溝	
	45	土師器	碗	口径 底径　9.7 器高	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 6 / 4	26号竪穴住居址	底面、外面に爪痕
	46	土師器	甕	口径　28 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ，ハケ目	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　10YR 7 / 3	28号竪穴住居址	
	47	土師器	坏	口径　12 底径　6.9 器高　4.9	3 / 4	内：ナデ，削り 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 6	15号土坑	
	48	土師器	坏	口径　12.6 底径　7.9 器高　5.2	約1 / 2	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 6	15号土坑	内、外面にスス付着
	49	土師器	坏	口径　10.9 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 6 / 8 外：Hue　2.5YR 6 / 8	15号土坑	墨書
	50	土師器	坏	口径　12.6 底径　7 器高　5.2	3 / 4	内：ナデ，削り 外：ナデ	内：Hue　5 YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 6	15号土坑	外底面に板目痕
	51	土師器	碗	口径　12 底径　7.4 器高　5.3	ほぼ完形	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 6	15号土坑	外底面に板目痕
	52	土師器	碗	口径　13.6 底径　8.4 器高　7.6	2 / 3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　2.5Y 6 / 3	15号土坑	内、外面にスス付着
	53	鉄器	鏃	長　19 幅　3.4 厚　0.3	ほぼ完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	15号土坑	
	54	須恵器	坏	口径　12.4 底径　7.1 器高　2.7	1 / 2	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　5 Y 6 / 1	44号遺構	墨書（判読不可）
	55	須恵器	碗	口径　13.3 底径　7 器高　7.2	底部のみ	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　10YR 7 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 4	48号遺構	
	56	須恵器	蓋	口径　12.9 底径 器高	1 / 6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　2.5G 5 / 1 外：Hue　N 5 / 0	包含層	
	57	須恵器	蓋	口径　15.7 底径 器高　1.5	1 / 6	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　7.5Y 6 / 1 外：Hue　7.5Y 7 / 1	包含層	
	58	須恵器	碗	口径　13.4 底径　8.3 器高　4.4	1 / 4	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　7.5Y 8 / 1 外：Hue　7.5Y 8 / 1	包含層	
	59	土師器	坏	口径　12.5 底径　6.3 器高　2.8	1 / 3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　5 YR 7 / 6 外：Hue　5 YR 7 / 6	包含層	
	60	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：縄目	内：Hue　2.5Y 6 / 2 外：Hue　2.5Y 7 / 1	撹乱	
	61	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：縄目	内：Hue　10YR 5 / 1 外：Hue　10YR 7 / 2	包含層	
	62	鉄器	耳掻き	口径 底径 器高		内： 外：	内：Hue 外：Hue	包含層	
39	63	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，磨き 外：ナデ，磨き	内：Hue　2.5Y 5 / 3 外：Hue　10YR 5 / 3	17号遺構	口縁部に沈線
	64	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 5 / 4 外：Hue　7.5YR 5 / 4	包含層	
	65	石器	石斧	長　8.44 幅　6.47 厚　1.18				撹乱	重量112g，安山岩（二子山産）
	66	石器	石鏃	長　2.36 幅　1.29 厚　0.29				4号溝	重量0.7g，黒曜石（中里産）

V　本荘北地区の調査

1．薬学部注射患者毎セット支給室取設工事に伴う発掘調査（9807調査地点）

（1）調査の目的と経過

a．調査地と調査経過

今回の調査は年度当初平成10年度予定に組まれていなかった事業であったため、9月11日に施設部と協議を行った。協議の結果、9月末から10月初めにかけて大学病院病棟および中央診療棟建築予定地と一緒に試掘調査を実施することとし、上記予定地の試掘を終了した9月28日に本地区の試掘調査を行った。中庭という条件のため重機が使用できず、1×1mの試掘トレンチを2ヶ所設定し人力によって掘削したところ、地表下90cmで古代の遺物包含層を確認した。このため、施設部および大学病院との協議の上、10月末より全面発掘調査を実施することとした。

b．調査の経過

1998年10月28日　本調査区（175㎡）発掘調査開始。
1998年11月4日　基準点測量・測量点移設。
1998年11月5日　4・5・6号住居址掘り上げ。
1998年11月10日　300・400号掘立柱建物柱穴掘り上げ。
1998年11月12日　ピット掘り上げ。
1998年11月13日　全体写真撮影。
1998年11月20日　調査終了。

c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己
事 務 担 当：松嶋木綿子
発掘作業員：伊賀上ユリ子・岡崎光子・岡田イツ代・押方富江・甲斐田末男・河合章行・河野義勝・黒木タケ子・古賀敬子・小細工洋子・白石美智子・高松北子・溜渕俊子・番山明子・福田久美子・福田はつ子・堀川貞子・松井昭子・水上順子・森川征子・森川護・森田ミドリ
整理作業員：江口　路・鬼塚美枝・小山正子・首藤優子・末吉美紀・土田ちえみ・長谷智子・林田恵子・増井弘子・山嵜早苗

（2）調査区の基本層序（図41）

調査地の基本層序は、以下のとおりである。

Ⅰ層－表土（厚さ50cm）、Ⅱ層－現代埋土（厚さ20cm）、Ⅲ層－黒褐色土層（7.5YR 3／2）（厚さ15cm）、Ⅳa層－黒褐色土層（7.5YR 3／1）（厚さ20cm）、Ⅳb層－黒褐色土層（5 YR 3／2）（厚さ15cm）、Ⅴ層－黒褐色土層（厚さ25cm）（7.5YR 2／1）、Ⅵ層－暗褐色土層（10YR 3／3）。

Ⅲ層が近代･近世の耕作土層で、Ⅳa～Ⅴ層が古代～縄文の遺物包含層、Ⅵ層が地山である。縄文時代の遺物はⅤ層下面から出土する。通常、肉眼でみて呼称する土層の名前（立会調査時の記録に使用）と対比すると、Ⅲ層が淡茶褐色土層、Ⅳ・Ⅴ層が黒褐色土層、Ⅵ層が黄褐色土層に相当する。なお、Ⅳ層は南壁では分離できなかった。

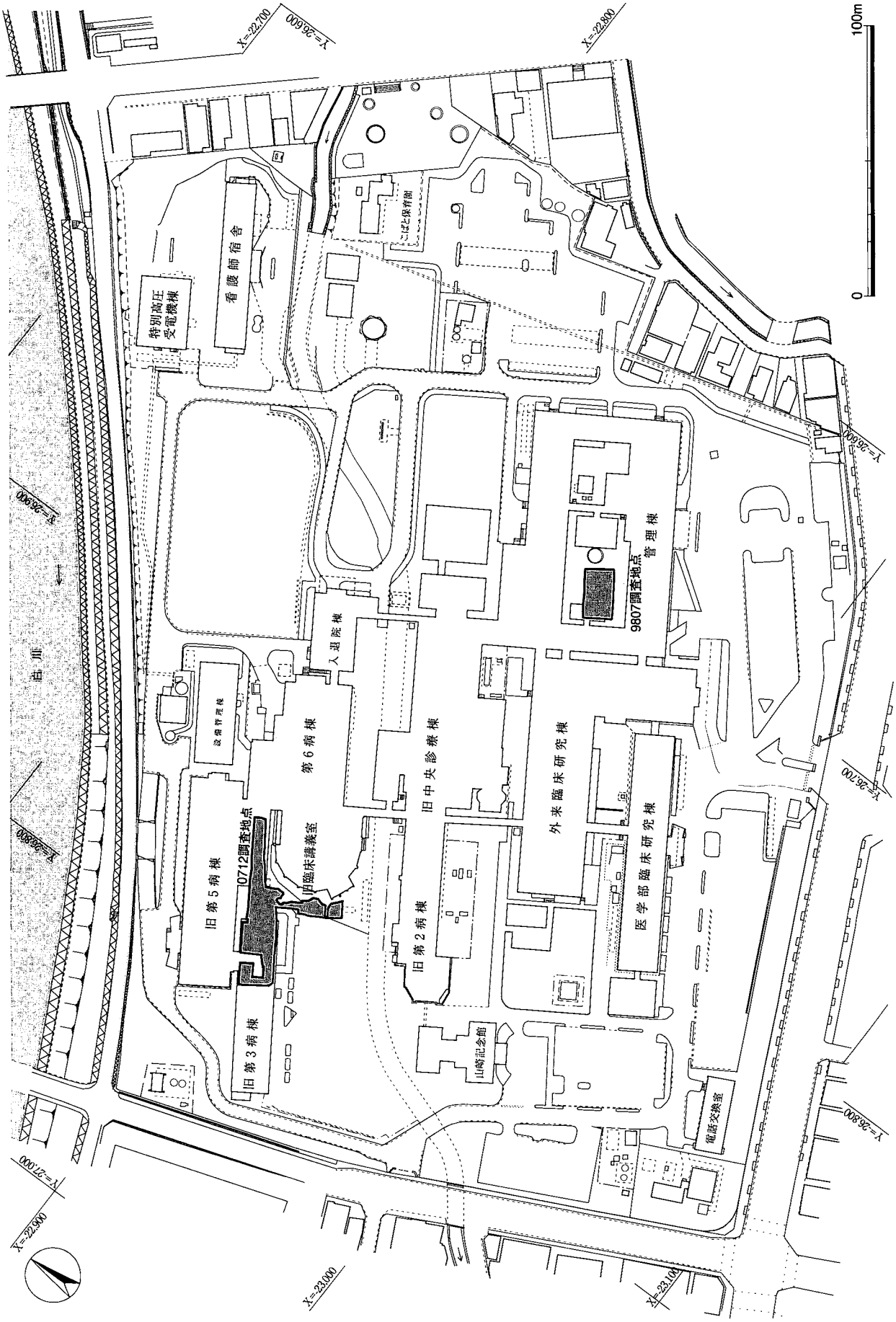
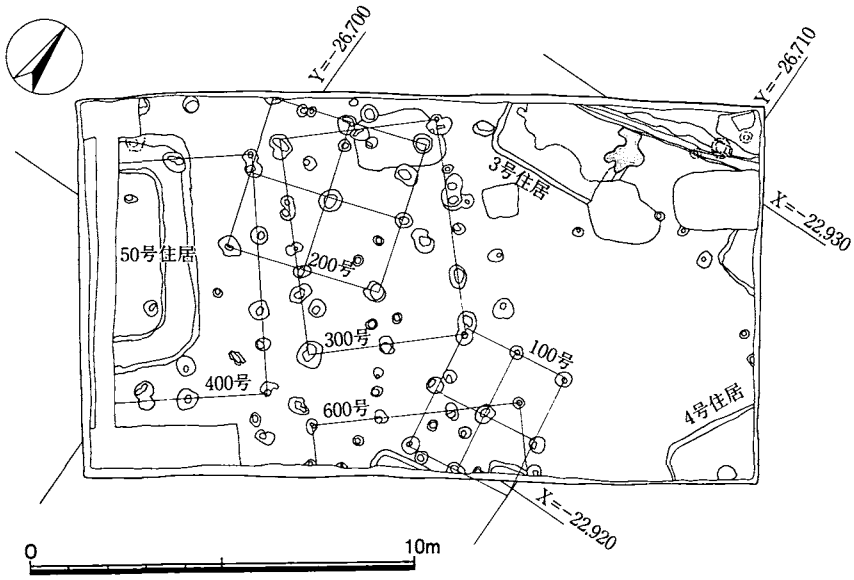


図40　本荘北地区における調査地点位置図（1 /2000）



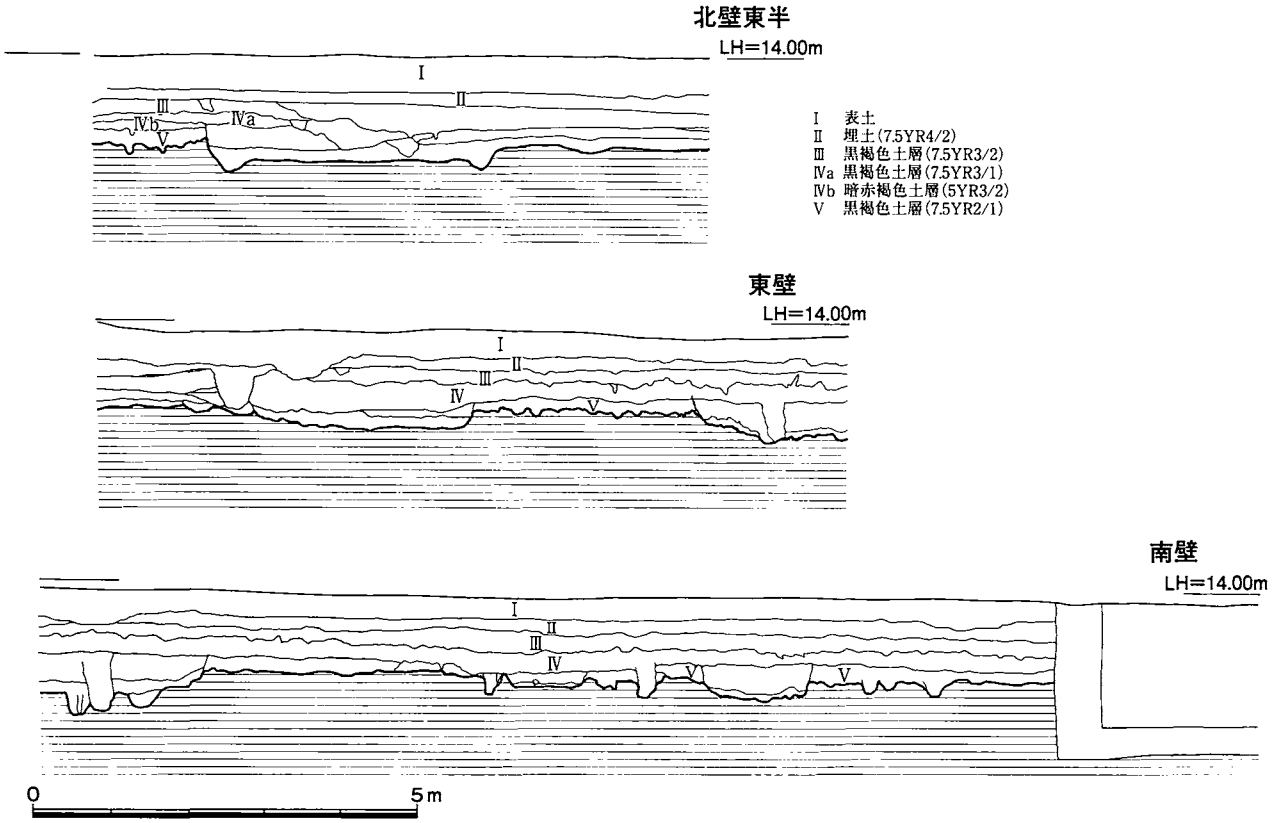


図41　9807調査地点遺構配置・壁土層実測図（1 /200・ 1 /100）

（3）検出遺構

今回の調査では、7世紀後半～8世紀初頭の竪穴住居址2基、掘立柱建物址（2×3間）3基、8世紀後半～9世紀初の竪穴住居址4基、掘立柱建物址（2×2間）2基、近世？道路1を検出した。

＜道路跡＞（図43）

調査区の北西隅で検出した道路遺構（道路面2）である。調査区外へ延びるため規模は不明である

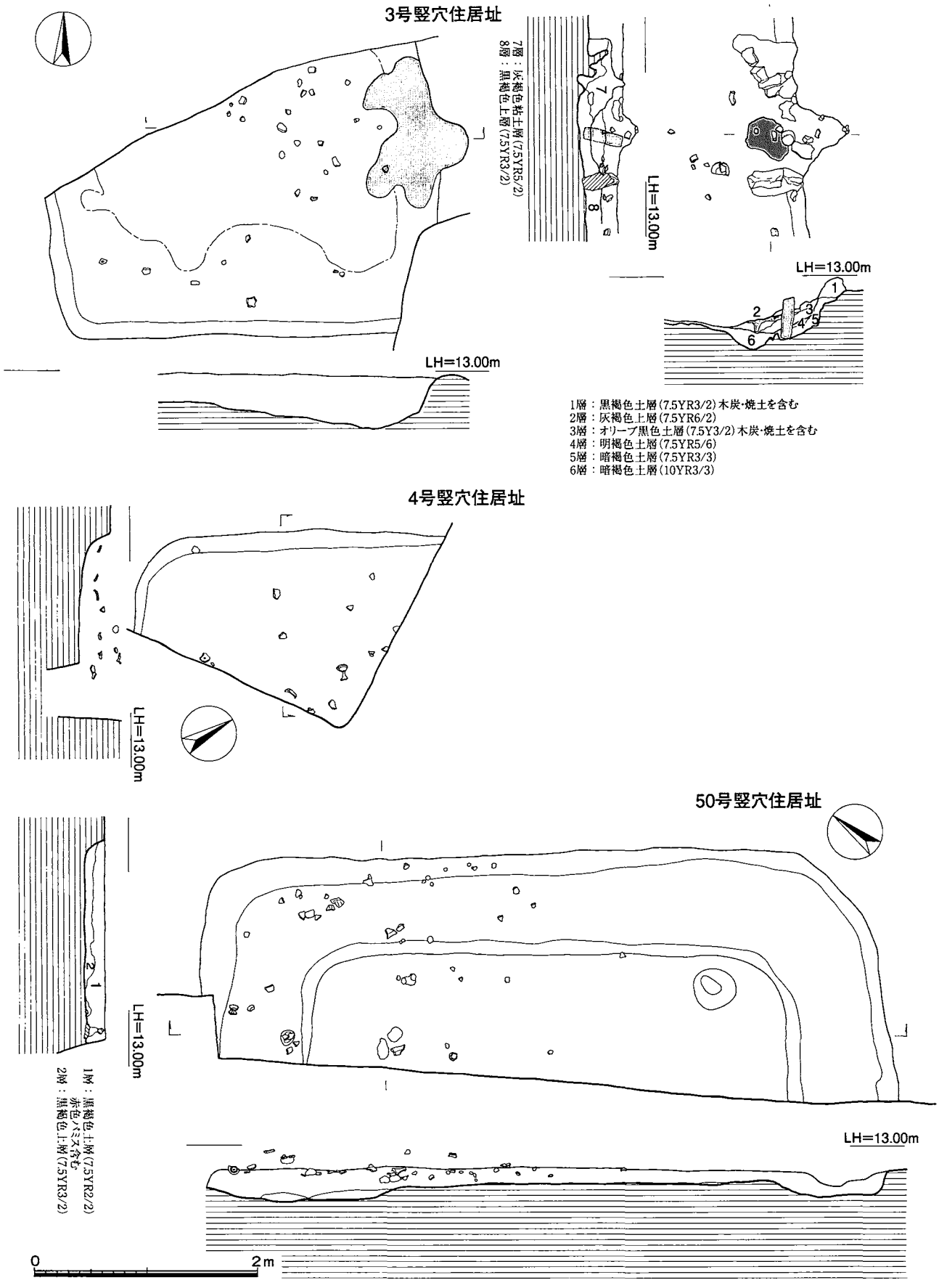


図42　3・4・50号竪穴住居址実測図（1/50）

が、方向はほぼ東西であり、約10°南へ振れる。幅20～30cm、深さ20cmあまりの側溝をもつ。溝の覆土中には砂層が認められ、断続的に水が流れ込んでいたようである。溝は2本認められ、2時期の作り替えが認められる。古代の遺物包含層であるⅣ層を切っており、これ以降の時期のものと思われる。また、Ⅲ層上面とレベルが同じところにも硬化した道路と思われる面（道路面1）が認められ、近代まで継続して使用されたものと考えられる。

＜竪穴住居址＞

3号竪穴住居址（図42）

約1／3ほどを道路遺構に切られる。方向はほぼ東西方向である。竈は東壁に取り付く。長軸の長さ3.5mで、深さは検出時点で25cmである。本来の掘り込み面はⅣb層上面であり、本来の深さは50cm以上あったものと思われる。竈を挟むように中央部に硬化した床面を確認した。柱穴は確認できなかった。竈はすでに破壊されていたが、焚口の焼土と支柱そして両袖部の痕跡を確認できた。支石および右側袖の基礎石には一帯の基盤層中にある軟質の砂岩ブロックを加工して用いている（図45：47）。遺物から8世紀後半の時期と思われる。

4号竪穴住居址（図42）

調査区東隔壁に接して検出したもので、大半は調査区外へ延びる。検出面から深さ30cmほど残っており、硬化した床面および柱穴は確認できなかった。遺物の特徴から7世紀後半～8世紀初頭の時期が考えられる。

この他三基ほど竪穴住居祉のコーナー部分と思われる遺構を検出している。5号遺構、6号遺構、34号遺構がそれであるが、時期は明確でない。

50号竪穴住居址（図42）

調査区西壁にかかって検出した長さ6mあまりの方形の浅い遺構である。形状から竪穴住居址としたが、その性格は明確でない。当初2つの住居の切り合いと思い、掘り下げたところ、共通する周溝状の浅い掘り込みが認められ、最終的に一つの遺構と判断した。7世紀後半～8世紀初頭の遺構と考えられる。

＜掘立柱建物址＞

100号掘立柱建物址（図43）

調査区南側中央部で確認した桁行2間、梁行2間の掘立総柱建物である。柱間は南北方向が1.8m、東西方向が1.5mである。柱穴は直径40～50cm、検出面からの深さは60cmである。柱痕の直径は約15cmである。出土遺物は103号と105号ピットから土師器の甕形土器片6点が出土したのみで、時期決定の決め手を欠く。

200号掘立柱建物址（図43）

調査区北側西よりの地点で検出した桁行2間、梁行2間の掘立総柱建物である。100号掘立柱建物址に比べ若干方位が西へ振れる。柱間は南北・東西方向ともに2mで、正方形に近いプランをもつ。柱穴は直径40～60cm、検出面からの深さは80cm、柱痕の直径は約15cmである。出土遺物は土師器の甕形土器の細片が多く、遺物からは明確な時期を決め難い。

300号掘立柱建物址（図43）

調査区西側の地点で検出した桁行4間、梁行2間の掘立柱建物である。ほぼ200号掘立柱建物と重なる。柱間は桁で1.8～2m、梁で2mであるが、桁の中央にやや小型の柱穴があり、これとその両側の柱間は1～1.2mと狭くなっている。柱穴は直径30～50cm、検出面からの深さが20～60cmほどである。柱痕の直径は約10cmと思われる。出土遺物には時期の決め手になるようなものはないが、

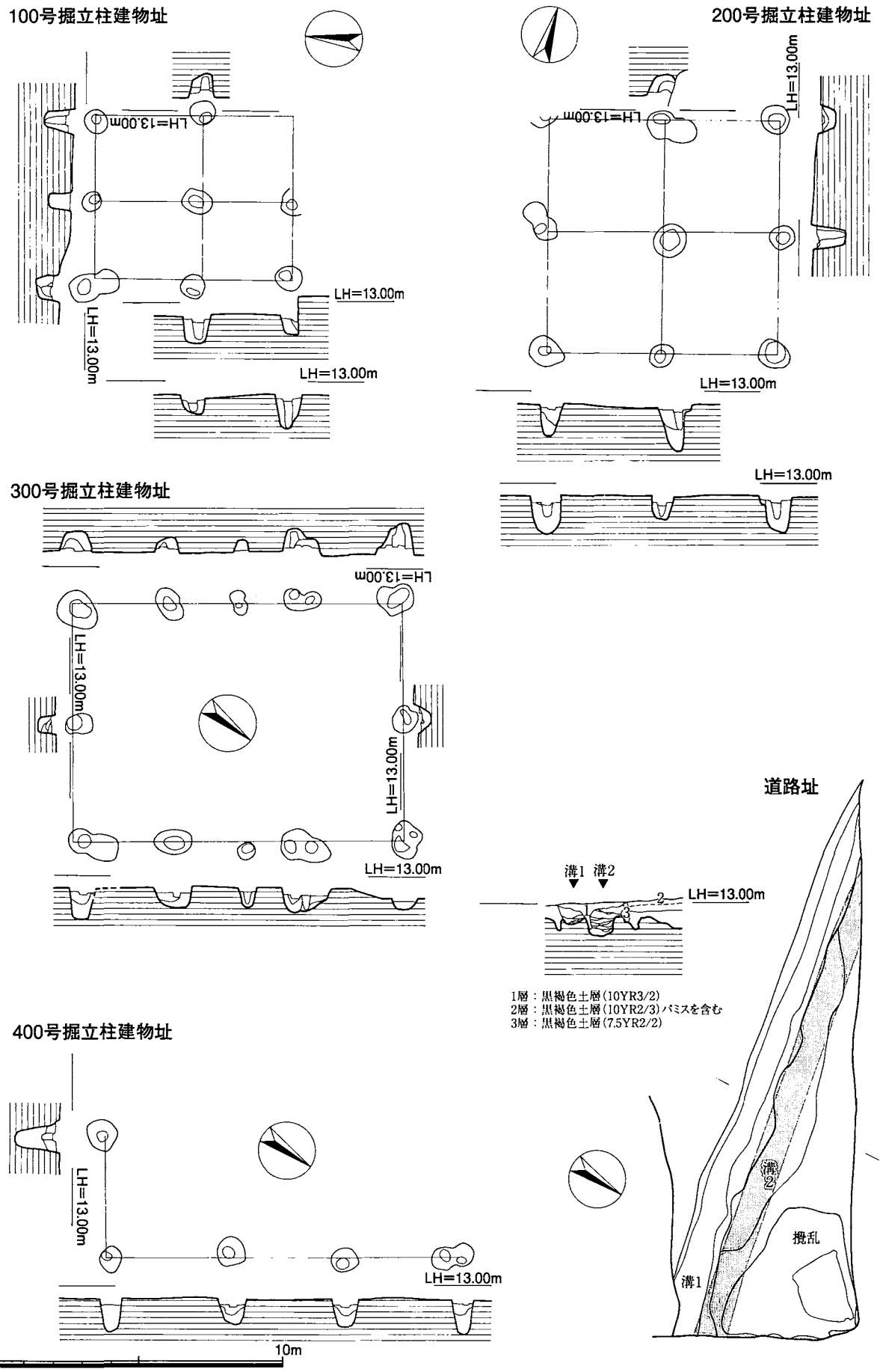


図43　100・200・300・400号掘立柱建物址・道路跡実測図（1 /100）

先の200号掘立柱建物址の202号ピットがある。本建物の308号ピットとの切り合いから、200号掘立柱建物より古い時期のものであることがわかる。柱穴はいずれも２個重なっており、建替えによる。

400号掘立柱建物址（図43）

調査区西側の50号遺構と重なる部分で検出した桁行３間、梁行２（以上？）間の掘立柱建物である。ほぼ300号掘立柱建物と平行する。柱間は桁・梁ともに２ｍである。柱穴の直径は50cm、検出面からの深さが60～80cm ほどである。柱痕の直径は約15cm である。

出土遺物は須恵器･土師器の細片が多いが、405号ピットの底から20cm 上のところから完形の須恵器蓋（図45：40）が出土している。遺構の時期は７世紀後半代と考えられる。

600号掘立柱建物址（図41）

300号掘立柱建物址の南側に平行する桁行３間、梁行１（以上？）間の掘立柱建物である。調査後に建物址であると認定した。８号・９号・10号・502号・503号ピットで構成される。柱間は桁･梁ともに1.8ｍである。柱穴の直径は30cm、検出面からの深さは30cm である。出土土器は細片が多く、時期は決め難い。

掘立柱建物址のこの２つの方向柱は時期差を表すものと考えられ、切り合い関係も勘案して、条里方向に沿わず東に振れる建物群（300･400･600号）が７世紀代～８世紀初のもので、南北方向の建物群（100・200号）が８世紀後半に属すると考えられる。

（４）出土遺物

50号竪穴住居址出土遺物（図44：１～11）

須恵器の碗（１）･高坏（２）や土師器碗（３・４）･坏（５・６）･甕（７～11）などがあるが、３や６は出土レベルが他より15～20cm 上であり、後世の時期（９世紀中ごろ）のもので、遺構の設営時期を表すものではない。よって、７世紀後半～８世紀初頭がこの遺構の時期と考えられる。

３号竪穴住居址出土遺物（図44：12～23）

竈周辺から細片化した土師器の坏（14・15）･甕形土器（19・20）や甑（15）が出土した。22・23は布目瓦の丸瓦と平瓦の破片である。

４号竪穴住居址出土遺物（図44：24～34）

出土遺物は須恵器高坏（29）･蓋（24～27）･壺（31）･碗（30）と土師器の蓋（32）･丹塗りの皿形土器（34）、内面黒色の篦磨研土器の坏（33）などが出土した。遺物の主体は27・28・29に代表されるように、７世紀後半代～８世紀初頭のものである。

20号ピット出土遺物（図45：35～38）

４号住居址内で検出した20ピットから須恵器の蓋（35）･碗（36）、土師器蓋（37）、坏（38）などが出土した。このピットは赤褐色の焼土をパミス状に含み、４号住居址の覆土とは異なり、後世に掘り込まれたものであろう。遺物の特徴も８世紀後半代を示す。

300号掘立柱建物址出土遺物（図45：39）

北東角の309号ピットから出土した高台付の須恵器坏である。

400号掘立柱建物址出土遺物（図45：40）

南辺（梁）の中央のピット中位から内面を上に向けて出土したほぼ完形の須恵器蓋である。地鎮祭祀の可能性がある。７世紀後半代のものであり、300号掘立柱建物も建物の方向が同じであり、時期的に近接するものと思われる。

その他の遺物（図45：41～43）

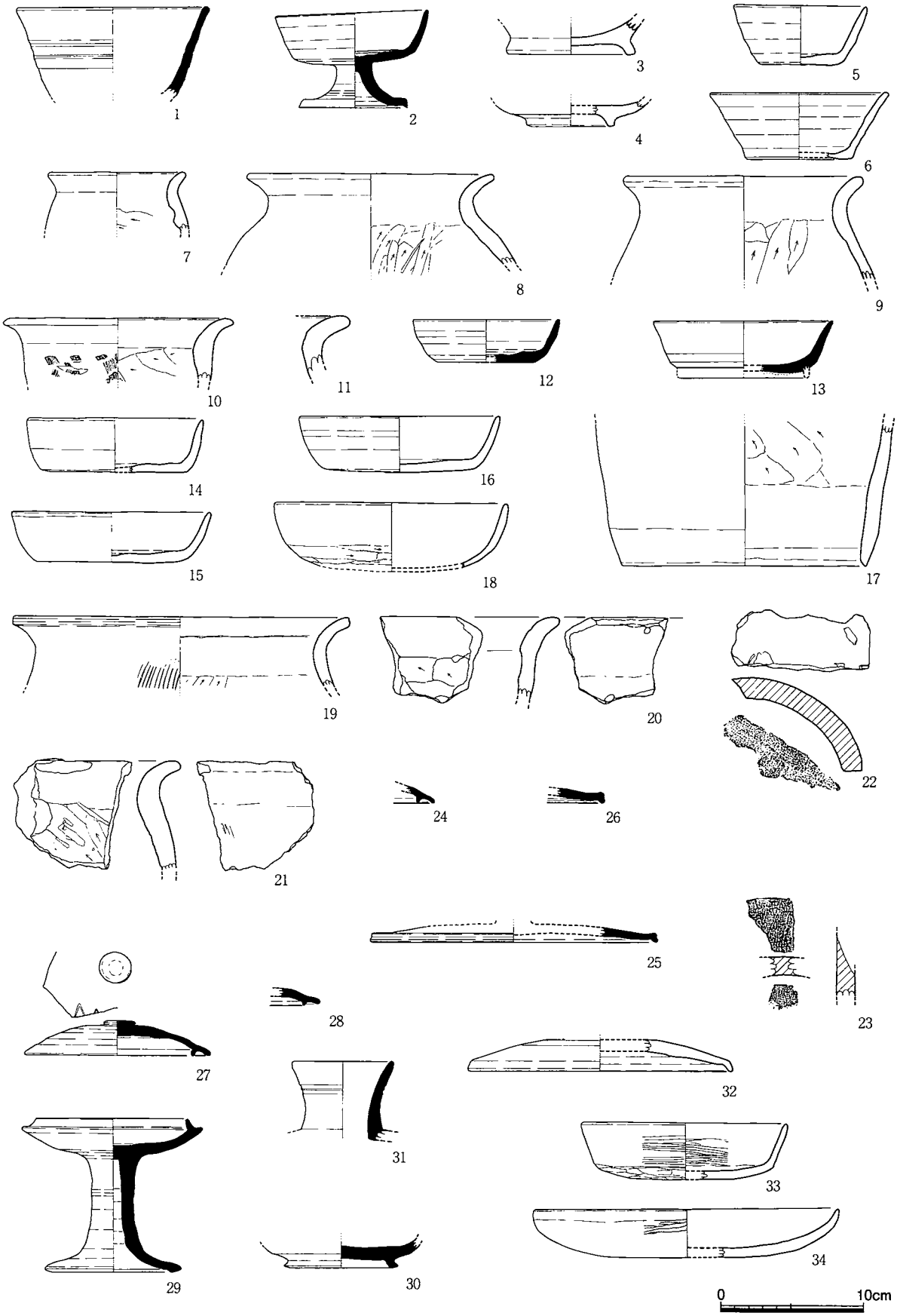


図44　9807調査地点出土遺物実測図１（１／４）

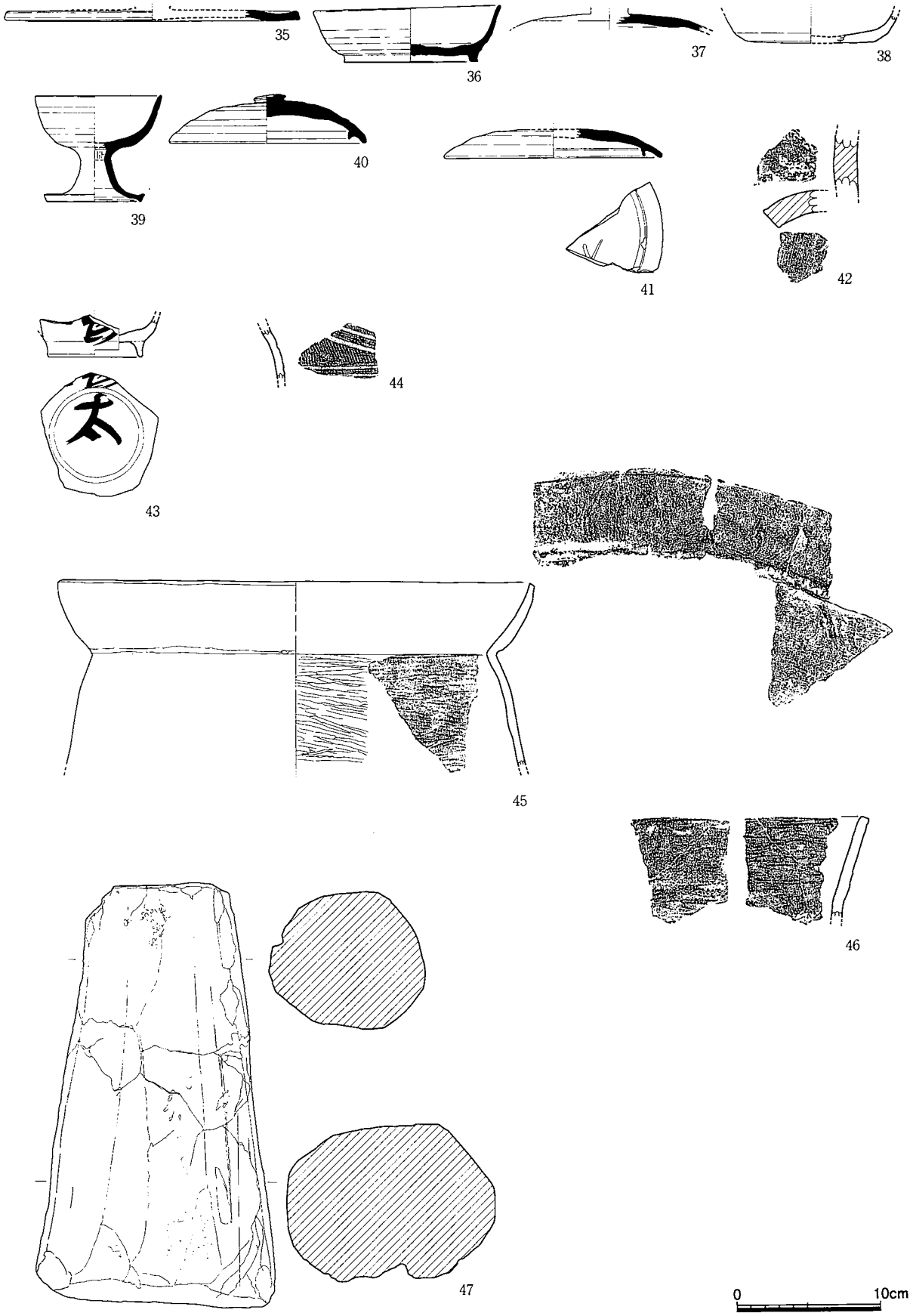


図45　9807調査地点出土遺物実測図２（１／４）

包含層その他から古代遺物が出土し、その中にはヘラ書き（判読不可）のある須恵器蓋（41）や外面と底外面に墨書のある土師器碗（43）などが含まれる。外面は判読できないが、底外面には「太」の字が書かれている。

縄文土器（図45：44～46）

磨消縄文をもつ深鉢形土器（44）や条痕調整のある無文の深鉢形土器（45・46）など包含層から出土した。後期～晩期の時期のものである。

（5）まとめ

本地点は予想に反して包含層および遺構の残り具合が良好で、しかも付近の古代集落に比べて時期的に遡る7世紀代から8世紀初頭の遺構群が発見されたことは新たな知見である。また、条里施行以前の遺構群の方向がほぼ特定できたことも成果として挙げられる。

建物の方向性からみたように2時期（以上）の遺構構成が認められる。8世紀後半の条里に沿った遺構群には先の掘立柱建物址以外に3号竪穴住居址も含まれ、住居と倉庫というセット関係を成していたと考えられる。しかし、7世紀代の掘立柱建物群と竪穴住居址群は重なる部分もあり、かつ方位が若干異なるものもあり、この時期の細別とそれによる遺構群の構成は今後の課題である。このような問題は一帯の条里制施行時期の問題とも大きく係わるものである。医学部構内の9801調査地点では8世紀初頭には条里区画に沿った遺構が出現しており、この7世紀後半～8世紀初頭の遺構・遺物は時期的に細分できる余地を残している。調査区が狭いため、この限られた資料のみでの議論には限界があり、今後は周辺資料との比較検討が必要であろう。

表6　9807調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残　存　量	特　徴	色　　調	出土遺構	備　　考
44	1	須恵器	碗	口径　13.4 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　2.5YR 6 / 2 外：Hue　2.5YR 7 / 1	50号竪穴住居址 (20036)	軟質
	2	須恵器	高坏	口径　10.6 底径　7.5 器高　6.9	ほぼ完形	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　2.5Y 4 / 1 外：Hue　5 PB 5 / 1	50号竪穴住居址	一部に自然釉あり
	3	土師器	碗	口径 底径　9 器高	1 / 4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　7.5YR 6 / 6	50号竪穴住居址	
	4	土師器	碗	口径 底径　6.1 器高	底部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　10YR 5 / 2 外：Hue　2.5YR 4 / 1	50号竪穴住居址	
	5	土師器	坏	口径　9.4 底径　5.6 器高　4.2	1 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　5 YR 5 / 6 外：Hue　5 YR 5 / 6	50号竪穴住居址	内外面一部に煤付着
	6	土師器	坏	口径　12.6 底径　7.4 器高　4.8	1 / 2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　2.5YR 6 / 6 外：Hue　5 YR 6 / 6	50号竪穴住居址	内面一部に煤付着
	7	土師器	甕	口径　9.6 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ	内：Hue　5 YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 4	50号竪穴住居址	内面口縁部コゲあり
	8	土師器	甕	口径　17.3 底径 器高	口縁部1 / 4	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 4 外：Hue　7.5YR 7 / 4	50号竪穴住居址	
	9	土師器	甕	口径　17 底径 器高	口縁部1 / 4	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 4	50号竪穴住居址	
	10	土師器	甕	口径　16 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，ハケ目 外：回転ナデ，削り	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　7.5YR 6 / 4	50号竪穴住居址	
	11	土師器	甕	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 4 外：Hue　7.5YR 7 / 4	50号竪穴住居址 (20001)	
	12	須恵器	坏	口径　10.2 底径　6.6 器高　3	底部片1 / 4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　5 Y 5 / 1 外：Hue　5 Y 5 / 1	3号竪穴住居址 (20111)	
	13	須恵器	碗	口径　12.6 底径 器高	1 / 5	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　2.5Y 5 / 2 外：Hue　N 7 / 0	3号竪穴住居址南	底面に厚く自然釉有り
	14	土師器	坏	口径　12.3 底径　10.2 器高　3.8	1 / 4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 8 / 3 外：Hue　7.5YR 8 / 3	3号竪穴住居址	
	15	土師器	坏	口径　14 底径　10 器高　3.5	2 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 8 / 6 外：Hue　7.5YR 8 / 6	3号竪穴住居址	
	16	土師器	坏	口径　14.1 底径　9.2 器高　3.9	2 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 7 / 6	3号竪穴住居址	内外面一部に赤焼け有り
	17	土師器	甑	口径 底径　17.1 器高	底部片	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 6 / 6	3号竪穴住居址	
	18	土師器	坏	口径　16.3 底径 器高	1 / 8	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き，削り	内：Hue　2.5YR 5 / 6 外：Hue　2.5YR 5 / 6	3号竪穴住居址	丹塗り
	19	土師器	甕	口径　23.5 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，ヘラ削り 外：回転ナデ，ハケ目	内：Hue　5 YR 6 / 4 外：Hue　7.5YR 7 / 6	3号竪穴住居址	
	20	土師器	甕	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，ヘラ削り 外：回転ナデ	内：Hue　7.5YR 5 / 3 外：Hue　7.5YR 5 / 4	3号竪穴住居址	
	21	土師器	甕	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ，ハケ目	内：Hue　7.5YR 7 / 4 外：Hue　7.5YR 7 / 6	3号竪穴住居址	
	22	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：ナデ，削り	内：Hue　5 YR 5 / 4 外：Hue　5 YR 6 / 6	3号竪穴住居址	
	23	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：ナデ	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　7.5YR 6 / 6	3号竪穴住居址南	
	24	須恵器	蓋	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　5 Y 8 / 1 外：Hue　5 Y 8 / 1	4号竪穴住居址	
	25	須恵器	蓋	口径　20 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ，削り	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　5 B 2 / 1	4号竪穴住居址	外面に自然釉有り
	26	須恵器	蓋	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，ヘラ削り 外：回転ナデ，ヘラ削り	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　5 Y 6 / 1	4号竪穴住居址	外面に自然釉有り
	27	須恵器	蓋	口径　13 底径 器高　2.4	2 / 3	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　5 Y 6 / 1	4号竪穴住居址	
	28	須恵器	蓋	口径 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ	内：Hue　5 Y 7 / 1 外：Hue　5 Y 7 / 1	4号竪穴住居址	
	29	須恵器	高坏	口径　10.5 底径　9.6 器高　10.7	1 / 2	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ，削り	内：Hue　SY 5 / 1 外：Hue　SY 5 / 1	4号竪穴住居址	
	30	須恵器	碗	口径 底径　7.8 器高	底部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　7.5Y 3 / 1 外：Hue　7.5Y 4 / 1	4号竪穴住居址	
	31	須恵器	壷	口径　7 底径 器高	口縁部1 / 2	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　N 7 / 0 外：Hue　N 7 / 0	4号竪穴住居址	

図	番号	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残　存　量	特　徴	色　　調	出土遺構	備　　考
44	32	土師器	蓋	口径　18.4 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　10YR 8 / 4 外：Hue　10YR 8 / 4	4号竪穴住居址	
	33	土師器	坏	口径　14.5 底径　7.4 器高　4	約1 / 4	内：ヘラ磨き，削り 外：ヘラ磨き	内：Hue　N1.5/ 0 外：Hue　7.5YR 6 / 4	4号竪穴住居址	黒色磨研土器
	34	土師器	坏	口径　21.5 底径　10 器高　3.4	1 / 4	内：回転ナデ 外：回転ナデ，ヘラ磨き	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　10YR 4 / 6	4号竪穴住居址	丹塗り
45	35	須恵器	蓋	口径　20.6 底径 器高	口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　5 B 3 / 1	4号竪穴住居内20号ピット	
	36	須恵器	碗	口径　13 底径　9.3 器高　4	約1 / 2	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　10Y 4 / 1 外：Hue　10Y 5 / 1	4号竪穴住居内20号ピット	
	37	須恵器	蓋	口径 底径 器高	破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ，削り	内：Hue　7.5Y 8 / 1 外：Hue　7.5Y 8 / 1	4号竪穴住居内20号ピット	軟質
	38	土師器	坏	口径 底径　9 器高	1 / 5	内：ナデ 外：ナデ，削り	内：Hue　7.5YR 8 / 4 外：Hue　10YR 8 / 3	4号竪穴住居内20号ピット	
	39	須恵器	高坏	口径　8.8 底径　6.5 器高　7.5	1 / 4	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ，削り	内：Hue　N 4 / 0 外：Hue　N 7 / 0	300号掘立柱建物(309号ピット)	
	40	須恵器	蓋	口径　13.8 底径 器高　3.4	完形	内：回転ナデ，削り 外：回転ナデ，削り	内：Hue　5 Y 6 / 1 外：Hue　7.5Y 5 / 1～3 / 1	400号掘立柱建物(405号ピット)	外面焼きムラ有り
	41	須恵器	蓋	口径　15.2 底径 器高	1 / 8	内：回転ナデ，削り，ヘラ書 外：回転ナデ，削り	内：Hue　7.5YR 3 / 1 外：Hue　7.5YR 3 / 1	包含層	刻書
	42	瓦	布目瓦	口径 底径 器高	破片	内：布目 外：ナデ	内：Hue　7.5YR 7 / 6 外：Hue　7.5YR 6 / 6	包含層	
	43	土師器	碗	口径 底径　6.4 器高	約1 / 2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue　5 YR 6 / 6 外：Hue　5 YR 6 / 6	調査区西側攪乱	墨書
	44	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	破片	内：ヘラ磨き 外：沈線紋，縄紋	内：Hue　7.5YR1.7/ 1 外：Hue　7.5YR 2 / 2	包含層	
	45	縄文土器	深鉢形土器	口径　33.3 底径 器高	口縁，胴部片	内：ナデ，ヘラ磨き 外：ナデ，ヘラ磨き	内：Hue　2.5Y 6 / 2 外：Hue　2.5Y 4 / 2	包含層	
	46	縄文土器	深鉢形土器	口径 底径 器高	口縁部片	内：ナデ，ヘラ磨き 外：ナデ，ヘラ磨き	内：Hue　2.5YR 5 / 2 外：Hue　2.5YR 5 / 3	包含層	
	47	砂岩ブロック	竈支柱	長　29.5 幅　17.0 厚　10.2				3号竪穴住居址竈内	

2．東病棟新営工事に伴う発掘調査（0712調査地点）

（1）調査の目的と経過

a．調査地と調査経緯

本調査は、熊本大学附属病院東病棟新営工事にともなう発掘調査である。当該工事区域は本庄遺跡の範囲内にあり、熊本市遺跡地図No.8－95熊大病院敷地遺跡として周知されている。2007年6月1日文化財保護法第93条の規定に基づき、東病棟新営工事の届け出を熊本市・県に提出し、慎重工事との指示があった。当該区域の隣には1999年度、2001年度とも調査が行われており、古墳時代と古代の集落を主とする複合遺跡の存在が確認済みであったので、一次掘削工事に立ち会うこととした。2007年8月7日一次掘削工事立会の結果、遺構の存在が確認された。文化財保護法第92条届け出のうえ調査を開始した。2007年8月27日、表土はぎを開始。調査区北側第5病棟跡地には遺跡が残存していなかった。南側の第3病棟に付随する建物の基礎の内側と、建物が建っていなかった区域には遺跡が残存していた。調査面積は589.287㎡である。9月3日より作業員約20人で人力による掘削を開始し、重機では除去しきれなかった表土・撹乱を除去した。9月10日かく乱除去作業を終え、包含層掘削・各遺構の調査を開始した。9月27日には、調査区南部の既存建物基礎の撤去が不十分であった部分を、重機にて撤去した。10月3日附属病院施設・管理課工営担当との打ち合わせにて、北隅の共同溝埋設工事予定の部分は、後日工事実施直前に調査を行うこととし、今回の調査とは別の時期に行うこととした。10月23日まで包含層・各遺構の調査を行った。10月18日から10月25日まで、一般に調査成果を公表し文化財調査に対する理解を深めてもらう為に、病院総務部の許可を得て調査区に隣接する西病棟一階の窓ガラス三箇所に、「ただいま遺跡発掘中！」と題した、調査を紹介するポスターを掲示した。その結果、調査終了までの一週間という短い期間の掲示であったが、毎日一人から二人は見学者が訪れた。その反響から、後日附属病院機関紙「病院だより」に発掘調査を紹介する記事を執筆するよう病院総務課から依頼があり、江頭が執筆した。10月23日調査区の空中写真撮影を行った。10月25日機材を撤収し、すべての調査を終えた。

本調査区は、旧第3病棟、旧第5病棟、第6病棟、西病棟に囲まれたT字形を呈している。南東部分は旧第3病棟の基礎の下であり、1ｍほどすでに掘削されている。北西、南部分は80cmほど掘削されている。南に近接する西病棟は建設時（1999年）に当調査室により、9901調査地点として発掘調査が行われている。旧第5病棟跡地を跨いで北側は0104調査区として2001年に共同溝埋設工事に伴い発掘調査が行われている。1999年と2001年の調査では、縄文時代後晩期の遺物、古墳時代前期の集落、および古代の集落の存在が確認されている。今回も同様に縄文時代後晩期の土器、石器、黒曜石片、古墳時代の土器等の遺物、竪穴住居や溝等遺構、古代の土器、鉄器、銅製の銙帯、碁石等の遺物、竪穴住居、溝等の遺構を検出した。

b．調査の経過

2007年8月27日　調査開始。
2007年9月27日　南東部コンクリート基礎撤去。
2007年10月18日　現場周辺にポスター掲示。
2007年10月23日　空撮。
2007年10月25日　発掘調査終了。

c．調査の組織

調　査　員：江頭俊介

事 務 担 当：中川木綿子

発掘作業員：井手春代・伊藤千代子・江藤恵子・大越忠一・大越貞子・押方富江・川元恵子・笹野ヌイ子・末吉美紀・関根龍子・建嵜豊美・田中香苗・溜渕俊子・成瀬好子・林田恵子・福島実・福田久美子・堀川貞子・前田日出男・前田美恵子・松井昭子・松下義章・山嵜早苗・森知子

整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

（2）調査区の基本層序

調査区はコンクリートの基礎に囲まれており、調査区全体を通しての土層断面図は作成できなかった。旧来の土層が地表面近くまで残存していたのは、調査区北西の極わずかな部分のみであった。それ以外の部分は既存の建物によって地表下80cmから１ｍほどが従前の建物建設工事によりすでに掘削されて埋め戻された土である。これを１層とする。残存土層は地表下80cm～１ｍ（標高約13.0m）より下で、黒褐色土層7.5YR ４／２があり、古墳時代と古代の遺物・遺構を包含する層である。これを２層とする。その下（標高約12.7m 以下）は暗褐色10YR ４／３シルトであり、古墳時代と古代の遺構が掘り込まれている。これを３層とする。３層上面には縄文時代後晩期の遺物を含む。

１層･･･既存の病院建物建設工事により掘削、被覆された層。コンクリートの瓦礫などを含む。

２層･･･黒褐色土層7.5YR ４／２。粘性は弱い。古墳時代と古代の遺物・遺構を含む。

３層･･･暗褐色シルト層10YR ４／３。粘性弱い。古墳時代と古代の遺構が掘り込まれている。縄文時代後晩期の遺物を含む。

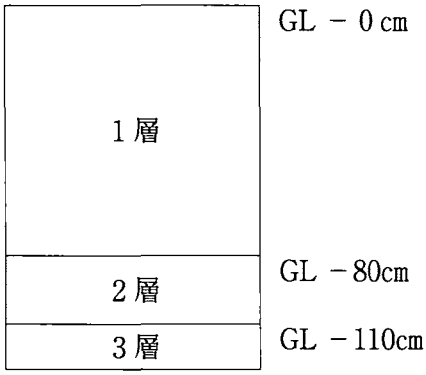


図46　0712調査地点基本土層断面模式図

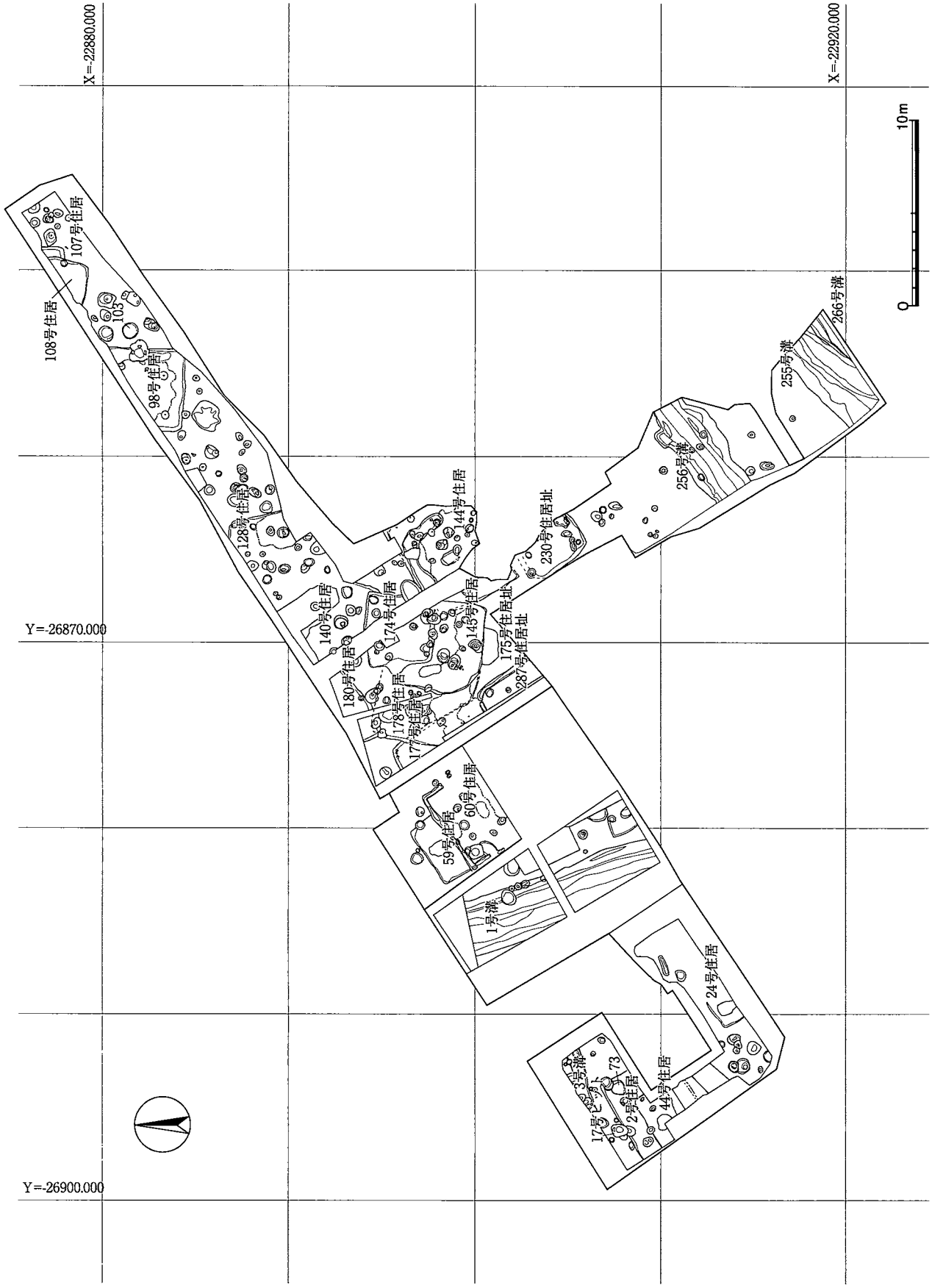


図47　0712調査地点遺構配置図（1 /200）

（3）検出遺構

今回の調査では、近世の溝１本、古代の溝２本、古墳時代の溝２本、古代の竪穴住居址８基、古墳時代の竪穴住居址９基、時期不明だが軸方向や切り合い関係から古墳時代と思われる竪穴住居２基、その他ピット等が検出された。これらの遺構は２層中から掘り込まれていると思われるが、黒褐色の２層と遺構埋土との色の違いが識別困難であり、竈に伴う焼土など色の識別が明らかなもの以外はすべて３層上面で検出した。古墳時代の竪穴住居は調査区中央と西よりに分布し、古代の住居は南東側以外の区域に広く分布している。調査区の南東側に住居はなく、古墳時代の溝１本と古代の溝が２本あるのみである。調査区中央は古墳時代と古代の竪穴住居址が多数重複している。

＜溝＞

近世の溝

１号溝（図48）

１号溝は、調査区西よりに位置し、調査区を南北に貫いている。軸はＮ－15°－Ｗである。直線的でゆがみの少ない平面形状を呈し、北北西から南南東に向かっている。上端の幅は3.1m、下端の幅は1.2m、深さ1.5mである。断面は丸みを帯びた逆台形で、東傾斜面にテラス状の段差が設けられている。埋土は、４層に分けられる。上から順に埋１層、埋２層、埋３層、埋４層とする。瓦器火鉢、近世陶磁器、古代の土師器、須恵器片、ウマの骨片などが出土している。古代の土師器のほとんどがローリングを受けていることから、古代の遺物は大江遺跡群などから流れてきたものである可能性がある。旧第５病棟敷地をまたいで北に隣接する0104調査区（熊本大学埋蔵文化財調査室年報８）では、１号溝をまっすぐ伸ばした地点に、14号という溝があり、幅2.6m、深さ0.8mで東傾斜面にテラスを持ち、軸方向もほぼ一致することから、これらは、同一のものと思われる。

古代の溝

255号溝（図48）

調査区南東の端に位置する。軸はＮ－40°－Ｅである。やや蛇行しながら北東方向から南西方向へ向かうようである。266号溝を切っている。上端幅3.4m、深さ１ｍである。断面は逆三角形を呈する。傾斜面は、人為的な段差はなく、不定形に凹凸している。底面にマンガンと鉄分が硬く付着している。埋土中の遺物にも鉄分とマンガンが付着している。埋土は３層に分かれる。上から埋１層7.5yr ２／２黒褐色シルト、埋２層7.5yr ２／２黒褐色シルト、埋３層10yr ３／１黒褐色粘土となっている。255号溝は、位置、形状等から、1999年度の9901調査区１号溝と同一のものであると考えられる。遺物は８世紀から９世紀の土師器、須恵器が出土している。

266号溝（図48）

調査区南東の端に位置する。軸はＮ－55°－Ｅである。255号溝に切られる。規模は不明である。255号溝埋土を掘り進むことによって発見されたため、遺物は255号溝と一緒に取り上げている。よって年代不明だが、255号溝の遺物が８世紀から９世紀までのものに限られるため、266号溝の年代もこの範囲内の時期と思われる。255号溝と同様、底面にマンガンと鉄分が付着している。

古墳時代の溝

３号溝（図48）

調査区南西の端に位置し、軸はＮ－70°－Ｅである。直線的で、西端はやや北へ屈曲する。上端の幅は75cm、深さ６cmである。断面は平たく浅い逆台形を呈する。埋土は単層である。遺物は土師器片が少量出土しており、４世紀中ごろのものである。いくつかのピットに切られている。

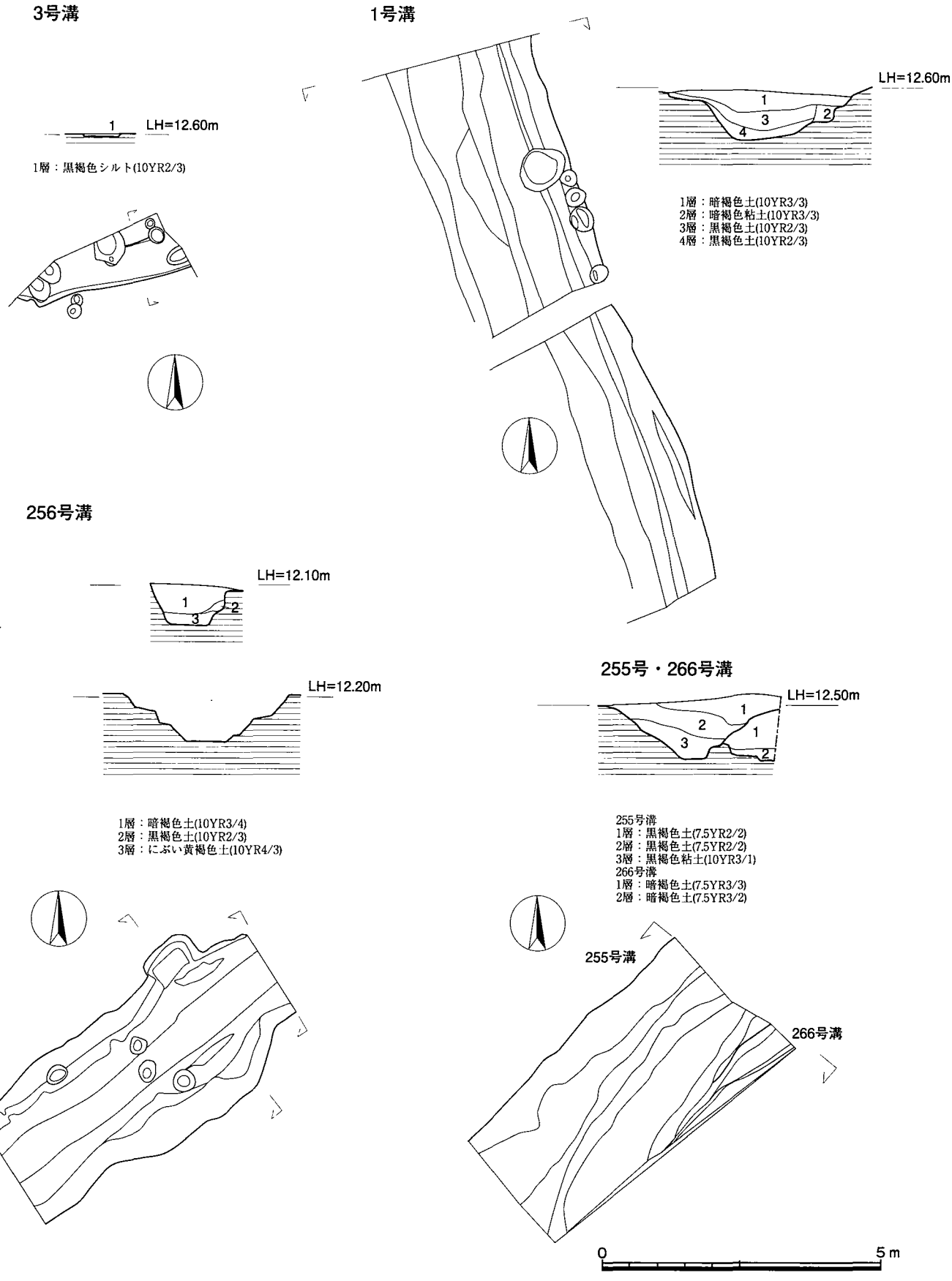


図48　1・3・255・256・266号溝実測図（1/100）

256号溝（図48）

調査区南東部にあり、255号溝の北に位置する。軸はＮ－50°－Ｅである。直線的で、北東から南西へ向かっている。一部両岸にテラス状の段差が二段ずつ設けられており、足場もしくは板橋を渡した跡と考えられる。幅は足場部分の上端が３ｍ、他部分が２ｍ、深さは１ｍ程度である。断面は角張った逆台形である。底にマンガンや鉄分の沈殿はない。埋土は３層に分けられる。埋１層10yr ３／４暗褐色シルト、埋２層10yr ２／３黒褐色シルト、埋３層10yr ４／３にぶい黄褐色シルト（２層より粒子大きい）である。遺物は、５世紀後半から６世紀後半にかけてのものが主体をなしており、３世紀後半ごろの遺物と、８～９世紀の遺物が少量ふくまれている。256号溝は西に隣接する1999年度9901調査区では古墳時代前期の住居を切っているので、22などの古墳時代前期の遺物は、その切られた住居から入ったものとも考えられる。この溝は、５世紀後半ごろに掘削され、６世紀後半ごろまで主に使用され、９世紀ごろまでには完全に埋まったと考えられる。

＜竪穴住居址＞

古代の竪穴住居址

古代の竪穴住居址は８軒検出された。調査区中央から北東側にかけての範囲にあり、特に調査区中央に多い。軸はすべて北を向いている（Ｎ－10°－Ｅ程度）。竈が確認できたのは98号竪穴住居址と174号竪穴住居址のみである。その他の住居の竈は別の住居や撹乱等で破壊さており、支脚や焼土が散在して確認されている。98号竪穴住居址の竈は支脚、粘土などの残りがよく、ほとんど破壊されていないと思われる。98号竪穴住居址の竈は住居の東壁中央、174号の竈は住居の西壁中央にある。住居の規模はおおむね４ｍ×４ｍ程度であり、174号住居のみ３ｍ×３ｍ程度である。形はすべて方形である。側壁の残りがいい107号、108号、98号住居の深さは、床面まで20cm以上、掘方まで40cm以上である。174号以外の竪穴住居は掘方を有する。堀方は住居底面の周縁部にあり、中央には設けられていない。出土遺物から見ると、ほとんど時期差はなく、どの住居も８世紀から９世紀前半にかけてのものである。切りあい関係や軸方向から、建てられた順序を見ると、それぞれ古い順に98号・107号→108号、140号→128号・174号、178号→145号→174号という順序になる。なお、特筆すべき遺物として、98号竪穴住居址の床面から銅製の銙帯が出土している。

107号竪穴住居址（図49）

107号竪穴住居址は調査区北東側に位置する。住居のほとんどは調査区外に位置し、第５病棟によって破壊されている。また、108号住居址によって切られている。軸は真北である。平面形は方形である。正確な規模は不明であるが、軸を同じくする98号住居址と同規模と考えるならば、調査できた範囲は住居全体の15分の１程度である。竈、硬化面の有無、主柱穴の本数は不明である。床は部分的に窪んでおり、貯蔵穴か暗渠等の設備と考えられる。遺構の深さは遺構検出した３層上面から40～50cmである。窪み部分はさらに10～15cmほど深い。壁はほぼ直立する。埋土は98号竪穴住居同様黒褐色のシルトである。遺物は甑か鍋の把手が出土している。軸が98号竪穴住居と同じであることから、遺構の時期は８世紀後半から９世紀前半と考えられる。

108号竪穴住居址（図49）

108号竪穴住居址は調査区北東に位置し、107号を切って98号に隣接している。107号住居址を切っている。軸はＮ－17°－Ｅである。平面形は方形である。98号住居址と同規模と考えるならば、調査できた範囲は住居全体の８分の１強である。竈、硬化面の有無、主柱穴の本数は不明である。床は部分的に窪んでおり、暗渠と考えられる。遺構の深さは遺構検出した３層上面から40cm程度である。窪み部分はさらに10cmほど深い。壁はほぼ直立する。埋土は98号竪穴住居同様黒褐色のシルトである。

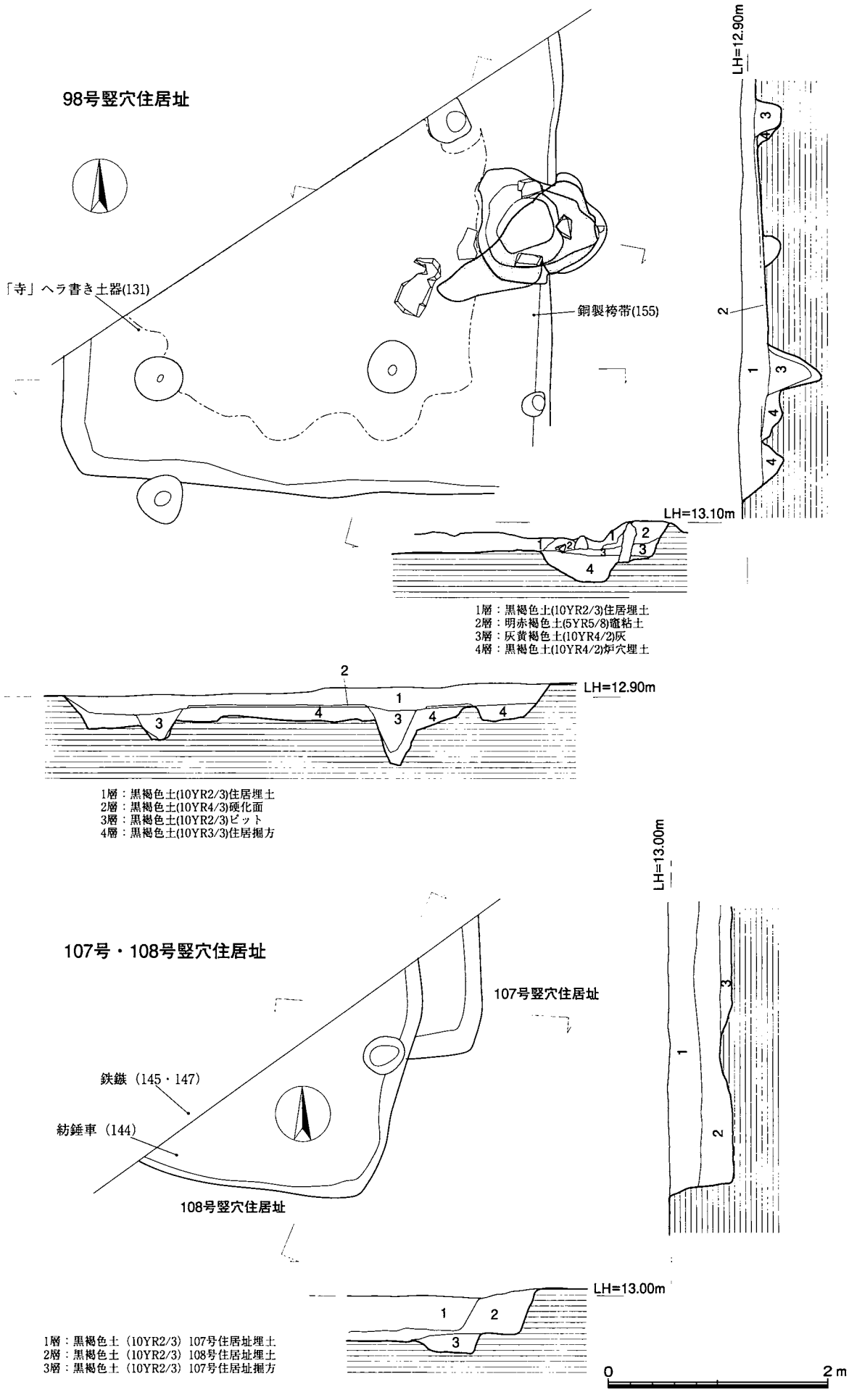


図49　98・107・108号竪穴住居址実測図（1 /50）

西側床面から鉄製と石製とが一つずつ重なっている紡錘車一組、鉄鏃２本が出土している。また、埋土中から、移動式竈の底部破片、甑の口縁破片、碁石などが出土している。遺構の時期は、土師器や須恵器から８世紀後半から９世紀前半と考えられる。

98号竪穴住居址（図49）

98号竪穴住居は調査区北東側に位置する。住居の北西側３～４割ほどが調査区の外側にあり、その部分は旧第５病棟の基礎によって破壊されている。調査区内にある部分は非常に残りがよい。竈、主柱穴４本のうちの３本、硬化面、掘方などほとんどの設備が良好に残存している。軸は真北である。平面形は4.4m×4.4mの方形、４本柱で東壁中央に竈を有する。底面周縁部を掘りくぼませ、その中に土を充填し、暗渠としている。暗渠の範囲に少し重なって床面中央に硬化面を成している。遺構の深さは、検出面の３層上面から20cmで床面、40cmで掘方底面である。壁はほぼ直立である。埋土は黒褐色のシルトである。竈は軟質砂岩製の支脚を三本立てて骨組みとし、その上に粘土をかぶせて構築している。断面図を見ると、灰層上面が最終使用面であり、その上に粘土が被さり、さらに上から住居埋土が被さっていることから、竈の遺存状態がよいことがわかる。支脚が並んだ内側には、炉穴が掘られている。焚口からは、灰が掻き出されており、竈から手前右方向の床面に広がっている。

南西隅の掘方底面の窪みの中から３割ほど欠けた土師器坏が出土している。この坏の底部内面には「寺」の字が刻まれている。底部外面は火を受けて器面が赤くなっており、灰や煤が付着している。住居建設時に地鎮祭が行われ、そのときに埋納された遺物と考えられる。東壁付近の床面から銅製の桛具が出土している。遺構の時期は、土師器や須恵器から、８世紀後半から９世紀前半にかけてであると考えられる。

128号竪穴住居址（図50）

128号竪穴住居址は調査区中央からやや東に位置する。軸はＮ－12°－Ｗである。北辺は調査区外にあり、西辺、南辺は、カクランのため残存していない。東壁のみ残存している。平面形は方形である。規模は、東壁が４ｍほど残存しているので、４ｍ×４ｍ以上と考えられる。壁は直立する。深さは、上部削平のため不明だが、検出面から10～15cmほど残存している。暗渠や排水溝は確認していない。竈は東壁には無く、位置は不明である。主柱穴は不明である。床面中央からやや南東側に硬化面がある。遺物は８世紀後半から９世紀前半のものが主体を成す。鉄鏃が埋土中から１点出土している。遺構の軸方向や炉が無いことなどから遺構の時期は古代であると考えられる。古墳時代前期の土器も出土しているが、周囲からの混入と考える。

174号竪穴住居址（図50）

174号竪穴住居址は調査区中央に位置し、140号竪穴住居址、145号竪穴住居址、178号竪穴住居址を切っている。軸はＮ－８°－Ｅである。住居中央を現代のヒューム管による撹乱を受け、破壊されているが、外形は良く残っている。平面形は方形で、規模は3.75m×3.75mである。深さは検出面から40cm程度である。西壁に竈を有する。竈の粘土の中から甑片や外面にケズリを施す甕片などが出土している。主柱穴は４本で、すべて確認できた。床面に硬化している部分はない。床面東側は部分的に凹んでおり、暗渠や貯蔵穴等の施設か、または床自体が凹んでいるのか不明である。遺物は、８世紀後半のものが主体を成す。

145号竪穴住居址（図51）

145号竪穴住居址は調査区中央に位置する。174号竪穴住居址に切られ、178号竪穴住居址、144号竪穴住居址、175号竪穴住居址を切っている。軸はＮ－13°－Ｅである。住居の北半分ほどを174号住居址によって破壊されているが、３辺が残存しており、方向、規模などの平面形は分かりやすい。平面

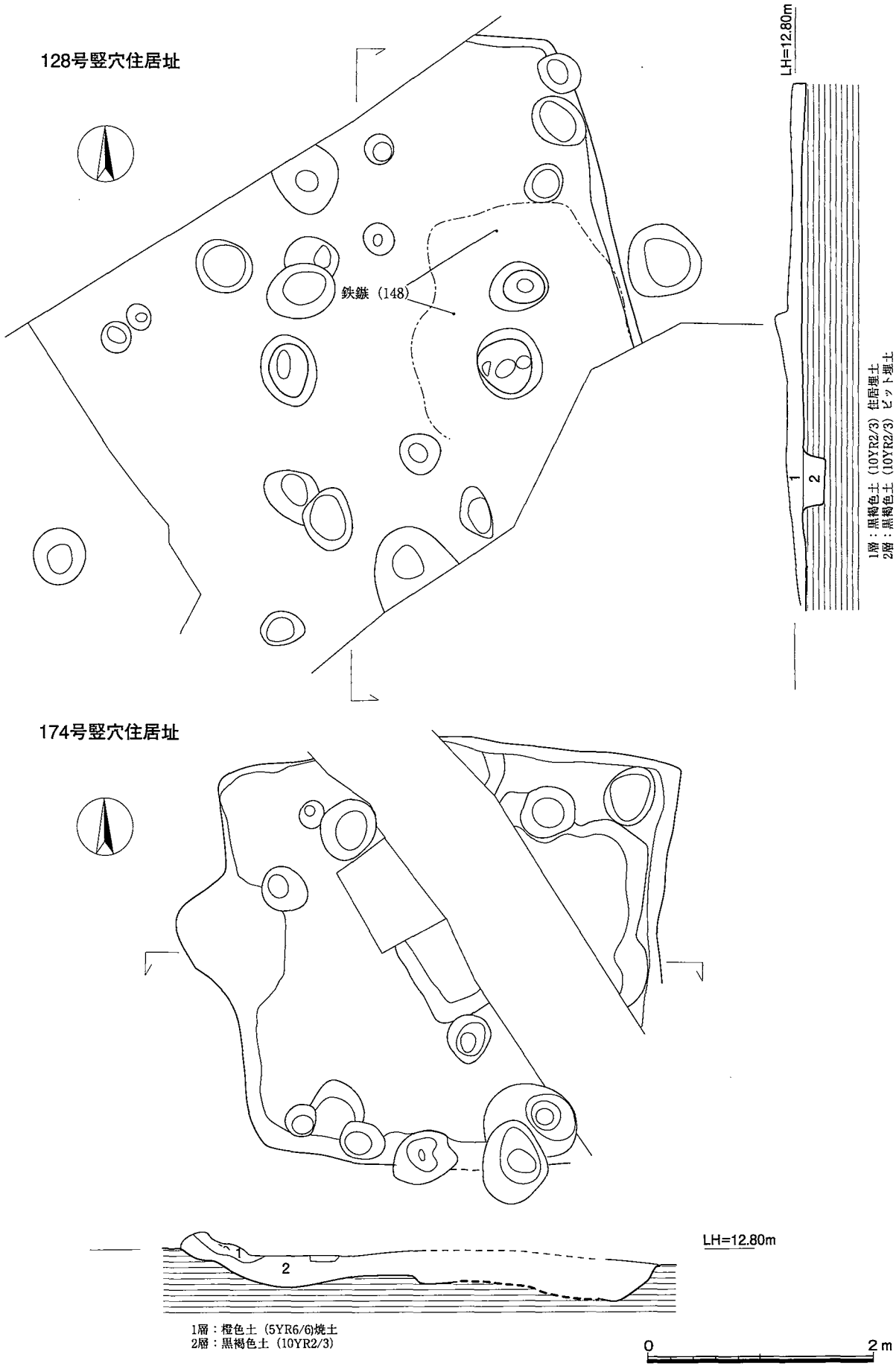


図50　128・174号竪穴住居址実測図（1 /50）

形は方形で、南西隅は隅丸である。規模は、4.5m×4.5mである。深さは検出面から15cm程度である。竈は、残存している西と南の壁には無いので、北もしくは東の壁にあったと思われる。中央よりやや南西の埋土中に竈の支脚と思われる軟質砂岩が散在している。主柱穴は一辺を三つに分けるあたりの位置に4本柱が立つと考えられるが、南西の1本のみが確実で、他の3本は特定できない。硬化面は東壁から中央にかけて確認できる。南西主柱穴の北隣に同じような規模のピットがあるが、このピットは硬化面よりも下位にあり、145号竪穴住居建設前に存在したピットであると考えられる。178号竪穴住居の柱穴の可能性も考えられるが、位置が少し合わない。住居底面はやや凹凸があるが、暗渠や排水溝といった施設はない。遺物は7世紀末から8世紀代のものが主体を成す。

178号竪穴住居址（図51）

178号竪穴住居址は調査区中央に位置する。145号、174号竪穴住居址に切られる。177号竪穴住居址を切っている。軸はN－5°－Eである。壁は西側しか残っていないが、平面的に約半分ほど残っている。平面形は方形で、規模は4.5m×4.5mと考えられる。深さは検出面から15cmほどである。南壁中央付近に竈の支脚と思われる軟質砂岩片が三つある。原位置をとどめているのか判然としないが、南壁中央に竈があったことは想定しうる。南側から中央にかけての床面に硬化面が広がっている。主柱穴はどれか分からない。遺物は7世紀末から8世紀後半の須恵器や土師器が出土している。また、鏃、長頸鏃、方頭鏃、鉄滓が出土している。

140号竪穴住居址（図52）

140号竪穴住居址は調査区中央に位置する。174号竪穴住居に切られる。軸はN－10°－Eである。切りあいと撹乱で壁が東壁の一部しか残っておらず、規模は明らかでない。遺構の深さは、検出面から25cmほどである。竈の位置は分からない。全体に硬化面を有している。ピットがいくつかあるが、主柱穴がどれかは分からない。硬化面を剥ぐと、一部地山が凸凹している。暗渠等の施設かもしれないが、判然としない。遺物は古代の土師器片が出土している。遺構の時期は、遺物、軸方向から古代と考えられる。

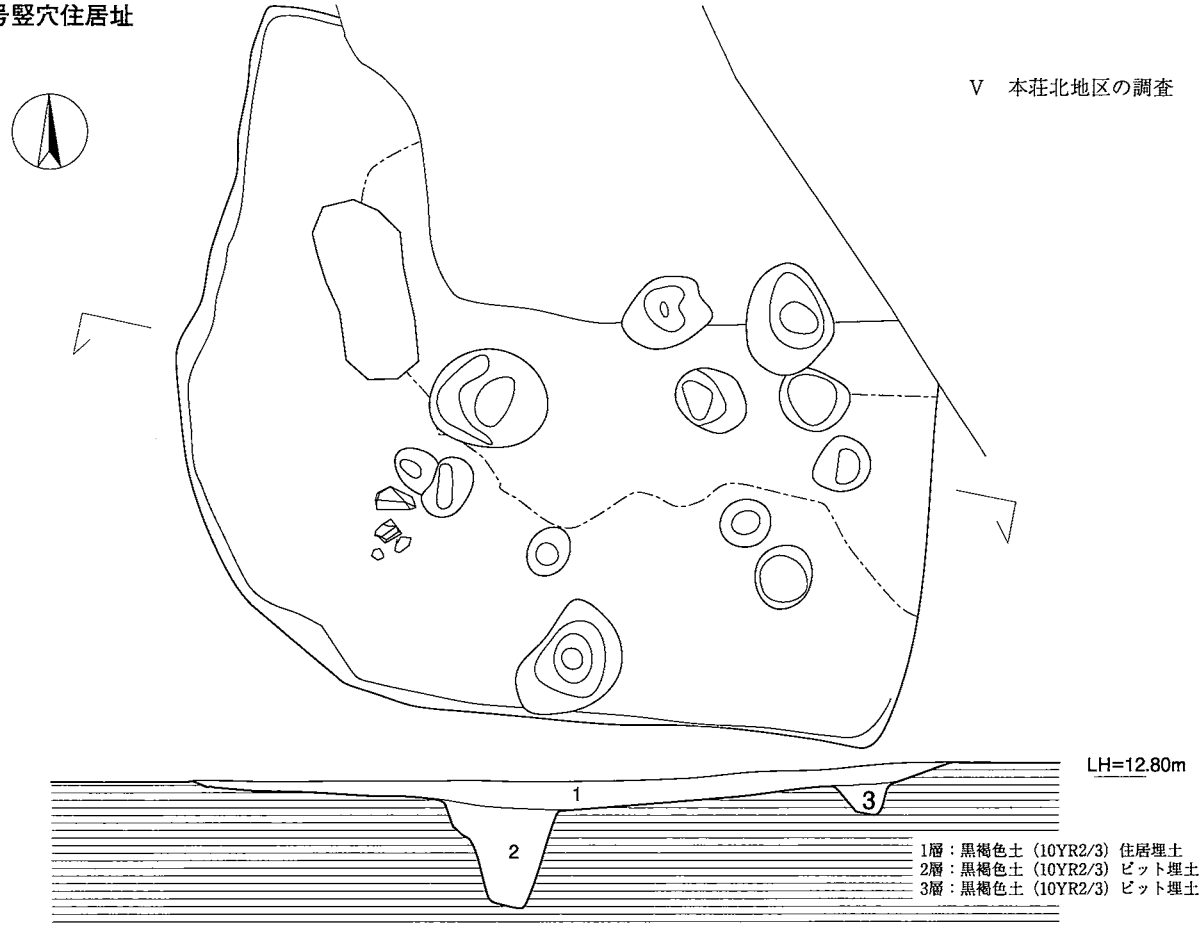
古墳時代の竪穴住居址

古墳時代の竪穴住居址は11軒検出された。古墳時代の竪穴住居は、調査区中央から南西側にかけての範囲にあり、特に調査区中央に多い。軸はすべて現在の建物と同じ方向を向いており、地形に沿った向きであると考えられる。（N－30°－WからN－35°－W）。平面形状は、すべて方形を呈している。住居の規模は5m×5m程度のもの（2号、60号、177号、144号、180号）と、3.5m×3.5m程度のもの（44号、59号、230号）と、大小2タイプある。住居の深さは、確認でき得るものは144号・177号のみだが、3層上面から30～50cm程度である。底面周縁に溝をめぐらせてある竪穴住居は2軒ある（60号、287号）。竈を持つ住居は無い。炉が確認できた住居は59号竪穴住居址と144号竪穴住居址と230号竪穴住居址である。炉は床面中央もしくはやや壁に近い北側床面にある。炉は長方形を呈す。炉の深さは5～10cm程度である。主柱穴は4本柱で、規模5m×5m程度の住居は、一片を三つに割るくらいの位置に、規模3.5m×3.5m程度の住居は四隅壁際に主柱穴が立てられている。住居の時期は、3世紀末から4世紀後半にかけてが主体を成している。177号・59号144号が3世紀末、287号・60号・230号がそれに続き、2号・44号は4世紀後半、175号は5世紀後半である。

44号竪穴住居址（図53）

44号竪穴住居址は調査区南西側に位置する。住居の平面2分の1ほどが撹乱によって破壊されている。鉛直方向も旧第3病棟によっておそらく20cm以上破壊されている。2号竪穴住居址を切っている。軸はN－30°－Wである。遺構の平面形状は方形、規模は一片が約2.8mである。遺構の深さ20cm以

145号竪穴住居址



178号竪穴住居址

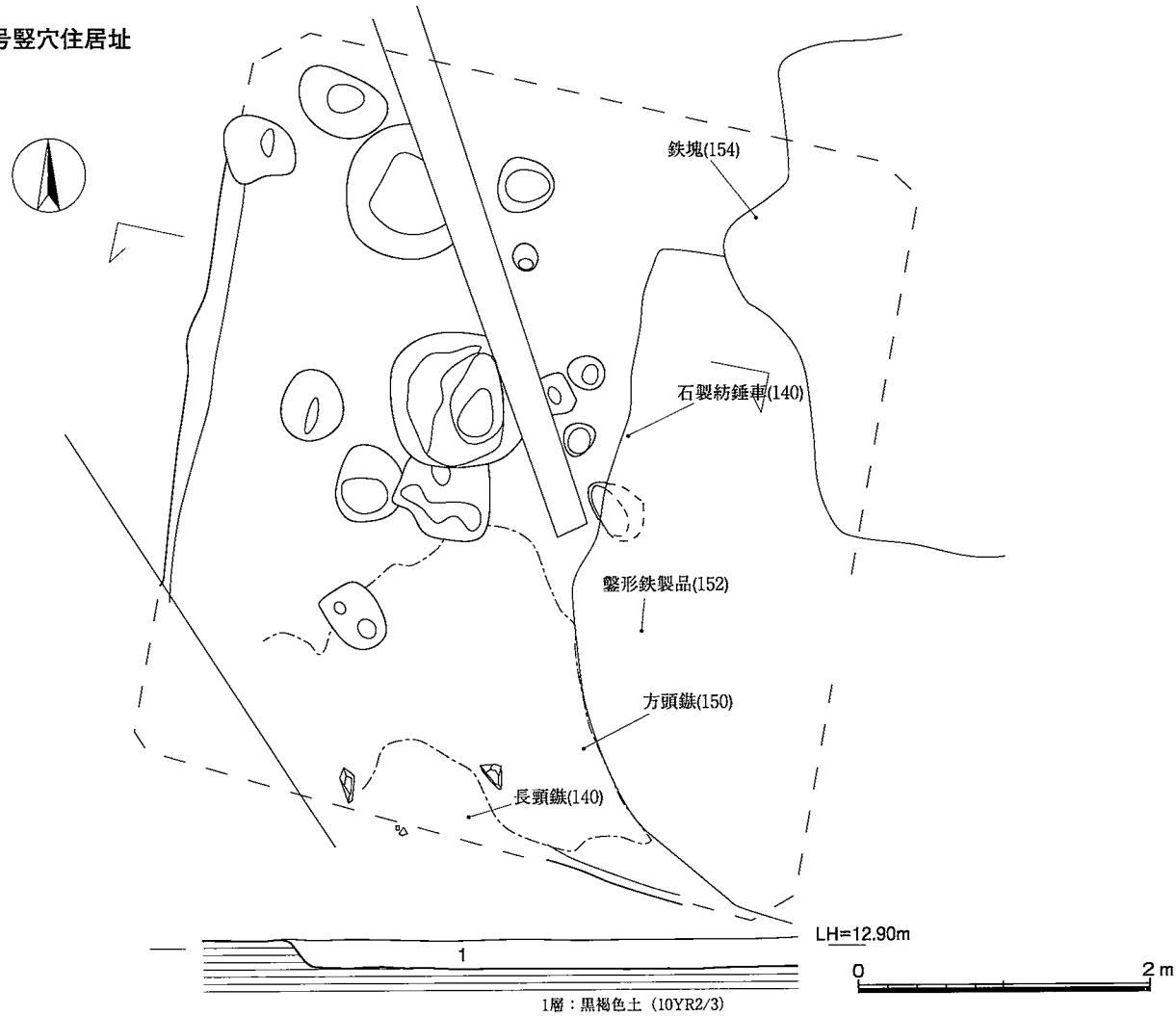
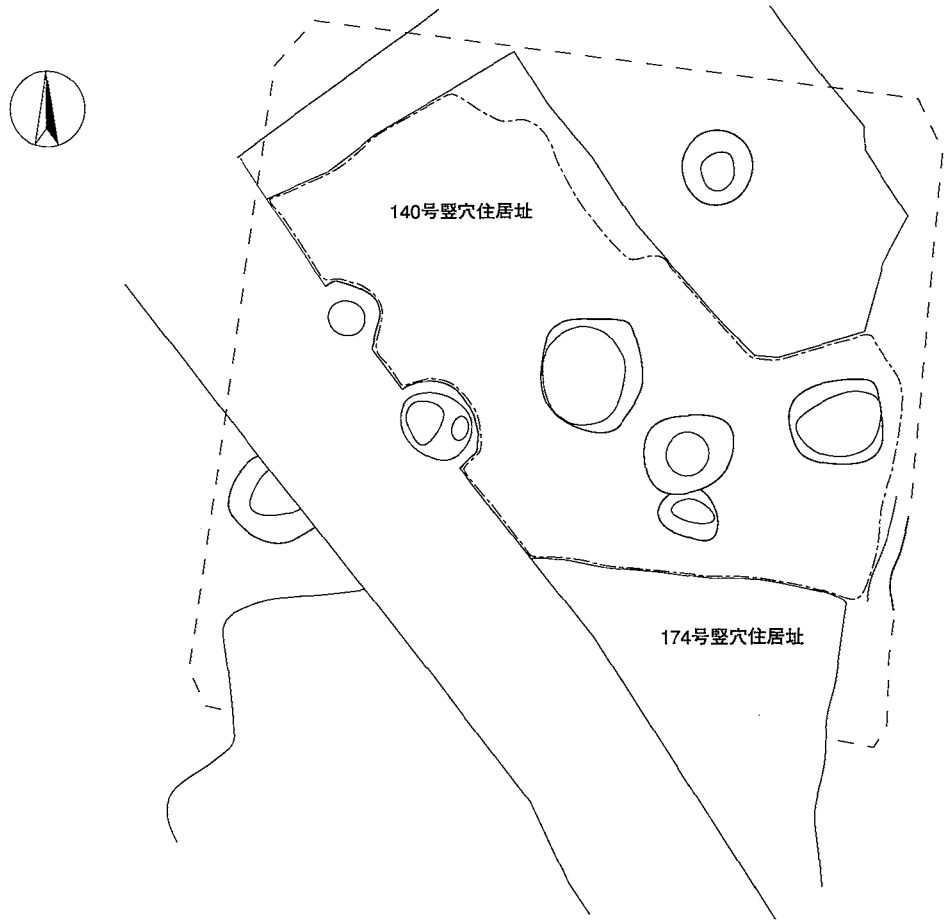


図51　145・178号竪穴住居址実測図（1 /50）

140号竪穴住居址



175号竪穴住居址

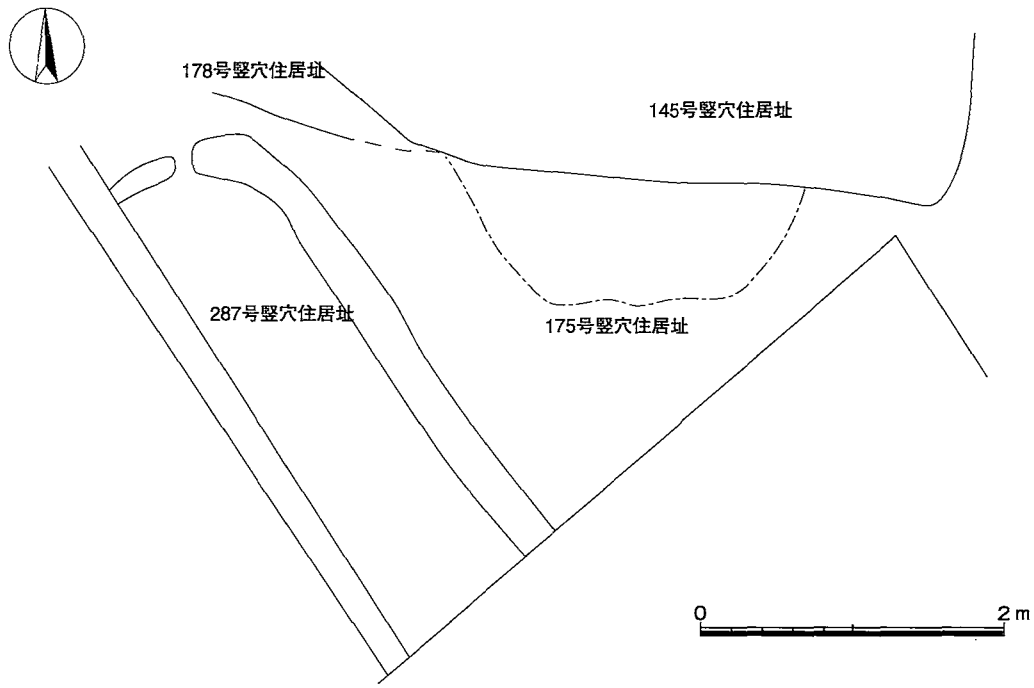


図52　140・175号竪穴住居址実測図（1 /50）

上である。炉は確認できていないが、床面中央北よりに、焼土が多く堆積しており、その部分が掘り込みのない地床炉なのか、もしくは付近の撹乱部分に炉があったと考えられる。主柱穴の位置、本数は不明である。埋土は黒褐色のシルトであり、２号住居埋土より色が濃い。遺物は古墳時代前期、４世紀後半ごろの土器が主体を成している。

２号竪穴住居址（図53）

２号竪穴住居址は調査区南西側に位置する。住居の平面２分の１ほどが撹乱によって破壊されている。鉛直方向も旧第３病棟によっておそらく20cm以上破壊されている。44号竪穴住居に切られている。軸はＮ－30°－Ｗである。遺構の平面形状は方形、規模は一片が4.5m以上である。遺構の深さは20cm以上である。炉は確認できていない。主柱穴は２つ確認した。おそらく４本柱と思われる。硬化面は確認されていない。埋土は黒褐色を呈すが、44号竪穴住居の埋土より、若干色が淡い。遺物は古墳時代前期、４世紀後半ごろの土器が主体を成している。

24号竪穴住居址（図53）

24号竪穴住居址は調査区南西側、２号竪穴住居址の南に位置する。撹乱と調査区壁により３／４程が破壊されている。軸はＮ－30°－Ｗである。遺構の平面形は方形である。規模は不明である。深さは検出面から10cm程度である。炉および柱穴は不明である。遺物の出土はない。軸の向きから遺構の時期は、古墳時代前期と考えられる。

59号竪穴住居址（図53）

59号竪穴住居址は調査区やや西よりに位置する。南半分ほどが60号竪穴住居址によって切られている。軸はＮ－35°－Ｗである。遺構の平面形は方形である。北辺は3.3mである。東西南辺もおそらく同様の長さと思われる。遺構の深さは５cmほどしか残存していない。主柱穴は不明である。床面全体が硬化している。排水等の施設はない。北側中央に、住居の軸と同じ向きに長方形の炉がある。炉の深さは５～10cmである。炉の北隅に古墳時代前期の二重口縁壺の頸部から上が置かれている。土圧で割れているが、置かれたときは頸部から上は完形であったと考えられる。頸から下は埋土中からも出土していない。口縁外面には煤が付着しており、火にかけて使用されていたものであることがわかる。住居で使用されていたものが、住居廃棄の際に、何らかの意味をもって置かれたものと考えられる。出土土器から、59号竪穴住居址の時期は３世紀後半から末ごろと考えられる。

60号竪穴住居址（図53）

60号竪穴住居址は調査区やや西よりに位置する。59号竪穴住居址を切っている。南側３割ほどが調査区外にある。軸は59号竪穴住居址同様Ｎ－35°－Ｗである。平面形は方形である。規模は北辺が５mである。東西南辺も同様と思われる。遺構の深さは５～10cmほどしか残存していない。南側の調査区壁に隣接する２つのピットは主柱穴と考えられる。硬化面は、この２本の柱穴の間と、その北二箇所に点在している。住居北壁と東西壁北側一部に幅24～34cm、深さ10cmの溝がめぐっている。炉は確認されていない。遺物は少ないが、周溝があることと、軸方向から、287号竪穴住居と同じく４世紀中ごろ（布留Ⅲ式）の時期と考えられる。住居の外、１mほど北の２層下面に４世紀中ごろの土師器小型丸底壺が出土している。

177号竪穴住居址（図54）

177号竪穴住居址は調査区中央に位置する。北端以南は上部を178号竪穴住居址に切られている。南端を、287号竪穴住居址を切られている。軸はＮ－33°－Ｗである。平面形は方形である。規模は東辺が5.4m以上であるので、おそらく5.5m四方程度であると思われる。遺構の深さは50cmである。主柱穴は不明である。住居北東隅の埋土中に古墳時代前期（布留Ⅱ）の壺と甕がわりと残りの良い状態

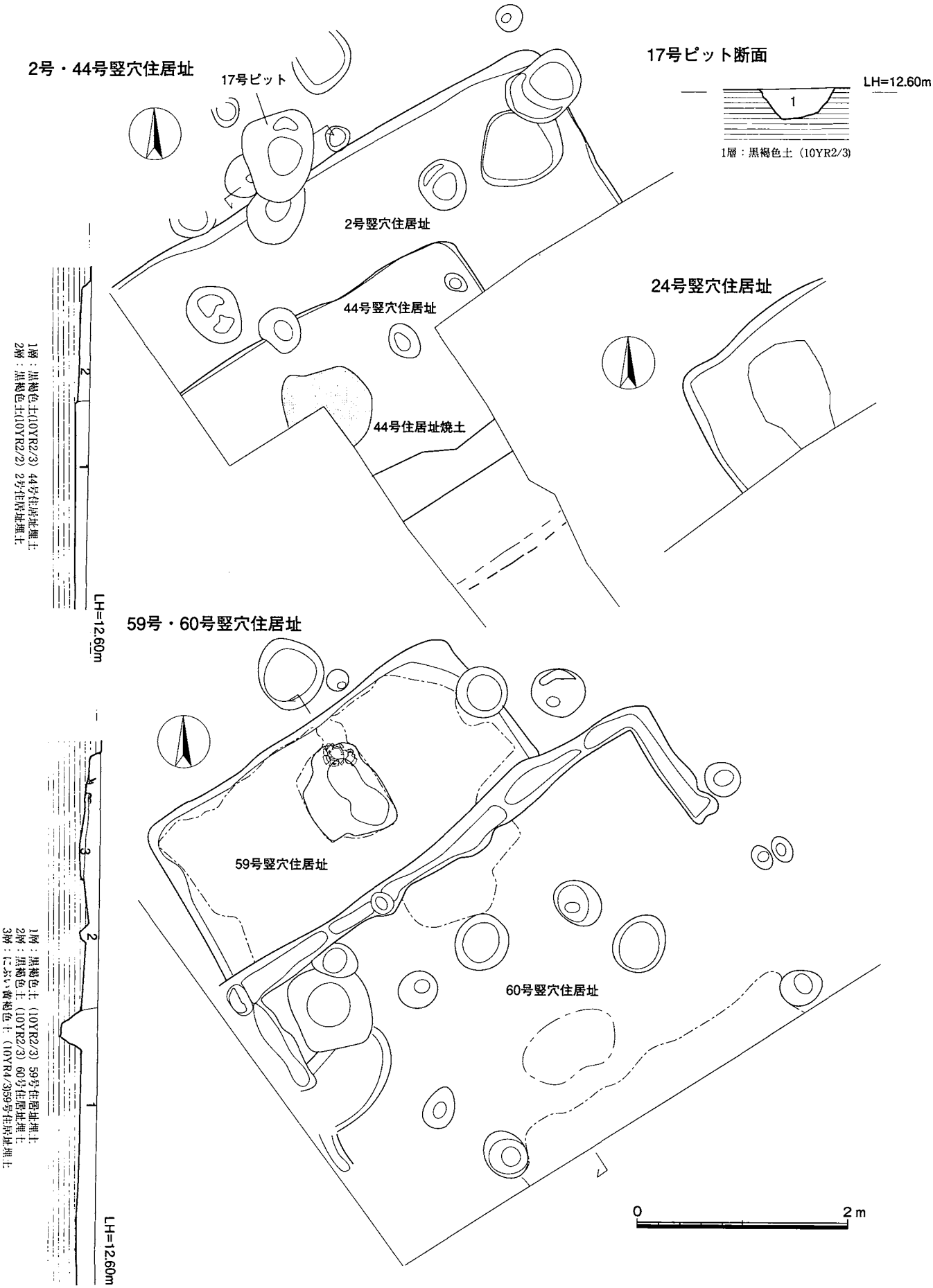


図53　2・44・24・59・60号竪穴住居址実測図（1/50）

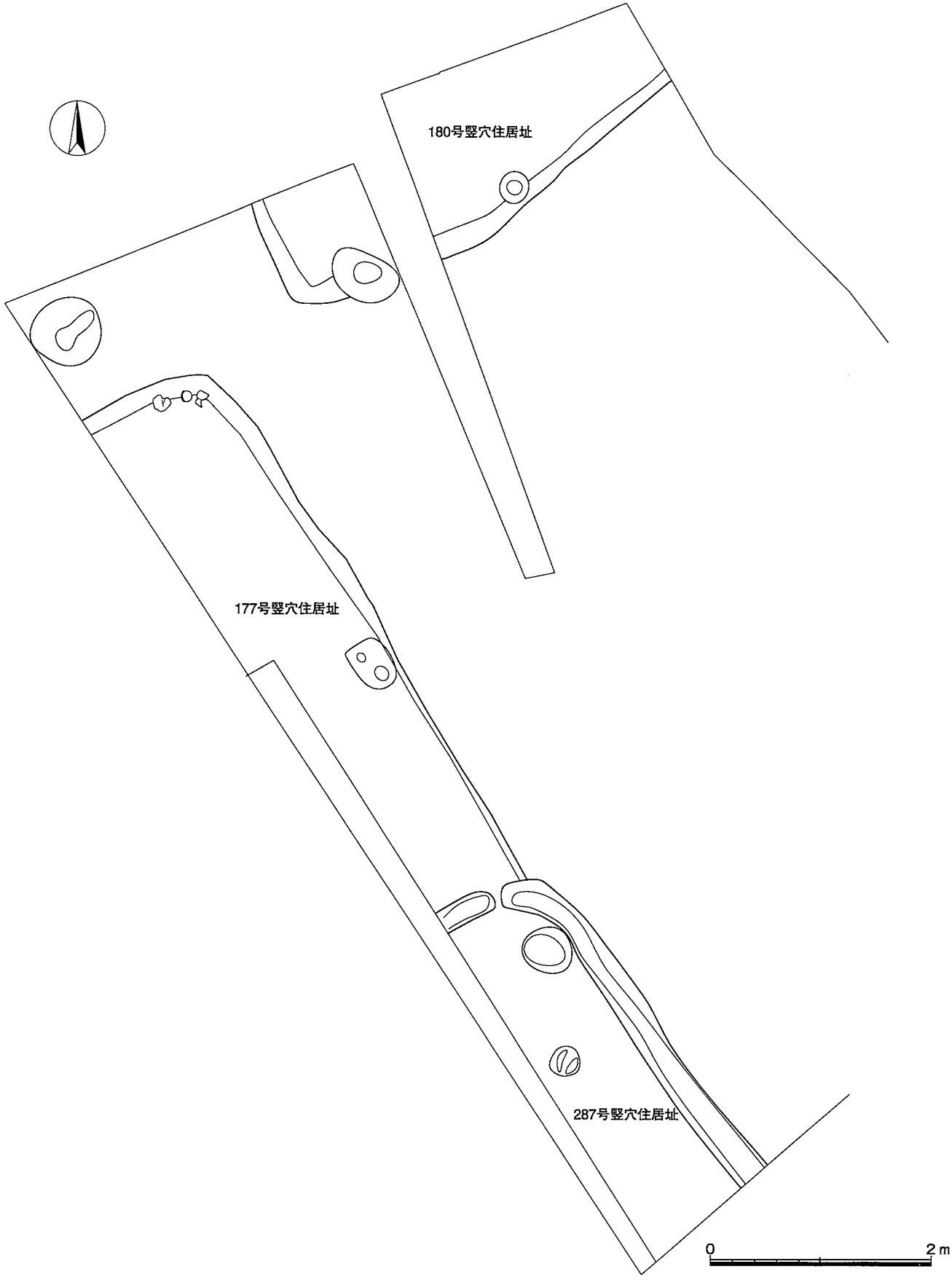


図54　177・180・287号竪穴住居址実測図（1 /50）

で出土した。その遺物の時期から、177号竪穴住居址の時期は、３世紀後半から末ごろと考えられる。

287号竪穴住居址（図54）

287号竪穴住居址は調査区中央に位置する。177号竪穴住居址と175号竪穴住居址を切っている。軸は177号竪穴住居址と同様Ｎ－33°－Ｗである。平面形は方形である。東辺が2.7m以上である。規模は不明である。床面まで掘り下げたことによって住居を検出したので、遺構の深さは不明である。主柱穴は不明である。住居の北壁、東壁に幅30cm、深さ20cmの溝がめぐっている。硬化面の有無は不明である。出土土器の時期から、遺構の時期は、４世紀中ごろと考えられる。

175号竪穴住居址（図52）

175号竪穴住居は調査区中央に位置する。145号竪穴住居と287号竪穴住居に切られる。軸は不明である。規模は不明である。壁は調査区外と他住居に切られて、残存しない。柱穴は確認できず、硬化面のみ検出した。遺物は古墳時代後期の土師器甕１点のみである。調査当初はその遺物から古墳時代後期の住居と考えたが、古墳時代前期の287号竪穴住居址に切られていることから、住居は、それ以前のものであり、遺物は他遺構か包含層から紛れ込んだものと判断した。

180号竪穴住居址（図54）

180号竪穴住居址は調査区中央に位置する。南西側一部178号竪穴住居址に切られる。南東側を140号竪穴住居址に切られる。軸は、Ｎ－30°～34°－Ｗである。北側７割ほどが調査区の外に位置し、旧第５病棟建設時に破壊されている。平面形は方形である。規模は、南辺が3.7m以上であるので、一辺が５ｍ弱×５ｍ弱程度であると思われる。主柱穴は不明である。硬化面は確認していない。排水等の施設はない。遺物の出土はない。

144号竪穴住居址（図55）

144号竪穴住居址は調査区中央に位置する。東の隅と南側の一部を撹乱によって破壊されている。軸はＮ－33°－Ｗである。平面形は方形である。規模は4.7m×4.7mである。深さは、30cm程である。主柱穴は東側の２本が確認された。硬化面は住居床面の中央に広がっている。炉は住居中央やや北よりにある。炉の南側１／３ほどは撹乱を受けている。炉の平面形は南北に長い長方形で、深さは５～10cmほどである。住居内部北辺沿いに幅30cm、深さ20cmほどの溝がある。暗渠と考えられる。床面から手捏ね土器２個と高坏２個が出土した。埋土中からも手捏ね土器が出土している。これらの土器はほぼ完形である。遺構の時期は、４世紀後半から５世紀初頭と考えられる。

230号竪穴住居址（図55）

230号竪穴住居址は調査区中央に位置する。東半分ほどを撹乱によって破壊されている。軸はＮ－28°－Ｗである。平面形は方形である。規模は3.6m×3.6mである。遺構の深さは、３層上面から床面まで25cmほどである。主柱穴は隅に４本柱である。西側の２本を確認した。硬化面はない。方形の炉が中央にある。遺物は４世紀後半から５世紀初頭の高坏や甕が出土している。

＜ピット＞（図53）

17号ピット（古代の碁石出土ピット）

17号ピットは調査区南西側、２号竪穴住居の北に近接した位置にある。平面は楕円形、断面は丸みを帯びた逆台形を呈する。古代の土師器、須恵器とともに碁石が出土した。遺構の時期は８世紀と考えられる。

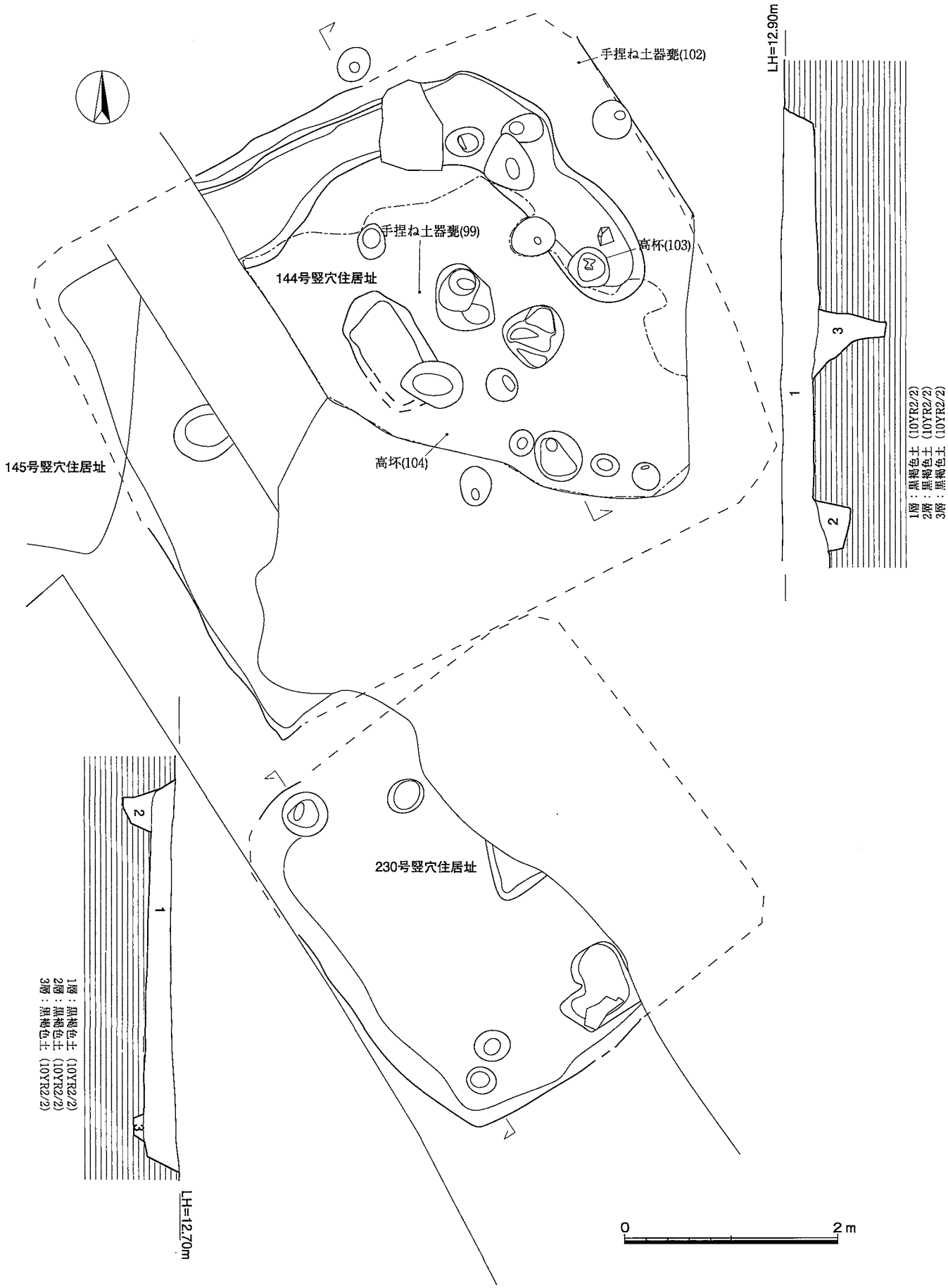


図55　144・230号竪穴住居址実測図（1 /50）

（4）出土遺物

＜溝出土土器＞

1号溝出土土器（図56：1～8）

1号溝の遺物には近世の遺物と、古代の遺物がある。1は近世の瓦質土器火鉢である。口縁外面にX字形のスタンプ模様が並んでいる。その下に突帯が貼り付けられている。2は施釉陶器の擂鉢である。焼成温度の低い橙色の陶胎である。口唇部内外面に灰色の泥のような釉が施されている。口唇部内面には自然釉が付着している。3は白磁碗の底部である。釉は薄い。高台の先端は釉が削られている。4は古代の土師器坏の底部である内外面に丹が塗られており、胎土にも赤色顔料が混ぜ込まれている。表面はローリングを受けて磨り減っている。5と6は須恵器埦の底部である。7は古代の土師器鍋か甑の把手である。これもいくぶんか磨り減っている。8は須恵器甕の口縁部である。

255・266号溝出土土器（図56：9～16）

9は回転ヘラミガキの施された土師器坏である。胎土に赤色顔料が混入されている。丹塗りはされていない。10は回転ヘラミガキの施された土師器坏である。内外面に丹塗りが施されている。底部内面には煤が付着している。煤の付着とヘラミガキの前後関係は、煤が先でヘラミガキが後である。11は内黒の黒色土器埦である。内面に炭素が付され、2mm程の幅のミガキが施されている。外面は焼きが良いのか、赤みが強い。12は須恵器の蓋である。つまみは付いていない。13は須恵器埦である。14は須恵器埦である。口径が18.3cmと、かなり大型の埦である。15は土師器の甕である。口縁内面と外面全体に丹塗りが施されている以上、255号溝は、8世紀前半から9世紀中ごろにかけての遺物が主体をなしている。16は須恵器の甕である。外面に平行線状のたたき目、内面に青海波状のたたき目がある。

256号溝出土土器（図56：17～26）

17は土師器模倣坏である。5世紀後半ごろの須恵器蓋を模倣したものである。18も土師器模倣坏である。内外面に丹塗りが施され、内面はミガキが施されている。19は須恵器の坏である。6世紀中ごろから6世紀後半のものである。20は土師器の高坏の脚部である。外面は削られている。21は土師器の高坏の脚部である。22は布留Ⅰ式の甕の口縁である。外面に、ナデを施した時に付いたと思われる右手親指爪痕が多数ある。23は土師器の甕である。口縁の内外面は回転方向の刷毛目が施されており、胴部外面は左上から右下に向かって刷毛目が施されている。内面は極薄に削られている。24は土師器の甕である。調整は23と同様である。25は土師器の甕である。これも調整は23、24と同様である。26は須恵器の甕である。256号溝出土土器は、22を除いてほとんどが、5世紀後半から6世紀後半にかけてのものである。

3号溝出土遺物（図57：27）

27は土師器の甕の口縁である。外面全体に煤が付着している。4世紀中ごろのものと思われる。

＜古代の住居出土土器＞

107号・108号竪穴住居址出土土器（図57：28～33）

28は土師器鍋か甑の把手である。手びねりで成形されており、刷毛目が施されている。29は土師器の高坏の脚部である。内外面にケズリが施されている。30は移動式竈の底部と思われる。外面に刷毛目が施されている。内面はケズリが施されている。31は土師器甕の口縁である。外面に刷毛目が施されている。32は土師器甕の頸部である。内外面に刷毛目が施されている。33は土師器の甑の口縁である。外面に刷毛目、内面にケズリが施されている。108号竪穴住居址の時期は、8世紀後半ごろと考えられる。

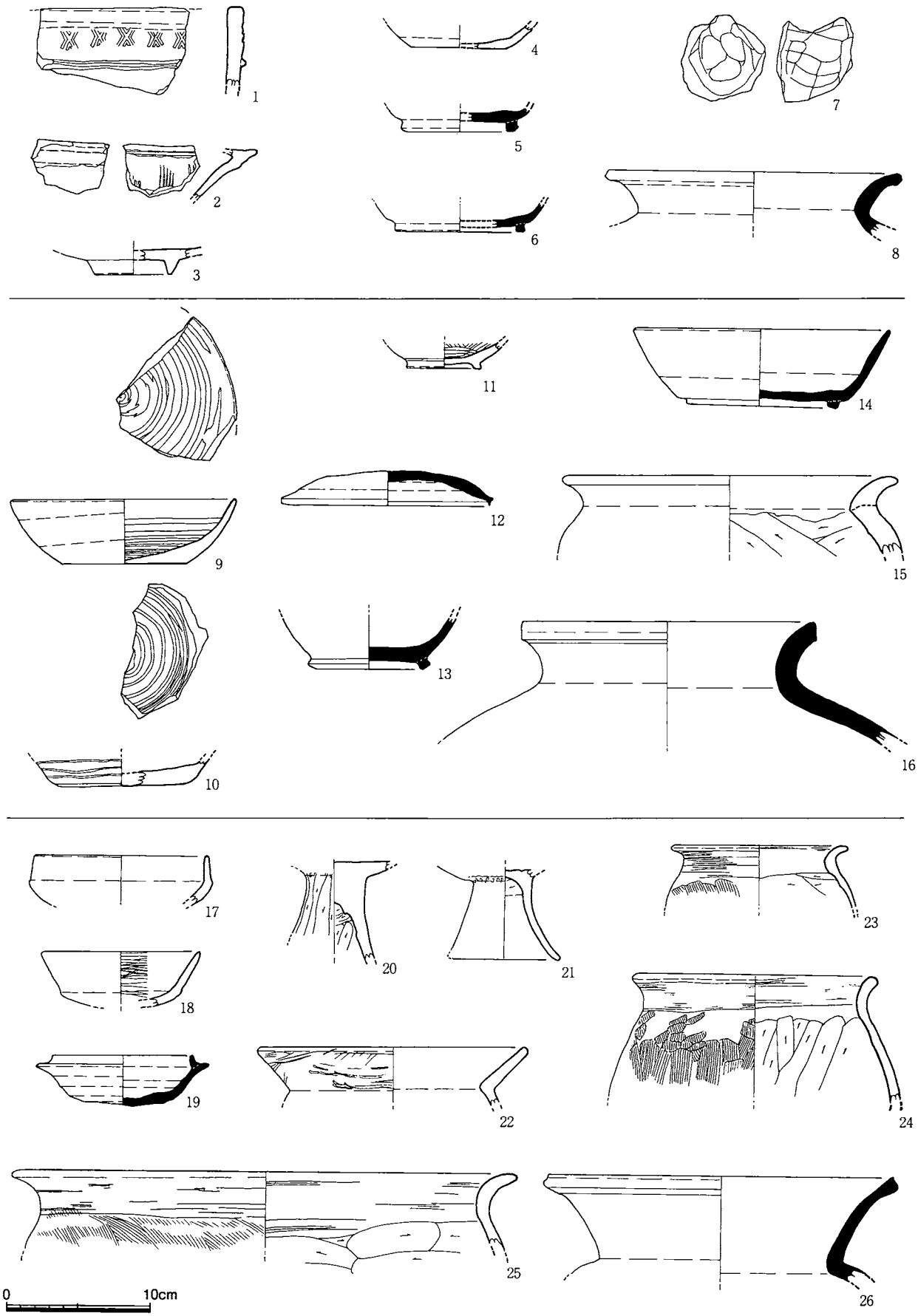


図56　1・255・256号溝出土土器実測図（1 / 4）

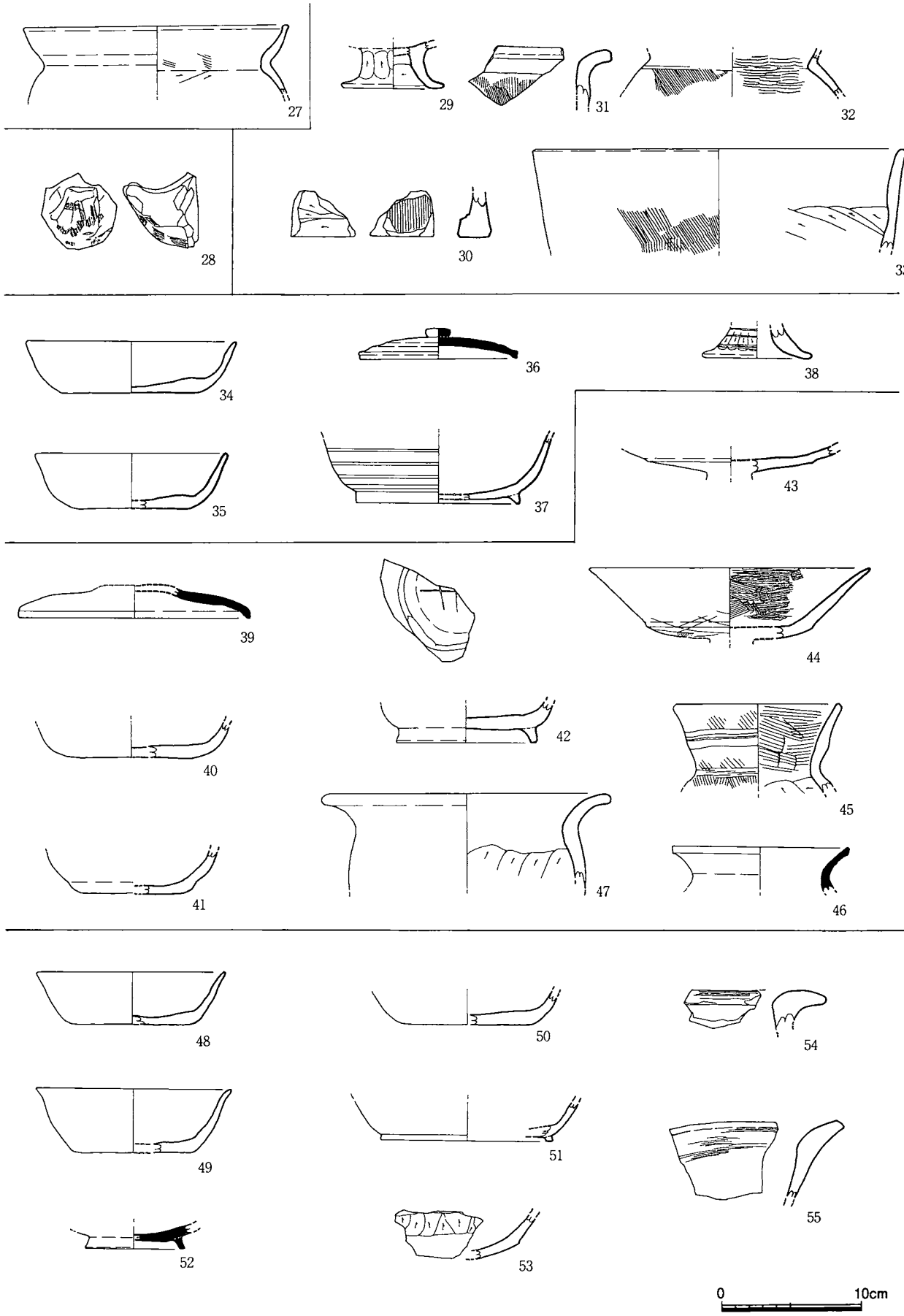


図57　3号溝、98・107・108・128・174号竪穴住居址出土土器実測図（1 / 4）

98号竪穴住居址出土土器（図57：34～38）

34、35は土師器の坏である。36は須恵器の蓋である。37は土師器の埦である。外面に回転ヘラミガキが施されている。38は土師器の高坏の脚部である。外面が削られた後に丹が塗られ、ミガキが施されている。98号竪穴住居址の時期は、8世紀後半から9世紀前半にかけてであると考えられる。

128号竪穴住居址出土土器（図57：39～47）

39は須恵器の蓋である。40は土師器の坏である。外表面が赤いが、焼きの具合によるものであろうか。41は土師器の坏である。胎土に赤色の粒が入っている。42は土師器の碗である。胎土が赤い。器表面も薄く丹が塗られているようにも見える。底部外面に「キ」というヘラ記号がある。43は古墳時代の高坏である。外面と胎土は焼成不良で黒色を呈している。内面は丹が塗られている。44は古墳時代の高坏である。内外面にハケメが施されている。45は古墳時代の土師器の壺である。口縁外面に煤が付着している。46は須恵器の壺である。47は土師器の甕である。口縁外面に煤が付着しており、胴部外面は煤が焼き消えて無くなっている。胴上部内面にこげが付いている。以上、128号竪穴住居址は8世紀の土器が主体を成すが、古墳時代の土器も混じっている。

174号竪穴住居址出土土器（図57：48～55）

48は土師器の坏である。49は土師器の坏である。胎土に赤い粒が入っている。50は土師器の坏である。内外面に煤が付着している。51は土師器の碗である。52は須恵器の碗である。53は土師器の甕である。外面にケズリが施されている。174号竪穴住居址竈粘土中出土である。54は土師器の甕の口縁である。55は土師器の甑と思われる。174号竪穴住居址竈粘土中からの出土である。174号竪穴住居址の土器は、7世紀終わりから8世紀後半にかけての土器が主体を成している。

145号竪穴住居址出土土器（図58：56～64）

56は土師器の碗である。57は土師器の高坏である。58と59は須恵器の蓋である。かえしの付くタイプである。60は土師器の皿である。内外面に丹が塗られている。61は須恵器の碗である。62は土師器の甕である。法量が小さく、口が狭い。63は土師器の甕である。64は土師器の甕である。口径が33cmと大きい。145号竪穴住居出土土器は7世紀末から8世紀前半の土器が主体を成している。

178号竪穴住居址出土土器（図58：65～70）

65は須恵器の蓋である。66は土師器の坏である。67は土師器の坏である。内外表面に丹が塗ってあるようだが、判然としない。68は土師器の坏である。69は土師器の高坏である。胎土に赤色の粒が含まれており、胎土全体が赤い。胎土に顔料を混ぜ込んでいるものと思われる。70は土師器の小型丸底壺である。重複する177号竪穴住居など古墳前期の遺構からの混入と考えられる。178号竪穴住居出土遺物は7世紀後半から8世紀にかけての遺物が主体を成す。

140号竪穴住居出土土器（図58：71）

71は土師器の坏である。回転台による成形である。8世紀から9世紀のものと考えられる。

＜古墳時代の住居出土土器＞

44号竪穴住居址出土土器（図58：72～75）

72は手づくね土器である。古墳時代前期のものである。上部欠損しているが、底部の形状から、全体の形状は、ラグビーボールを二つに割ったような、船の形と思われる。細い側の先が、注口のように若干突き出ている。73は土師器甕の口縁である。外面に煤が付着している。74は土師器甕の口縁である。外面に煤が付着している。75は土師器甕の口縁である。内外面にハケメが施されている。外面に煤が付着している。

2号竪穴住居址出土土器（図58：76～80）

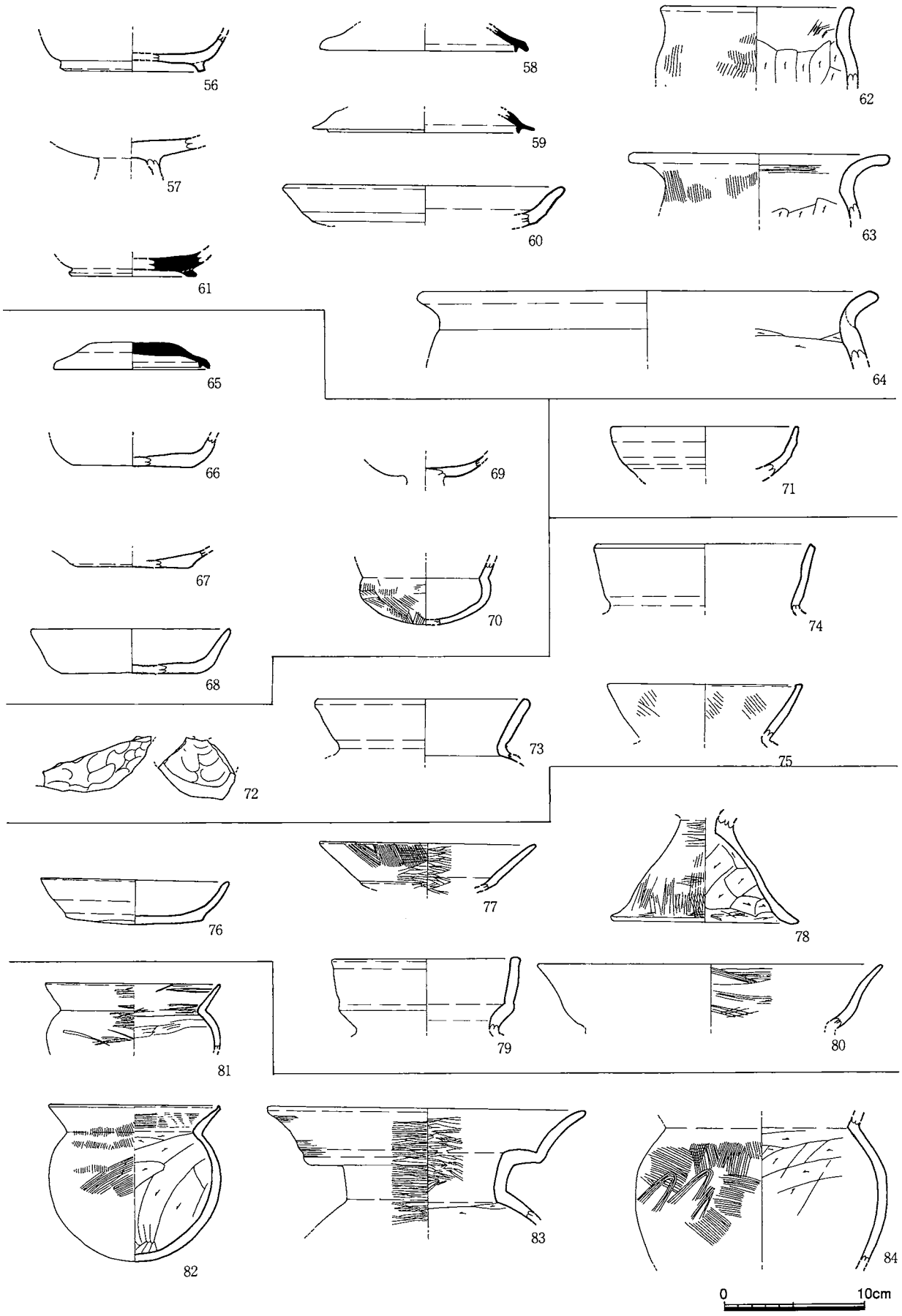


図58　145・178・140・44・2・59号竪穴住居址出土土器実測図（1／4）

76は土師器の坏である。全体に丹が塗られている。回転台を用いた成形で、古代のものである。この住居内の他の遺物は古墳時代前期が主体をなしており、77は、包含層からの混入であると考える。77は土師器の高坏の坏部である。内外面にミガキが施されている。78は土師器の器台の脚部である。外面がべっとりとしており、丹ではないが何か液体が塗られているようである。外面にハケメ、ミガキが、内面にケズリが施されている。79は土師器壺の口縁である。外面に直径３㎜大の圧痕がある。80は土師器二重口縁壺の口縁である。

59号竪穴住居址出土土器（図58：81～84）

81は土師器の小型丸底壺の口縁である。器面が赤い。丹塗り。断面を見ると、表面から１㎜ほどが赤く、内部はグラデーション的に黒くなっていくので、おそらく焼く前に丹を塗ったために、中まで酸素が行渡らなかったのではないか。内外面にミガキが施されている。３世紀末ごろのものである。82は土師器の小型丸底壺である。口縁端以外の全体形は81に似ているが、82は、ミガキが施されておらず、外面にはハケメが施されている。また、外面に煤が付着しており、使用されていたことがわかる。81と82は、形状は似ているが、異なる役割をもった土器である。83は土師器の二重口縁壺である。頸部から上がほぼ完形の状態で59号竪穴住居の炉に置かれていた。内外面にミガキが施されている。外面はハケメもほどこされている。外面に煤が付着している。住居廃棄以前に炉で使用されていたものが、住居廃棄に伴い、頸部から上だけが祭祀のために置かれたものであると考えられる。３世紀中ごろから後半にかけての近畿系の壺である。84は土師器の甕の胴部である。内外表面が燃焼のため赤色化している。使用による燃焼か、火災等の二次焼成によるものか判然としない。

60号竪穴住居址出土土器（図58：130）

82は59号竪穴住居床面出土土器片２点と60号竪穴住居床面出土土器片１点が接合している。130は土師器の甕である。器壁は薄く、内面はケズリが施されている。口縁外面はナデが不十分で凸凹している。

177号竪穴住居址出土土器（図59：85～88）

85は土師器の壺である。口縁内面にミガキが施されている。時期は布留Ⅱである。86は土師器の二重口縁壺の口縁部である。外面にハケメが施されている。布留ⅠかⅡである。87は土師器の小型丸底壺である。完形である。外面全体と内面口縁部にミガキが施されている。外面はミガキを施す前にハケメが施されている。胎土は赤い。88は土師器の甕の胴部である。外面全体に煤が付着している。煤付着の上にさらに被熱が加わり酸化して煤が消えた痕もある。何度も煮炊きに使用されたようである。時期は布留Ⅱのようである。

287号竪穴住居址出土土器（図59：89～96）

89は土師器模倣坏である。丹塗磨研である。五世紀後半から６世紀前半のものである。90は、古墳前期（布留Ⅲ）の土師器の高坏である。内外面丹塗である。内部が還元焔ぎみに灰色を呈している。焼成前に丹を塗ったために、中まで酸素が行き渡らなかったと考えられる。91は土師器の高坏である。丹は塗られていない。外面に煤が付着している。古墳時代前期（布留Ⅲ式）のものである。92は土師器の小型器台の脚部である。器壁が２～４㎜と薄い。内面にケズリ、外面にハケメが施されている。布留Ⅲ式か。93は土師器の壺の頸部から上である。口径が50㎜と非常に小さい。小壺か、徳利のような形を呈するのだろうか。手づくね成形ではない。内外面にミガキが施されており、ミガかれた部分は黒ずんでいる。94は、小型丸底壺の口縁である。胎土赤色である。95は土師器壺の口縁である。96は土師器の二重口縁壺の口縁である。287号竪穴住居の遺物は布留ⅡからⅢ式ごろのものが主体をなしている。

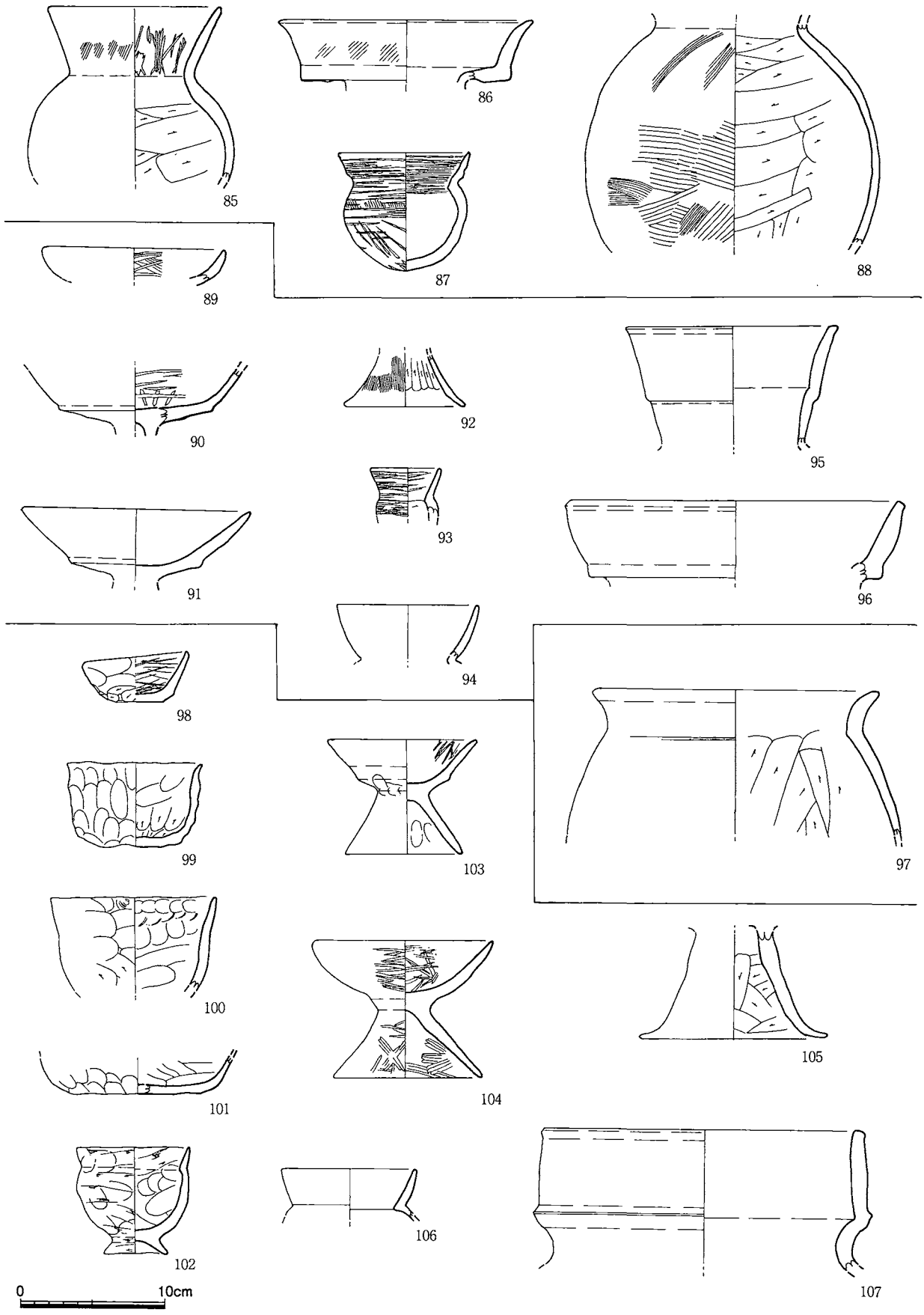


図59　177・287・175・144号竪穴住居址出土土器実測図（1 / 4）

175号竪穴住居址出土土器（図59：97）

97は古墳時代後期の土師器甕である。175号竪穴住居出土土器はこれのみである。

144号竪穴住居址出土土器（図59：98～107）

98は手捏ね土器である。鉢のミニチュアと考えられる。手捏ね成形後、ナデられ、底部外面にはケズリを施している。内面にはミガキを施したつもりなのか、沈線が無数に刻まれている。胎土に混入砂がわずかに認められるが、少ない。99は手捏ね土器である。甕のミニチュアと考えられる。成形時に水分を十分に含ませなかったためか、外面全体にひび割れが入っている。ひび割れは、ナデ消されておらず、そのままである。内面は底部の壁が指でケズられており、胴部はナデが施されている。胎土に混入砂はわずかに認められるが、少ない。底部外面全体に黒斑がある。100は、手捏ね土器である。甕のミニチュアと考えられる。成形時に水分を十分に含ませなかったためか、外面全体にひび割れが入っている。ひび割れは、ナデ消されておらず、そのままである。口唇部外面に指紋がある。口縁部内面には爪の痕が並んでいる。内面全体に黒斑がある。胎土に混入砂はわずかに認められるが、少ない。101は手捏ね土器である。甕のミニチュアと考えられる。成形時に水分を十分に含ませなかったためか、外面全体にひび割れが入っている。ひび割れは、ナデ消されておらず、そのままである。内面全体に黒斑がある。胎土に混入砂はわずかに認められるが、少ない。102は手捏ね土器である。甕のミニチュアと考えられる。弥生後期の台付甕のような形をしている。内外面に丁寧にナデが施されている。混入砂は多い。焼きは良好である。土器の作り方をある程度知っている人物による作であると考えられる。144号竪穴住居出土の手捏ね土器は、焼きが良く、ナデ、ケズリ、ミガキなど通常の土器の調整手法が使用されて作られている98・102と、焼きが悪く、ひび割れており、通常の土器の調整手法が使われていない99・100・101とに分けられる。

103は、土師器の高坏である。4世紀後半から5世紀初頭のものと考えられる。坏部内面にわずかにミガキが認められる。脚部が直線的に広がる形状である。104は土師器の高坏である。内外面全体にミガキが施されている。105は土師器の高坏の脚部である。内面にケズリが施されている。古墳時代前期後半のものである。106は土師器の小型丸底壺である。磨きは施されていない。107は土師器の甕の口縁である。古墳時代前期後半のものである。

230号竪穴住居址出土土器（図60：108～110）

108は土師器の高坏である。坏部完形であり、脚部はない。外面にハケメ、内面にミガキが施されている。109は土師器の甕である。胴部外面に吹きこぼれ痕が数条残っている。外面に煤が多く付着している。液体を熱するのに使用されたと考えられる。110は土師器の甕である。外面の半分と内面の全体に黒斑がある。煤はほとんど付いていない。230号竪穴住居出土土器はどれも4世紀後半ごろのものと思われる。

＜ピット出土土器＞

17号ピット出土土器（図60：111～113）

111は土師器の坏である。回転台成形で内外面に丹が塗られている。112は須恵器の碗である。直線的で外側に張り出さない貼り付け高台である。8世紀前半のものと考えられる。113は須恵器の甕の胴部である。外面格子目タタキ、内面に青海波状のタタキ目がある。

73号ピット出土土器（図60：114）

114は土師器の小型丸底壺である。4世紀後半ごろのものと考えられる。

103号ピット出土土器（図60：115）

115は古代の甕の口縁である。口径が15.4cmと小型の甕である。口縁内面に喫水線のような焦げ目

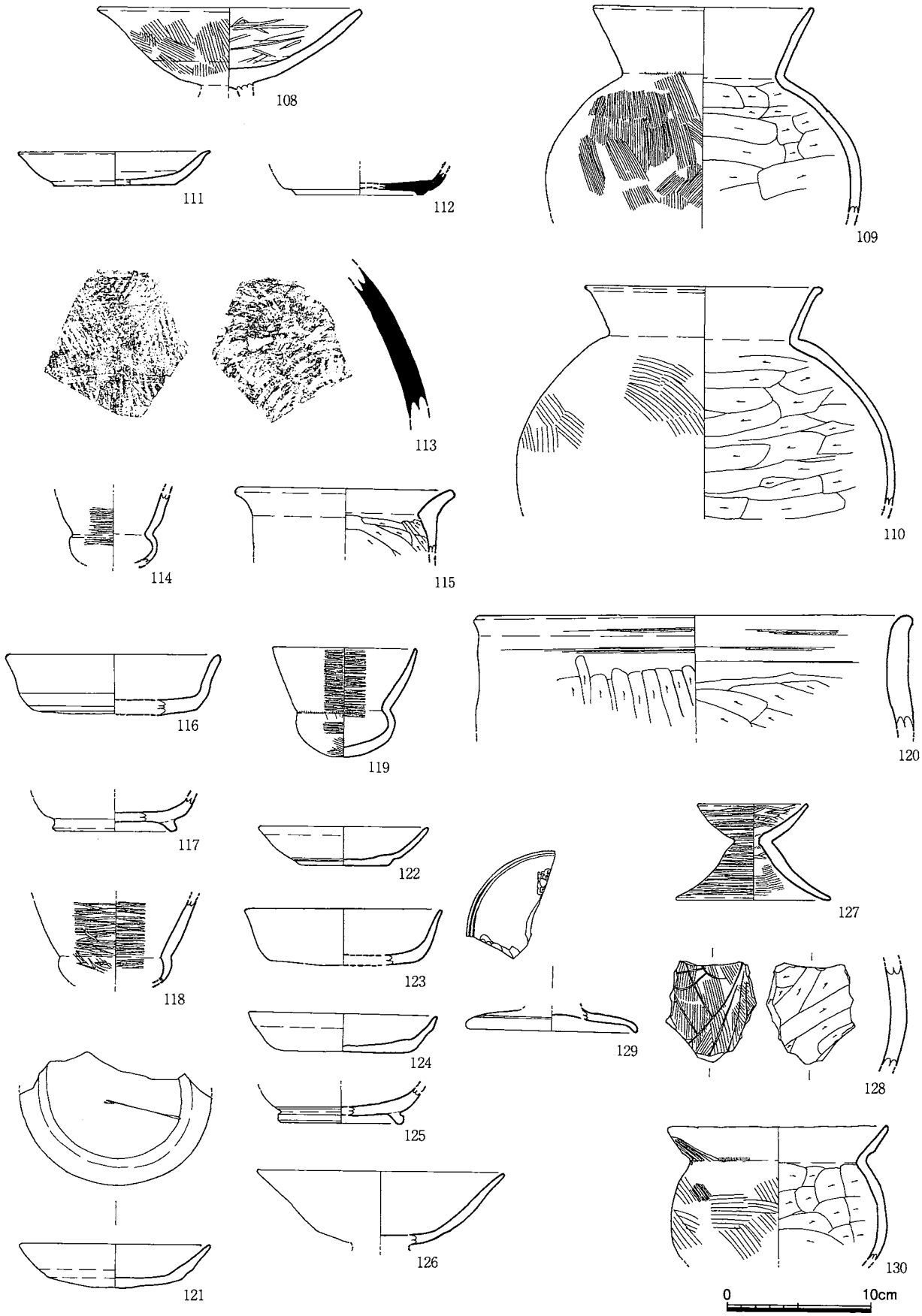


図60　230号竪穴住居址、ピット、包含層、攪乱出土土器実測図（１／４）

が付いている。外面には全体に煤が付着している。

＜包含層出土土器＞（図60：116～121）

包含層は、そのほとんどが病院建物建設によって破壊されており、遺物は少ない。116は土師器の坏である。8世紀のものである。117は土師器の碗である。7世紀後半のものである。118は土師器の小型丸底壺である。4世紀後半ごろのものと考えられる。内外面に丹塗りの後にミガキが施されている。119は土師器の小型丸底壺である。4世紀後半ごろのものと考えられる。内外面にミガキが施されている。120は内外面にケズリが施された古代の土師器甕である。口縁はわずかに外反する。器壁が16㎜とかなり厚手である。121は8世紀後半から9世紀初頭の土師器の坏である。内外面に丹が塗られている。また、底部外面にヘラ記号「一」と記されている。

＜撹乱出土土器＞（図60：122～129）

122は、内外面丹塗りの土師器坏である。回転台成形であり、8世紀後半から9世紀にかけてのものである。123は、土師器坏である。回転台成形であり、8世紀後半から9世紀にかけてのものである。124は、内外面丹塗りの土師器坏である。回転台成形であり、8世紀後半から9世紀にかけてのものである。125は、土師器碗である。回転台成形であり、8世紀のものである。126土師器の高坏である。内外面に丹が塗られている。127は古墳時代前期の土師器小型器台である。ほぼ完形である。内面にミガキとハケメ、外面にミガキが施されている。128は、古墳時代後期の甕の胴部破片である。内面にケズリ、外面にハケメが施されている。外面に線刻で模様が施されており、直弧文のようである。129は、昭和16年～20年に配給された国民食器の磁器蓋である。クロム顔料（緑色）で縁に二重線がめぐらせてあり、外面中央に「官立」？というロゴがはいっている。本学医学部の前身である官立熊本医科大で使用されていた食器であろう。

＜ヘラ書き土器＞（図61：131～134）

131は98号竪穴住居址出土の土師器の坏である。底部内面には、「寺」の字が刻まれている。底部内面には煤の付着がある。底部外面中央には、灰が固まってこびりついており、その周囲はおそらく二次的な被熱によって赤く変色し、さらにその周囲には煤が付着している。器の残存率は2／3程度である。この土器は98号竪穴住居西側の床下の窪みの中から出土している。住居建設時の地鎮祭に伴って供献された遺物と考えられる。器面の二次的な被熱の痕はその際に出来たものと考えられる。132は、255号溝出土の、ヘラ書きのある土師器坏の底部である。古代の土師器坏の底部内面に、「判」と刻まれている。133は古代の土師器坏である。底部内面に、行書体で「牧」？もしくは「物」？と刻まれている。134は古代の土師器坏である。底部内面に「寺」の左上部分？が書かれている。

＜石器＞（図61：135～142）

135は全体が焦げている丸礫である。竈の近くからの出土ではなく、埋土中からの出土である。136は256号溝出土の敲石である。全体に敲打痕があり、使用方法が多岐にわたることがわかる。137は98号竪穴住居出土の敲石である。各面中央と端部に敲打痕がある。138は、磨り石である。端部と平坦面がすれている。表面に無数の穴があるが、これは敲打痕ではなく、石元来の気泡による穴である。石材は凝灰岩と思われる。139は石製の紡錘車である。全体が研磨されている。色調は5Ｇ5／1オリーブ灰色である。石材は滑石と思われる。139は、144鉄製紡錘車と重なって108号竪穴住居址床面から出土した。中央の孔部分が完全に同位置に重なっており、重ねて使用されていた可能性が高い。廃棄時には木の棒が孔に刺さっていたと思われる。144と接していた部分には錆が付着している。140は石製紡錘車である。全体が研磨されている。色調は7.5YR 6／4にぶい橙である。石材は、斑状組織であるので、火山岩の一種と思われるが、不明である。141は108号竪穴住居址出土の碁石である。

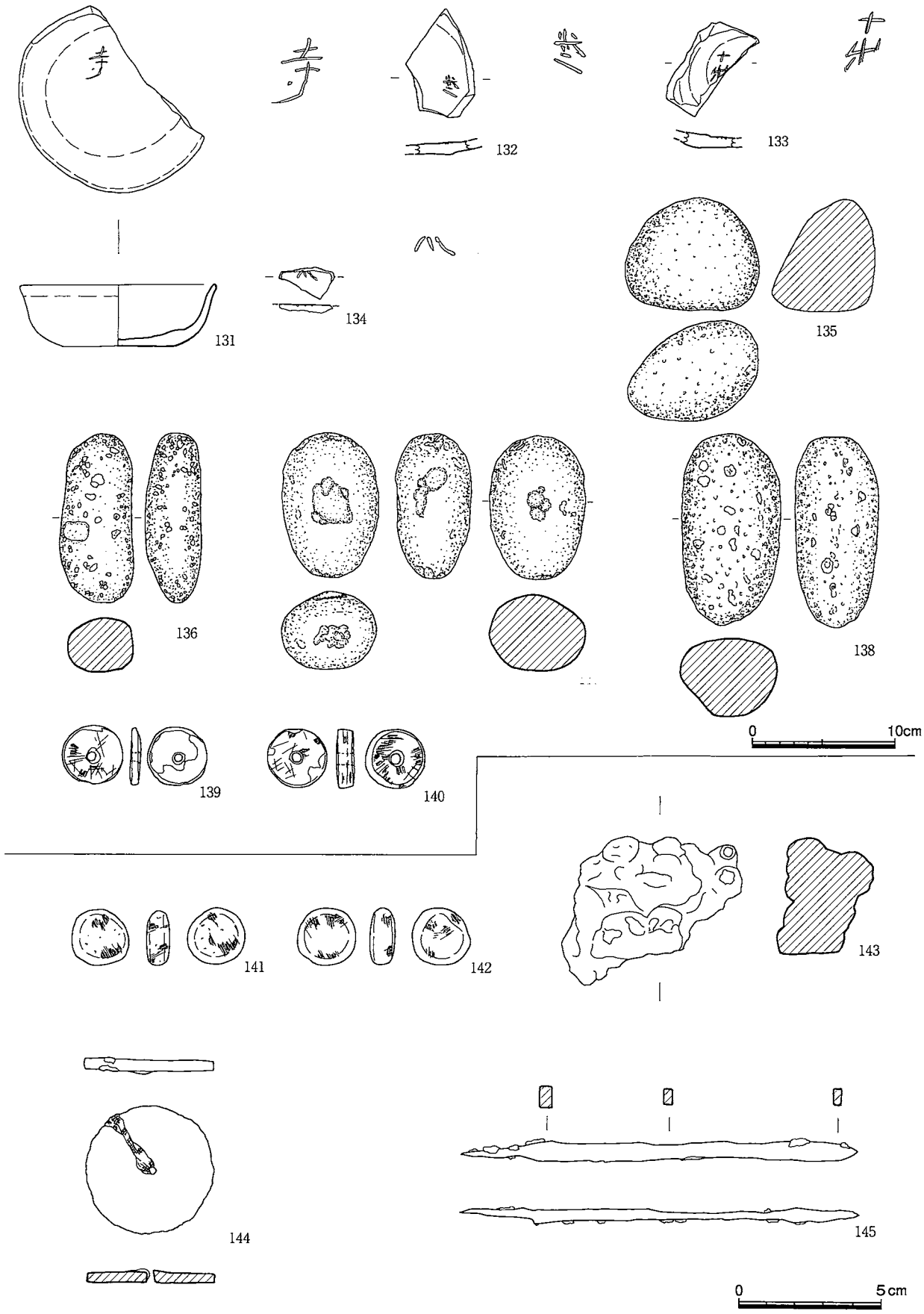


図61　刻書土器・石器（１／４）・鉄器実測図（１／２）

全体が研磨されている。色調は2.5YR 3 / 2黒褐色である。石材は不明である。光沢は無い。17号ピット出土碁石と同じ大きさである。142は17号ピット出土の碁石である。全体が研磨されている。色は少し透明感のある黒であり、現代の碁石のような色である。石材は、現代の碁石と変わらぬような石であるが、不明である。規格は141と同じである。

＜鉄器＞（図61・62：143～154）

143は255号溝出土の鉄滓？である。金属探知機に反応しないので、鉄分が非常に少ないと思われる。全体に泡ふくれがある。144は108号竪穴住居址出土の鉄製の紡錘車である。中央の穴から139と重なっていない側に繊維質が出ており、表面に付着している。直径44㎜、厚さ６㎜である。145と147は並んで108号竪穴住居址の床面から出土した。145は鉄鏃である。完形である。長頸柳葉鏃である。長さ140㎜、幅７㎜、厚さ4. 5㎜である。146は98号竪穴住居址出土の鉄製の鏃である。床面より５cm程度上の埋土中から出土した。長頸柳葉鏃である。頸部の中ほどから曲げられており、なんらかの祭祀に関わる遺物と考えられる。長さ70㎜、幅７㎜、厚さ６㎜である。147は鉄鏃である。３分の１ほどが破損している。長頸柳葉鏃である。長さ75㎜幅５㎜厚さ４㎜である。148は128号竪穴住居址埋土中から出土した鉄鏃である。先半分ほどが欠損している。長頸鏃である。残存長40㎜、幅６㎜、厚さ6.8㎜である。149鉄鏃である。方頭鏃である。時期は、古墳後期から古代である。150は長頸鏃である。時期は、古墳後期から古代である。151は残存長62.5㎜幅７㎜厚さ３㎜である。鉄鏃にしては薄く、つくりが頑丈ではない。形は片刃鏃である。152は鑿のように細長い角柱形をしており、片方の先端に両刃がある鉄製品である。頭は潰れていない。柄に差し込んで使う鑿かと考えたが、刃が厚く、両刃なので、はたして鑿なのか断定できない。153は鉄鎌である。撹乱からの出土である。柄に装着する部分あたりと思われる。154は、鉄塊である。一部木質が付着している。ずっしりと重く、鉄分が多いことがわかる。鍛冶滓だろうか。

＜銅器＞（図62：155～157）

155は98号竪穴住居出土の銅製の桾帯である。形は方形で、巡方と呼ばれるものである。縦1.75cm× 横２ cmと、やや小さめである。裏面の四隅に突起がある。漆の塗布は不明である。住居東側壁付近の床面から出土した。156は銅銭である。1086年（北宋）初鋳の元祐通寶である。かなり表面が磨り減っている。１号溝上部の包含層から出土している。157は銅製の簪である。撹乱からの出土であり、近世のものである。耳かきの屈曲部分周辺のみの残存である。

＜縄文時代の土器＞（図62・63：158～180）

158は、辛川Ⅱ式から西平式の深鉢の胴上部である。数条の沈線と、沈線によって区画された中に磨消縄文が施されている。外表面は部分的に薄く黒色を呈す部分とにぶい橙色を呈す部分がある。内表面は明黄褐色を呈す。内外面にミガキが施されている。159は、160同様、辛川Ⅱ式から西平式の深鉢の胴上部である。数条の沈線と、沈線によって区画された中に磨消縄文、食い違い弧、円紋などが施されている。外表面は部分的に薄く黒色を呈し、内表面はにぶい黄橙色を呈す。内外面にミガキが施されている。160は、辛川Ⅱ式から西平式の深鉢の胴上部である。上部に刻み目、その下に数条の沈線と、沈線によって区画された中に磨消縄文、食い違い弧、円紋などが施されている。外表面はムラがあるが薄く黒色を呈し、内表面はにぶい黄橙色を呈す。内外面にミガキが施されている。161は、御領式から天城式ごろの浅鉢の口縁である。山形に突起し、外面に二条の沈線が巡らされている。内外面に黒色磨研が施されている。162は、御領式から天城式ごろの浅鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。163は、御領式から天城式ごろの浅鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。164は、御領式から天城式ごろの浅鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。

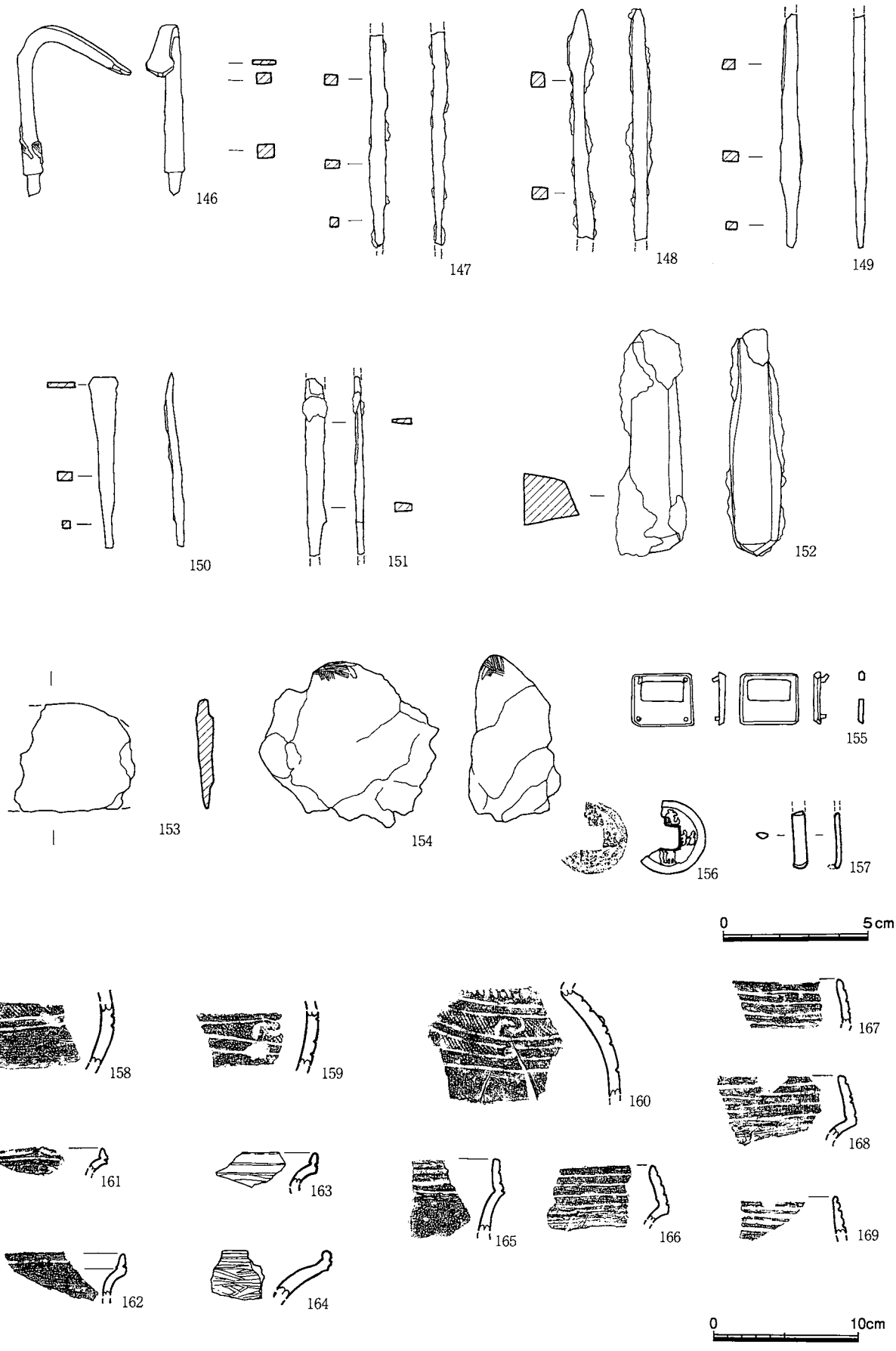
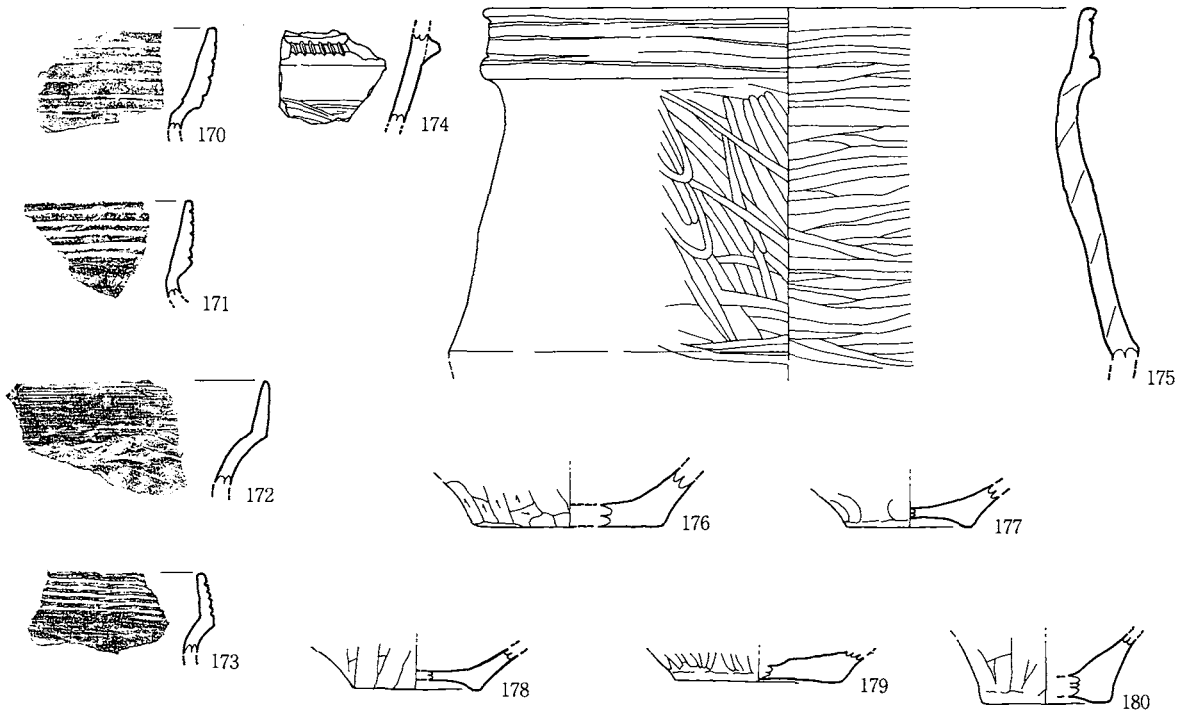
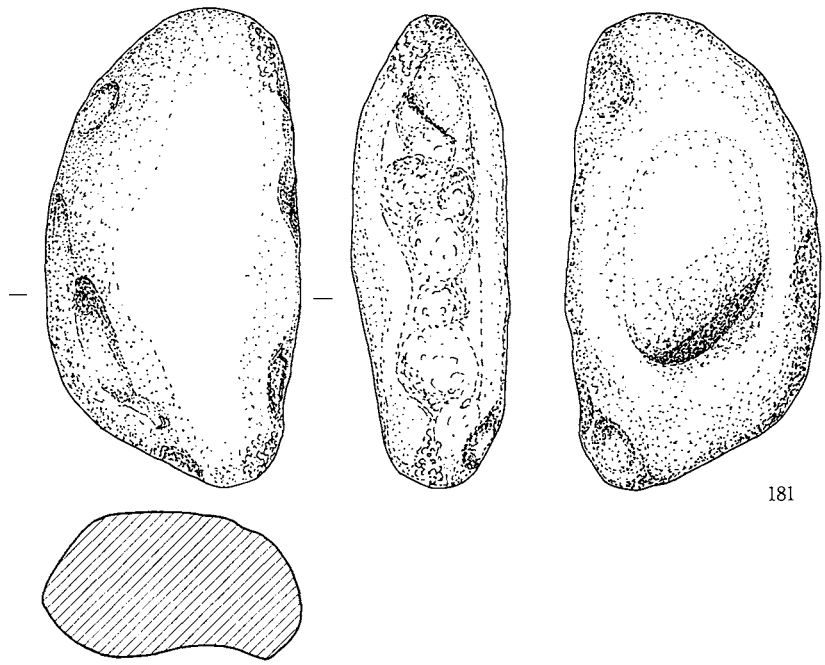


図62　鉄器・銅製品（１／２）・縄文土器実測図（１／４）





0　10cm

図63　縄文土器・石器実測図（1 / 4）

165は、天城式から古閑式の深鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。166は、天城式の深鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。167は、天城式の深鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。168は、天城式の深鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。169は、御領式から天城式ごろの浅鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。170は、天城式の深鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。171は、天城式の深鉢の口縁である。内外面に丹塗り磨研が施されている。172は、古閑式の深鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。173は、天城式から古閑式の深鉢の口縁である。内外面に黒色磨研が施されている。174は、山ノ寺式の深鉢の胴部である。外表面は焼きが良く、橙色を呈する。内面は逆に焼成不良の黒褐色を呈する。外面に刻み目突帯があしらわれている。外面には、突帯をなで付けるための指ナデと、横方向の雑なハケメが施されている。175は晩期古閑式の深鉢の口縁から胴部にかけてである。内外面とも丁寧な黒色磨研が施されている。口縁外面の条線は退化し、乱れている。176は、後晩期の深鉢の底部である。底面は平坦である。外面は、ミガキかケズリか定かでないが、1 cm弱幅の単位で表面に調整が施されている。177は、後晩期の鉢の底部である。底面は上げ底になっている。外面には指おさえ痕がある。178は、後晩期の鉢の底部である。底面は上げ底になっている。外面は太い単位（幅1 cm）のミガキが施されている。179後晩期の鉢の底部である。底面は、ほんの少し上げ底になっている。外面は細い単位（幅3 mm）のミガキが施されている。180は、後晩期の深鉢の底部である。底面は上げ底になっている。外面は太い単位（幅1 cm）のミガキが施されている。

＜縄文時代の石器＞（図63：181～192）

181は、石皿である。3層上面からの出土である。周辺の竪穴住居は2層中から掘り込まれていると考えられるため、この石皿は、それら古代の住居に伴うものではなく、それ以前の時期のものと考える。幅の広い面の片側に大きな窪みがあり、擦り痕と黒い有機物の付着がある。側面には、数箇所同様の窪みの小さいものがある。また、端部には敲打痕が数箇所にある。石材は火山岩系の石と思われる。安山岩か。全体に角がなく、河原から持ち込まれた石材と考えられる。182は、打製石鏃である。石材不明である。183～192は黒曜石の剥片である。

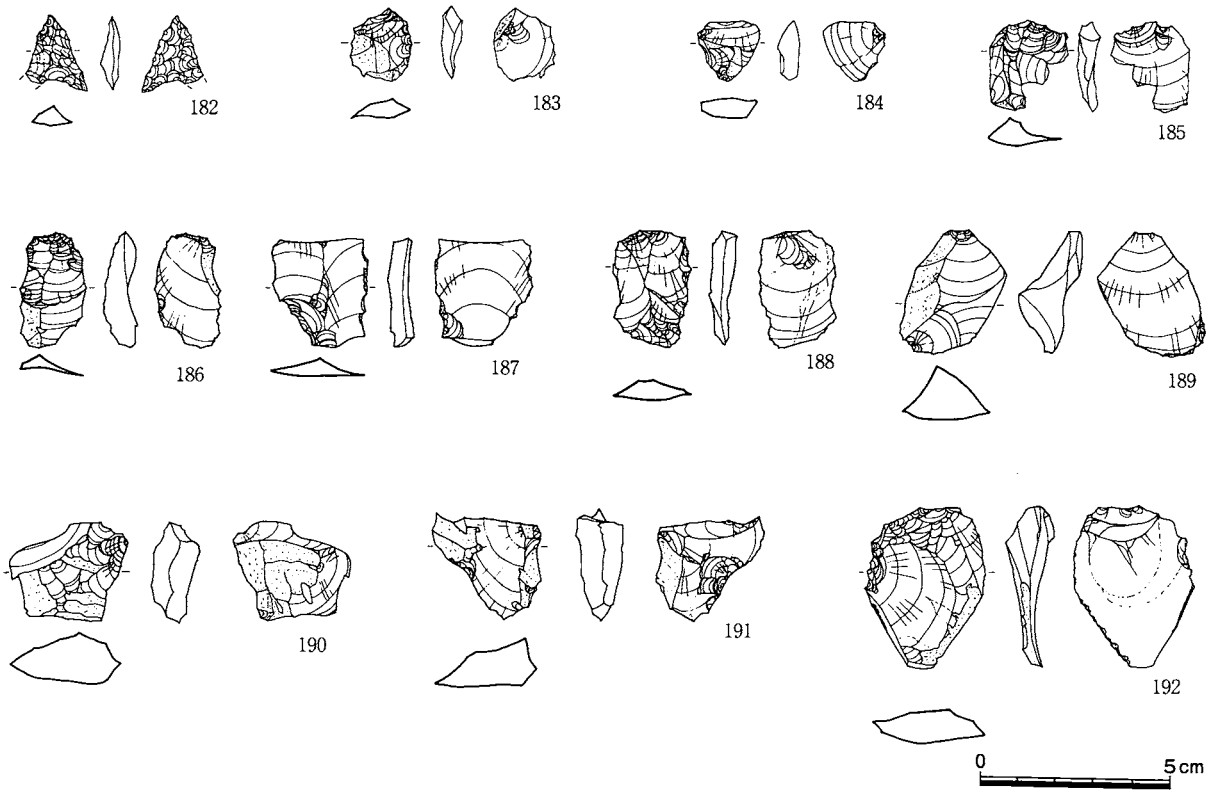


図64　打製石鏃・黒曜石剥片実測図（１／２）

（５）まとめ

今回の調査結果は、隣接する9901調査区、0104調査区等の既往の成果をおおむね補足するものであった。今回の調査区では、近世の溝１本、古代の溝２本、古墳時代の溝２本、古代の竪穴住居８基、古墳時代の竪穴住居址11基、その他ピット等の遺構、縄文時代後晩期の土器・石器等が検出された。縄文時代の土器・石器の出土は当該地の土地利用が後期の辛川Ⅱ式もしくは西平式期までさかのぼる可能性を示した。さらに晩期前半土器とともに刻目突帯文土器も出土しており、後期後半から晩期後半にかけて連続した生活址の存在が示唆される。ただ、今回の調査で遺構は検出されなかった。古墳時代前期の竪穴住居群は、9901調査区と同じく軸をＮ－30°－Ｗ程にとっており、地形の傾斜に沿った方向である。住居の時期は３世紀末から４世紀後半が主である。ほぼ30m北に位置する0104調査区で検出された古墳時代前期の住居群と同一の集落を形成していると考えられる。古墳時代後期の溝は9901調査区の続きを検出した。古代の竪穴住居は、軸を真北にとっており、9901調査区と共通するが、100m程南に離れた0411調査区とは異なる。これも、今回の調査区の一帯と、0411調査区一帯がやや性格を異にするという見解（大坪2005）を裏付けている。古代の98号竪穴住居からは、銅製の銙帯、「寺」ヘラ書き土器などが出土した。255号溝からは「判」と書かれたヘラ書き土器が、包含層からは「牧」もしくは「物」ヘラ書き土器が、撹乱からは「寺」の上部と思われるヘラ書き土器が出土した。また、古代の17号ピットや108号竪穴住居から碁石が出土した。これらから古代の当遺跡における識字層の存在がいっそう裏付けられた。また、今回の調査においても９世紀後半から近世までの遺構は検出されなかった。16～17世紀ごろになると、大溝が１つ存在する。今のところ当地区の中世の土地利用はなかったと考えられる。

表７　0712調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺　構	遺物の種類	大きさmm	残　存　率	調　　整	色　　調	備　　考
56	1	1号溝	瓦質土器火鉢	口径 底径 器高（6）	口縁の一部	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：2.5Y 7／3浅黄 外面：5B 5／1青灰	内面煤付着
	2	1号溝	施釉陶器擂鉢	口径 底径 器高（3.9）	口縁の一部	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	釉薬：10YR 6／2灰黄 褐陶胎：2.5YR 5／6明赤褐	
	3	1号溝	白磁碗	口径 底径　55 器高（19）	底部の1／4	内面： 外面：	釉薬：やや青い白 陶胎：白	高台端の釉を削る。釉薄い。
	4	1号溝	土師器坏	口径 底径　68 器高（18）	約1／6	内面：ナデ→ミガキ 外面：ナデ→ミガキ	丹塗：2.5YR 6／6橙 陶胎：7.5YR 7／4にぶい橙	内外面丹塗り。胎土に赤色顔料混入。
	5	1号溝	須恵器碗	口径 底径　84 器高（17）	底部の1／3	内面：ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 5／0灰 外面：N 5／0灰	
	6	1号溝	須恵器碗	口径 底径　63 器高（19）	底部の1／3	内面：ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 6／0灰 外面：N 6／0灰	
	7	1号溝	土師器甕の把手	口径 底径 器高		内面： 外面：指頭圧痕	内面：2.5YR 5／2暗灰黄 外面：7.5YR 6／4にぶい橙	手びねり。内面焼成不良、黒斑あり。
	8	1号溝	須恵器甕	口径　216 底径 器高（45）	口縁の1／6	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 4／0灰 外面：5YR 5／3にぶい赤褐	口縁部内面に自然釉
	9	255号溝	土師器坏	口径　160 底径　86 器高　46	1／4	内面：回転ナデ→同転ヘラミガキ 外面：回転ナデ	内面：5YR 6／6橙 外面：5YR 7／6橙	胎土に赤色顔料混入
	10	255号溝	土師器坏	口径 底径　81 器高（18）	1／2	内面：丹塗り→煤付着→回転ヘラミガキ 外面：底部ヘラケズリ→回転ヘラミガキ	丹塗：2.5YR 5／6明赤褐 陶胎：10YR 7／4にぶい黄褐	内外面丹塗り、回転ヘラミガキ。内面に煤付着。
	11	255号溝	黒色土器碗	口径 底径　54 器高（19）	底部の1／6	内面：ナデ→ミガキ 外面：ナデ→ミガキ	内面：N1.5／0黒 外面：5YR 6／6橙	内面に吸煤磨研
	12	255号溝	須恵器蓋	口径　150 底径 器高　25	完形	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 6／0灰 外面：N 6／0灰	
	13	255号溝	須恵器碗	口径 底径　86 器高（39）	1／4	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 4／0灰 外面：N 4／0灰	
	14	255号溝	須恵器碗	口径　183 底径　103 器高　57	完形	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：2.5YR 7／1灰白 外面：2.5YR 7／1灰白	
	15	255号溝	土師器甕	口径　240 底径 器高（56）	口縁部の1／6	内面：回転ナデ。ケズリ。 外面：回転ナデ	丹塗：2.5YR 5／8明赤褐 陶胎：10YR 7／3にぶい黄橙	口縁内面と外面全部に丹塗り
	16	255号溝	須恵器甕	口径　206 底径 器高（88）	口縁部の1／6	内面：回転ナデ、タタキ。 外面：回転ナデ、タタキ	内面：N 6／0灰 外面：N 3／0暗灰	口縁部内面、肩部外面に自然釉
	17	256号溝	土師器模倣坏	口径　125 底径 器高（36）	1／6	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	5㎜程度の白色礫（石英？）含む
	18	256号溝	土師器模倣坏	口径　112 底径 器高（39）	1／6	内面：ナデ→丹塗→ミガキ 外面：ナデ→丹塗	内面：5YR 4／8赤褐 外面：5YR 5／8明赤褐	全面丹塗り。内面ミガキ。5㎜程度の白色礫（石英？）含む。
	19	256号溝	須恵器坏	口径　122 底径 器高　36	1／2	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 5／0灰 外面：N 4／0灰	
	20	256号溝	土師器高坏	口径 底径 器高（71）	1／3	内面：指で削り取る 外面：ヘラケズリ	内面：7.5YR 8／8黄橙 外面：7.5YR 6／6橙	3㎜程度の白色礫（石英？）含む。 胎土に赤色顔料混入
	21	256号溝	土師器高坏	口径 底径　81 器高（66）	1／2	内面：指でこすりつける 外面：指でこすりつける	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 8／8黄橙	3㎜程度の白色礫（石英？）含む
	22	256号溝	土師器甕	口径　194 底径 器高（41）	口縁の1／4	内面：ナデ、ケズリ 外面：ナデ	内面：5YR 6／6橙 外面：5YR 5／6明赤褐	布留Ⅰ式。口縁外面に爪痕有り。
	23	256号溝	土師器甕	口径　128 底径 器高（44）	口縁の1／2	内面：ケズリ 外面：ハケメ	内面：10YR 7／2にぶい黄褐 外面：10YR 6／3にぶい黄褐	口縁内面と胴内面にこげ。外面に吹きこぼれ痕、煤付着。
	24	256号溝	土師器甕	口径　176 底径 器高（88）	口縁の1／4	内面：ケズリ 外面：ハケメ	内面：7.5YR 6／6橙 外面：7.5YR 6／6橙	5㎜程度の白色礫（石英？）含む
	25	256号溝	土師器甕	口径　360 底径 器高（56）	口縁の1／3	内面：ケズリ 外面：ハケメ	内面：5YR 7／8橙 外面：5YR 6／8橙	5㎜程度の白色礫（石英？）含む
	26	256号溝	須恵器甕	口径　246 底径 器高（75）	口縁の1／4	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 3／0灰 外面：N 3／0灰	5㎜程度の白色礫（石英？）含む
57	27	3号溝	土師器甕	口径　190 底径 器高　50	口縁破片	内面：回転ナデケズリ 外面：回転ナデ	内面：10YR 7／4にぶい黄橙 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	外面全体に煤付着
	28	107号竪穴住居	土師器甕把手	縦64 横54 厚さ　54	把手のみ	内面：ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 5／4にぶい褐	
	29	108号竪穴住居	土師器高坏	口径 底径　74 器高　34	脚部の1／3	内面：回転ナデ、ケズリ 外面：回転ナデ、ケズリ	丹塗：2.5YR 5／8明赤褐 陶胎：10YR 5／4にぶい黄橙	坏部内面丹塗り
	30	108号竪穴住居	土師器移動式竈	口径 底径 器高（33）	底部小片	内面：ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：7.5YR 7／4にぶい橙 外面：7.5YR 7／4にぶい橙	底面に黒斑あり
	31	108号竪穴住居	土師器甕	口径 底径 器高（41）	口縁小片	内面： 外面：ハケメ、ナデ	内面：5YR 6／6橙 外面：5YR 5／6明赤褐	
	32	108号竪穴住居	土師器甕	頸径　122 底径 器高（26）	頸部の1／8	内面：ハケメ 外面：ハケメ	内面：7.5YR 4／3褐 外面：10YR 2／1黒	内外面に煤付着
	33	108号竪穴住居	土師器甑？	口径　268 底径 器高　73	口縁の1／12	内面：ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：10YR 7／3にぶい黄橙 外面：10YR 7／3にぶい黄橙	

図	番号	遺構	遺物の種類	大きさmm	残存率	調整	色調	備考
57	34	98号竪穴住居	土師器坏	口径 150 底径 91 器高 38	2／3	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：5 YR 7／6橙 外面：5 YR 7／8橙	胎土に白色粗砂、赤色粒含む。
	35	98号竪穴住居	土師器坏	口径 138 底径 79 器高 40	1／2	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 8／6浅黄橙	白色粗砂含む
	36	98号竪穴住居	須恵器蓋	口径 114 底径 器高 22	1／8	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 5／0灰 外面：N 6／0灰	
	37	98号竪穴住居	土師器碗	口径 底径 120 器高 50	底部の1／4	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラミガキ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：5 YR 7／8橙	外面に回転ヘラミガキ
	38	98号竪穴住居	土師器高坏	口径 底径 80 器高 22	脚部の1／5	内面：ナデ 外面：ケズリ→丹塗→ミガキ	内面：5 YR 6／6橙 外面：2.5YR 5／6明赤褐	外面丹塗り
	39	128号竪穴住居	須恵器蓋	口径 底径 166 器高 (22)	1／8	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 4／0灰 外面：N 4／0灰	
	40	128号竪穴住居	土師器坏	口径 底径 62 器高 (32)	底部の1／3	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：2.5YR 6／6橙	外表面が赤いが、焼きの具合によるものか
	41	128号竪穴住居	土師器坏	口径 底径 84 器高 (27)	底部の1／2	内面：ナデ、回転ナデ 外面：ナデ、回転ナデ	内面：7.5YR 8／6浅黄橙 外面：5 YR 7／6橙	
	42	128号竪穴住居	土師器碗	口径 底径 102 器高 (29)	底部の1／3	内面：ナデ、回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：5 YR 6／8橙 外面：5 YR 6／8橙	底部外面にヘラ記号「キ」。胎土赤色。内外面うっすらと丹塗り？
	43	128号竪穴住居	土師器高坏	口径 底径 器高 (20)	坏底部と接合部のみ	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：5 YR 6／6橙 外面：2．5YR 2／1黒	古墳前期外面焼成不良黒色内面丹塗り
	44	128号竪穴住居	土師器高坏	口径 203 底径 器高 (51)	坏部の1／6	内面：ハケメ 外面：回転ナデ、ハケメ	内面：7.5YR 6／6橙 外面：7.5YR 6／6橙	古墳前期
	45	128号竪穴住居	土師器甕（壺？）	口径 122 底径 器高 (64)	口縁の1／6	内面：ハケメ、ケズリ 外面：ハケメ	内面：10YR 6／6明黄褐 外面：10YR 6／4にぶい黄橙＋煤	古墳前期の終わりぐらいか外面煤付着
	46	128号竪穴住居	須恵器甕	口径 128 底径 器高 (32)	口縁の1／6	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 7／0灰白 外面：N 7／0灰白	
	47	128号竪穴住居	土師器甕	口径 208 底径 器高 (69)	口縁の1／4	内面：回転ナデ、ケズリ 外面：ナデ、回転ナデ	内面：10YR 7／4にぶい黄橙 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	口縁外面に煤付着
	48	174号竪穴住居	土師器坏	口径 135 底径 84 器高 38	1／4	内面：回転ナデ 外面：ナデ、回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：5 YR 6／6橙	
	49	174号竪穴住居	土師器坏	口径 141 底径 82 器高 46	1／2	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 8／6浅黄橙 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	
	50	174号竪穴住居	土師器坏	口径 底径 90 器高 (25)	1／2	内面：回転ナデ 外面：ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 7／6橙	内外面煤付着
	51	174号竪穴住居	土師器坏	口径 底径 126 器高 (28)	底部の1／5	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	
	52	174号竪穴住居	須恵器碗	口径 底径 72 器高 (18)	底部の3／4	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、ヘラケズリ	内面：N 5／0灰 外面：N 7／1灰白	
	53	174号竪穴住居	土師器甕	口径 底径 器高 (34)	底部小片	内面：ケズリ 外面：ナデ、ケズリ	内面：7．5YR 6／6橙 外面：10YR 7／6明黄褐	内外面煤付着外面削りあり
	54	174号竪穴住居	土師器甕	口径 底径 器高 (29)	口縁小片	内面：ハケメ、ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：7.5YR 6／6橙 外面：7.5YR 6／6橙	
	55	174号竪穴住居	土師器甑？	口径 底径 器高 (56)	口縁小片	内面：ハケメ、ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：10YR 6／4にぶい黄橙	外面煤付着
58	56	145号竪穴住居	土師器坏	口径 底径 104 器高 (28)	底部の1／4	内面：ナデ、回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：5 YR 7／6橙	
	57	145号竪穴住居	土師器高坏	口径 底径 器高 (27)	坏底部と接合部のみ	内面：ナデ 外面：回転ナデ	内面：5 YR 7／8橙 外面：5 YR 7／8橙	
	58	145号竪穴住居	須恵器蓋	口径 底径 150 器高 (17)	底縁小片	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 6／0灰 外面：N 6／0灰	
	59	145号竪穴住居	須恵器蓋	口径 底径 160 器高 (16)	底縁の1／4	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 5／0灰 外面：N 5／0灰	
	60	145号竪穴住居	土師器皿	口径 204 底径 器高 (39)	口縁の1／4	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ	丹塗：2.5YR 5／8明赤褐 陶胎：10YR 7／3にぶい黄橙	内外面に煤付着。内外面丹塗り。
	61	145号竪穴住居	須恵器碗	口径 底径 92 器高 (18)	底部の1／4	内面：ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 6／0灰 外面：N 5／0灰	
	62	145号竪穴住居	土師器甕（壺？）	口径 140 底径 器高 (52)	口縁の1／3	内面：ハケメ、ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：5 YR 6／6橙 外面：5 YR 6／6橙	
	63	145号竪穴住居	土師器甕	口径 188 底径 器高 (39)	口縁の1／5	内面：ハケメ、ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：10YR 3／1黒褐	口縁外面に煤付着
	64	145号竪穴住居	土師器甕	口径 332 底径 器高 (50)	口縁の1 /12	内面：ハケメ、ケズリ 外面：ナデ	内面：5 YR 7／8橙 外面：5 YR 6／6橙	内面にこげ、外面に煤付着
	65	178号竪穴住居	須恵器蓋	口径 底径 112 器高 19	1／3	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：N 5／0灰 外面：N 5／0灰	
	66	178号竪穴住居	土師器坏	口径 底径 88 器高 (22)	底部の1／4	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 8／8黄橙 外面：7.5YR 7／6橙	
	67	178号竪穴住居	土師器坏	口径 底径 80 器高 (13)	底部の1／4	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：5 YR 5／6明赤褐 外面：5 YR 5／6明赤褐	器表面に何か塗ってある？

図	番号	遺構	遺物の種類	大きさmm	残存率	調整	色調	備考
58	68	178号竪穴住居	土師器坏	口径 142 底径 98 器高 32	1／4	内面：ナデ、回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 7／6橙	粟付着焼け痕あり
	69	178号竪穴住居	土師器高坏	口径 坏部底径 52 器高（16）	坏部の1／4	内面：ナデ 外面：回転ナデ	内面：5 YR 6／6橙 外面：5 YR 7／8橙	胎土に赤色顔料混入
	70	178号竪穴住居	土師器小型丸底壺	口径 頸径 91 器高（45）	胴部の1／6	内面：ナデ 外面：ハケメ、ナデ	内面：2.5YR 7／4浅黄 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	
	71	140号竪穴住居	土師器	口径 136 底径 器高（36）	口縁の1／3	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 7／6橙	10mm程度の白色礫含む
	72	44号竪穴住居	手捏ね土器舟形	口径 底径 器高（42）	1／3	内面：ナデ、指頭圧痕 外面：ナデ、指頭圧痕	内面：7.5YR 5／4にぶい褐 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	船のような形。
	73	44号竪穴住居	土師器甕	口径 156 底径 器高（46）	口縁の1／8	内面：回転ナデ、ケズリ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 6／6橙 外面：7.5YR 6／6橙	外面に煤付着
	74	44号竪穴住居	土師器甕	口径 160 底径 器高（47）	口縁小片	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：10YR 6／4にぶい黄橙 外面：10YR 6／4にぶい黄橙	外面に煤付着
	75	44号竪穴住居	土師器甕	口径 140 底径 器高（39）	口縁の1／12	内面：ハケメ、回転ナデ 外面：ハケメ、回転ナデ	内面：10YR 7／4にぶい黄橙 外面：10YR 6／4にぶい黄橙	外面に煤付着
	76	2号竪穴住居	土師器坏	口径 136 底径 99 器高 33	2／3	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	丹塗：5 YR 5／6明赤褐 胸胎：7.5YR 7／3にぶい橙	内外面丹塗り
	77	2号竪穴住居	土師器高坏	口径 156 底径 器高（33）	坏部の1／4	内面：ナデ→ミガキ 外面：ナデ→ハケメ→ミガキ	内面：5 YR 6／6橙 外面：5 YR 5／6明赤褐	
	78	2号竪穴住居	土師器器台	口径 底径 135 器高（77）	脚部の全体	内面：ケズリ→ミガキ 外面：ナデ→ハケメ→ミガキ	内面：7.5YR 6／6橙 外面：7.5YR 6／6橙	裾部に黒斑あり
	79	2号竪穴住居	土師器壺	口径 136 底径 器高（53）	口縁の1／12	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 7／6橙	外面に圧痕あり。
	80	2号竪穴住居	土師器壺	口径 248 底径 器高（46）	口縁小片	内面：ハケメ、回転ナデ 外面：ハケメ、回転ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 7／6橙	二重口縁壺
	81	59号竪穴住居	土師器小型丸底壺	口径 126 底径 器高（48）	口縁の1／3	内面：ナデ→ミガキ→ハケメ 外面：ナデ→ミガキ	内面：2.5YR 6／8橙 外面：2.5YR 6／8橙	胎土赤色。きめ細かい。
	82	59号竪穴住居	土師器小型丸底壺	口径 123 底径 器高 113	2／3	内面：ナデ、ハケメ、ケズリ 外面：ナデ、ハケメ	内面：10YR 6／6明黄褐 外面：10YR 6／6明黄褐	胴部外面下半に煤付着。胎土赤くない。ミガキなし。
	83	59号竪穴住居	土師器二重口縁壺	口径 229 底径 器高（88）	頸から上	内面：ナデ→ミガキ 外面：ハケメ→ミガキ	内面：5 YR 5／6明赤褐 外面：7.5YR 7／8黄橙	sb59の炉に置かれていた。頸から上のみ出土。外面煤付着。
	84	59号竪穴住居	土師器甕	頸径 140 底径 器高（106）	胴部の1／3	内面：ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：10R 5／4赤褐 外面：10R 6／4にぶい赤橙	胴部外面煤付着、煤の周りが燃焼により赤色化。
59	85	177号竪穴住居	土師器壺	口径 122 底径 器高（124）	3／4	内面：ナデ→ミガキ、ケズリ 外面：ハケメ→ナデ	内面：10YR 6／4にぶい黄橙 外面：5 YR 6／6橙	外表面がべっとりしており、何か塗られているようである。胴部外面下半に黒斑あり。
	86	177号竪穴住居	土師器二重口縁壺	口径 180 底径 器高（44）	口縁の1／8	内面：ナデ 外面：ハケメ→ナデ	内面：7.5YR 7／6橙 外面：7.5YR 7／6橙	
	87	177号竪穴住居	土師器小型丸底壺	口径 93 底径 器高 83	完形	内面：ハケメ→ミガキ→ナデ 外面：ミガキ、ナデ	内面：5 YR 6／8橙 外面：5 YR 6／8橙	胎土赤色。きめ細かい。
	88	177号竪穴住居	土師器甕	口径 108 底径 器高（157）	1／3	内面：ケズリ 外面：ハケメ、タタキ？	内面：7.5YR 8／6浅黄橙 外面：7.5YR 7／6橙	外面全体に煤付着。煤酸化して焼き消えもあり。底部内面コゲあり。
	89	287号竪穴住居	土師器坏	口径 130 底径 器高（22）	口縁の1／4	内面：丹塗り→ミガキ 外面：丹塗り→ミガキ	丹塗：2.5YR 4／8赤褐 胸胎：7.5YR 7／6橙	内外面同色。内外面丹塗り。
	90	287号竪穴住居	土師器高坏	口径（150） 底径 器高（41）	坏部の1／2	内面：丹塗り→ミガキ 外面：丹塗り→ミガキ	内面：5 YR 5／6明赤褐 外面：5 YR 5／6明赤褐	内部が還元焔ぎみに灰色になっている。焼く前に丹塗りしたために酸素が行き渡らなかったのか。内外面丹塗り。
	91	287号竪穴住居	土師器高坏	口径 160 底径 器高（50）	坏部の2／3	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：10YR 7／4にぶい黄橙 外面：10YR 7／6明黄褐	
	92	287号竪穴住居	土師器小型器台	口径 底径 86 器高（35）	脚部の1／3	内面：ケズリ→ナデ 外面：ハケメ→ナデ	内面：2.5YR 6／4にぶい黄 外面：2.5YR 6／4にぶい黄	
	93	287号竪穴住居	土師器壺	口径 50 底径 器高（34）	口縁から頸部の1／2	内面：ナデ→ケズリ、ミガキ 外面：ナデ→ミガキ	内面：2.5YR 6／4にぶい黄 外面：2.5YR 6／4にぶい黄	磨 かれた部分が黒ずんでいる。とっくりの口のような形。成形は手ずくねではない。
	94	287号竪穴住居	土師器小型丸底壺	口径 100 底径 器高（38）	口縁の1／6	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：5 YR 6／6橙 外面：5 YR 6／8橙	
	95	287号竪穴住居	土師器甕	口径 150 底径 器高（83）	口縁の1／12	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：2.5YR 6／2灰黄 外面：7.5YR 8／6浅黄橙	内表面が灰色。混入白色礫が5㎜大と大きく、多い。
	96	287号竪穴住居	土師器壺	口径 240 底径 器高（56）	口縁小片	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：10YR 6／4にぶい黄橙 外面：10YR 6／4にぶい黄橙	
	97	175号竪穴住居	土師器甕	口径 202 底径 器高（104）	1／12	内面：ナデケズリ 外面：ナデ	内面：10YR 6／4にぶい黄橙 外面：10YR1.7／黒（煤の色）	外面全体に煤付着
	98	144号竪穴住居	手捏ね土器鉢	口径 76 底径 33 器高 35	ほぼ完形	内面：ナデ、ミガキ 外面：ナデ、指オサエ、ヘラケズリ	内面：10YR 7／4にぶい黄橙 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	盃か？
	99	144号竪穴住居	手捏ね土器甕	口径 95 底径 器高 50	ほぼ完形	内面：指オサエ、指ケズリ 外面：ナデ、指オサエ	内面：10YR 7／4にぶい黄橙 外面：10YR 7／4にぶい黄橙	成形時乾燥の為全体にひび割れあり
	100	144号竪穴住居	手捏ね土器甕	口径 116 底径 器高（65）	1／12	内面：ナデ、指オサエ 外面：ナデ、指オサエ	内面：10YR 6／4にぶい黄橙 外面：10YR1.5／0黒	内面に爪痕（右親指）、外面に指紋（左親指？）あり。内面全体に黒斑（焼成不良）。成形時乾燥の為外面全体にひび割れあり。
	101	144号竪穴住居	手捏ね土器甕	口径 底径 88 器高（26）	底部の1／2	内面：ナデ 外面：ナデ、指オサエ	内面：10YR 7／4にぶい黄橙 外面：10YR1.5／0黒	内面全体に黒斑（焼成不良）。成形時乾燥の為外面全体にひび割れあり。

図	番号	遺　構	遺物の種類	大きさmm	残　存　率	調　　整	色　　調	備　　考
59	102	144号竪穴住居	手捏ね土器台付甕	口径　80 底径　45 器高　76	ほぼ完形	内面：ナデ、指オサエ 外面：ナデ、指オサエ	内面：2.5YR 7 / 4 浅黄 外面：2.5YR 7 / 4 浅黄	他の手捏ね土器と違い混入砂多く、ナデ全面丁寧、焼きも上々。型古い。弥生後期の台付甕がモデルか。
	103	144号竪穴住居	土師器高坏	口径　101 底径　83 器高　81	ほぼ完形	内面：ナデ、ミガキ、指オサエ 外面：ナデ	内面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙 外面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙	
	104	144号竪穴住居	土師器高坏	口径　124 底径　105 器高　96	ほぼ完形	内面：ナデ→ミガキ 外面：ナデ→ミガキ	内面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙 外面：10YR 6 / 4 にぶい黄橙	
	105	144号竪穴住居	土師器高坏	口径 底径　132 器高　(77)	脚部の２/３	内面：ナデ、ケズリ 外面：ナデ	内面：7.5YR 7 / 4 にぶい橙 外面：10YR 6 / 4 にぶい黄橙	外面煤付着
	106	144号竪穴住居	土師器小型丸底壺	口径　90 底径 器高　(36)	頸部の１/４	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：7.5YR 6 / 6 橙 外面：５YR 6 / 6 橙	
	107	144号竪穴住居	土師器甕	口径　228 底径 器高　(148)	口縁の１/４	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：7.5YR 7 / 8 橙 外面：10YR 6 / 4 にぶい黄橙	内面コゲ、外面口縁吹きこぼれ痕あり。
60	108	230号竪穴住居	土師器高坏	口径　184 底径 器高　(59)	坏部完形	内面：ナデ、ミガキ 外面：ナデ、ハケメ	内面：10YR 7 / 3 にぶい黄橙 外面：2.5YR 6 / 4 にぶい黄	
	109	230号竪穴住居	土師器甕	口径　156 底径 器高　(146)	１/４	内面：ケズリ、ナデ 外面：ハケメ、ナデ	内面：10YR 7 / 3 にぶい黄橙 外面：2.5YR 6 / 6 明黄褐	胴上部外面に吹きこぼれ痕あり。
	110	230号竪穴住居	土師器甕	口径　168 底径 器高　(156)	１/４	内面：ケズリ、ナデ 外面：ハケメ、ナデ	内面：2.5YR 3 / 1 黒褐 外面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙	使用痕がほとんどない。内面全体黒斑。
	111	17号ピット	土師器	口径　134 底径　84 器高　24	１/６	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：５YR 6 / 6 橙 外面：５YR 5 / 6 明赤褐	内外面丹塗り
	112	17号ピット	須恵器碗	口径 底径　88 器高　(19)	底縁の１/２	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：2.5Y 7 / 1 灰白 外面：2.5Y 7 / 1 灰白	８世紀前半
	113	17号ピット	須恵器甕	口径 底径 器高　(105)	胴部破片	内面：タタキ 外面：タタキ	内面：7.5Y 6 / 1 灰 外面：7.5Y 7 / 1 灰白	
	114	73号ピット	土師器小型丸底壺	口径　56 底径 器高　(50)	１/４	内面：ナデ外面：ナデ、ミガキ	内面：7.5YR 6 / 6 橙 外面：10YR 7 / 6 明黄褐	外面丹塗り
	115	103号ピット	土師器甕	口径　154 底径 器高　44	口縁の１/４	内面：ケズリ、ナデ 外面：ナデ	内面：7.5YR 7 / 6 橙 外面：7.5YR 7 / 6 橙	外面煤、内面コゲ（喫水線痕）付着
	116	包含層１区	土師器坏	口径　150 底径　105 器高　42	１/３	内面：回転ナデ、ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ	内面：7.5YR 7 / 6 橙 外面：7.5YR 7 / 6 橙	
	117	包含層１区	土師器碗	口径 底径　88 器高　(25)	底部の１/４	内面：回転ナデ、ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7 / 6 橙 外面：7.5YR 7 / 6 橙	
	118	包含層２区	土師器小型丸底壺	頸径　78 底径 器高　(58)	１/３	内面：ナデ、ミガキ 外面：ナデ、ミガキ	内面：５YR 5 / 6 明赤褐 外面：５YR 5 / 6 明赤褐	内外面丹塗り
	119	包含層３区	土師器小型丸底壺	口径　101 底径 器高　87	完形	内面：ナデ、ミガキ 外面：ナデ、ミガキ、ハケメ	内面：５YR 6 / 6 橙 外面：５YR 6 / 6 橙	内外面丹塗り？
	120	包含層１区	土師器甕	口径　306 底径 器高　(80)	口縁破片	内面：回転ナデ、ケズリ 外面：回転ナデ、ケズリ	内面：7.5YR 4 / 1 褐灰 外面：7.5YR 7 / 6 橙	珍しい外面ヘラ削りの甕。内面全体コゲ。
	121	包含層３区	土師器坏	口径　133 底径 器高　31	２/３	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：2. 5YR 5 / 6 明赤褐 外面：2. 5YR 5 / 6 明赤褐	底部外面にヘラ記号「一」あり。内外面丹塗り。
	122	撹乱	土師器坏	口径　119 底径 器高　27.5	１/３	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：2.5YR 5 / 6 明赤褐 外面：2.5YR 5 / 6 明赤褐	内外面丹塗り
	123	撹乱	土師器坏	口径　138 底径 器高　39	１/４	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：５YR 6 / 6 橙 外面：５YR 6 / 6 橙	
	124	撹乱	土師器坏	口径　123 底径　85 器高　27	１/４	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：2.5YR 6 / 6 橙 外面：7.5YR 6 / 4 にぶい橙	内外面丹塗り
	125	撹乱	土師器碗	口径　88 底径 器高　(26)	底部の１/２	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ	内面：５YR 6 / 6 橙 外面：５YR 6 / 6 橙	
	126	撹乱	土師器高坏	口径　174 底径 器高　(51)	坏部ほぼ完形	内面：ナデ外面：ナデ	内面：2.5YR 5 / 8 明赤褐 外面：2.5YR 5 / 8 明赤褐	内外面丹塗り。
	127	撹乱	土師器小型器台	口径　78 底径　107 器高　68	ほぼ完形	内面：ミガキ、ハケメ 外面：ミガキ	内面：7.5YR 7 / 6 橙 外面：7.5YR 6 / 6 橙	古墳前期（４世紀後半くらいか）
	128	撹乱	土師器甕	口径 底径 器高　(65)	胴部破片	内面：ケズリ 外面：ハケメ	内面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙 外面：10YR 6 / 4 にぶい黄橙	外面に線刻あり。直弧文か？古墳後期の甕
	129	撹乱	磁器蓋	口径 底径　120 器高　(17)	１/４		陶胎は白、顔料はクロム	国民食器。蓋に緑色の二重線と「官」印。病院の食器だろう。
	130	60号竪穴住居	土師器甕	頸径　140 底径 器高　(107)	１/４	内面：ナデ、ケズリ 外面：ハケメ、ナデ	内面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙 外面：7.5YR 7 / 3 にぶい橙	胴部外面煤付着。口縁部のなでつけが不十分である。
61	131	98号竪穴住居	土師器坏 (ヘラ書き)	口径　138 底径　78 器高　43	２/３	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 6 / 6 橙 外面：2.5YR 5 / 4 にぶい赤褐	底部内面に「寺」ヘラ書き。底部内外面に煤付着。底部外面赤色。胎土に赤色粒含む。
	132	255号溝	土師器坏 (ヘラ書き)	口径 底径 器高	底部の一部	内面：ナデ 外面：回転ナデ	内面：５YR 6 / 6 橙 外面：５YR 6 / 6 橙	ヘラ書き「判」
	133	包含層２区	土師器坏 (ヘラ書き)	口径 底径 器高　(32)	底部の１/２	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR 7 / 6 橙 外面：7.5YR 7 / 6 橙	底部内面にヘラ書き「牧」か「物」
	134	撹乱	土師器坏 (ヘラ書き)	縦（22） 横（39） 厚さ（６）	小片	内面：ナデ	内面：7.5YR 7 / 6 橙 外面：7.5YR 6 / 6 橙	底部内面にヘラ書き「寺」の左上部分？
	135	98号竪穴住居	礫	縦　80 横　94 厚さ　72	完形		2.5Y 7 / 3 浅黄	底面以外のほぼ全体に炭素付着。石材：凝灰岩？

図	番号	遺　構	遺物の種類	大きさmm	残　存　率	調　　整	色　　調	備　　考
61	136	256号溝	敲石	縦　120 横　52 厚さ　39	完形	全体に敲打痕あり。側面中央に握ったことによる擦れがある。	N 5 / 0灰	
	137	98号竪穴住居	敲石	縦　120 横　68 厚さ　55	完形	各所に敲打痕あり	5 YR 5 / 3にぶい赤褐	石材：砂岩
	138	44号竪穴住居	磨り石	縦　136 横　71 厚さ　58	完形		N 6 / 0灰白	たたき石でなく磨り石。敲打痕少ない。磨痕多い。
	139	108号竪穴住居	石製紡錘車	縦　40 横　40 厚さ　7	完形	研磨	5 GY 5 / 1オリーブ灰	50と貼り合わさって出土
	140	178号竪穴住居	石製紡錘車	縦　42 横　42 厚さ　12	完形	研磨	7.5YR 6 / 4にぶい橙	石材不明
	141	108号竪穴住居	碁石	縦　20.5 横　20.5 厚さ　8	完形	研磨	2.5Y 3 / 2黒褐	石材：不明。火山岩系？
	142	17号ピット	碁石	縦　20 横　20.5 厚さ　9	完形	研磨	黒	石材：不明
	143	255号溝	鉄滓？	縦　52 横　64 厚さ　34	不明破損		表面：10YR 5 / 2灰黄褐 内部：N 5 / 0灰	金属反応無し
	144	108号竪穴住居	鉄製紡錘車	縦　44 横　44 厚さ　6	完形		鉄錆の色	49と貼り合わさって出土。中央孔から縁に向かって織布付着。
	145	108号竪穴住居	鉄鏃	縦　140 横　7 厚さ　4.5	完形		鉄錆の色	種類：長頸柳葉鏃。52と並んで出土
62	146	98号竪穴住居	鉄鏃	縦　70 横　7 厚さ　6	完形	曲げられている	鉄錆の色	種類：長頸柳葉鏃
	147	108号竪穴住居	鉄鏃	縦　75 横　5 厚さ　4	2 / 3		鉄錆の色	種類：長頸柳葉鏃。51と並んで出土
	148	128号竪穴住居	鉄鏃	縦　(82) 横　6 厚さ　6.5	2 / 3		鉄錆の色	長頸鏃古墳後期～古代点上げ No. sb178－1、2
	149	178号竪穴住居	鉄鏃	縦　60 横　10 厚　3	茎欠損？		鉄錆の色	方頭鏃
	150	178号竪穴住居	鉄鏃	縦　(83) 横　6 厚さ4	先端欠損		鉄錆の色	長頸鏃
	151	2区包含層	鉄鏃	縦　62.5 横　7 厚さ　3	先端欠損		鉄錆の色	片刃鏃の形状だが刃部形成なし。薄い。ひな形か。
	152	178号竪穴住居	鑿形鉄製品	縦　78 横　19 厚さ　19	完形	両面に刃部あり	鉄錆の色	鑿のような形。両刃。頭は潰れていない。中実。重い。保存処理後鑿と判断。逆さま。
	153	撹乱	鉄鎌	縦　42 横　(38) 厚　さ5	基部以外破損		鉄錆の色	
	154	178号竪穴住居	鉄塊	縦　58 横　62 厚さ　32	完形		鉄錆の色	上部に木質付着
	155	98号竪穴住居	銅製袴帯	縦　17.5 横　20 厚さ　1.5	完形	表面に漆塗布は不明	緑青の色	種類：巡方
	156	包含層 （1号溝の上）	銅銭	縦　25 横　25 厚さ　0.7	2 / 3		緑青の色	元祐通寶（北宋銭）
	157	撹乱	銅製簪	縦　18.5 横　4 厚さ　1.5	屈曲部のみ残存		緑青の色	近世
	158	1区包含層	縄文土器深鉢	口径 底径 器高　(44)	胴部破片	内面：ミガキ 外面：ミガキ、縄文	内面：2.5Y 7 / 6明黄褐 外面：7.5YR 6 / 4にぶい橙	磨消縄文。後期後半。辛川Ⅱ式か西平式。
	159	202号ピット	縄文土器深鉢	口径 底径 器高　(37)	胴部破片	内面：ミガキ 外面：ミガキ、縄文	内面：2.5Y 6 / 6明黄褐 外面：10YR 6 / 4にぶい黄橙	磨消縄文。後期後半。辛川Ⅱ式か西平式。
	160	144号竪穴住居	縄文土器深鉢	口径 底径 器高　(75)	胴部破片	内面：ミガキ 外面：ミガキ、縄文	内面：10YR 7 / 4にぶい黄橙 外面：10YR 5 / 4にぶい黄褐	磨消縄文。後期後半。辛川Ⅱ式か西平式。
	161	撹乱	縄文土器浅鉢	口径 底径 器高　(17)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：2.5Y 5 / 3黄褐 外面：2.5Y 5 / 3黄褐	内外面黒色磨研。晩期前半。御領式から天城式。
	162	1区包含層	縄文土器浅鉢	口径 底径 器高　(30)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：10YR 3 / 1黒褐 外面：10YR 3 / 1黒褐	内外面黒色磨研。晩期前半。御領式から天城式。
	163	1区包含層	縄文土器浅鉢	口径 底径 器高　(24)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：10YR 2 / 1黒 外面：10YR 2 / 1黒	内外面黒色磨研。晩期前半。天城式か古閑式。
	164	2区包含層	縄文土器浅鉢	口径 底径 器高　(32)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：10YR 4 / 2灰黄褐 外面：10YR 3 / 1黒褐	内外面黒色磨研。晩期前半。古閑式。
	165	撹乱	縄文土器深鉢	口径 底径 器高　(51)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：2.5Y 6 / 3にぶい黄 外面：10YR1.7/ 1黒	内外面黒色磨研。晩期前半。天城式か古閑式。
	166	1区包含層	縄文土器深鉢	口径 底径 器高　(40)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：10YR 6 / 4にぶい黄橙 外面：10YR 4 / 2灰黄褐	内外面黒色磨研。晩期前半。天城式か古閑式。
	167	1区包含層	縄文土器深鉢	口径 底径 器高　(33)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：10YR 6 / 4にぶい黄橙 外面：2.5Y 5 / 4黄褐	内外面黒色磨研。晩期前半。天城式か古閑式。
	168	97号ピット	縄文土器深鉢	口径 底径 器高　(44)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：10YR 6 / 4にぶい黄橙 外面：10YR 4 / 2灰黄褐	内外面黒色磨研。晩期前半。天城式か古閑式。
	169	撹乱	縄文土器浅鉢	口径 底径 器高　(26)	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：10YR 5 / 2灰黄褐 外面：10YR 2 / 1黒	内外面黒色磨研。晩期前半。天城式。

図	番号	遺　構	遺物の種類	大きさmm	残　存　率	調　　整	色　　調	備　　考
63	170	60号竪穴住居	縄文土器深鉢	口径 底径 器高（55）	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：10YR 2 / 1黒 外面：10YR 4 / 2灰黄褐	内外面黒色磨研。晩期前半。
	171	144号竪穴住居	縄文土器深鉢	口径 底径 器高（53）	口縁破片	内面：丹塗磨研 外面：丹塗磨研	内面：5 YR 4 / 4にぶい赤褐 外面：5 YR 4 / 3にぶい赤褐	内外面丹塗り磨研。晩期前半。
	172	1区包含層	縄文土器深鉢	口径 底径 器高（55）	口縁破片	内面：ナデ 外面：黒色磨研	内面：10YR 7 / 3にぶい黄橙 外面：2.5Y 6 / 4にぶい黄	内外面黒色磨研。晩期前半。天城式か古閑式。
	173	1区包含層	縄文土器深鉢	口径 底径 器高（43）	口縁破片	内面：黒色磨研 外面：黒色磨研	内面：2.5Y 6 / 4にぶい黄 外面：2.5Y 2 / 1黒	内外面黒色磨研。晩期前半。
	174	撹乱	縄文土器深鉢	口径 底径 器高（48）	胴部破片	内面：ナデ 外面：ハケメ	内面：10YR 3 / 1黒褐 外面：5 YR 6 / 6橙	晩期後半。山ノ寺式期
	175	1区包含層	縄文土器深鉢	口径 326 底径 器高（190）	1 /12	内面：ナデ、ミガキ 外面：ナデ、ミガキ	内面：10YR 6 / 4にぶい黄橙 外面：2.5YR 6 / 4にぶい黄	内外面黒色磨研。晩期前半。天城式か古閑式。
	176	256号溝	縄文土器深鉢	口径 底径 92 器高（51）	底部の1 / 3	内面：ナデ 外面：ナデ、ケズリ	内面：10YR 7 / 4にぶい黄橙 外面：2.5YR 7 / 4にぶい浅黄	後晩期。平底。
	177	1区包含層	縄文土器深鉢	口径 底径 66 器高（23）	底部の1 / 4	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：10YR 7 / 6明黄褐 外面：7.5YR 7 / 6橙	後晩期。上げ底。
	178	140号竪穴住居	縄文土器深鉢	口径 底径 66 器高（23）	底部の1 / 2	内面：ナデ 外面：ナデ、ミガキ	内面：10YR 7 / 6明黄褐 外面：7.5YR 6 / 4にぶい橙	後晩期。上げ底。
	179	256号溝	縄文土器深鉢	口径 底径 86 器高（17）	底部の1 / 4	内面： 外面：ミガキ	内面：2. 5YR 5 / 3浅褐 外面：10YR 7 / 4にぶい黄橙	後晩期。平底。
	180	1区包含層	縄文土器深鉢	口径 底径 67 器高（38）	底部の1 / 4	内面：ナデ 外面：ミガキ	内面：5 YR 4 / 2灰褐 外面：5 YR 6 / 6橙	後晩期。平底。
	181	3層上面	石皿	縦 252 横 134 厚さ 83	完形		N 6 / 0灰	端部に敲打痕、中央にすり痕あり。すり痕には黒く有機物が付着。石材は安山岩？
64	182	107号竪穴住居	打製石鏃	縦21 横17 厚さ5	基部片方欠損			安山岩
	183	108号竪穴住居	剥片	縦 19 横 17 厚さ 5.5				黒曜石
	184	108号竪穴住居	剥片	縦 16.5 横 16.5 厚さ 5.5				黒曜石
	185	108号竪穴住居	剥片	縦 24 横 21 厚さ 6				黒曜石
	186	107号竪穴住居	剥片	縦 31 横 17 厚さ 9				黒曜石
	187	178号竪穴住居	剥片	縦28 横25 厚さ5.5				黒曜石
	188	包含層	剥片	縦 31 横 21 厚さ 6.5				黒曜石
	189	1区3層上面	剥片	縦 33 横 28 厚さ 17.5				黒曜石
	190	107号竪穴住居	剥片	縦 26 横 31 厚さ 13				黒曜石
	191	107号竪穴住居	剥片	縦 29 横 29 厚さ 12				黒曜石
	192	178号竪穴住居	剥片	縦 42 横 32 厚さ 13				黒曜石。刃部加工あり？

Ⅵ　京町地区の調査

1．教育学部附属小中学校校舎等改修工事に伴う発掘調査(0719調査地点)

(1) 調査の目的と経過

a．調査地と調査経緯

本調査は熊本大学教育学部附属小中学校校舎等改修工事に伴う発掘調査である。当該地区は熊本市遺跡地図No. 8－45京町台遺跡群として周知されている。1994年に熊本県文化課によって発掘調査が行われ、弥生時代後期の竪穴住居、近世土坑、近代土坑等が検出され、各時代の土器陶器等が出土している。2003年に当調査室によってその報告書が刊行されている。今回の調査区も、1994年度の調査区と近接しており、弥生・近世・近代の遺物と遺構の検出が期待された。2007年７月４日、工事立会いの指導が下され、2007年10月４日より当調査室によって総面積958.07㎡の立会い調査が開始された。そのうち、発掘調査が必要と判明した箇所230.3㎡については、文化財保護法第92条届け出のうえ、10月29日より、工事の各工程に合わせつつ断続的に発掘調査を実施した。調査区が多く、それぞれ離れているため、大坪と江頭がそれぞれ10人程度の作業員とともに別の現場に入る２班体制で調査が実施された。10月29日からは、中学校北調査区を大坪、中学校南調査区を江頭が担当した。中学校南調査区は10月30日から調査を行い、11月14日に調査を終了した。11月15～16日には、江頭が中学校校舎内調査区の試掘を実施した。調査区西側は掘削が包含層上部30cmまでで済むので発掘調査は行わなかった。11月19日から中学校校舎内調査区とそれ以降に実施される調査を担当した。11月20日に中学校校舎内調査区の調査を終えた。11月22日に中学校北調査区の調査を終えた。11月26日から体育館調査区の調査に入った。11月28日に体育館調査区の調査を終え、同日小学校校舎内調査区の調査を実施した。小学校校舎内調査区は試掘時には分からなかったが、調査の結果すべてが覆土であったため、その日のうちに調査を終えた。その後しばらくは0721教育学部附属小中学校校舎等機械設備改修工事（別項に記する）にともなう立会い・発掘調査に従事し、2008年１月30日から当該事案の中学校校舎内エレベーターピット調査区の発掘調査に入った。2008年１月31日に調査を終了し、すべての調査区の立会い・発掘調査を終了した。なお、中学校南調査区の調査期間中に、調査区出入り口、中学校内廊下の掲示板、調査区に隣接する渡り廊下等に、発掘調査を紹介するポスターを掲示したところ、附属中学校生や教職員等多数の見学者が折々にあった。なお、中学校北側については、後日改めて報告する。

b．調査の経過

2007年10月29日　北調査区、南調査区調査開始。
2007年11月14日　南調査区調査終了。
2007年11月15日　中学校校舎内調査区調査開始。
2007年11月22日　北調査区調査終了。
2007年11月26日　体育館内調査区調査開始。
2007年11月28日　体育館内調査区調査終了。
2007年11月22日　小学校校舎内調査区調査。
2008年１月31日　中学校校舎内調査区調査終了。

c．調査の組織

調　査　員：江頭俊介
事 務 担 当：中川木綿子
発掘作業員：井手春代、江藤恵子、大越忠一、大越貞子、押方富江、川元恵子、建嵜豊美、笹野ヌ

イ子、柴田道子、関根龍子、成瀬好子、林田恵子、福島　実、福田久美子、堀川貞子、前田日出男、前田美恵子、松井昭子、松下義章、松永一代、松永里美

整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

（2）調査区の基本層序

京町台遺跡群が存在する京町台地は、阿蘇４火砕流によって形成された舌状台地であり、基盤層は褐色のロームである。その上を黒褐色土が覆っている。縄文後期、弥生後期、古代、近世、近代の遺物や遺構が包含されている層は、この黒褐色土層で、ロームにまで掘り込まれている遺構も多い。ロームの上部20cm程からは、縄文時代のものと思われる黒曜石の薄片や石器が出土する。北側は標高が高くなっており、中学校校庭一帯は運動場造成時に削平され、入れ砂の直下は、すぐにロームが顔を出す。東側と南側はローム層が低くなっていき、包含層が厚く残っている。

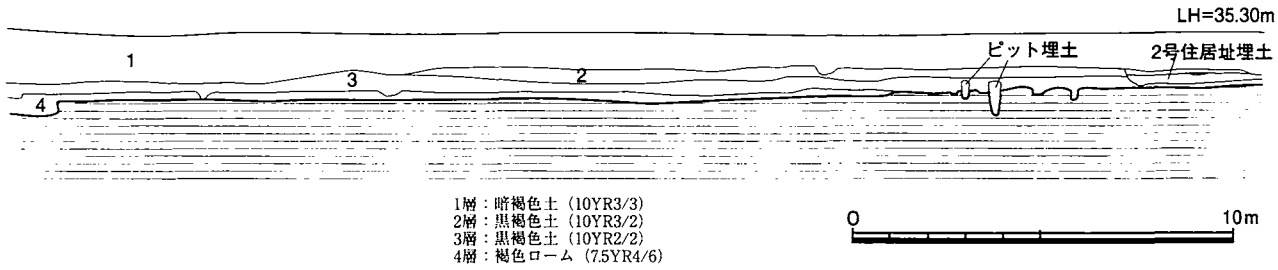


図65　南調査区壁土層断面実測図（１/200）

中学校校舎内の層序、各層の高さは、中学校南調査区に準ずる。

	FL（フロアライン）
１層（現代埋土）	
２もしくは３層（包含層）	FL －900mm
４層（ローム）	FL －1300mm

図66　体育館調査区の基本土層断面模式図

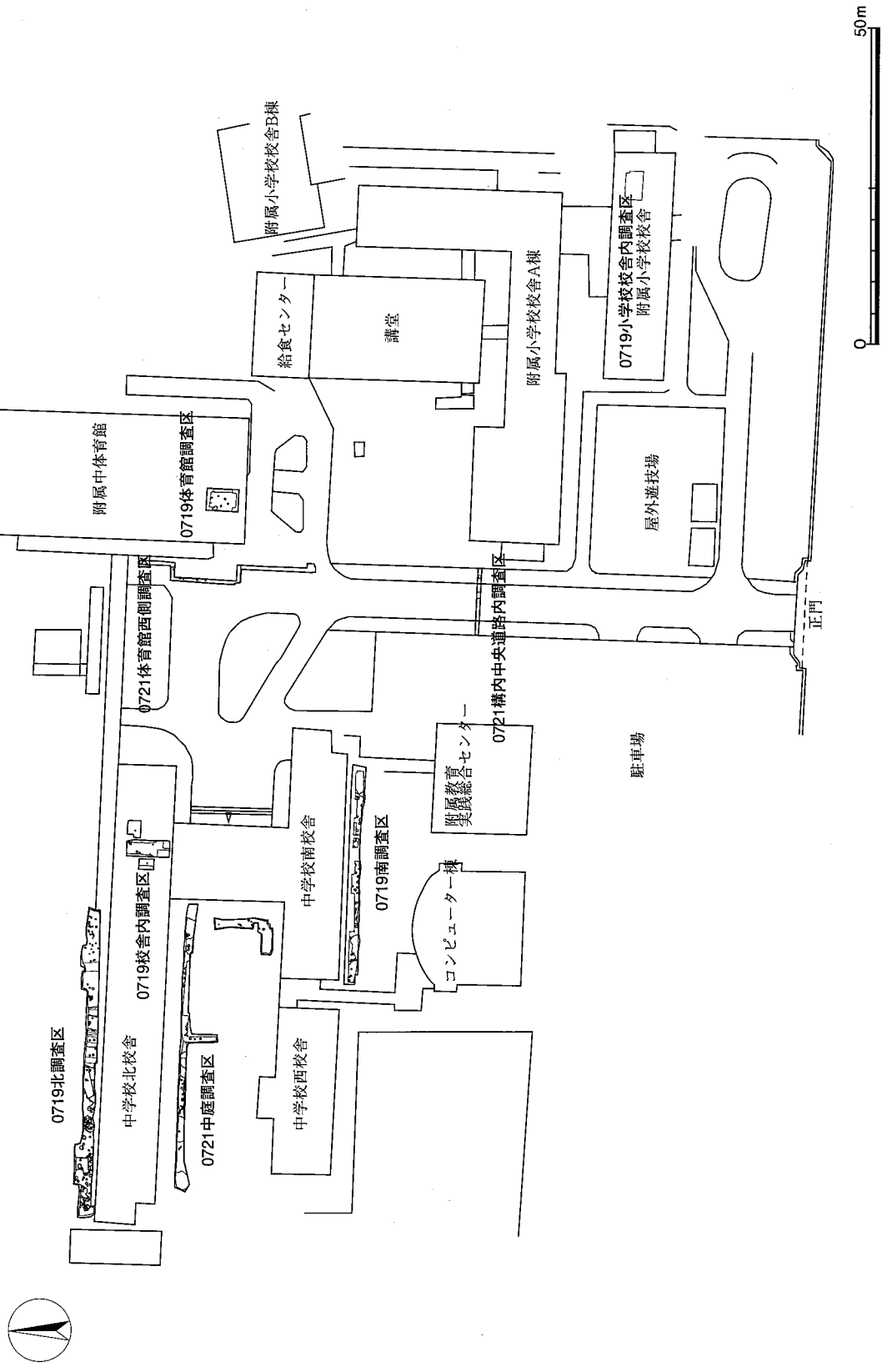


図67　0719・0721調査地点調査区配置図（1 /1000）

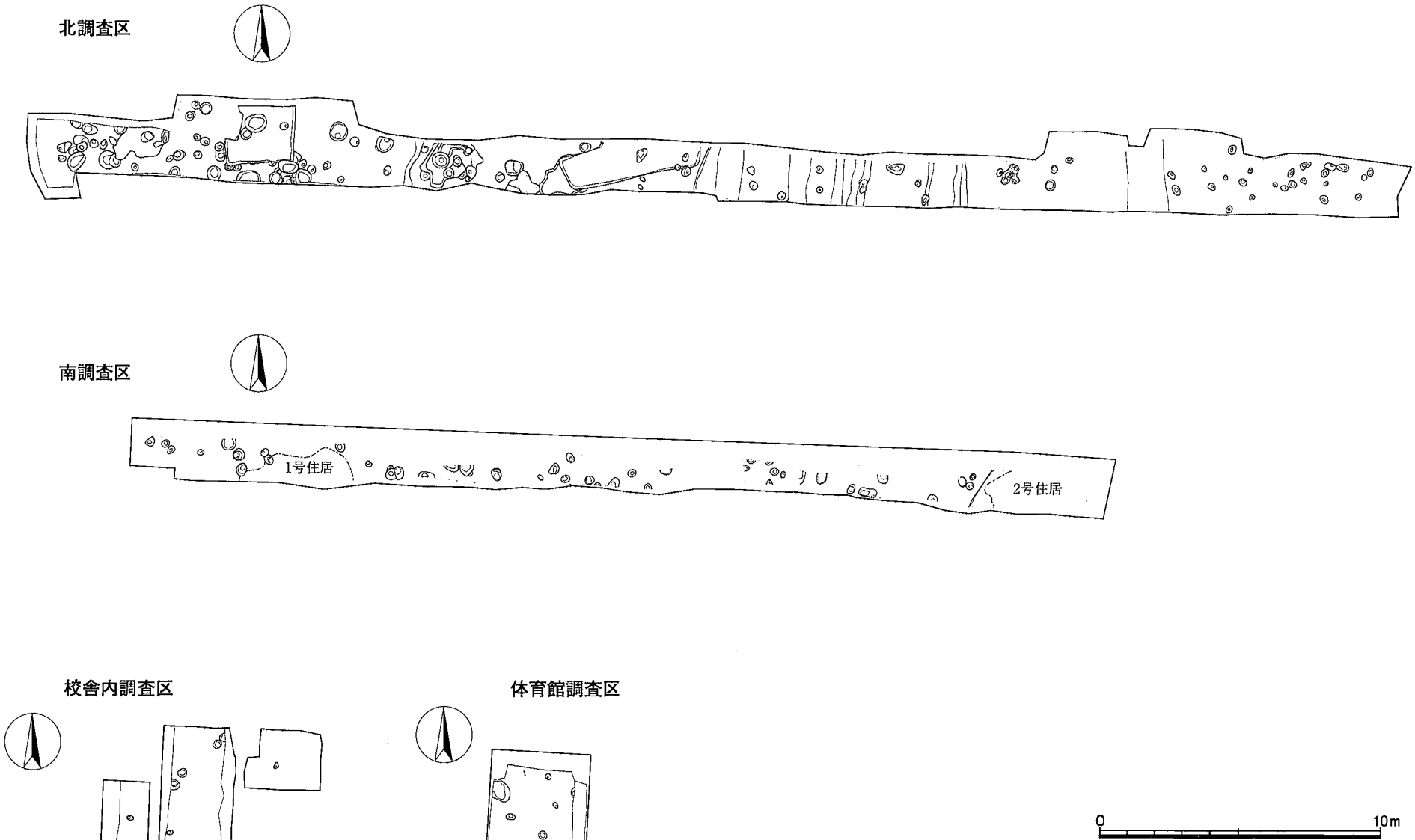


図68　0719調査地点遺構配置図（1/200）

（3）検出遺構

2号竪穴住居址（図69）

2号竪穴住居は中学校南調査区の東端にある。軸はN－33°－Eである。全体の1／4ほどが残存している。壁は、西辺の側壁が1／4ほどが残存している。平面形は方形である。規模は不明である。深さは45cm程である。検出面から15cm程下に硬化面があり、硬化面中央直上に炭がある。おそらく掘り込みのない炉と思われる。硬化面の下には、硬化面が粉砕されたかのような硬い土のブロックが無数に混じる土が住居底面まで充填されている。遺物の出土がなく、時期不明であるが、炉の形態と包含層出土土器から弥生時代と考える。

1号竪穴住居址（図69）

1号竪穴住居は中学校南調査区の西側にある。軸はN－13°－Wである。全体の1／4ほどが残存している。壁は調査区外にあり、検出できていない。主柱穴が2本検出された。4本柱と考えられる。平面形はおそらく方形である。規模は不明だが、柱間は3.5mである。硬化面検出により発見されたため、深さは不明である。柱の内側に硬化面が広がっている。包含層と住居埋土を区別できなかったため、埋土中の遺物は不明である。包含層の土器は弥生時代のものと古代のものがあり、古代のものはほぼすべてがローリングを受けて表面が磨耗している。このことから、1号竪穴住居の時期は弥生時代である可能性が高い。

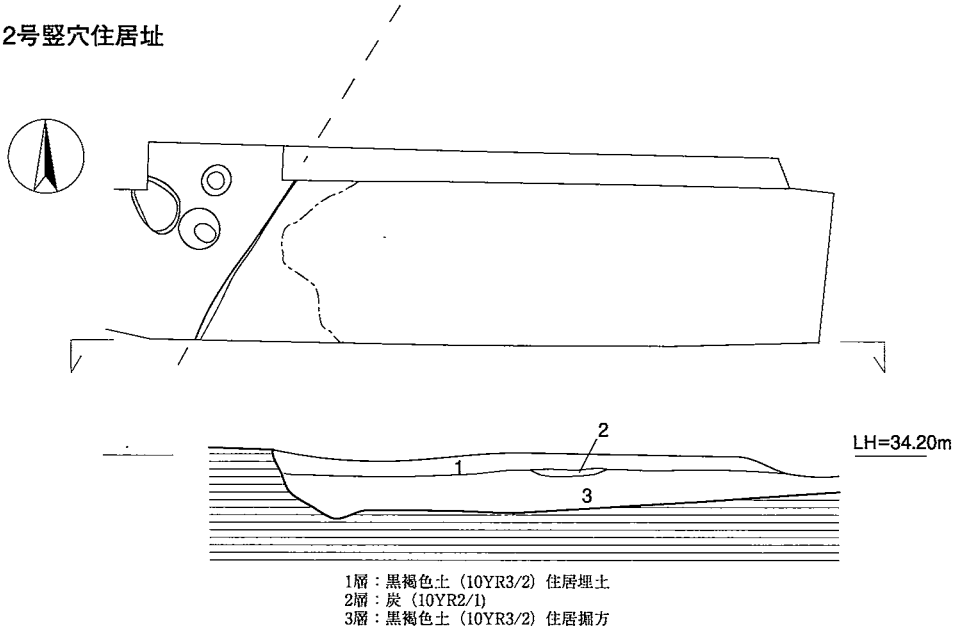
（4）出土遺物（図70）

1は包含層出土の縄文土器である。全面が磨耗している。突帯に刻目があったと思われるが、磨耗によりわからなくなっている。2は包含層出土の弥生土器の壺である。外面に丹が施されている。3は包含層出土の弥生土器の甕である。後期のものである。4は撹乱出土の弥生土器の甕である。後期のものである。5はカクラン出土の弥生土器の甕である。後期のものである。6は包含層出土の弥生土器の甕である。後期のものである。内外面にハケメが施されている。7は包含層出土の弥生土器の壺の底部である。丸底である。内面に指押さえ痕がある。8は包含層出土の弥生土器の壺の底部である。平底である。外面にハケメが施されている。9は包含層出土の弥生土器の甕の胴部である。内外面にハケメが施されている。10は撹乱出土の弥生土器の甕の底部である。外面は火を受けて赤く変色している。11は撹乱出土の弥生土器の甕の底部である。12は包含層出土の古代の須恵器の蓋である。全面が磨耗している。13は38号ピット出土の古代の土師器坏である。全面が磨耗している。14包含層出土の古代の土師器坏である。全面が磨耗している。15は撹乱出土の須恵器甕の口縁である。内外面に自然釉が付着している。16廃土中出土のかわらけの小皿である。17は包含層出土の古代の土師器甕である。18は包含層出土の無茎の打製石鏃である。澄んだ色の黒曜石である。19は黒曜石の剥片である。

（5）まとめ

南調査区の調査では、竪穴住居2軒とピットが検出された。2号竪穴住居は炉を有することと、包含層中の土器から、弥生時代の可能性と考える。1号竪穴住居は時期不明である。この調査区の約10m南西には1994年度に熊本県文化課により発掘調査が行われ、弥生時代の竪穴住居が検出されている。今回検出された遺構もそれらとともに集落をなしているものである可能性が高い。その他の調査区ではピットがいくつか検出された。

2号竪穴住居址



1層：黒褐色土（10YR3/2）住居埋土
2層：炭（10YR2/1）
3層：黒褐色土（10YR3/2）住居掘方

1号竪穴住居址

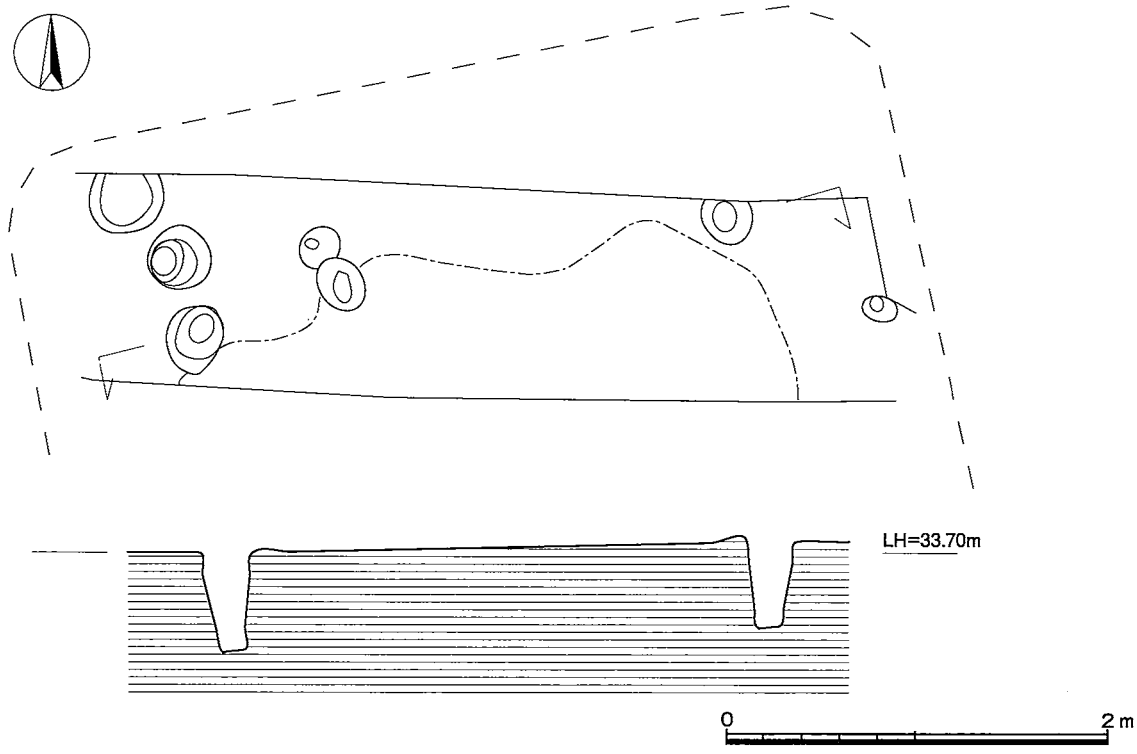


図69　2・1号竪穴住居址実測図（1/50）

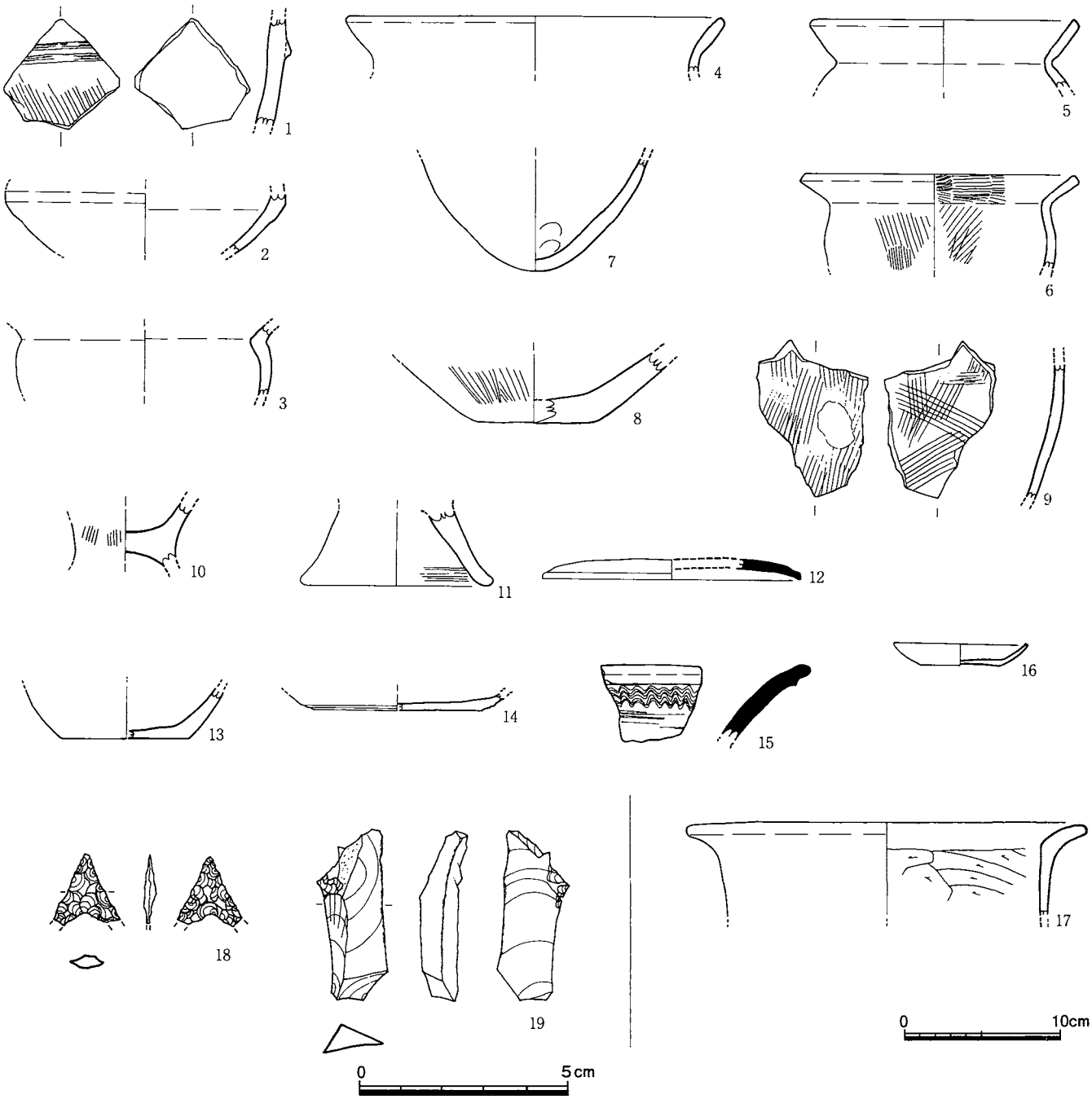


図70　0719調査地点出土土器実測図（１／４）・石器実測図（１／２）

表8　0719調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺　構	遺物の種類	大きさmm	残　存　率	調　　整	色　　調	備　　考
70	1	包含層	縄文土器	縦（73） 横（75） 厚さ　11	胴部破片	内面：ナデ 外面：ハケメ	内面：10YR 6 / 4 にぶい黄橙 外面：10YR 5 / 3 にぶい黄褐	突帯文土器
	2	包含層	弥生土器壺	胴径　182 底径 器高（39）	胴部破片	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：5 YR 6 / 8 橙 外面：2.5YR 6 / 8 橙	外面丹塗り
	3	包含層	弥生土器甕	頸径　160 底径 器高（46）	胴部破片	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙 外面：7.5YR 8 / 6 浅黄橙	
	4	撹乱	弥生土器甕	口径　246 底径 器高（35）	口縁破片	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙 外面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙	
	5	撹乱	弥生土器甕	口径 底径 器高	口縁破片	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：10YR 7 / 3 にぶい黄橙 外面：10YR 7 / 4 にぶい黄橙	
	6	包含層	弥生土器甕	口径 底径 器高	口縁破片	内面：ナデ、ハケメ 外面：ナデ、ハケメ	内面：10YR 8 / 4 浅黄橙 外面：10YR 8 / 3 浅黄橙	
	7	包含層	弥生土器壺	口径 底径 器高（74）	底部破片	内面：指オサエ 外面：ナデ	内面：10YR 8 / 4 浅黄橙 外面：10YR 8 / 6 浅黄	
	8	包含層	弥生土器壺	口径 底径　70 器高（45）	底部破片	内面：ナデ 外面：ハケメ	内面：10YR 8 / 7 浅黄 外面：10YR 8 / 4 浅黄橙	
	9	包含層	弥生土器甕	縦（101） 横（72） 厚さ　7	胴部破片	内面：ハケメ 外面：ハケメ	内面：7.5YR 8 / 6 浅黄橙 外面：7.5YR 8 / 6 浅黄橙	
	10	撹乱	弥生土器甕	くびれ部径 65 器高（41）	底部	内面：ナデ 外面：ハケメ	内面：5 YR 7 / 6 橙 外面：2. 5YR 8 / 4 淡黄	外面被熱赤変
	11	撹乱	弥生土器甕	口径 底径　124 器高（48）	底部破片	内面：ナデ、ハケメ 外面：ナデ	内面：10YR 8 / 4 浅黄橙 外面：10YR 7 / 3 にぶい黄橙	
	12	包含層	須恵器蓋	口径 底径　168 器高　14	1 /12	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：5 Y 5 / 1 灰 外面：5 Y 5 / 1 灰	全体磨耗
	13	38号ピット	土師器坏	口径 底径　82 器高（33）	1 / 4	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：7.5YR 7 / 6 橙 外面：7.5YR 6 / 6 橙	全体磨耗
	14	包含層	土師器坏	口径 底径　108 器高（11）	1 / 3	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：5 YR 6 / 6 橙 外面：5 YR 6 / 6 橙	全体磨耗。内外面丹塗り
	15	撹乱	須恵器甕	口径 底径 器高（50）	口縁破片	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：2.5Y 5 / 2 暗灰黄 外面：2.5Y 5 / 3 黄褐	内外面に自然釉
	16	廃土中	かわらけ小皿	口径　87 底径　43 器高　19	2 / 3	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：7.5YR 7 / 6 橙 外面：7.5YR 7 / 6 橙	
	17	包含層	土師器甕	口径　260 底径 器高（61）	口縁の1 / 4	内面：ケズリ 外面：ナデ	内面：7.5YR 6 / 4 にぶい橙 外面：7.5YR 6 / 4 にぶい橙	
	18	包含層	打製石鏃	縦（18） 横（11） 厚さ　3	ほぼ完形			黒曜石
	19	4層	剥片	口径　42 底径　17 器高　11				黒曜石

2．教育学部附属小中学校校舎等改修機械設備工事に伴う発掘調査（0721調査地点）

（1）調査の目的と経過

a．調査地と調査経緯

本調査は熊本大学教育学部附属小中学校校舎等改修機械設備工事に伴う発掘調査である。当該地区の性格は別項（0719調査地点）に記してあるので割愛する。2007年６月19日、校舎等改修機械設備工事による掘削について熊本市文化財課より工事立会いの指導が下され、2007年10月15日より総面積1421.41㎡の試掘・立会い調査を開始し、発掘調査必要箇所112.64㎡については2007年12月14日より発掘調査を開始した。中学校北校舎と南校舎の間（中庭調査区）、体育館西側調査区、構内中央道路内調査区の３箇所について発掘調査を行った。総面積は112.64㎡である。12月14日に中庭調査区の調査を開始した。撹乱から赤レンガや磁器碗、ガラス瓶等が大量に出土した。包含層からは近世のかわらけ、古墳時代の土師器、古代の土師器等の遺物が出土した。12月21日中庭調査区の調査を終えた。12月25日から体育館西側調査区の調査を開始した。住居の床面と思われる硬化面、焼土、ピット、弥生土器等を検出し、調査を終えた。12月26日は構内中央道路内調査区の調査を行った。弥生後期の土器と、住居の床面と思われる硬化面を検出し調査を終えた。以上により12月26日に発掘調査を終了した。立会調査での遺構の検出はない。

b．調査の経過

2007年12月14日　　中庭調査区調査開始。
2007年12月21日　　中庭調査区調査終了。
2007年12月25日　　体育館西側調査区調査。
2007年11月26日　　構内中央道路内調査区調査。

c．調査の組織

調　査　員：江頭俊介
事 務 担 当：中川木綿子
発掘作業員：有馬絢子、井手春代、江藤恵子、大越忠一、大越貞子、押方富江、川元恵子、建嵜豊美、笹野ヌイ子、白石美智子、関根龍子、林田恵子、福島実、福田久美子、堀川貞子、前田日出男、前田美恵子、松井昭子、松下義章
整理作業員：伊藤千代子・江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・長谷智子・増井弘子・山嵜早苗

（2）調査区の基本層序

京町台遺跡群が存在する京町台地は、阿蘇４火砕流によって形成された舌状台地であり、当地の基盤層は褐色のロームである。その上をロームが土壌化した黒褐色土が覆っている。この黒褐色土層中には、縄文後期、弥生後期、古代、近世、近代の遺物や遺構が包含されている。遺構は、ほとんどがロームにまで掘り込まれている。ローム層の上面から以下20cm程には、縄文時代のものと思われる黒曜石の細片が出土する。各調査区の基本層序は以下の通りである。

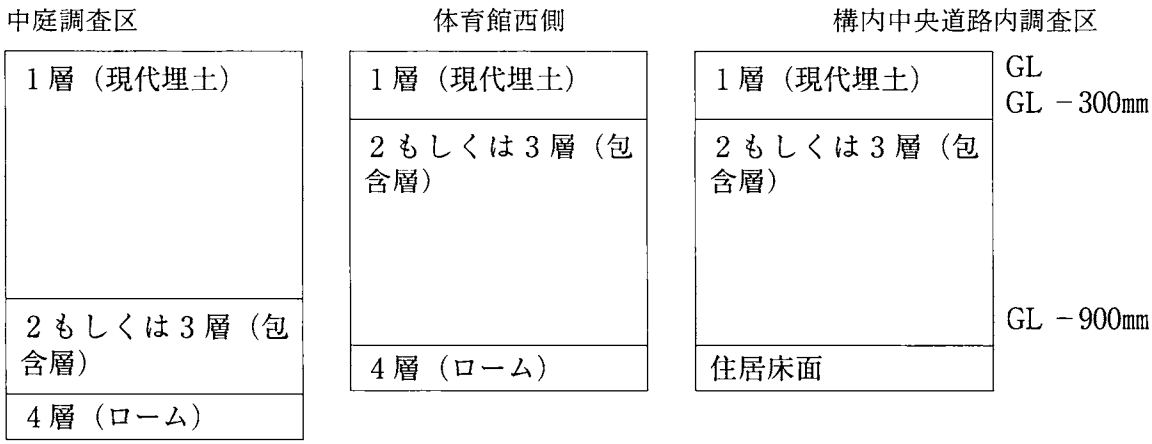


図71　0721調査地点中庭・体育館西側・構内中央道路内調査区基本土層断面模式図

1層：10yr 3 / 3暗褐色土。現代埋土。
2層：10yr 3 / 2黒褐色土。粘性弱い。ピット、竪穴住居、古代の遺物など出土。
3層：10yr 2 / 2黒褐色土。粘性2層より強い。ピット、古代の遺物など出土。
4層：7.5yr 4 / 6褐色ローム。粘性強い。黒曜石チップ出土。

（3）検出遺構（図72）

中学校体育館横調査区からは硬化面と焼土が一か所、構内中央道路調査区からは硬化面が一か所、中学校中庭調査区からは、近世の1号溝、近代の1号土坑、3号土坑、52号土坑、その他ピットが検出された。

1号溝（図72）

1号溝は中学校中庭調査区の中央を縦断している。西側の肩は1号土坑により破壊されており、東側から底面中央までが検出された。軸はN－10°－Eであり、延長線上の0719中学校北調査区1号溝と同一遺構と考えられる。遺物の出土はない。

1号土坑（図72）

1号土坑は中学校中庭調査区の中央に位置する。調査区狭長のため全形は不明だが、残存長5 m、深さ約2 mである。平面形は円形である。断面は丸みを帯びた逆台形である。掘り込みは2層の上面（現在の表土の下）からである。埋土は包含層由来の暗褐色土であり、炭や瓦礫が入る。土坑上面から1 mほど下から底面にかけて近代の遺物が集積している。遺物は、磁器碗と磁器蓋であり、土坑底面の一定範囲に固まっている。

3号土坑（図72）

3号土坑は中学校中庭調査区西端に位置する。調査区狭長のため全形は不明である。残存長2.5m、推定直径5 m、深さ約2 mである。断面は縦に長い丸みを帯びた長方形、平面は不定円形と思われる。掘り込みは2層上面（現表土の下）からである。埋土は6層に分かれる。下層から炭、焼土、炭、土、炭、炭と土の中に煉瓦と瓦、の順に堆積している。遺物は上層に多く、煉瓦と瓦とともに、ガラス瓶、磁器製の食器などが出土している。遺物は近世のものと近代のものが出土している。近代土坑が形成される以前に、同地点になんらかの近世遺構が存在し、近代土坑掘削時に遺物が混ざったと考えられる。

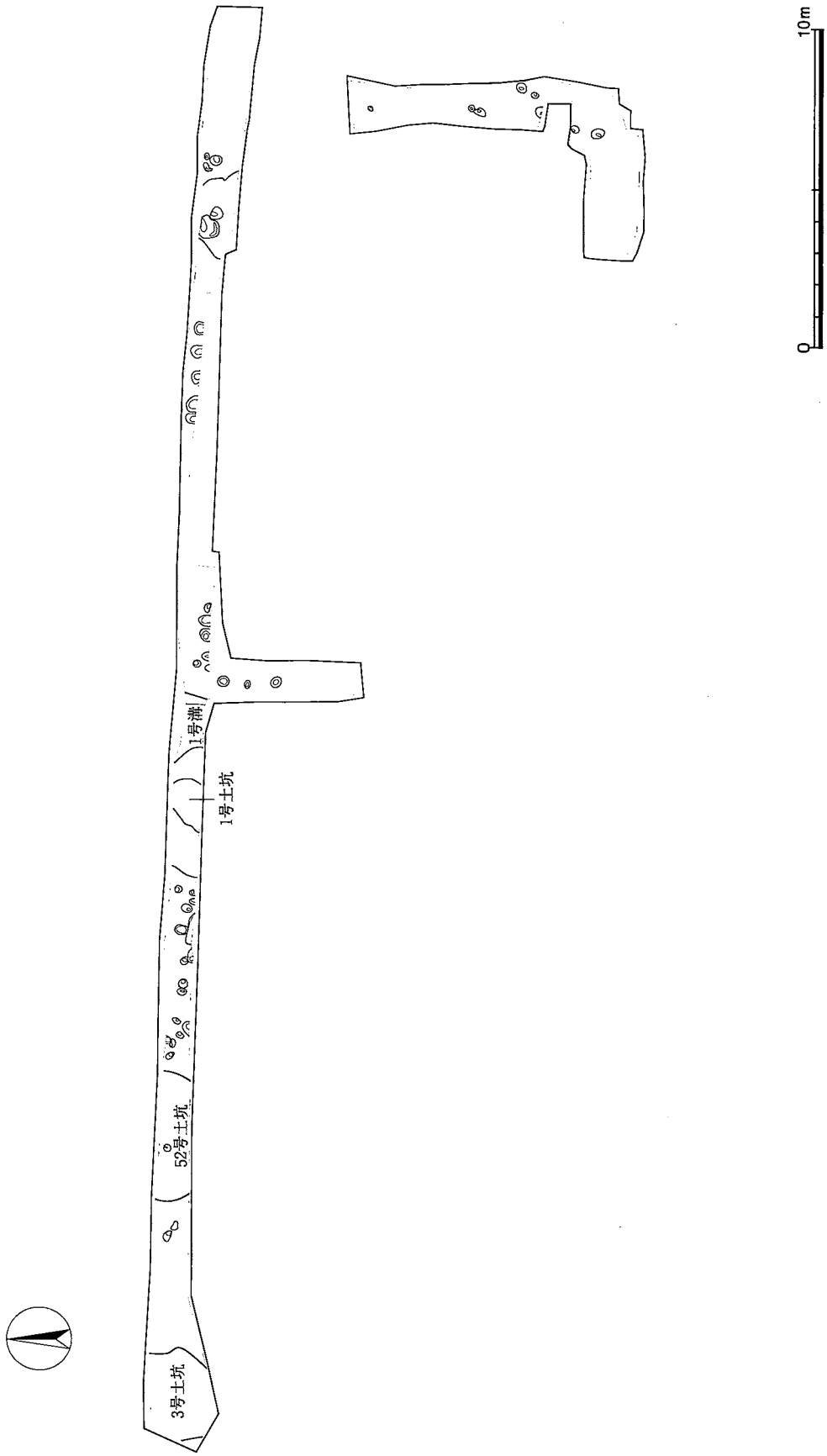


図72　0721調査地点中学校中庭調査区遺構配置図（1 /200）

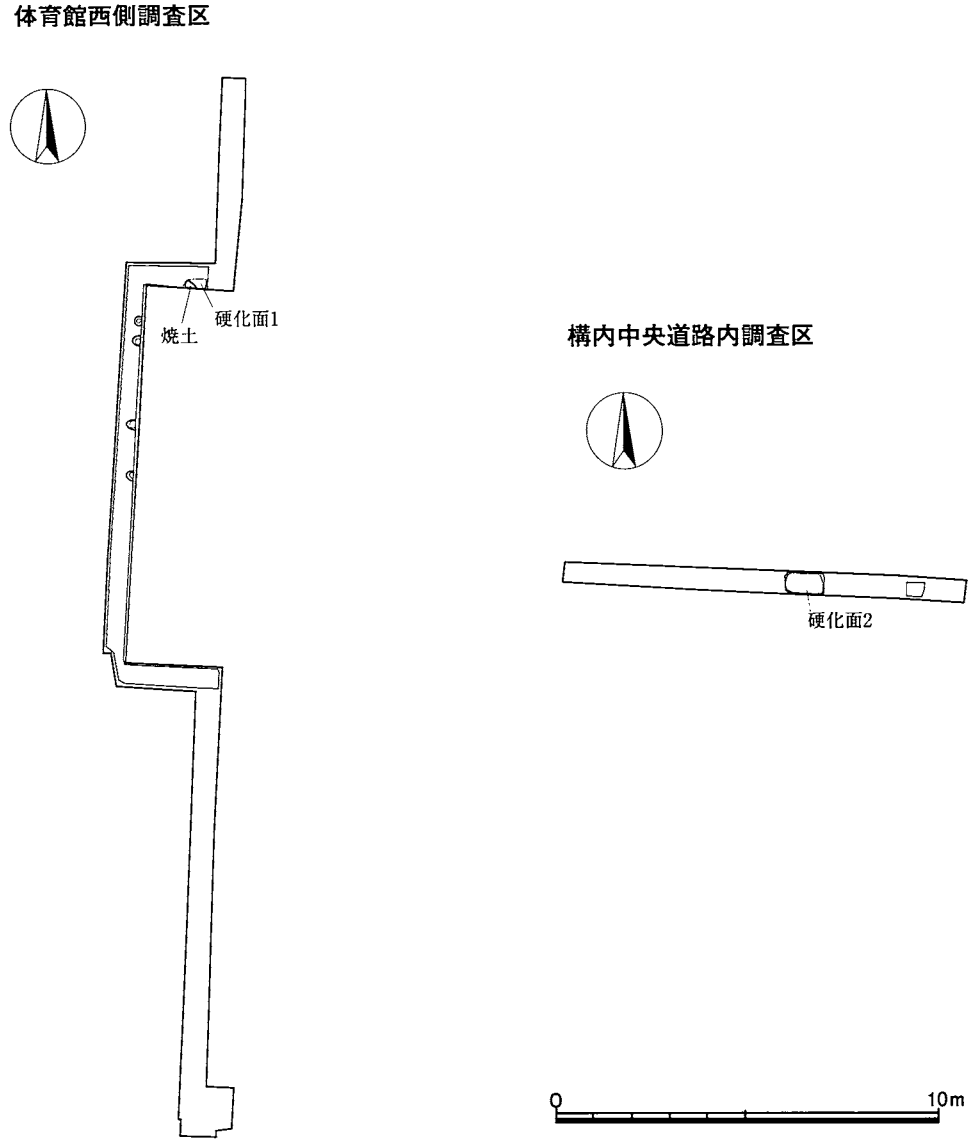


図73　0721調査地点体育館西側・構内中央道路内調査区遺構配置図（1 /200）

52号土坑（図72）

52号土坑は中学校中庭調査区中央やや西よりに位置する。直径3.5m 深さ 1 m の土坑である。断面は丸みを帯びた逆台形を呈する。平面は円形と思われる。掘り込みは２層上面（現表土の下）からである。内容物のほとんどが炭である。

硬化面 1 （図73）

中学校体育館横調査区の中央からやや北より、包含層中に40cm×20cmほどの範囲の硬化面があり、焼土がその上に乗っている。調査区の南側に続いていくようである。遺物の出土はない。

硬化面 2 （図73）

構内道路調査区の中央あたり、包含層中に硬化面がある。南北は調査区に切られ、東西はかく乱に切られているため、範囲は不明である。床面から弥生土器の甕が出土している。

（4）出土遺物（図74・75：1～46）

以下はすべて中学校中庭調査区出土である。包含層からは古代の土師器、須恵器、近世の陶磁器などが出土している。かく乱からは近世の陶磁器、近代の陶磁器などが出土している。

1は包含層出土の須恵器坏である。2は包含層出土の土師器坏である。3は包含層出土の須恵器の蓋である。4は包含層出土の須恵器の碗である。5は包含層出土の土師器の甑の胴部である。内外面丹塗りである。1から5の古代の土器はすべてローリングを受けており、表面がすれている。6から15は3号土坑出土品である。6は近世のかわらけ灯明皿である。口縁内面に灯心の痕が付いている。7は近世のかわらけ灯明皿である。口縁内面に灯心の痕が付いている。8は小代焼の湯呑である。9は白い磁胎に呉須で模様が染付けられている。10は小代焼の茶碗である。11は小代焼の茶碗である。「牝小路」の刻印があり、上手物である。12は小代焼の茶碗である。13は陶器の湯呑である。14は白色で良質な磁胎に呉須で氷烈文が描かれている。15は3号土坑出土のくらわんか碗である。16は包含層出土の広東碗である。17は3号土坑出土の端反り形の磁器碗である。18はカクラン出土磁器碗である。19は包含層出土の端反り形の磁器碗である。20は3号土坑出土磁器皿である。21は3号土坑出土の磁器皿である。こんにゃく印判の五弁花文がある。22は3号土坑出土の陶器皿である。23は3号土坑出土の磁器皿である。24は包含層出土の磁器皿である。口縁が波打っている変形皿である。25は3号土坑出土の磁器皿である。磁胎、釉の発色ともに良く、有品である。26は包含層出土の磁器皿である。こんにゃく印判である。27は3号土坑出土の磁器皿である。吹き墨技法が用いられている。28は3号土坑出土の陶器皿である。29は薩摩焼の土瓶である。橙色土質の陶胎に透明釉と自然釉が施されている。注口は手曲げである。底部外面に煤が付いている。30は3号土坑出土の用途不明陶器である。仏具であろうか。黒色の陶胎に茶色の釉薬が施されている。黒色の胎土から見て小代焼だろうか。31は包含層出土の瓦器火鉢である。16～17世紀のものであろう。32は天草水ノ平焼の陶片である。器種は不明である。にぶい赤褐色の陶胎に外面は瑠璃釉、内面は灰釉が施されている。幕末ごろの品である。33は3号土坑出土の陶器の土瓶である。唐津焼だろうか。にぶい橙色の陶胎に茶色の釉薬が施されている。注口は手曲げである。34は3号土坑出土の陶器の壺か甕である。褐灰色の陶胎に黒色の釉、その上に白色の釉を垂らしている。胎土から見て小代焼か？35は1号土坑出土の端反り形の磁器碗である。人工コバルトで型紙印刷によって竹林模様が描かれている。明治10～20年代ごろのものである。36は1号土坑出土の磁器碗である。浅く広がる形をしている。クロム（緑色顔料）で花が描かれている。銅版印刷である。「景文」という銘が入っている。明治30年代～40年代のものである。37は1号土坑出土の磁器碗である。底が平らで幅の広い形をしている。法量は300mlほどであり、他の飯碗よりやや大きい。白色の磁胎に人工コバルトを用いた銅版印刷により「福」、「寿」、窓に梅模様などがあしらわれている。明治30年代～40年代のものである。38は1号土坑出土の磁器碗である。高台が小さく、斜めに器壁が立ち上がる形をしている。人工コバルトとその他の顔料で笹の葉？が手書きで描かれている。大正から昭和初期のものである。39は1号土坑出土の磁器皿である。人工コバルトで型紙印刷によって窓や花が描かれている。明治10～20年代ごろのものである。40は1号土坑出土の磁器皿である。口縁内面にクロム（緑色顔料）で二重線が描かれている。底部外面中央には瓢箪に「日陶」銘がある。ノリタケ製国民食器といわれているものであり、昭和16年から20年に配給された食器である。国民食器はおもに公共の施設に配給される。41は1号土坑出土の磁器蓋である。人工コバルトで「熊本」と筆書きされている。熊本師範学校の食器である。42は1号土坑出土の磁器蓋である。人工コバルトで「懸立」というゴム印が押されている。熊本師範学校の食器である。43は3号土坑出土の陶製ドアノブである。取手部分は白色の磁器である。軸部は鉄製である。44は3号土坑出土

図74　0721調査地点出土遺物実測図１（１／４）

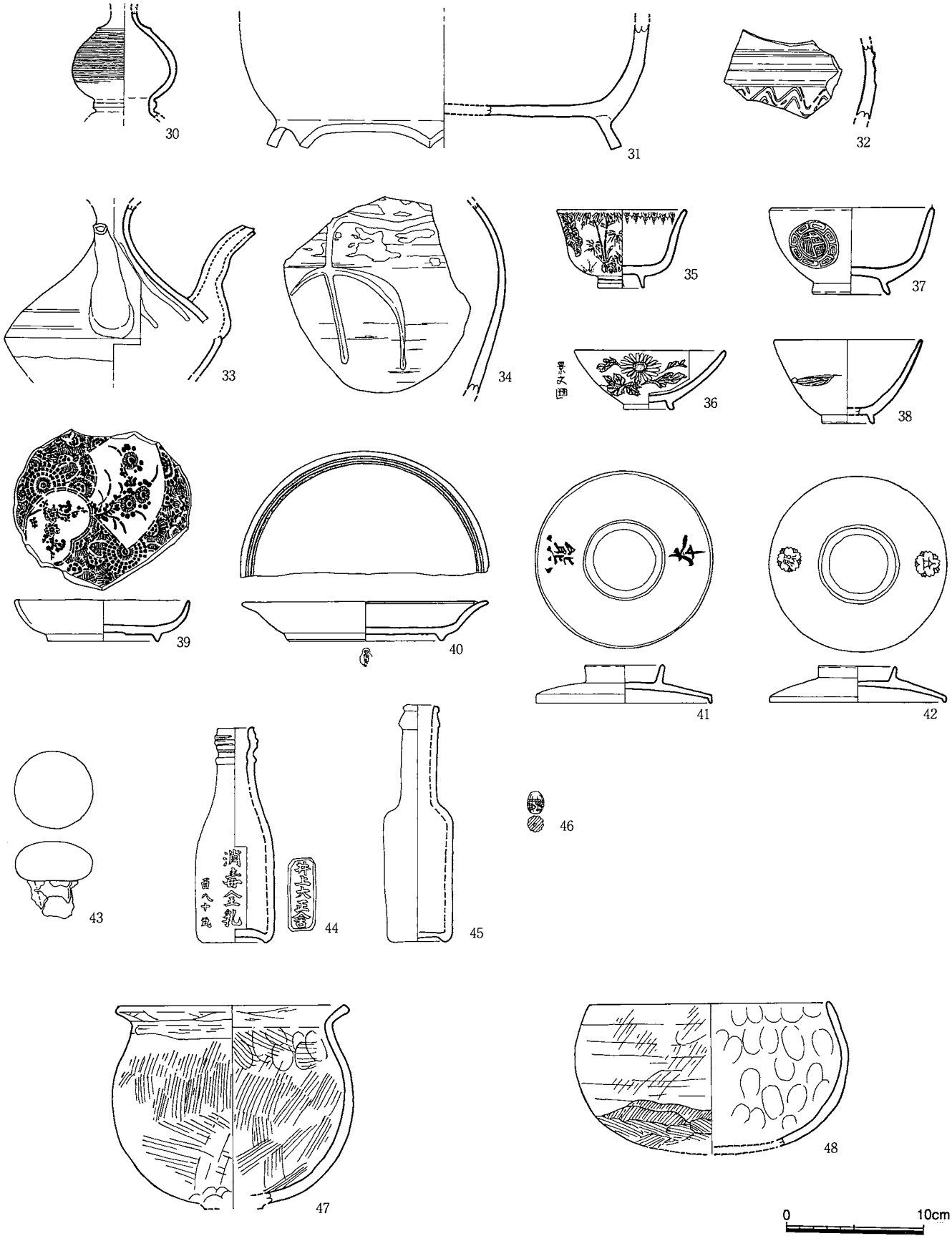


図75　0721調査地点出土遺物実測図２（１／４）

の
ガラス瓶である。無色透明である。「消毒全乳」「百八十瓦」「井上大正舎」という字がプレスされており、牛乳瓶であることがわかる。45は３号土坑出土ガラス瓶である。青色透明である。サイダー瓶と思われる。46は３号土坑出土のトンボ玉である。ピンク色の模様が入っている。47は構内中央道路調査区硬化面２から出土した弥生時代後期の甕である。内外面に大小のハケメが施されている。48は立会調査において包含層から出土した弥生後期の鉢である。底部外面に細かいハケメが施されている。底部以外の外面はハケメの後横ナデが施されている。

（５）まとめ

今回の調査では、近世の溝１条、近代土坑三基、硬化面２か所、その他ピットが検出された。包含層からは弥生時代後期、古代、近世の遺物、が出土した。弥生時代後期と古代の遺物はほぼすべてがローリングを受けているが、その理由は不明である。体育館西側調査区の硬化面１は、床面に遺物がないので時期は不明である。構内道路調査区の硬化面２は、土器の出土から弥生時代後期の住居址と考えられる。近世の陶磁器は薩摩、天草、小代、肥前などであり、肥前の吹き墨など珍しい技法のものや、小代の優品などがある。当該敷地は、近世には、細川藩家老澤村家の屋敷地であり、当時の生活を復元する資料となっている。近代には当地は県立熊本師範学校（昭和16年から官立）敷地となる。明治初期から戦前までの遺物が出土しており、寮生活の一端を垣間見ることができる。熊本大学教育学部同窓会編『熊本師範学校史（復刻版）』1985年によると、昭和20年８月10日の熊本大空襲で、寮２棟（食堂、炊事場、風呂場、衛生室、自習室２棟）が火災全壊、図書室、附属校舎の一部を消失したとあり、炭や焼けた遺物が大量に出土した52号、３号などの土坑は、戦災による消失建物の瓦礫を埋めた穴である可能性が考えられる。

表９　0721調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺　構	遺物の種類	大きさmm	残　存　率	調　　整	色　　調	備　　考
74	1	包含層	須恵器坏	口径　122 底径　84 器高　31	１／２	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：Ｎ６／０灰 外面：Ｎ６／０灰	
	2	包含層	土師器坏	口径　140 底径 器高　36	１／２	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：7.5YR７／６橙 外面：7.5YR７／６橙	
	3	包含層	須恵器蓋	口径 底径　136 器高　24	２／３	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：５Ｙ７／１灰白 外面：５Ｙ７／１灰白	
	4	包含層	須恵器碗	口径　135 底径　93 器高　40	１／３	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内面：Ｎ６／０灰 外面：Ｎ６／０灰	
	5	包含層	土師器甑	縦　91 横　86 厚さ　11	胴部破片	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：５ＹＲ６／６橙 外面：５ＹＲ６／６橙	内外面丹塗り
	6	３号土坑	かわらけ灯明皿	口径　55 底径　30 器高　10	80%	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：５ＹＲ７／６橙 外面：５ＹＲ７／６橙	こげ付着
	7	３号土坑	かわらけ灯明皿	口径　74 底径　33 器高　14	完形	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：10YR８／３浅黄橙 外面：10YR８／３浅黄橙	こげ付着
	8	３号土坑	小代焼湯呑	口径　80 底径　40 器高　55	完形		抹茶色の釉に白い梅模様が立体的に付いている。	高台内にグルグル形の削り
	9	３号土坑	磁器湯呑	口径　73 底径　35 器高　55	２／３		白い磁胎に呉須で染付け	
	10	３号土坑	小代焼茶碗	口径　150 底径　46 器高　57	２／３		土質の陶胎に茶色、緑色、白色の釉	高台内にグルグル形の削り。
	11	３号土坑	小代焼茶碗	口径 底径　56 器高　(40)	２／３		土質の陶胎に茶色、青白色の釉	高台内にグルグル形の削り。底部外面に「牝小路」刻印。
	12	３号土坑	小代焼茶碗	口径 底径　54 器高　(63)			黒色の陶胎に黒色の釉	高台内にグルグル形の削り
	13	３号土坑	陶器湯呑	口径　84 底径　35 器高　47	１／２		褐灰色の陶胎に緑色の釉。呉須で絵付け。	
	14	３号土坑	磁器茶碗	口径　106 底径 器高　(34)	口縁の１／４		白色良質の磁胎に藍で染付け	氷烈文（1780～1820年代）
	15	３号土坑	磁器くらわんか碗	口径　122 底径　42 器高　47	１／２		灰白色の磁胎に呉須で染付け。呉須の発色悪し。	波佐見？
	16	包含層	磁器広東碗	口径　110 底径　62 器高　66	90%		ややくすんだ白色の磁胎に呉須で染付け	19世紀後半
	17	３号土坑	磁器端反碗	口径　114 底径　45 器高　113	１／４		白色良質の磁胎に呉須で染付け	幕末
	18	撹乱	磁器碗	口径　154 底径　87 器高　55	１／２		白色良質の磁胎に透明の釉。	青白磁
	19	包含層	磁器端反碗	口径　104 底径　41 器高　50	２／３		ややくすんだ白色の磁胎に呉須で染付け	幕末
	20	３号土坑	磁器皿	口径　97 底径　41 器高　20	80%		ややくすんだ白色の磁胎に呉須で染付け	内面釉掻き取り。底部外面砂付着。
	21	３号土坑	磁器皿	口径 底径　67 器高　16	１／２		灰白色の磁胎に呉須で染付け。呉須の発色悪し。	内面の五弁花文はこんにゃく印判。波佐見？
	22	３号土坑	唐津焼皿	口径 底径　58 器高　13	底部のみ完		少し黄ばんだ灰白色の陶胎に呉須で絵付け。その上から透明釉。	絵唐津？底部外面に「○○」刻印。
	23	３号土坑	磁器皿	口径 底径　100 器高　12	１／４		白色良質の磁胎に呉須で染付け	蛇の目高台（19世紀後半）
	24	包含層	磁器皿	口径　100 底径　59 器高　25	80%		白色の磁胎に呉須で染付け	道と石と草文。表面が風化している。
	25	３号土坑	磁器皿	口径 底径　72 器高　21	底部の１／４		白色良質の磁胎に呉須で染付け	こんにゃく印判
	26	包含層	磁器皿	口径　125 底径　80 器高　31	80%		白色良質の磁胎に呉須で染付け。発色極めて良好。	蛇の目高台（19世紀後半）
	27	３号土坑	磁器皿	口径 底径　72 器高　(13)	１／２		灰白色の磁胎に呉須で染付け。	吹き墨技法（17世紀前半～中ごろ）
	28	３号土坑	磁器皿	口径　180 底径　64 器高　47	１／２		にぶい黄褐色の陶胎に緑色の釉	内面釉掻き取り。掻き取り部分に砂付着。
	29	包含層	薩摩焼土瓶	口径　94 胴径　195 器高　107	２／３		橙色土質の陶胎に透明釉と自然釉	手曲げ注口
75	30	３号土坑	陶器仏具？	口径 胴径　76 器高　(80)	？		黒色の陶胎に茶色の釉	胎土から見て小代焼か？
	31	包含層	瓦器火鉢	口径 底径　260 器高　(92)	１／４	内面：ナデ外面：ナデ	内面：Ｎ５／０灰 外面：Ｎ５／０灰	16～17世紀か
	32	３号土坑	水ノ平焼陶片	縦　(64) 横　(87) 厚さ　10	胴部破片		にぶい赤褐色の陶胎に外面は瑠璃釉、内面は灰釉。	天草水ノ平焼。幕末。
	33	３号土坑	唐津焼？土瓶	口径 胴径　160 器高　(126)	２／３		にぶい橙色の陶胎に茶色の釉	手曲げ注口

2．教育学部附属小中学校校舎等改修機械設備工事に伴う発掘調査（0721調査地点）

図	番号	遺　構	遺物の種類	大きさmm	残　存　率	調　　整	色　　調	備　　考
75	34	3号土坑	陶器壺	縦　133 横　136 厚さ　8	胴部破片		褐灰色の陶胎に黒色の釉、その上に白色の釉を垂らしている。	胎土から見て小代焼か？
	35	1号土坑	磁器茶碗	口径　96 底径　34 器高　57	80%		白色の磁胎に人工コバルトで型紙印刷。	端反碗。明治10～20年代。
	36	1号土坑	磁器茶碗	口径　112 底径　37 器高　44	完形		白色の磁胎にクロム（緑色）と赤色顔料で銅版印刷。	「景文」銘。明治30年代
	37	1号土坑	磁器茶碗	口径　122 底径　58 器高　63	完形		白色の磁胎に人工コバルトで銅版印刷。	「福」字模様、「寿」字模様、窓に梅の花模様。明治30年代
	38	1号土坑	磁器茶碗	口径　110 底径　39 器高　62	1／2		白色の磁胎に人工コバルト等の顔料で手書き	笹の葉模様？大正～昭和20年代
	39	1号土坑	磁器皿	口径　128 底径　81 器高　31	80%		白色の磁胎に人工コバルトで型紙印刷。	型紙印刷。明治10～20年代。
	40	1号土坑	磁器皿	口径　180 底径　112 器高　29	1／2		白色の磁胎にクロム（緑色）で印刷	口縁内面に二重線。ノリタケ製国民食器。昭和16年～20年。
	41	1号土坑	磁器蓋	口径　59 底径　130 器高　28	完形		白色の磁胎に人工コバルトで手書き	「熊本」銘。明治30年代以降
	42	1号土坑	磁器蓋	口径　52 底径　130 器高　27	完形		白色の磁胎に人工コバルトでゴム印	「懸立」銘。明治30年代以降。ゴム印版。
	43	3号土坑	陶器ドアノブ	直径　58 縦　61			取手の磁器は白色	取手は磁器、軸部は鉄製。
	44	3号土坑	ガラス瓶	口径　27 底径　47 器高　157	完形		無色透明	「消毒全乳」「百八十瓦」「井上大正舎」。牛乳瓶。
	45	3号土坑	ガラス瓶	口径　26 底径　48 器高　174	完形		青色透明	サイダー瓶
	46	3号土坑	陶器とんぼ玉	縦　16 横　11 厚さ　12	完形		ピンク色の模様	
	47	中央道路区 硬化面2	弥生土器甕	口径　164 底径 器高　148	1/3	内面：ナデ、ハケメ、指オサエ 外面：ナデ、ハケメ、指オサエ	内面：10YR8/4 浅黄橙 外面：10YR8/3 浅黄橙	
	48	給食室前立会	弥生土器鉢	口径　176 底径 器高　108	1/4	内面：ナデ、指オサエ 外面：ナデ、ハケメ	内面：10ＹＲ８／４浅黄橙 外面：10ＹＲ８／３浅黄橙	

Ⅶ　自然科学分析報告

黒髪町遺跡9704調査地点甕棺出土人骨報告

高椋　浩史
（九州大学大学院比較社会文化学府）

1．はじめに

歴史上、日本人の骨形態の変化にはいくつかの画期が存在している。その中でも、縄文時代から弥生時代への変化は非常に顕著なものである。これには大陸からの渡来人による影響が想定されている。縄文人と比較すると弥生人の骨格の特徴は、長くて扁平な顔、大きなサイズの歯、高身長など、多くの点で異なっている。この渡来人的形質を持った弥生人骨は、主に北部九州の甕棺墓や響灘沿岸の砂丘上の墓地から出土している。この地域では多くの資料が蓄積されており、それに伴いこれまでに詳細な分析が行われてきている。しかし、それ以外の地域では良好な資料が不足しているために、渡来人的形質がどのように拡散したかについては不明確な部分が多いのが事実である。

今回報告する黒髪町遺跡が所在する熊本平野においても同様で、いくつかの事例が報告されているものの、その詳細は不明な部分が多い。熊本平野は、北部九州式の甕棺の分布域である一方で、在地の黒髪式土器も甕棺として用いている。このような状況が、人骨の形質的状況とどのように関連するかは非常に重要な問題と言える。今回、黒髪式土器の標識遺跡である黒髪町遺跡で出土した人骨を調査する機会を得ることができたので、以下に報告する。

2．資料と方法

今回報告する資料は、黒髪町遺跡9704調査地点から出土した二体の人骨で、二体とも須玖式の合口甕棺から出土している。人骨が出土したのは471号墓と541号墓で、どちらも仰臥姿勢で、頭位方向は東である。二体の人骨ともに保存状態は良好ではない。人骨の所属年代は、考古学的検証から弥生時代中期後半のものと考えられる（熊本大学埋蔵文化財調査室　2008）。

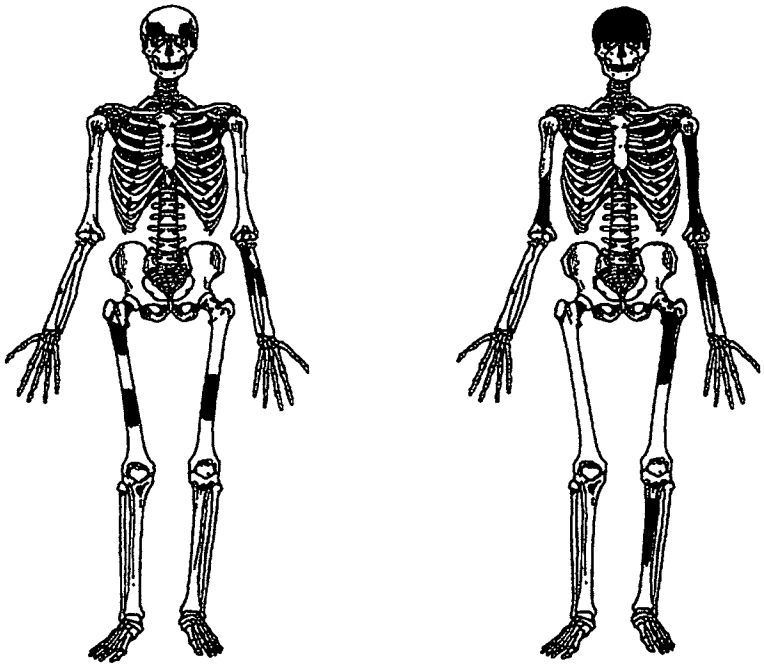
人骨の計測は主にMartin-Saller（Martin1957）と馬場（馬場1988）の方法を用いた。また、性判定に関しては中橋（中橋1988）の方法を援用した。年齢推定は主に歯牙の咬耗から判断し、栃原（栃原1957）の方法を用いた。

3．結　果

471号墓（男性・成年以上）

471号墓人骨の残存部位は、頭蓋の一部、左の尺骨および橈骨の骨体の一部、左右大腿骨の骨体の一部である。残存部位は図76に示している。

性別は乳様突起が発達していること、四肢骨が比較的頑丈なことから、男性と考えられる。年齢については、特定はできないものの、少なくとも成人以上と考えられる。歯は残存しておらず、風習的抜歯についても不明である。残存状態が悪いために、頭蓋及び四肢骨の計測を行うことができなかったが、大腿骨に明確な柱状形成は見られなかった。



471号　　541号

図76　471・541号墓出土人骨残存部位

541号墓（女性・熟年）

541号墓人骨の残存部位は、前頭骨と側頭骨の一部、四肢骨のうち上肢は左右の上腕骨・左尺骨・左橈骨のいずれも骨体の一部、下肢は左の大腿骨と脛骨の骨体の一部しか残存していなかった。残存部位は図76に示している。

性別は、大坐骨切痕が鈍角に近いこと、四肢骨が比較的華奢なことから女性と考えられる。年齢に関しては、大臼歯の咬耗が象牙質に及び、それが点状あるいは線状に広がっており、栃原分類の2°a～2°bにあたり熟年以上と考えられる。残存歯種は以下に示しており、すべて遊離歯であった。尚、風習的抜歯については不明である。

＼	M^2	M^1	P^2	＼	＼	＼	＼	／	／	／	／	／	M^1	M^2	／
＼	M^2	M^1	P^2	＼	＼	＼	＼	／	／	／	／	／	／	／	／

（／：欠損）

頭蓋の計測可能であった項目のうち、頭蓋最大幅が133㎜、最小前頭幅が84㎜であった。必要な計測値は得られなかったものの、おそらく中頭あるいはやや短頭にかたむく中頭であろう。その他の状況は観察することができなかった。

四肢骨については表10に示している。どの四肢骨も全体の形態が観察できるものはなかった。断面形態をみると、前腕については他の地域の弥生人骨に比べてやや華奢な傾向にある。また、計測できなかった上腕骨も、その形状は決して頑丈なものではなかった。下肢も上肢と同様に、他の地域の弥生人と比較すると、華奢な傾向にある。大腿骨の柱状形成、および脛骨の扁平性は見られない。

4．考　察

以上、黒髪町遺跡9704調査地点から出土した人骨の観察結果についてまとめた。多くの部分が欠損していたために、471号及び541号人骨ともに、全体の骨格形状を把握することはできなかった。しかし、541号人骨については、上肢と下肢ともにやや華奢な傾向がうかがえた。

熊本県地域の弥生人骨の研究は、資料数の観点から、十分に解明されたとは言いがたい。当該地域の数少ない弥生人骨を報告している松下孝幸氏によると、熊本県の弥生人骨の中にも、北部九州とよく似た特徴をもつ人骨も確認されている（松下1997）。しかし、当時の地理的状況を考慮すると、熊本県域における渡来人的形質の拡散は一様に説明できるとは考えにくい。

前述したように、熊本県域の弥生人骨の研究は、渡来人的形質が南に向かってどのように拡散していったかについての、重要な研究フィールドと言える。さらに、考古学的な現象と対比していくことで、弥生時代における人間集団の動きについて、重層的な論理展開が可能となる。そのためにも、今後、熊本県域における弥生人骨の資料を増やしていく必要がある。

謝　辞：本人骨を調査する機会を頂いた熊本大学埋蔵文化財調査室の小畑弘己先生、ならびに調査に際して様々なご配慮をいただいた調査室の皆様に感謝を申し上げます。人骨の整理にあたっては、熊本大学考古学研究室の赤崎恵さん、田中麻里子さんにご協力いただきました、記して感謝申し上げます。

また、報告書作成の際には九州大学大学院比較社会文化研究院の中橋孝博先生に、多くの御助言を賜りました。

参考文献

阿部英世　1955「現代九州人大腿骨の人類学的研究」、人類学研究２

馬場悠男　1988)「人体計測法　Ⅱ人骨計測法」、人類学講座別巻１、雄山閣出版

鑄鍋命達　1955「九州人下腿骨の研究」、人類学研究２

清野謙次・平井隆1928「津雲貝塚人骨の人類学的研究、第３部、上肢骨の研究、第４部、下肢骨の研究」、人類学雑誌43、第３、４付録

Martin-Saller 1957 Lehrbuch der Anthropologie.Bd.I.Gustav Fischer Verlag.Stuttgart

松下孝幸　1981「佐賀県大友遺跡出土の弥生時代人骨」、大友遺跡、佐賀県呼子町文化財調査報告書１

1997「熊本市庵ノ前遺跡出土の弥生人骨」、庵ノ前遺跡Ⅲ、熊本県文化財調査報告第160集

中橋孝博　1988「古人骨の性判定方法」、日本民族・文化の生成（永井昌文教授退官記念論集）六興出版

栃原博　1957「日本歯牙咬耗に関する研究」、熊本医学会雑誌、31（補冊４）

中橋孝博・永井昌文（1989）:「弥生人の形質、男女差、寿命」、弥生文化の研究１、雄山閣出版

熊本大学埋蔵文化財調査室　2008『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書Ⅳ（1996・1997年度）』，熊本大学埋蔵文化財調査報告書第４集

表10　四肢骨計測値

		黒髪町 9704		1）北部九州（弥生）		2）山口（弥生）		3）大友（弥生）		4）津雲（縄文）		5）九州（現代）	
		R	L	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
橈骨													
1	最大長	-	-	17	215.1	21	219.1	2	207.0	24	208.2	12	199.2
2	機能長	-	-	11	204.3	20	208.2	2	194.0	26	196.4	12	187.0
3	最小周	-	-	52	37.9	36	37.4	9	40.4	30	36.4	12	34.7
4	骨体横径	14	14	56	15.7	39	15.4	11	16.4	34	14.6	12	14.5
4 a	骨体中央横径	-	-	24	14.3	28	14.2	11	15.9			12	13.5
5	骨体矢状径	9	10	56	10.9	39	10.4	11	11.2	34	9.8	12	9.7
5 a	骨体中央矢状径	-	-	24	10.8	28	10.6	12	10.9			12	9.7
3 / 2	長厚示数	-	-	11	11.7	19	17.9	1	19.7	25	18.2	11	18.1
5 / 4	骨体断面示数	64.3	71.4	56	69.3	39	68.1	11	68.7	34	67.5	10	68.3
5 a/ 4 a	中央断面示数	-	-	24	75.7	28	75.2	11	69.7				
尺骨													
1	最大長	-	-	6	236.5	24	236.9	1	223.0	12	227.2	12	215.0
2	機能長	-	-	8	207.6	25	208.0	2	207.0	12	198.6	12	189.2
3	最小周	-	-	34	34.4	30	34.2	7	33.9	24	32.8	12	32.1
11	尺骨矢状径	11	11	54	11.2	41	11.3	12	12.8	37	11.3	12	10.9
12	尺骨横径	13	13	54	16.0	41	15.5	11	15.9	37	13.6	12	13.9
3 / 2	長厚示数	-	-	7	16.5	25	16.4	2	16.7	12	16.4	12	16.8
11/12	骨体断面示数	84.6	84.6	54	70.4	41	73.4	11	82.0	37	83.5	12	77.5
大腿骨													
1	最大長	-	-	34	413.4	30	403.9	5	386.8	22	388.2	13	380.1
2	自然位長	-	-	11	40.6	26	399.5	4	378.3	22	381.7	13	375.9
6	中央矢状径	-	-	112	25.9	50	25.5	30	25.5	45	25.2	13	23.6
7	中央横径	-	-	112	26.6	50	26.2	30	25.2	45	24.2	13	23.2
8	中央周	-	-	111	82.2	50	80.9	29	80.4	45	78.0	13	74.2
9	骨体上横径	-	31	86	31.2	50	31.0	30	29.7	42	28.4	13	27.5
10	骨体上矢状径	-	20	86	23.2	50	23.0	30	22.7	42	22.2	13	21.3
8 / 2	長厚示数	-	-	11	20.7	26	20.2	4	20.3	21	20.3	13	19.8
6 / 7	中央断面示数	-	-	112	97.7	50	97.5	31	102.1	45	104.5	13	102.0
10/ 9	骨体上　断面示数	-	64.5	86	74.9	50	74.5	30	76.5	42	78.2	13	77.1
脛骨													
1	全長	-	-	20	332.2	20	326.8	3	313.0	17	319.8	14	301.0
1 a	最大長	-	-	30	333.3	23	331.0	4	324.8	17	324.4	14	306.0
8	中央最大径	-	-	46	27.3	31	26.9	24	27.6	42	27.3	14	24.7
8 a	栄養孔最大径	-	27	97	31.3	42	30.5	19	30.4	37	30.5	14	28.1
9	中央横径	-	-	46	20.7	31	19.1	26	19.7	42	17.9	14	18.8
9 a	栄養孔位置横径	-	19	98	22.7	42	21.6	20	21.1	36	19.4	14	21.1
10	骨体周	-	-	46	75.4	30	72.6	23	75.3	42	73.4	14	70.1
10a	栄養孔位周	-	-	96	84.0	42	82.2	18	81.6	35	81.3	14	78.2
10b	最小周	-	-	82	69.1	44	67.5	24	68.3	35	67.6	14	63.6
9 / 8	中央断面示数	-	-	46	76.2	31	71.1	23	72.1	42	65.8	14	76.3
9 a/ 8 a	栄養孔位断面示数	-	70.4	97	72.6	42	71.2	18	70.4	36	63.6	14	74.9
10b/ 1	長厚示数	-	-	20	21.1	20	20.3	3	21.4	17	21.1	14	21.2

1）中橋・永井（1989）、2）松下（1981）、3）清野・平井（1928）、4）阿部（1955）、鏑鍋（1955）

写真図版

写真１　西区北壁（南東より）

写真２　181号土坑（西より）

写真３　３号溝（西区）（西より）

写真４　５号溝（南より）

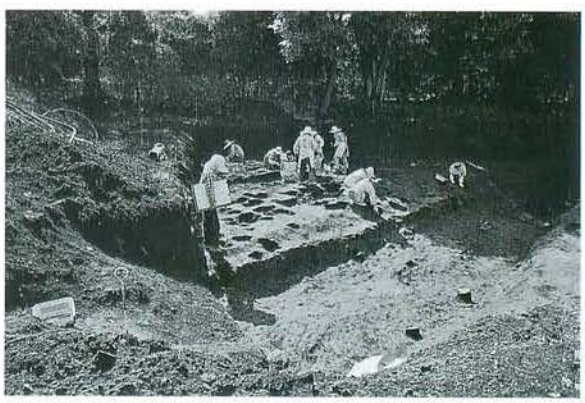


写真５　作業風景（西より）

図版２　9802調査地点

写真６　石斧出土状況（北より）

写真７　１号溝（東区）（西より）

写真８　１号溝掘り下げ状況（東より）

写真９　遺物出土状況（北より）

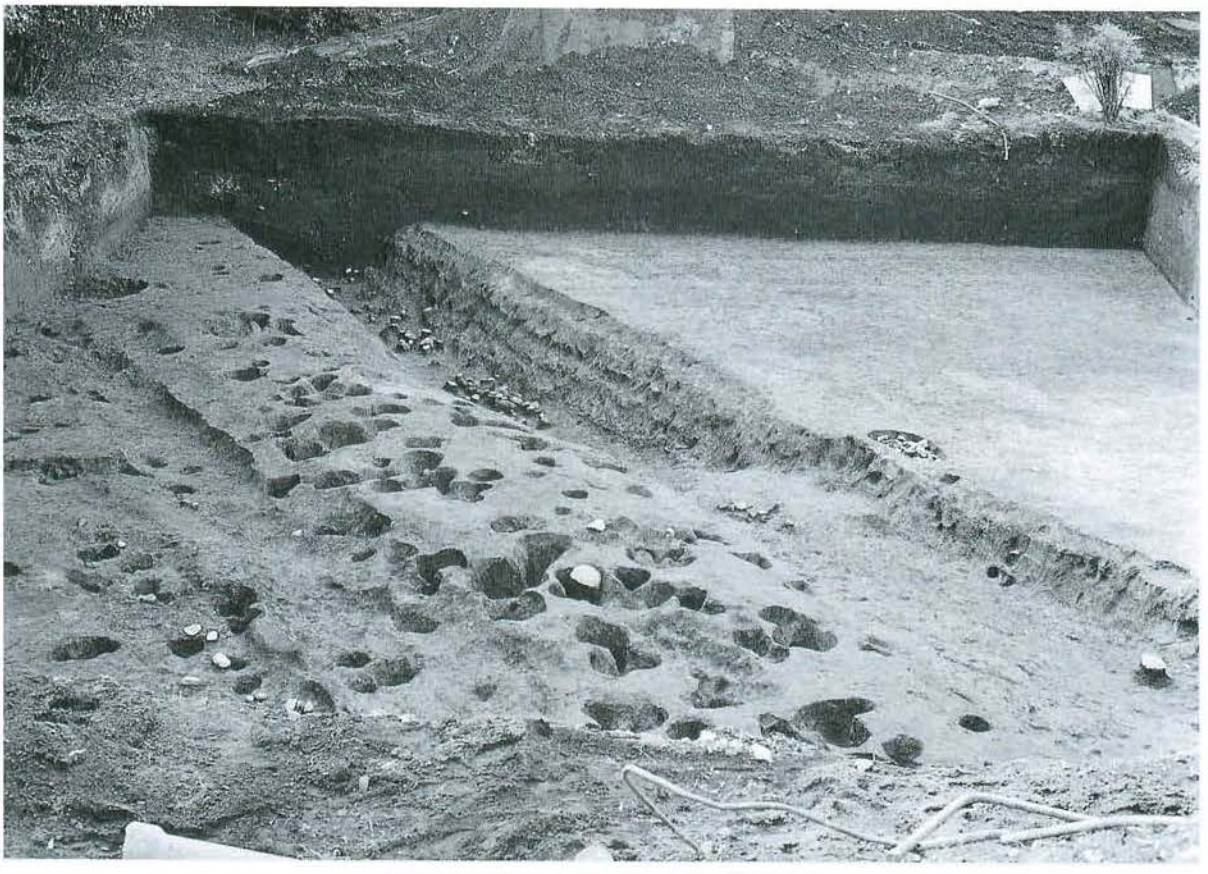


写真10　調査区（西区）全景（東より）

写真11　押型文土器出土状況（北より）

写真12　縄文・弥生土器出土状況（北より）

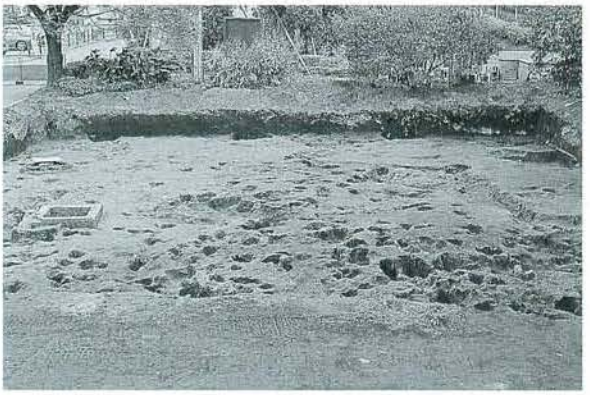
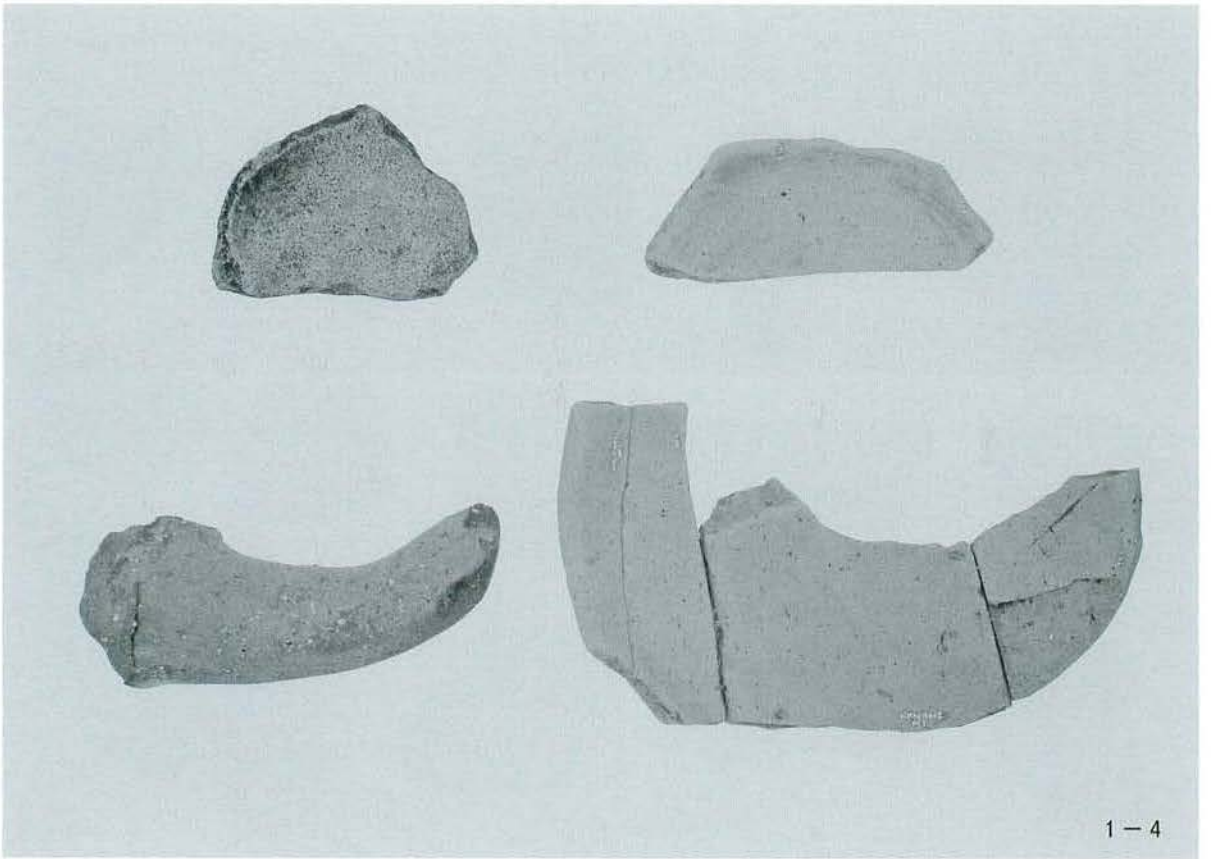
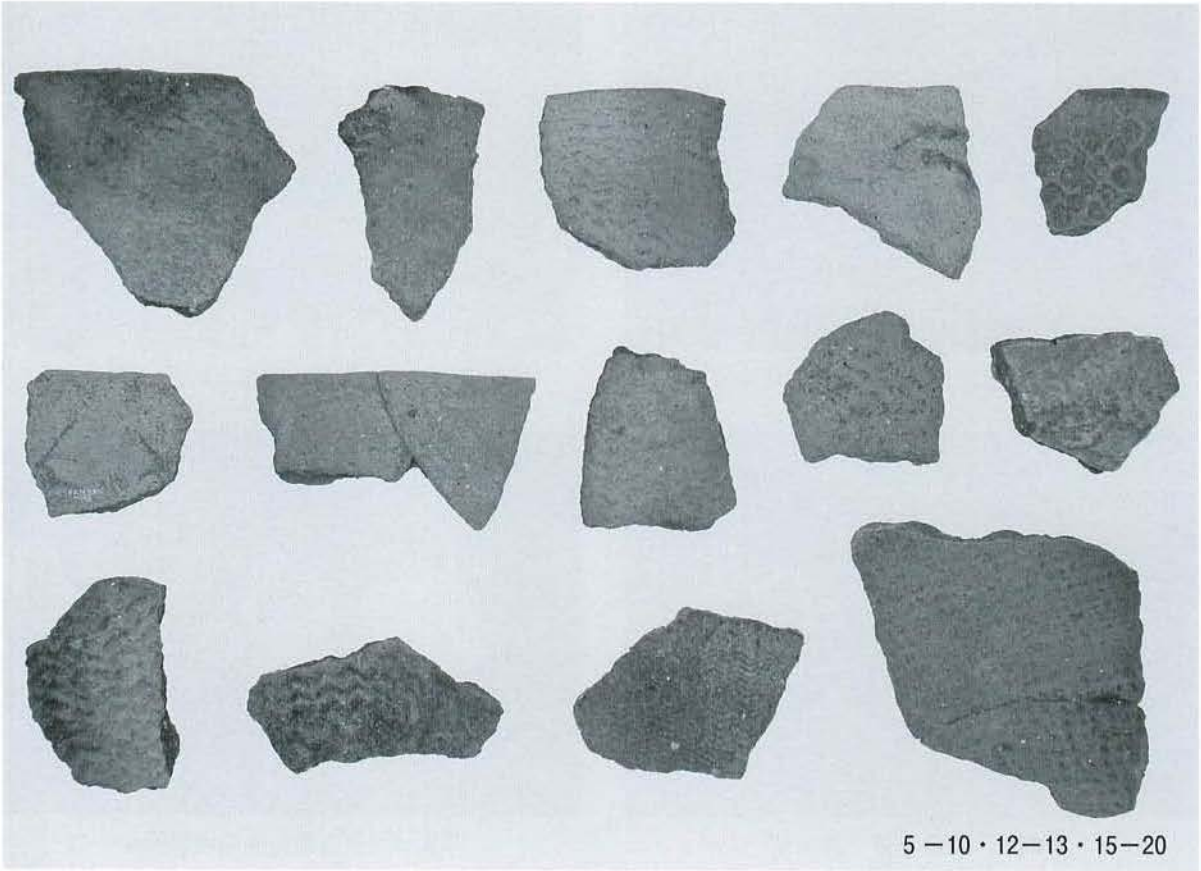


写真13　東区全景（西より）

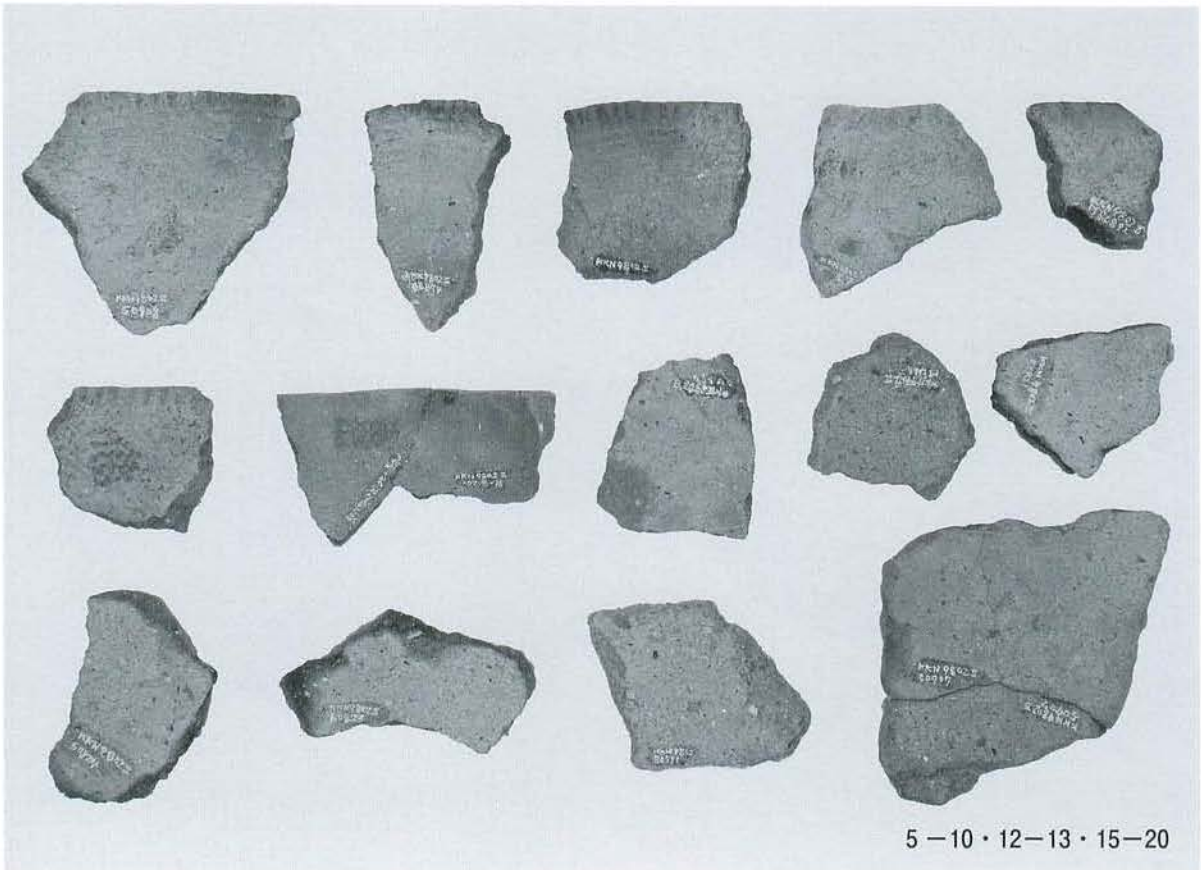
写真14　調査委員会現地説明会



図版 4　9802調査地点出土遺物 2

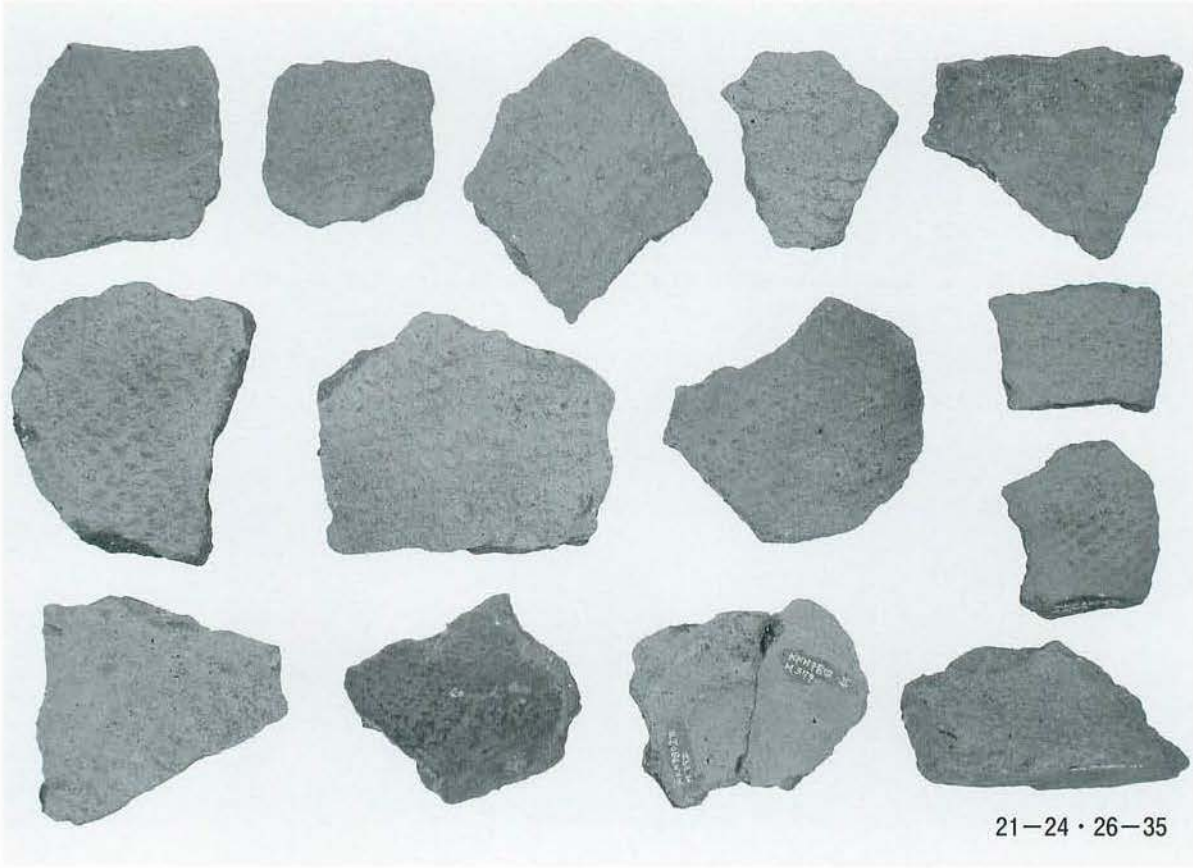


5 －10・12－13・15－20

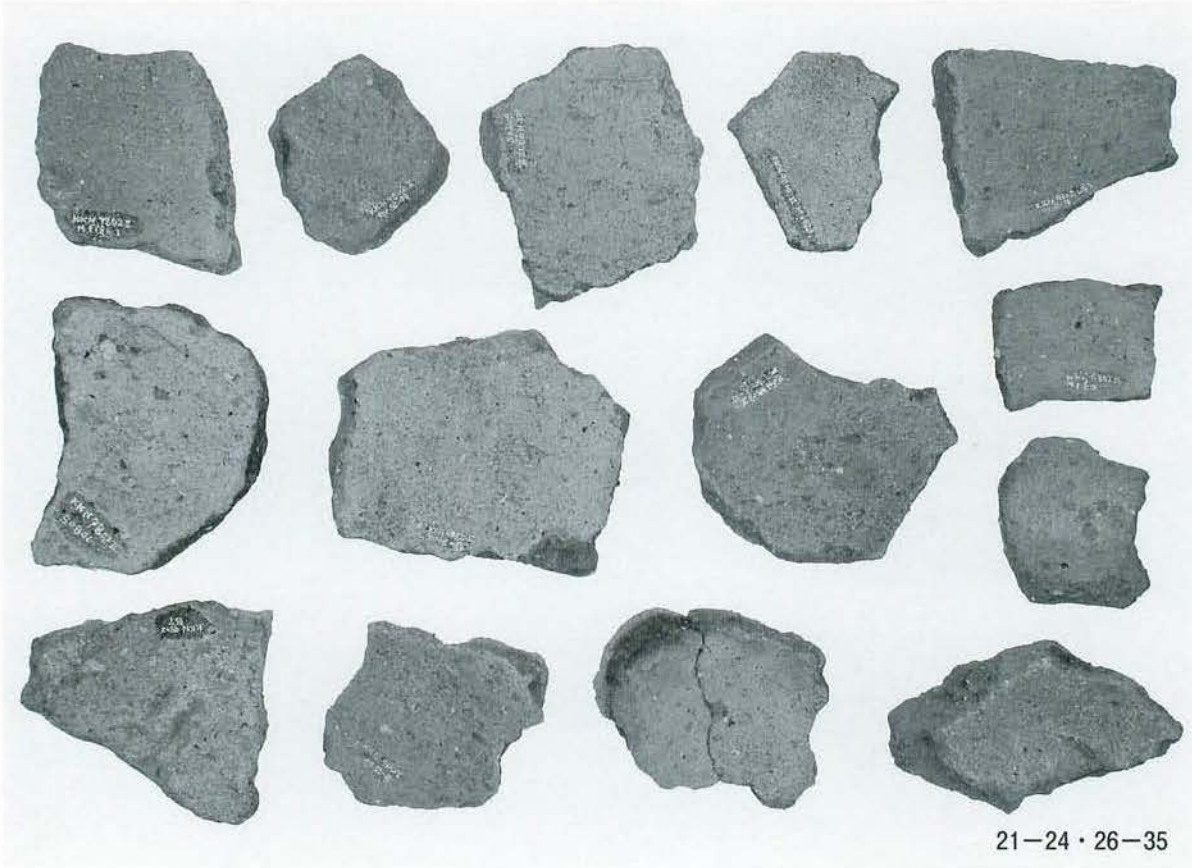


5 －10・12－13・15－20

図版 5　9802調査地点出土遺物 3

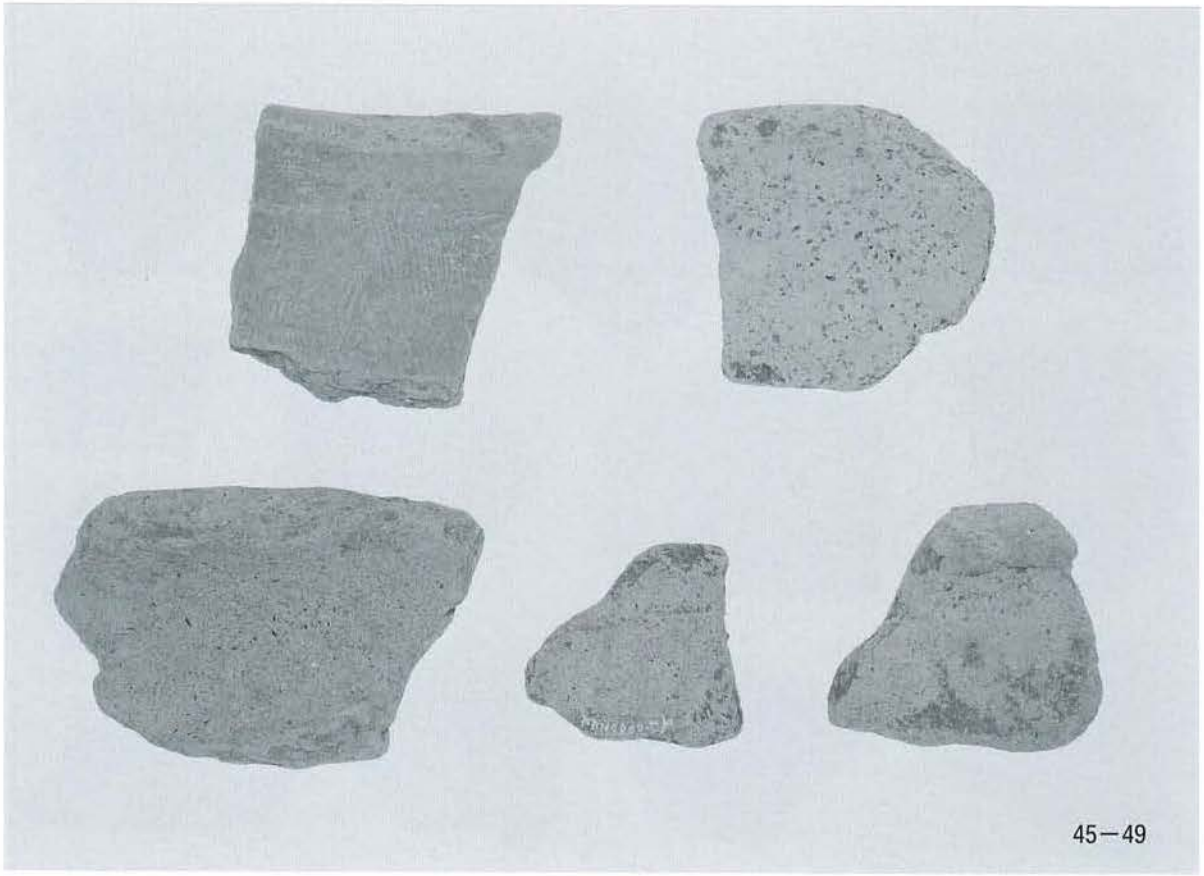


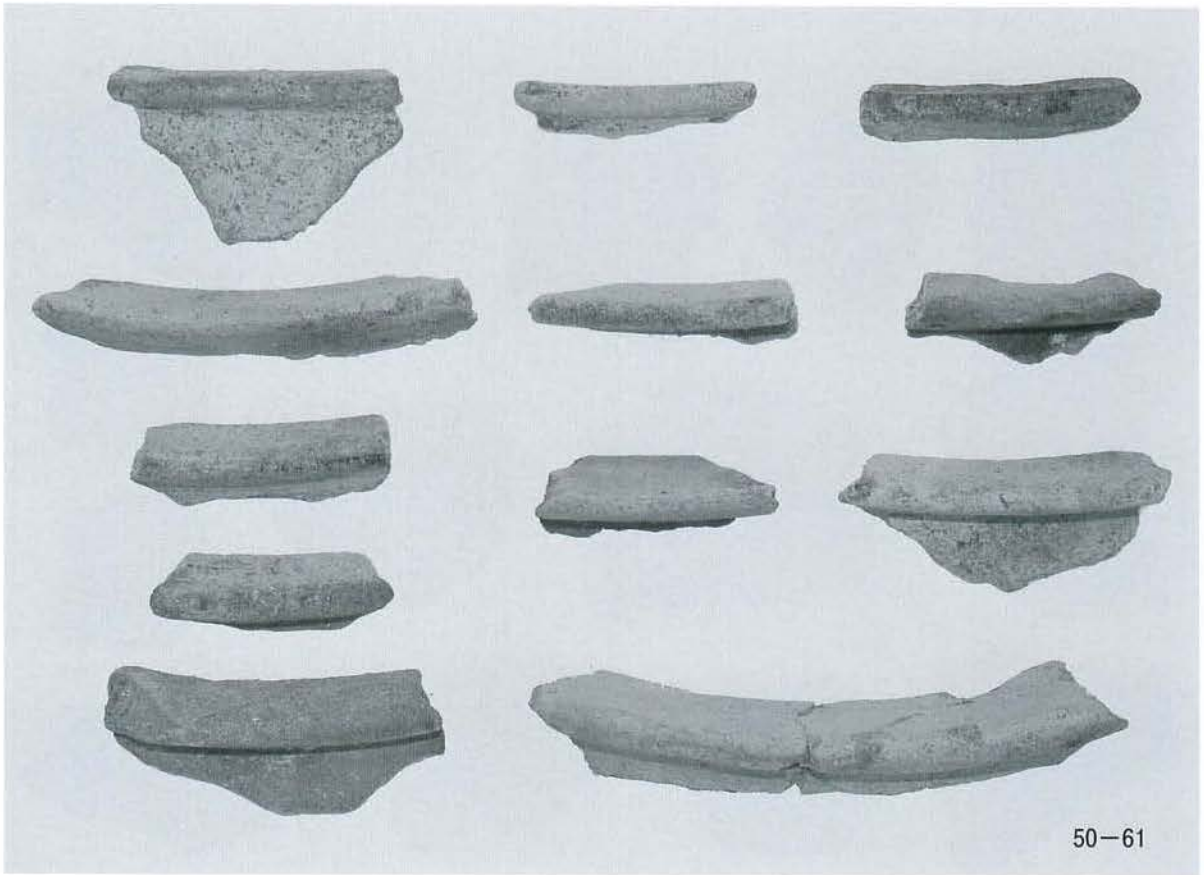
21－24・26－35



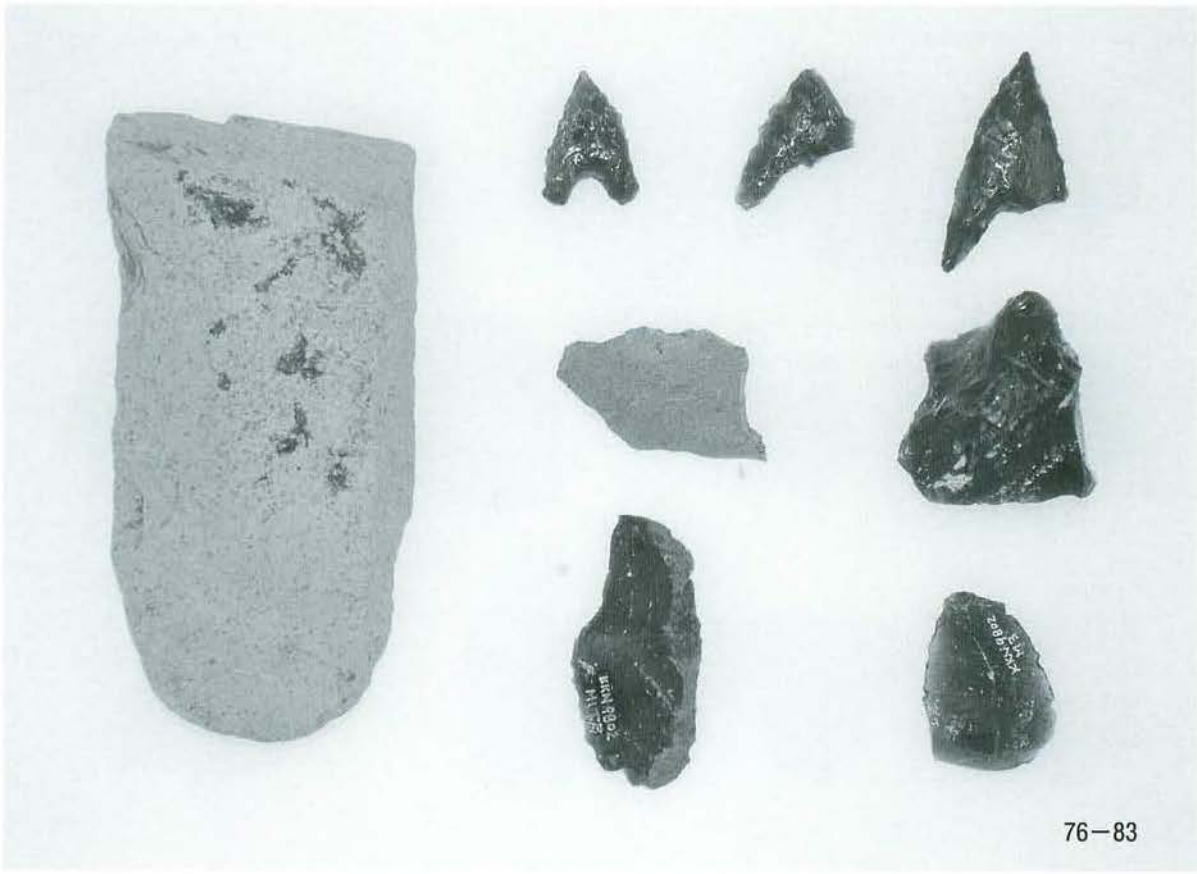
21－24・26－35

図版 6　9802調査地点出土遺物 4





図版 7　9802調査地点出土遺物 5

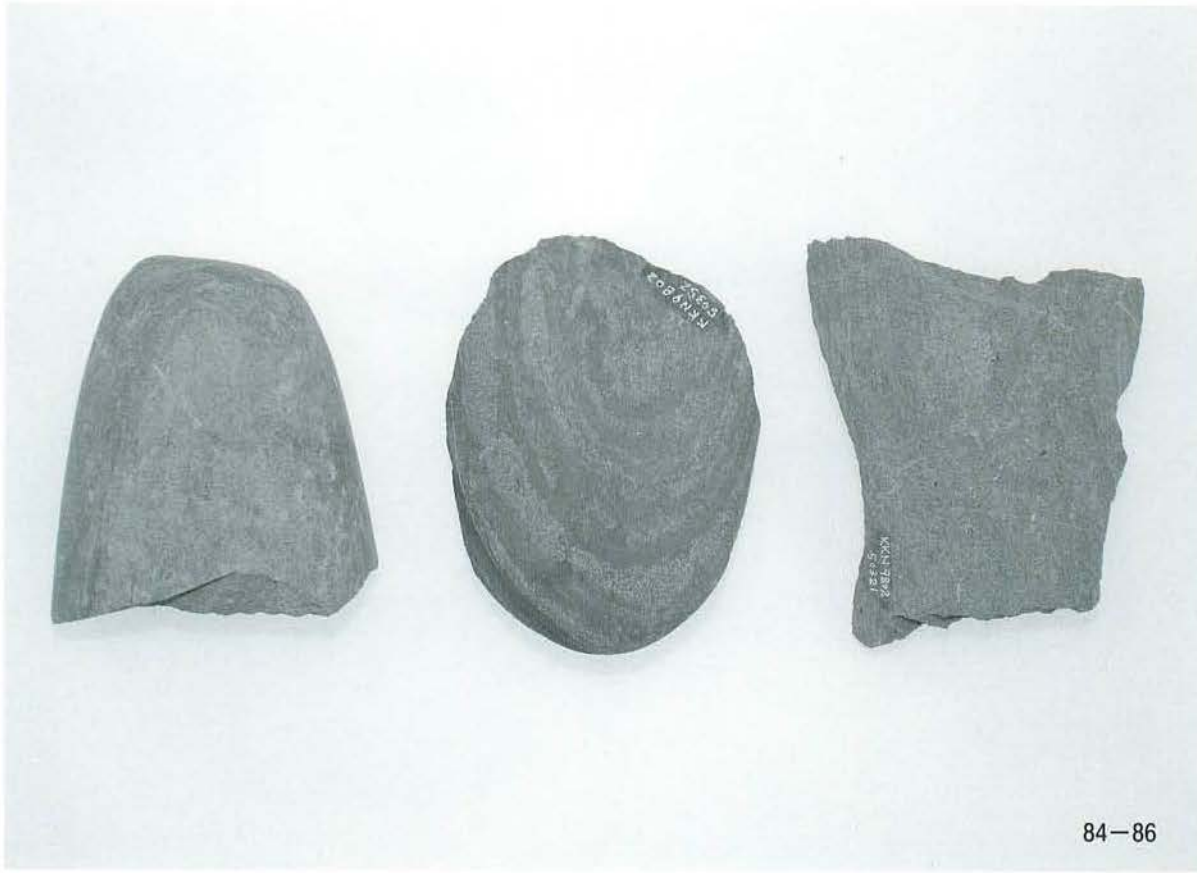


76－83

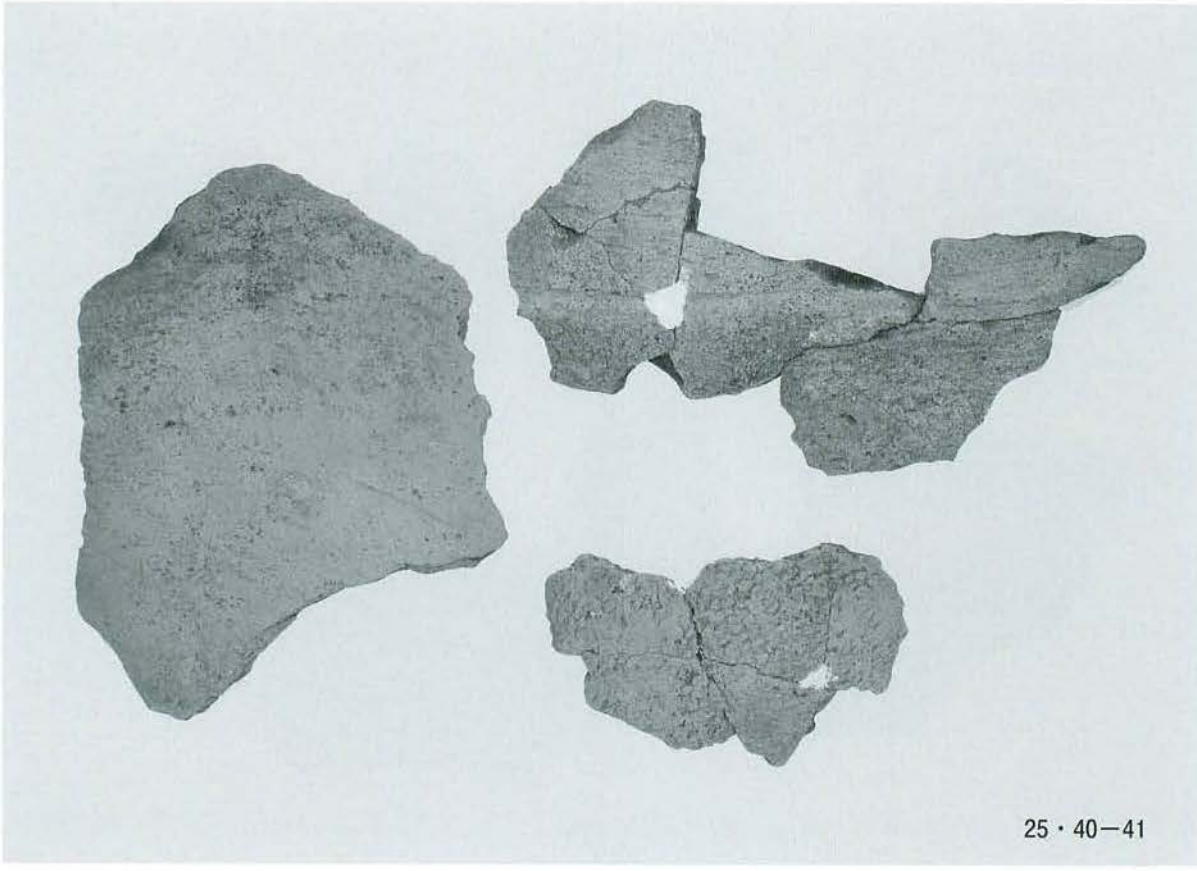
76－83

図版 8　9802調査地点出土遺物 6

図版 9　9802調査地点出土遺物 7

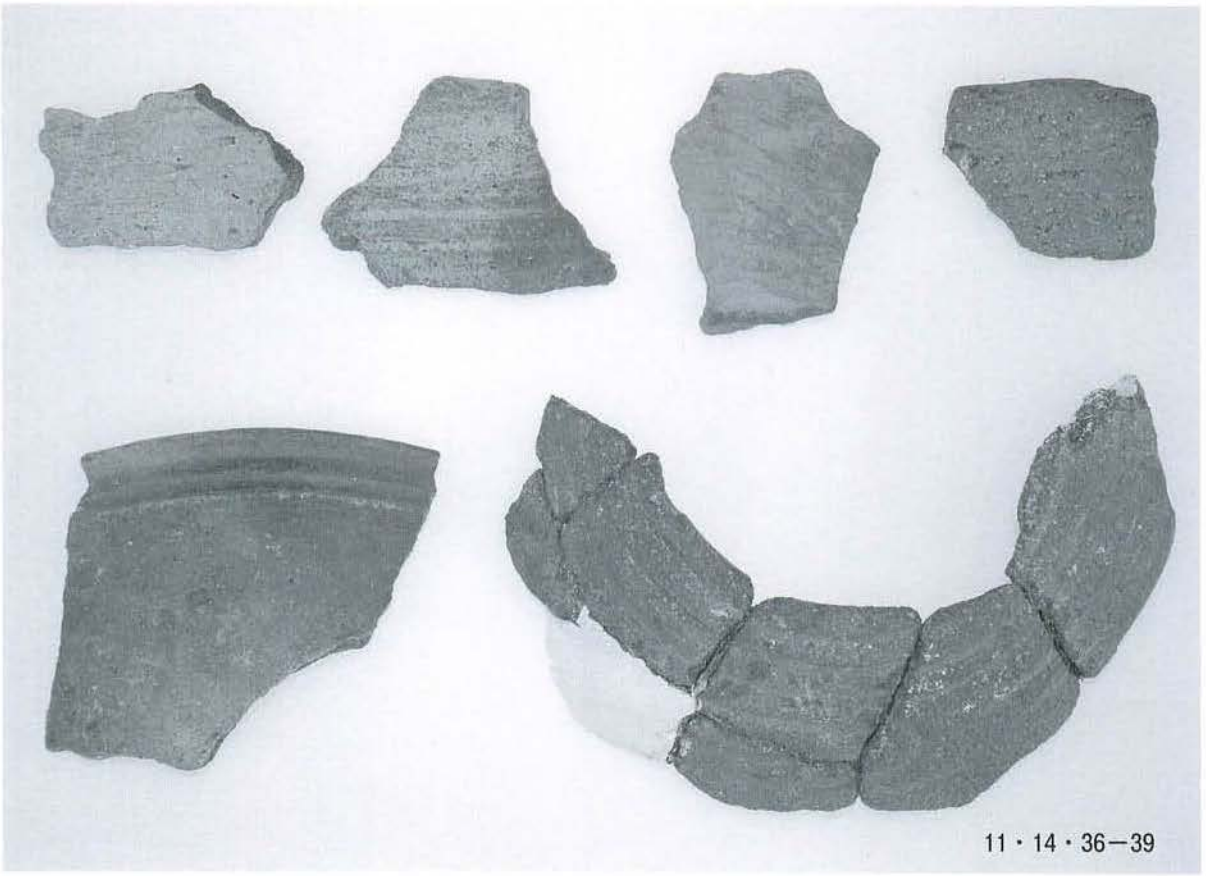


84－86

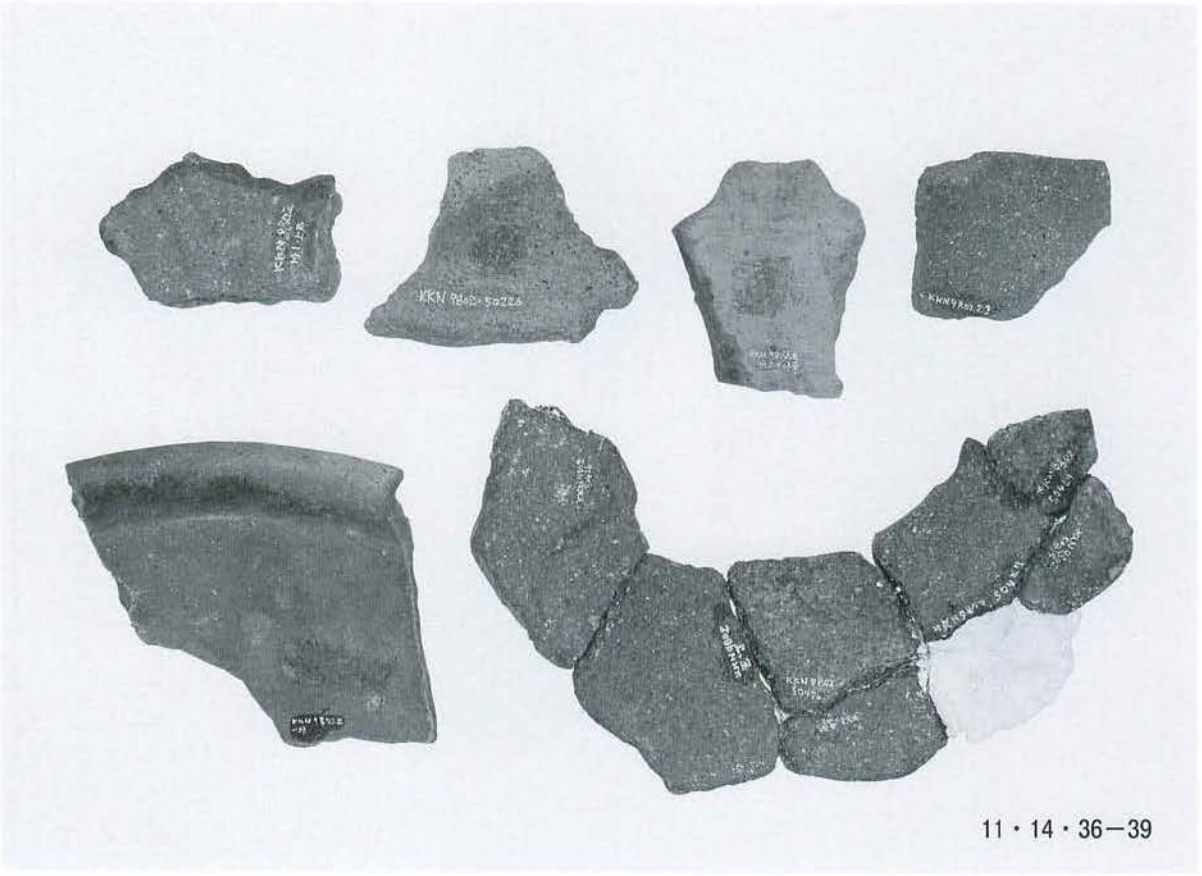


25・40－41

図版10　9802調査地点出土遺物 8

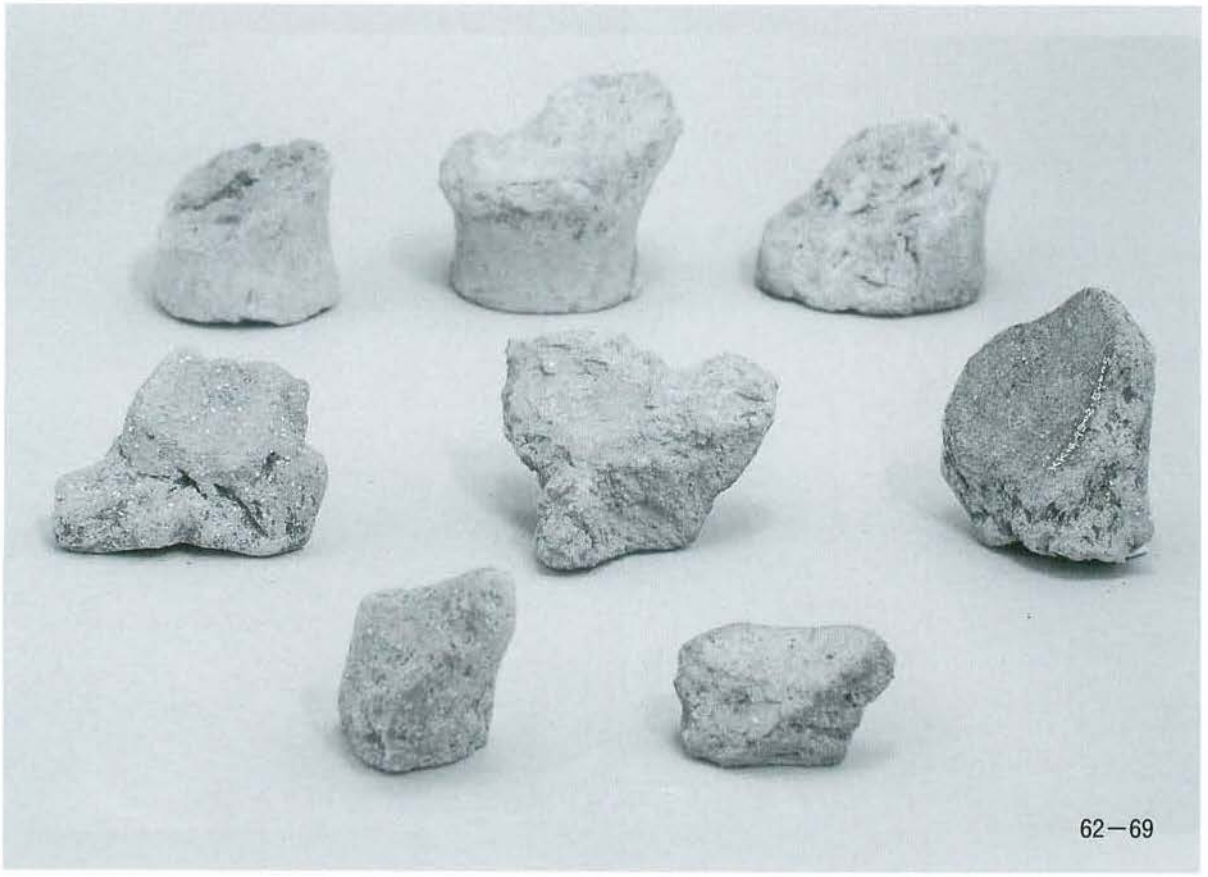


11・14・36—39



11・14・36—39

42－44


62－69

図版12　9802調査地点出土遺物10

写真15　調査区全景１（西より）

写真16　調査区中央（南より）

図版14　9810調査地点

写真17　調査風景 1 （東より）

写真18　調査風景 2 （南西より）

写真19　調査風景 3 （西より）

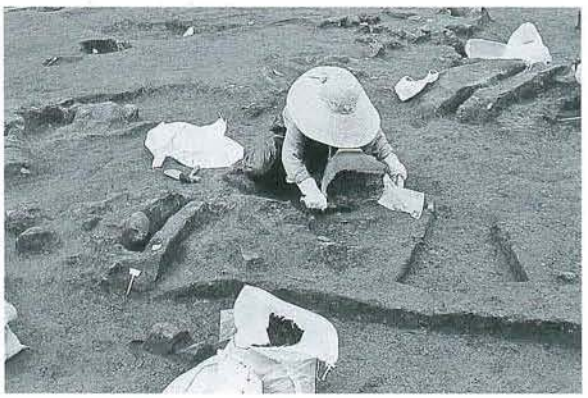


写真20　調査風景 4 （北より）

写真21　調査風景 5 （南より）

写真22　3 号溝（西より）

写真23　3 号溝土層断面（西より）

写真24　1 号溝南壁土層断面（北東より）

写真25　1号溝土層断面（北より）

写真26　10号溝（西より）

写真27　8号溝土層断面（西より）

写真28　2号竪穴住居址（南西より）

写真29　2号竪穴住居址竈（北より）

写真30　2号竪穴住居址竈掘り下げ状況（南西より）

写真31　2号竪穴住居址竈遺物出土状況（北西より）

写真32　6・7号竪穴住居址（南より）

図版16　9810調査地点

写真33　6・7号竪穴住居址（南より）

写真34　11号竪穴住居址（南より）

写真35　11号竪穴住居址竈（南より）

写真36　11号竪穴住居址鉄器出土状況

写真37　310号竪穴住居址土層断面（南より）

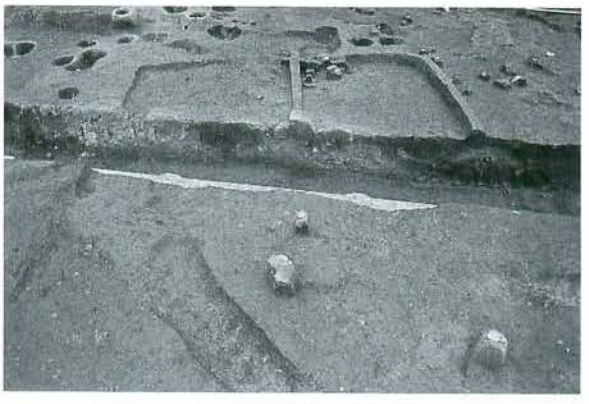


写真38　310号竪穴住居址（南より）

写真39　310号竪穴住居址竈（南より）

写真40　310号竪穴住居址（東より）

写真41　320号竪穴住居址（西より）

写真42　320号竪穴住居址ピット内壷出土状況(北東より)

写真43　6号竪穴住居址掘り下げ状況（南より）

写真44　6号竪穴住居址遺物出土状況（南より）

写真45　6号竪穴住居址竈（南より）

写真46　250号竪穴住居址土層断面（西より）

写真47　250・593号竪穴住居址（南より）

写真48　359号竪穴住居址（西より）

図版18　9810調査地点

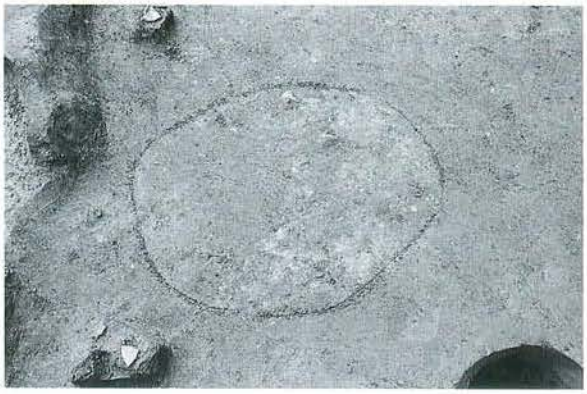


写真49　359号竪穴住居址内粘土（南より）

写真50　359号竪穴住居址竈（南西より）

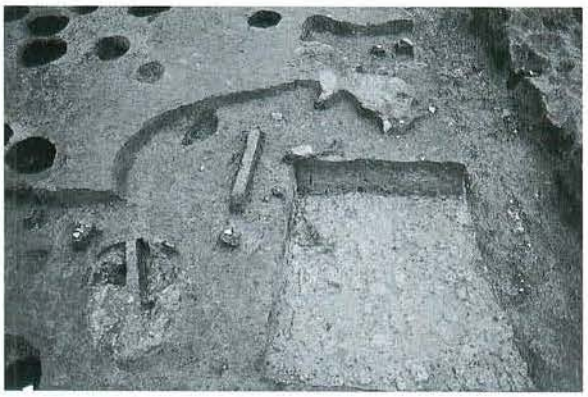


写真51　348号竪穴住居址（西より）

写真52　348号竪穴住居址焼土断面（南より）

写真53　348号竪穴住居址（南より）

写真54　4号竪穴住居址（西より）

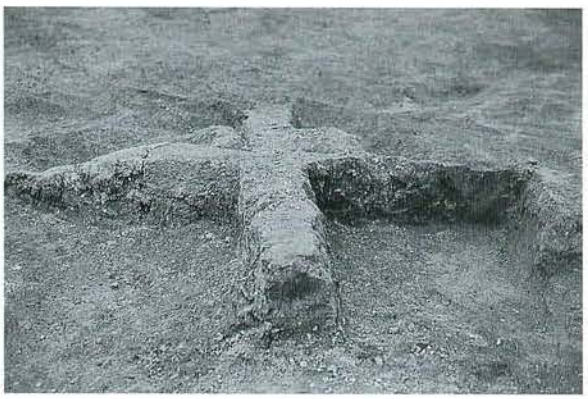


写真55　4号竪穴住居址竈（西より）

写真56　220号竪穴住居址（南より）

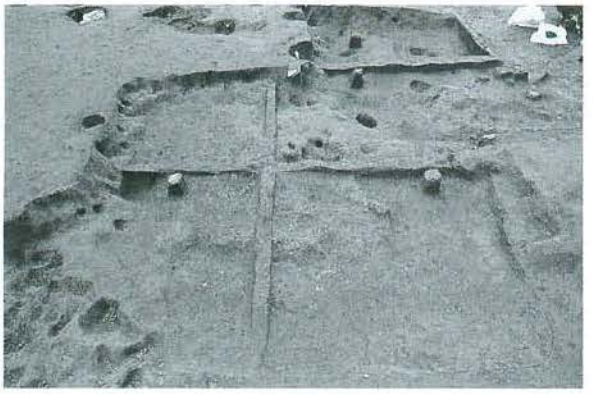


写真57　220号竪穴住居址掘り下げ状況（東より）

写真58　220号竪穴住居址竈（南より）

写真59　220号竪穴住居址遺物出土状況（南より）

写真60　280号竪穴住居址（西より）

写真61　280号竪穴住居址（東より）

写真62　230号竪穴住居址（西より）

写真63　230号竪穴住居址竈（西より）

写真64　270号竪穴住居址竈上部焼土（北東より）

図版20　9810調査地点

写真65　270号竪穴住居址土器出土状況（南より）

写真66　270号竪穴住居址竈（西より）

写真67　270号竪穴住居址紡錘車出土状況（南より）

写真68　270号竪穴住居址内焼土（南より）

写真69　270号竪穴住居址土層断面１（南西より）

写真70　270号竪穴住居址土層断面２（北東より）

写真71　270号竪穴住居址（南より）

写真72　270号竪穴住居址焼土断面（西より）

写真73　270号竪穴住居址（南より）

写真74　370号竪穴住居址（南より）

写真75　290号土坑（東より）

写真76　350号竪穴住居址（南より）

写真77　390号竪穴住居址（南より）

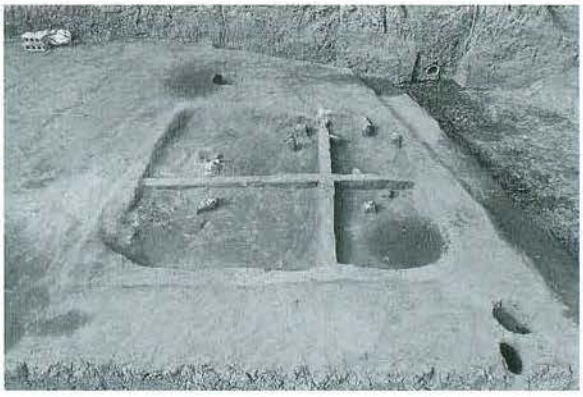


写真78　5号竪穴住居址掘り下げ状況（西より）

写真79　346号竪穴住居址（西より）

写真80　138号土坑（東より）

図版22　9810調査地点

写真81　138号土坑焼土検出状況（東より）

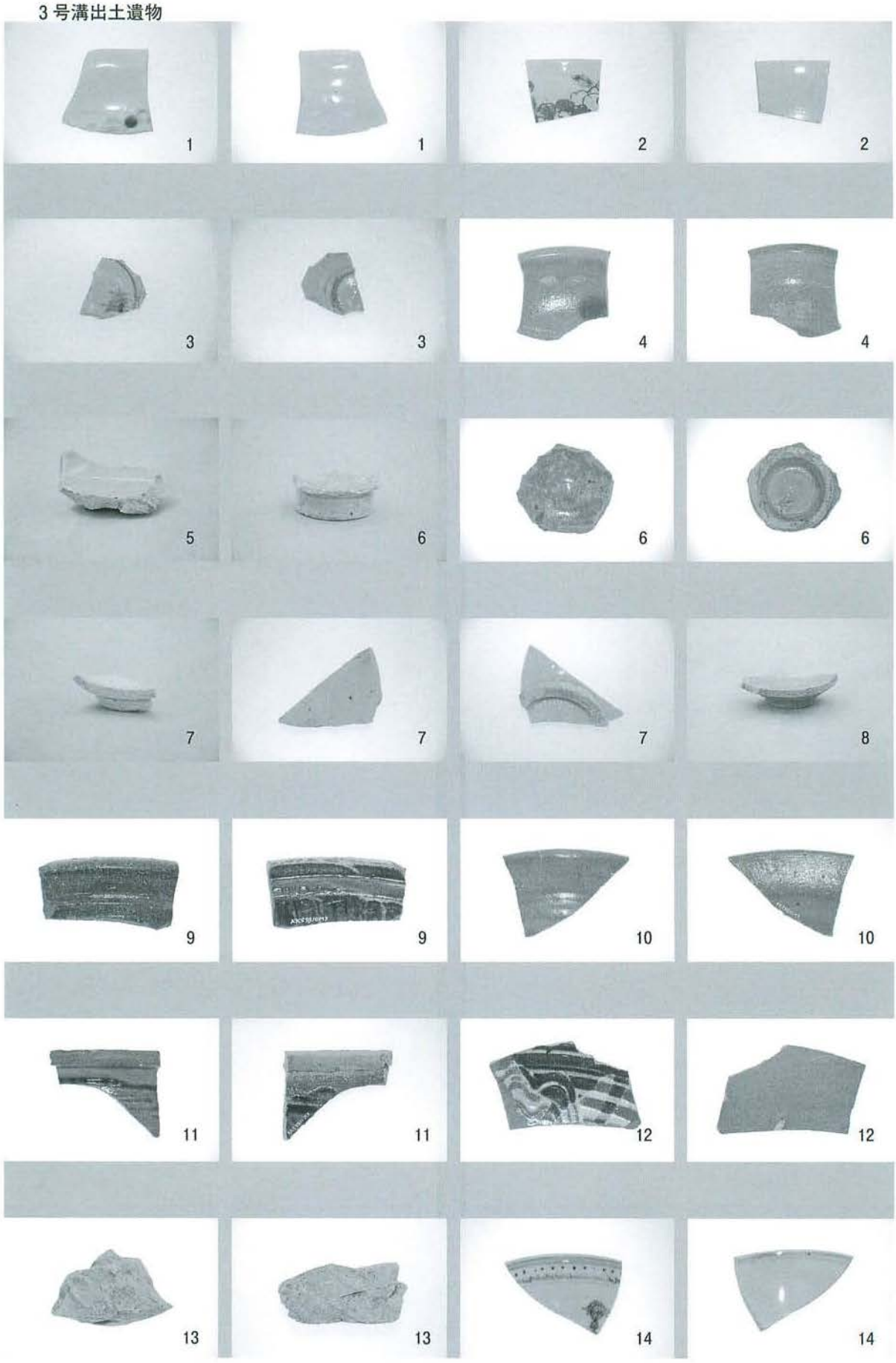
写真82　現地説明会

写真83　調査風景 6（南西より）

写真84　調査風景 7（南東より）

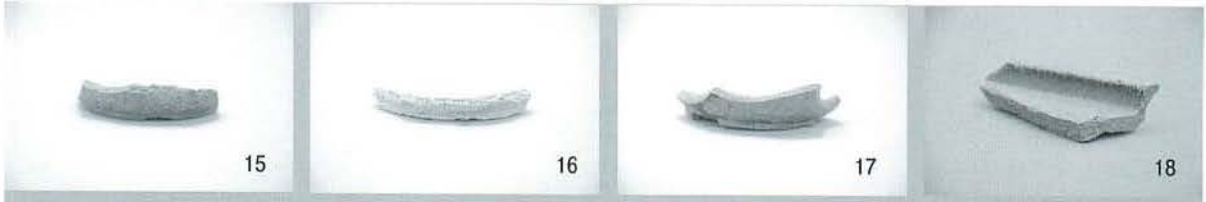
写真85　調査区全景 2（西より）

3 号溝出土遺物

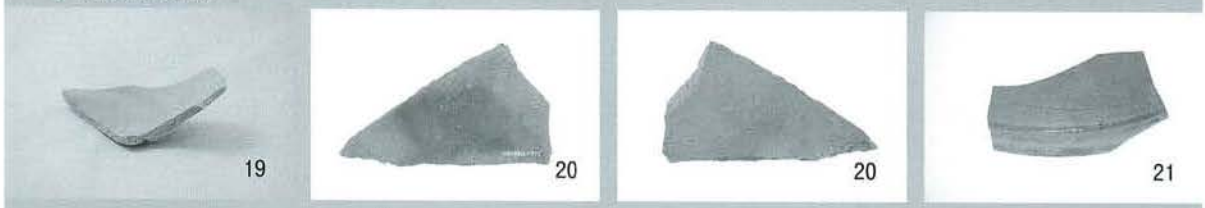


図版24　9810調査地点出土遺物 2

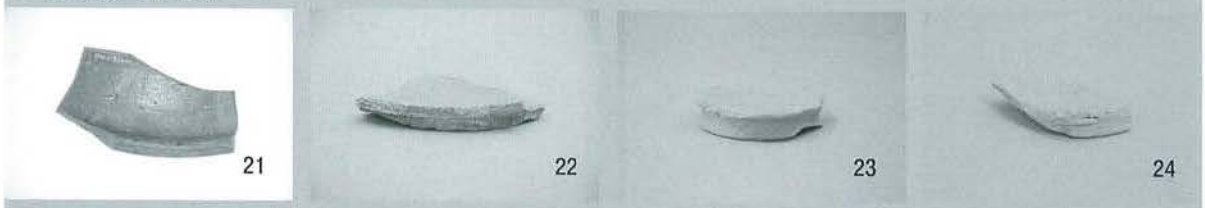
1 号溝出土遺物

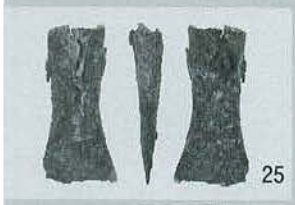


9 号溝出土遺物

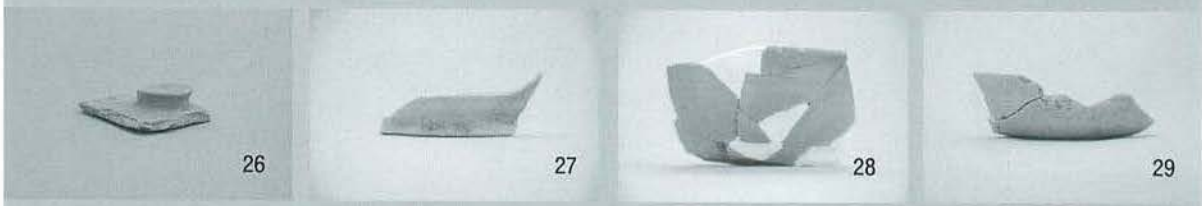


10号溝出土遺物

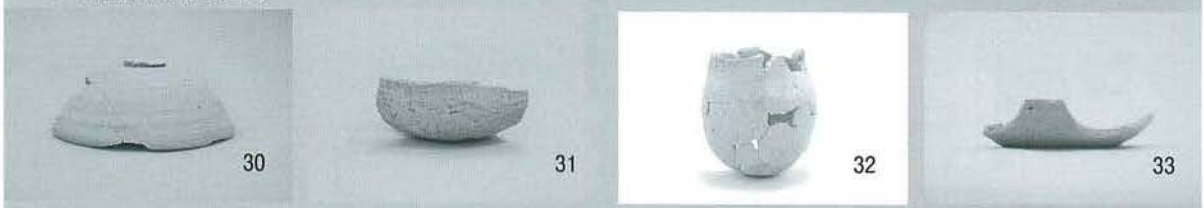




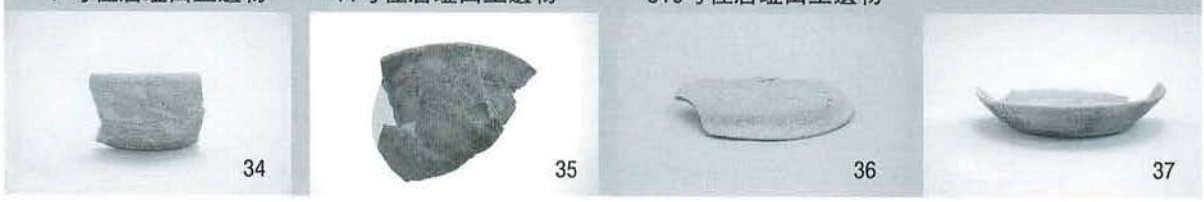
8 号溝出土遺物



2 号住居址出土遺物



7 号住居址出土遺物　11号住居址出土遺物　310号住居址出土遺物



310号住居址出土遺物

38

39

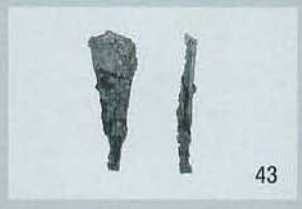
200号住居址出土遺物

40

320号住居址出土遺物

41

42


43

6 号住居址出土遺物

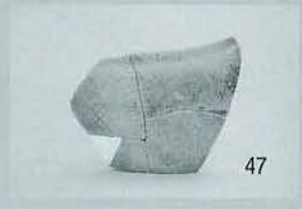
44

44

45

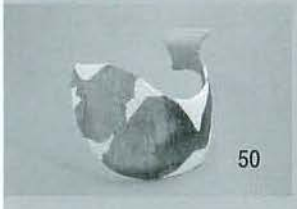
45

46


47

48

49


50

51

250号住居址出土遺物

52

53

359号住居址出土遺物

54

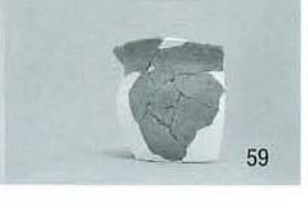
55

507号住居址出土遺物

56

57

58


59

図版26　9810調査地点出土遺物 4

507 号住居址出土遺物

60

61

202号住居址出土遺物

62

63

64

65

66

280号住居址出土遺物

67

270号住居址出土遺物

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

340号住居址出土遺物

79

80

370号住居址出土遺物

81

82

230号住居址出土遺物

83

240号住居址出土遺物

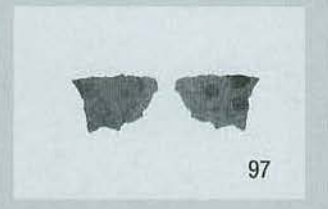
84

290号土坑出土遺物

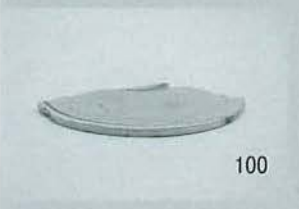
350号住居址出土遺物

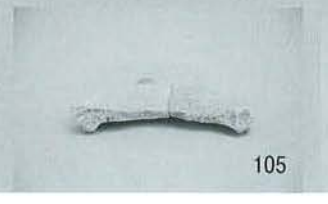
380号住居址出土遺物

各種遺構出土遺物



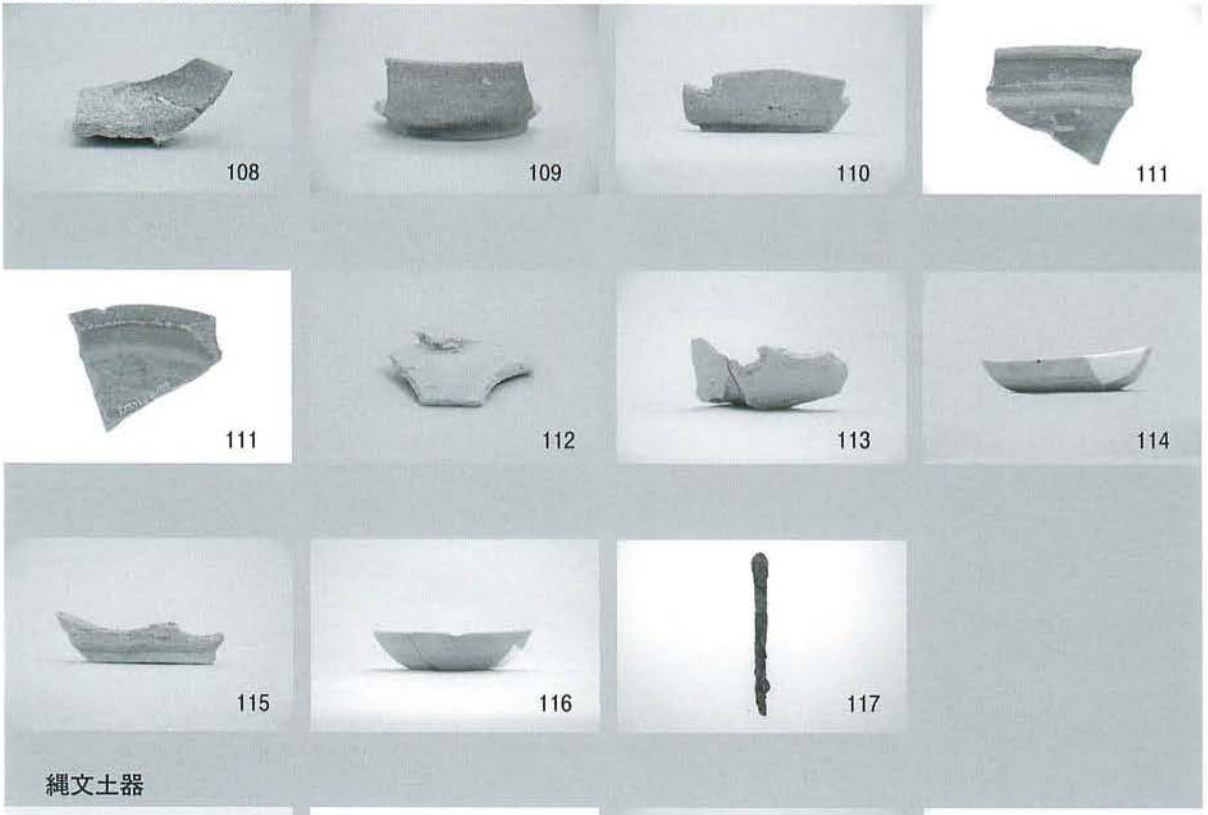
包含層・攪乱層出土遺物



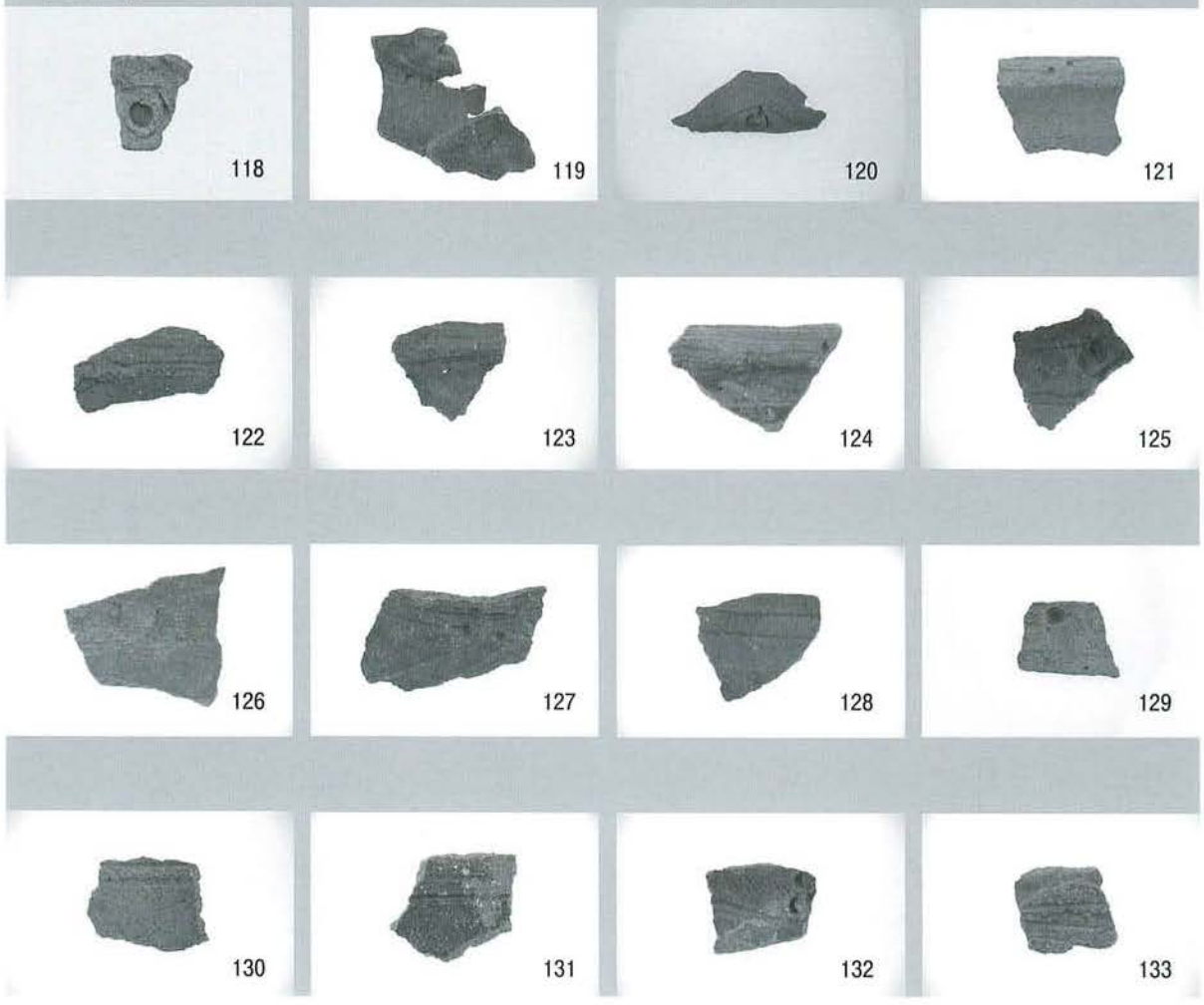


図版28　9810調査地点出土遺物 6

包含層・撹乱層出土遺物



縄文土器



134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

縄文時代石器

151 152
153 154

155 156 157 158
159 160 161 162

163

図版30　9801調査地点

写真86　調査区全景（東より）

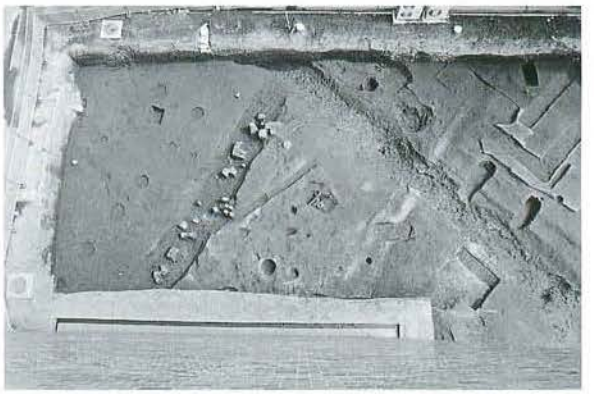


写真87　Ⅰ区全景（北西より）

写真88　Ⅱ区全景（北東より）

写真89　3号溝（東より）

写真90　3号溝土層断面（南西より）

写真91　3号溝出土骨（北西より）

写真92　1号溝全景（北東より）

写真93　1号溝土層断面（北東より）

写真94　1号溝人骨出土状況（東より）

写真95　30号溝土層断面（北より）

写真96　31号溝土層断面（北より）

写真97　2号溝土層断面（北より）

写真98　4号溝遺物出土状況（南より）

図版32　9801調査地点

写真99　4号溝土層断面（南より）

写真100　25号溝遺物出土状況（南より）

写真101　25号溝（北東より）

写真102　27号竪穴住居址（北西より）

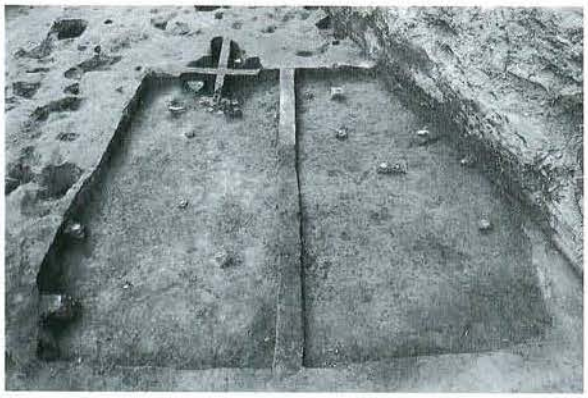


写真103　28号竪穴住居址（北東より）

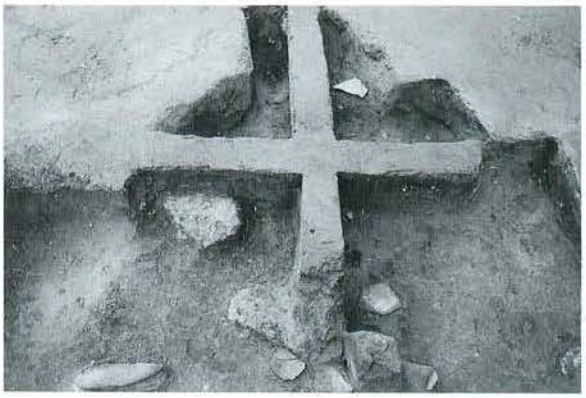


写真104　28号竪穴住居址竈（北東より）

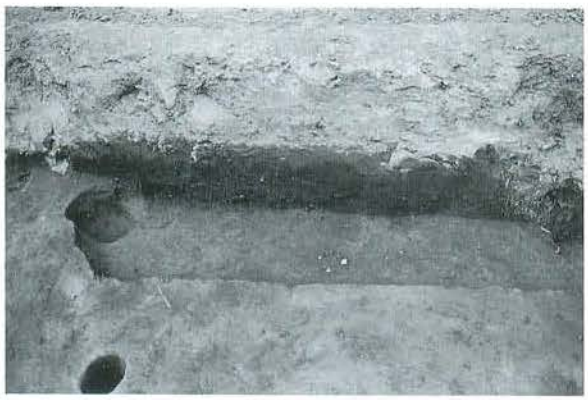


写真105　26号竪穴住居址（南東より）

写真106　5号掘立柱建物址（南より）

図版33　9801調査地点・9801調査地点出土遺物 1

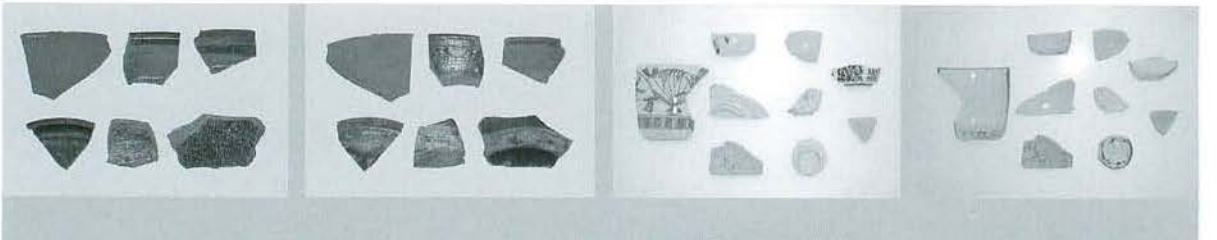
写真107　15号土坑遺物出土状況（東より）

写真108　15号土坑出土坏（東より）

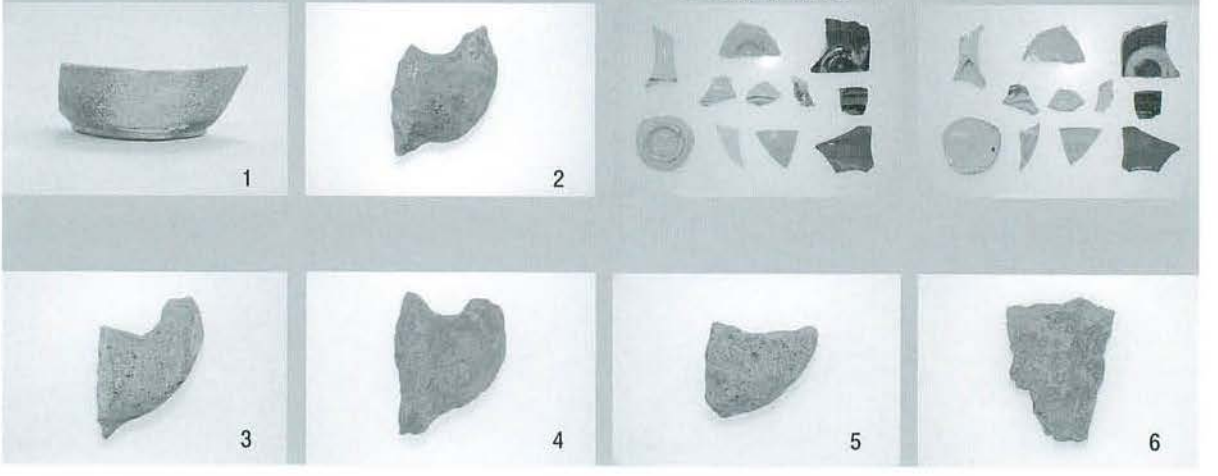
写真109　発掘調査風景（東より）

写真110　現地説明会

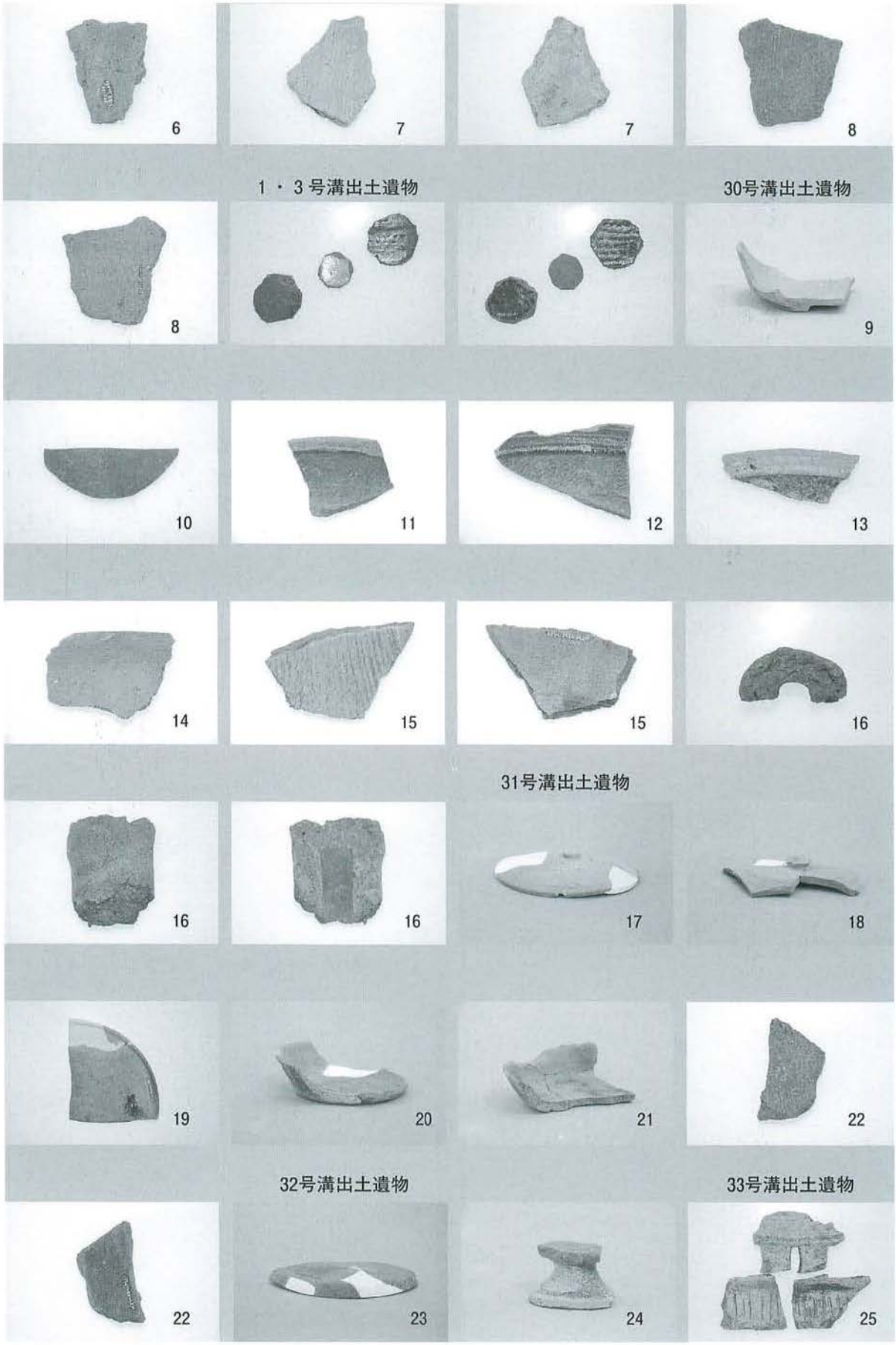
3 号溝出土遺物

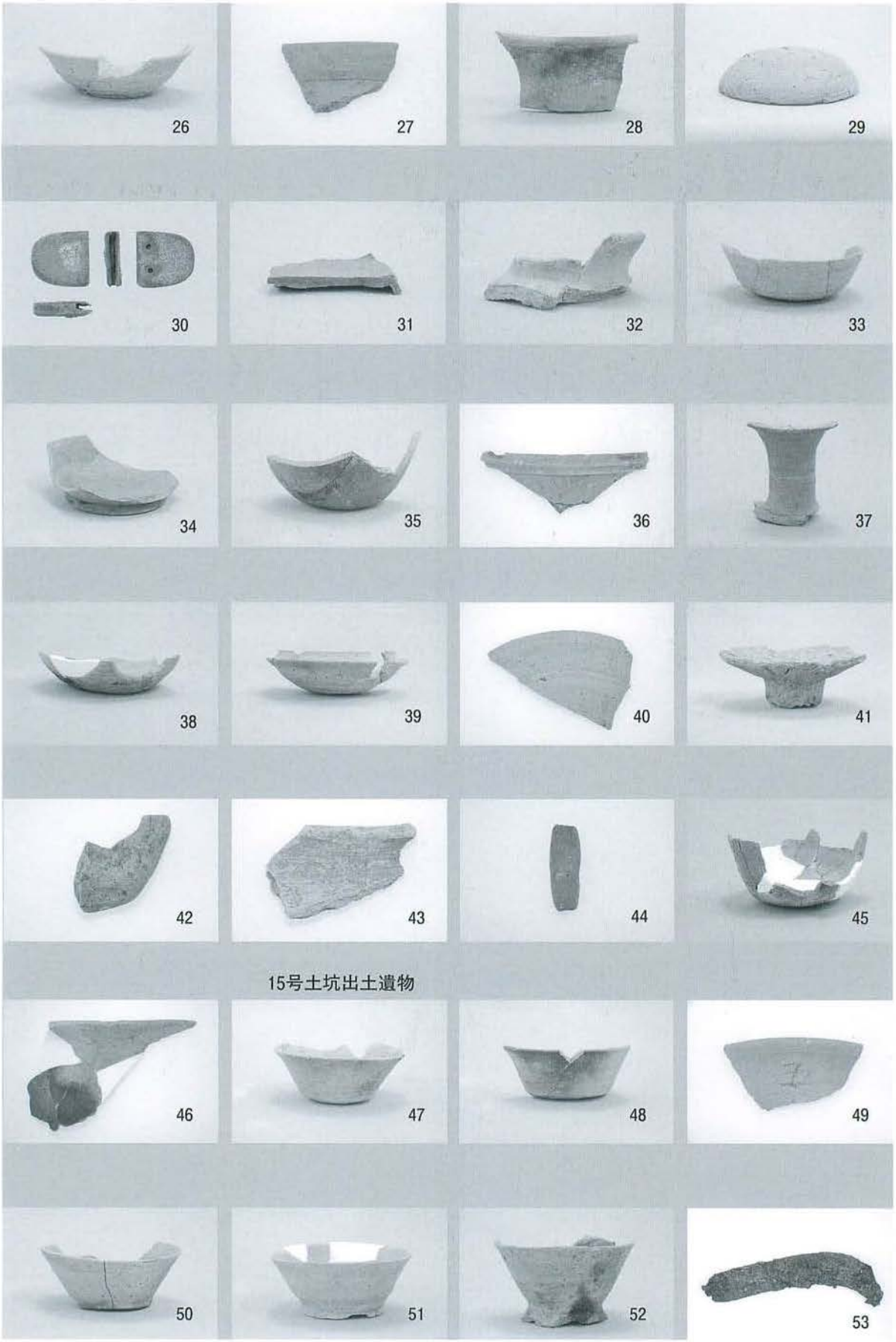


1 号溝出土遺物



図版34　9801調査地点出土遺物 2




26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
15号土坑出土遺物
46
47
48
49
50
51
52
53

図版36　9801調査地点出土遺物 4

その他の遺構出土遺物

54

54

包含層出土遺物

55

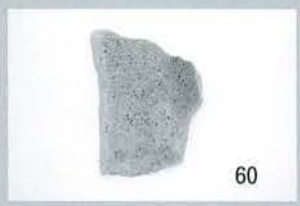
56

57

58

59

60


60

61

61

縄文時代の遺物

62

63

64

65

65

66

66

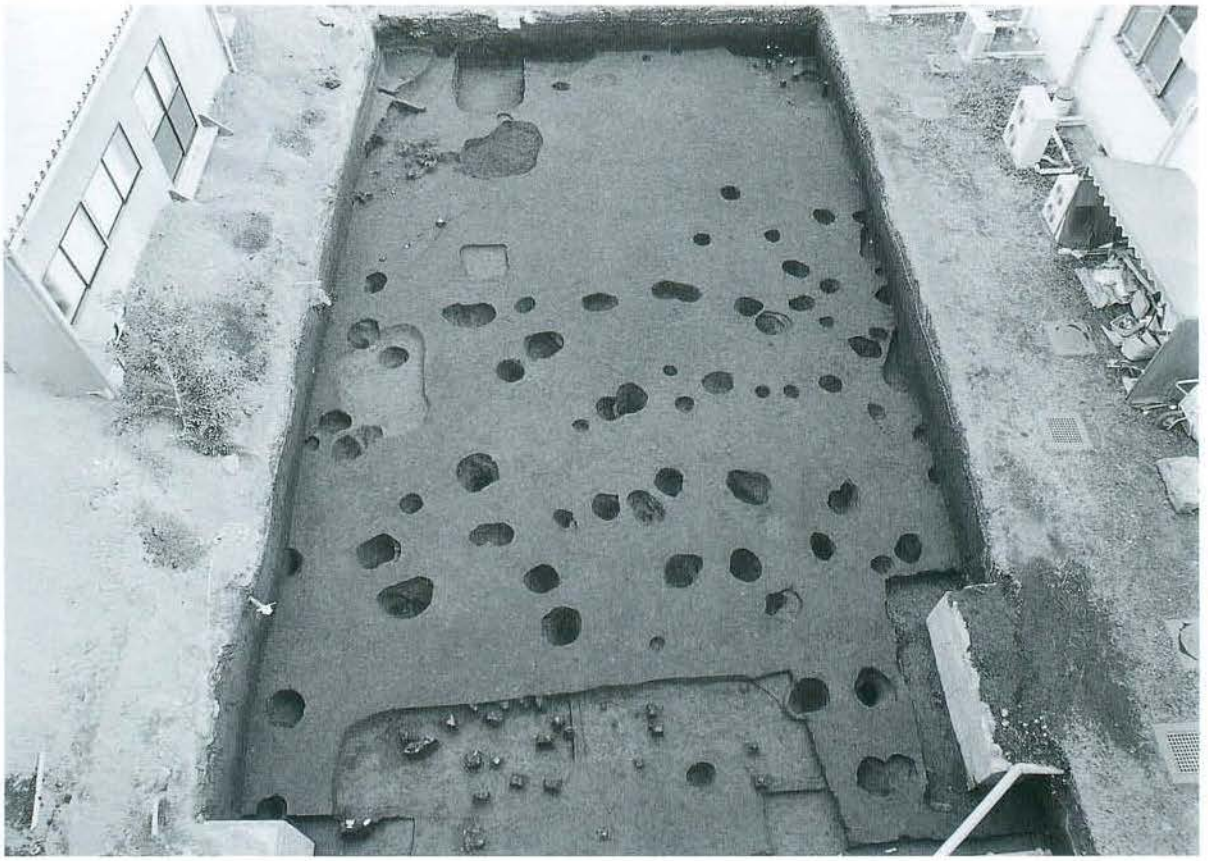


写真111　調査区全景１（西より）

写真112　南壁土層断面（北より）

写真113　調査風景（東より）

写真114　調査区西半（西より）

写真115　調査区全景２（西より）

図版38　9807調査地点

写真116　1・7号竪穴住居址（西より）

写真117　1号竪穴住居址（西より）

写真118　1号竪穴住居址遺物出土状況（南より）

写真119　2号道路跡（東より）

写真120　2号道路2号溝（東より）

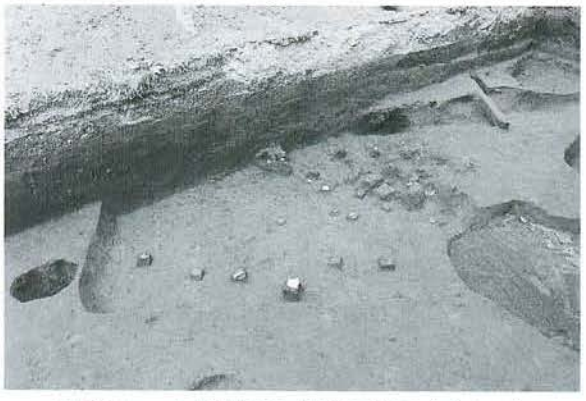


写真121　3号竪穴住居址硬化面（南より）

写真122　3号竪穴住居址（南より）

写真123　3号竪穴住居址竈（西より）

写真124　4号竪穴住居址（西より）

写真125　4号竪穴住居址（北西より）

写真126　4号竪穴住居址遺物出土状況（西より）

写真127　5号竪穴住居址（西より）

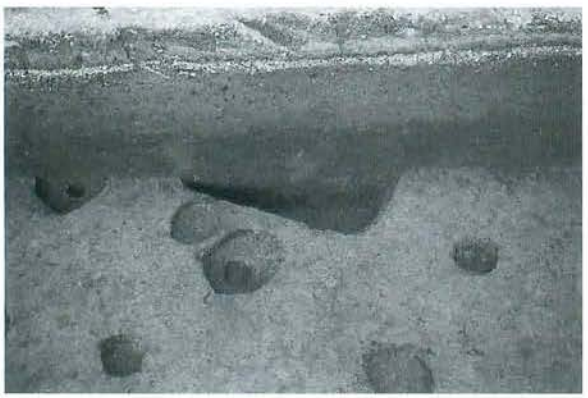


写真128　34号竪穴住居址（北より）

写真129　50号竪穴住居址（西より）

写真130　100号掘立柱建物址（西より）

写真131　200号掘立柱建物址（南より）

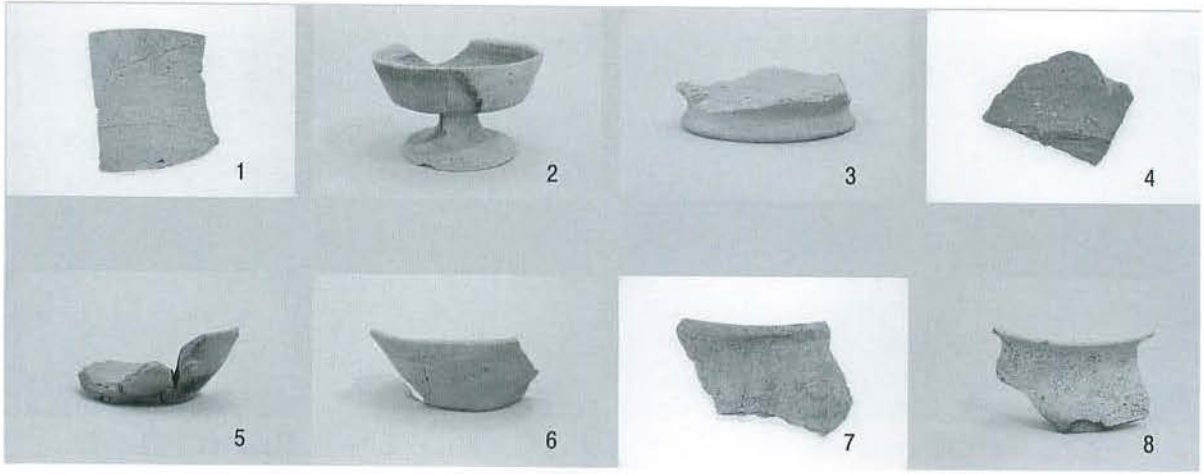
図版40　9807調査地点・9807調査地点出土遺物 1

写真132　300号掘立柱建物址（南東より）

写真133　400号掘立柱建物址（南東より）

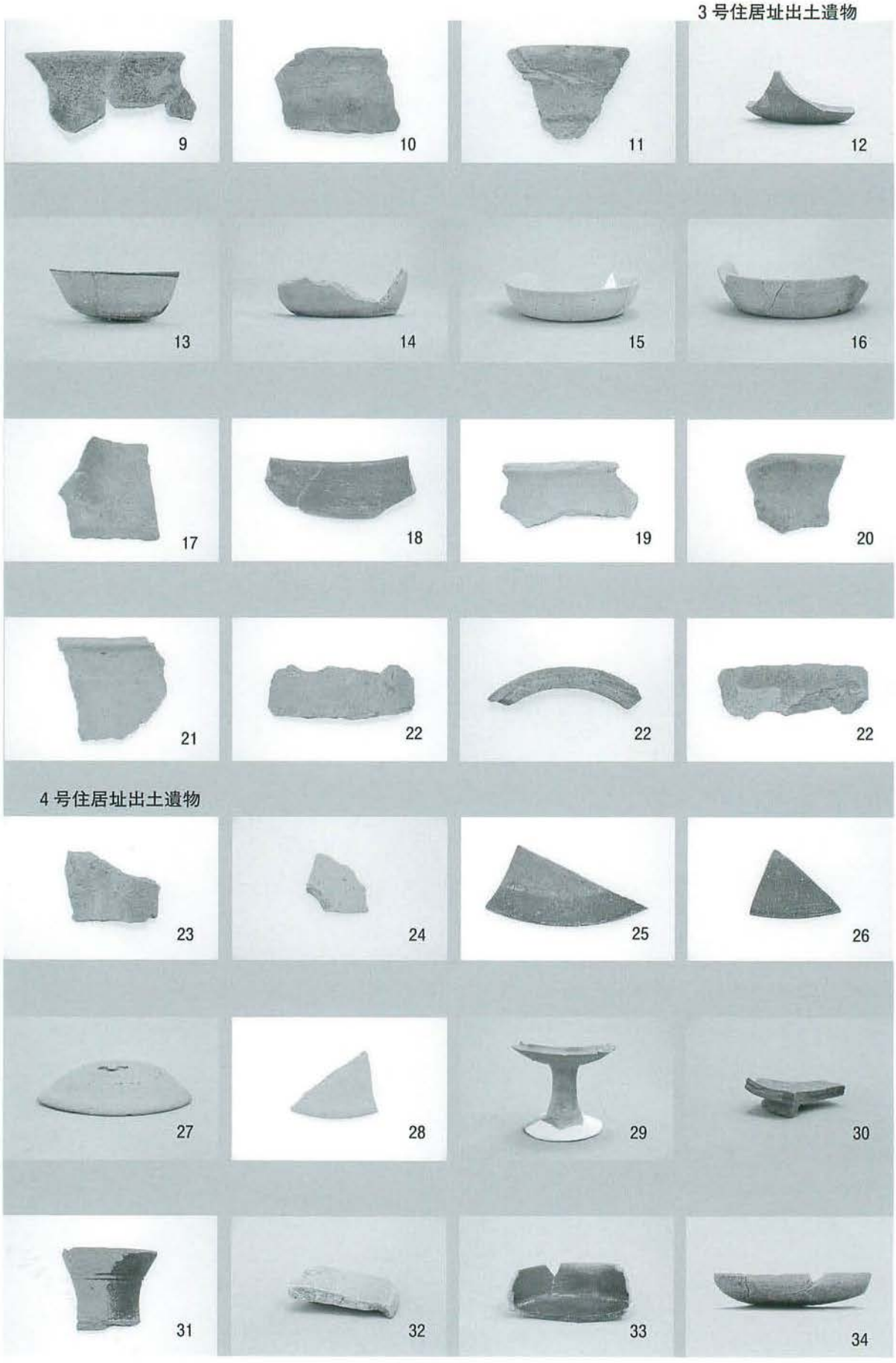
写真134　405号ピット須恵器蓋出土状況（北西より）

50号住居址出土遺物



図版41　9807調査地点出土遺物 2

3 号住居址出土遺物



4 号住居址出土遺物

図版42　9807調査地点出土遺物 3

35

36

37

38

300号掘立柱建物出土遺物

39

400号掘立柱建物出土遺物

40

包含層出土遺物

41

41

42

43

43

44

45

46

写真135　1号溝（北西より）

写真136　255・266号溝（南西より）

写真137　256号溝（南西より）

写真138　256号溝（北東より）

写真139　3号溝検出状況（北西より）

写真140　107・108号竪穴住居址（西より）

写真141　108号竪穴住居址出土紡錘車（北より）

写真142　108号竪穴住居址出土鉄鏃（北より）

図版44　0712調査地点

写真143　98号竪穴住居址床面（西より）

写真144　98号竪穴住居址竈（西より）

写真145　98号竪穴住居址鍔帯出土状況（西より）

写真146　98号竪穴住居址「寺」刻書土器（南より）

写真147　98号竪穴住居址完掘状況（西より）

写真148　128号竪穴住居址・調査区北東側（西より）

写真149　140号竪穴住居址完掘状況（北西より）

写真150　174号竪穴住居址完掘状況（東より）

写真151　145号竪穴住居址完掘状況（東より）

写真152　178号竪穴住居址床面（北より）

写真153　調査区中央竪穴住居址群（北西より）

写真154　178号竪穴住居址鉄鏃149出土状況

写真155　178号竪穴住居址鉄鏃150出土状況

写真156　2号・44号竪穴住居址完掘状況（北西より）

写真157　60号竪穴住居址完掘状況（南東より）

写真158　59号竪穴住居址床面（南東より）

図版46　0712調査地点

写真159　59号竪穴住居址炉断面（北東より）

写真160　59号竪穴住居址炉出土土器（南東より）

写真161　59号竪穴住居址付近出土土器（南西より）

写真162　177号竪穴住居址出土土器（南東より）

写真163　177号竪穴住居址出土土器（南東より）

写真164　177号竪穴住居址完掘状況（南より）

写真165　287号竪穴住居址完掘状況（南東より）

写真166　175号竪穴住居址完掘状況（南東より）

写真167　144号竪穴住居址床面（南東より）

写真168　144号竪穴住居址土器103出土状況

写真169　144号竪穴住居址土器102出土状況

写真170　144号竪穴住居址完掘状況（南東より）

写真171　230号竪穴住居址完掘状況（北西より）

写真172　17号ピット掘削状況（南より）

写真173　調査区北東側完掘状況（北東より）

写真174　調査区中央部完掘状況（北西より）

図版48　0712調査地点

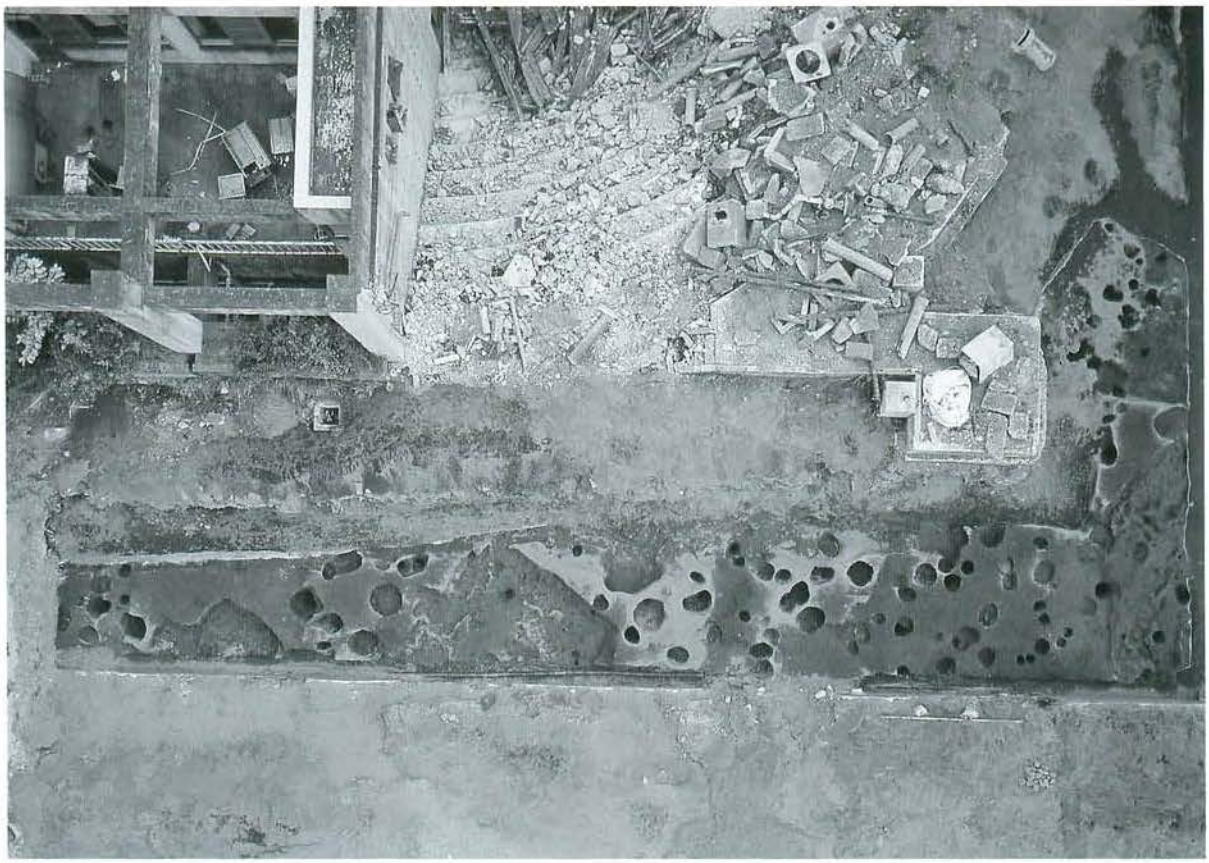


写真175　調査区北側（北西より）

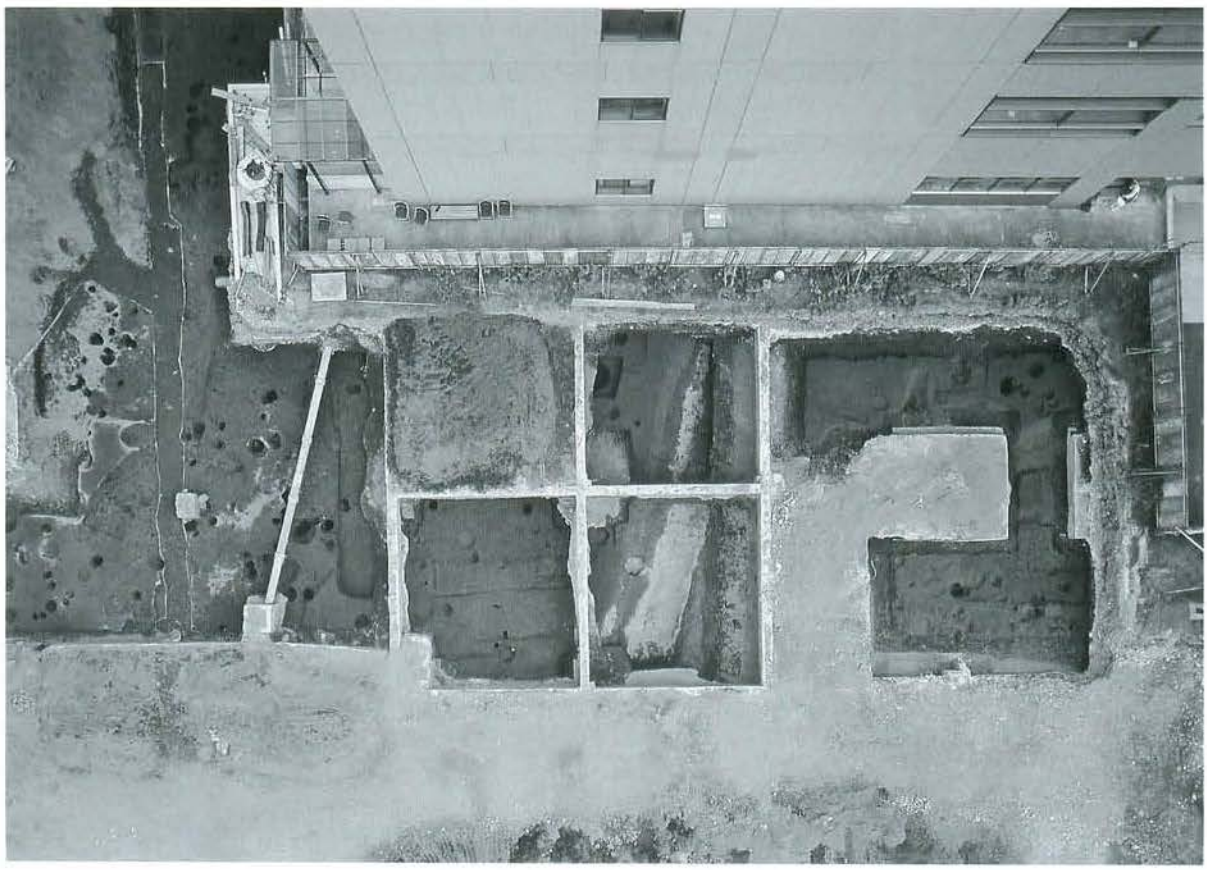
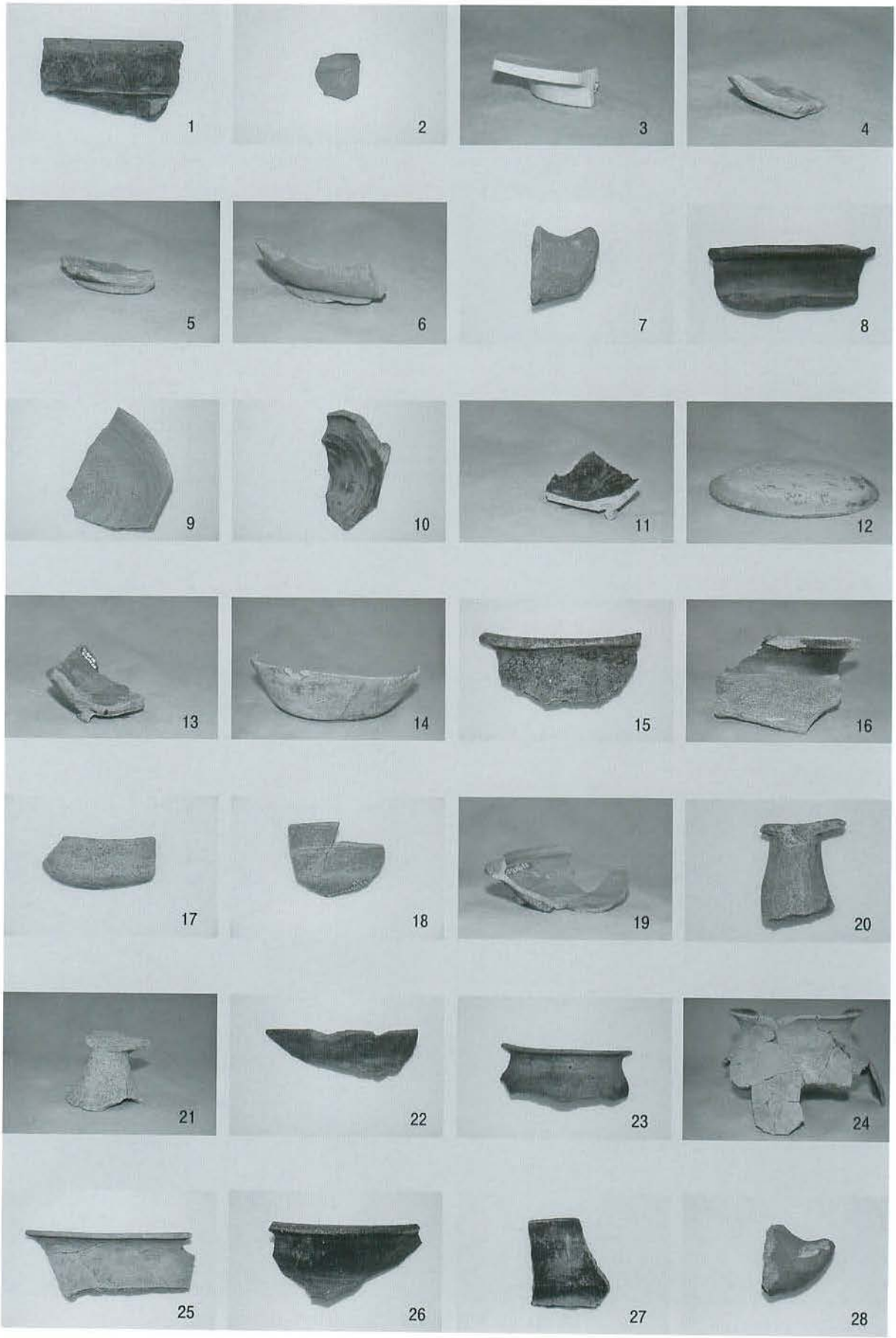


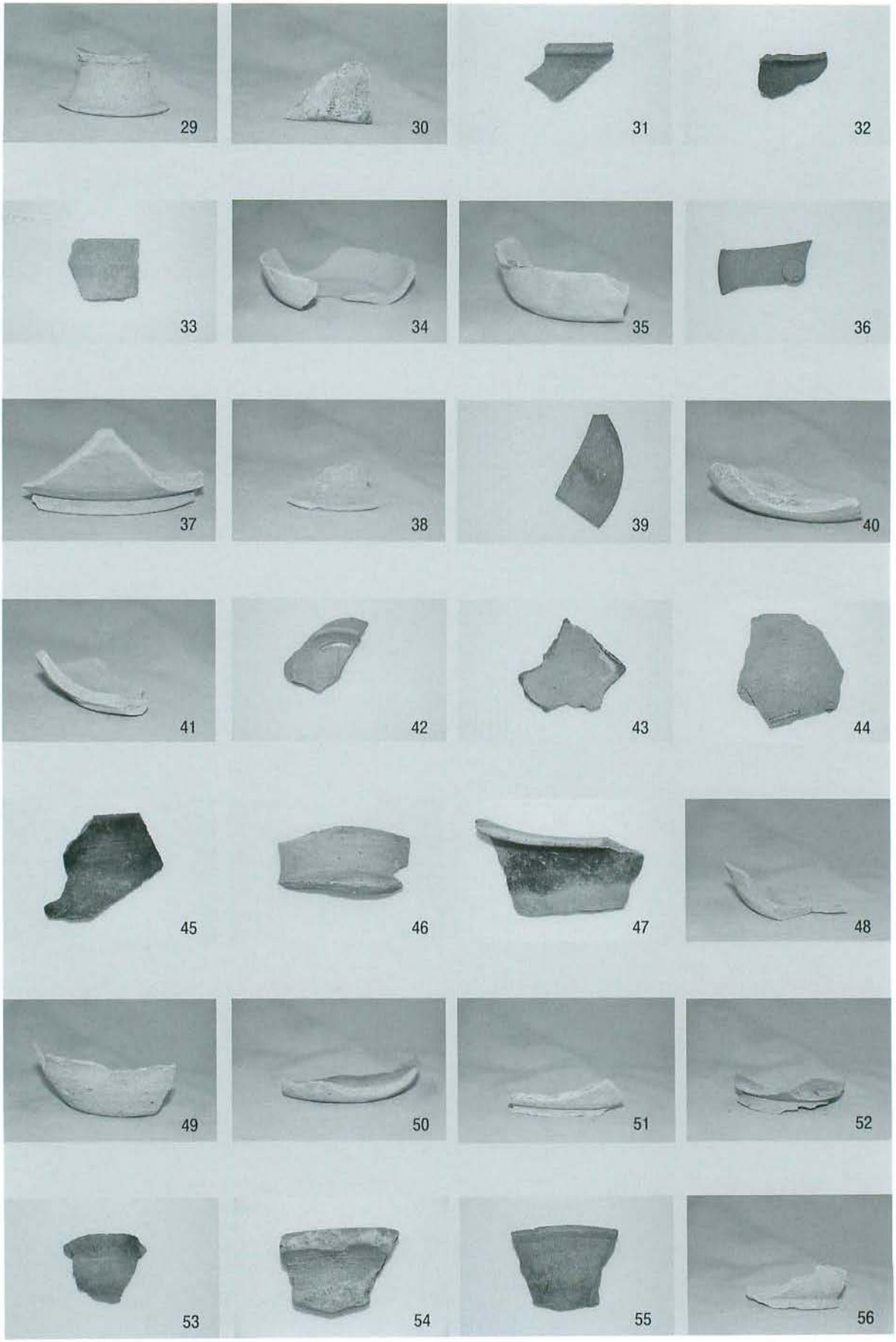
写真176　調査区南側（北西より）

写真177　調査区全景（北西より）

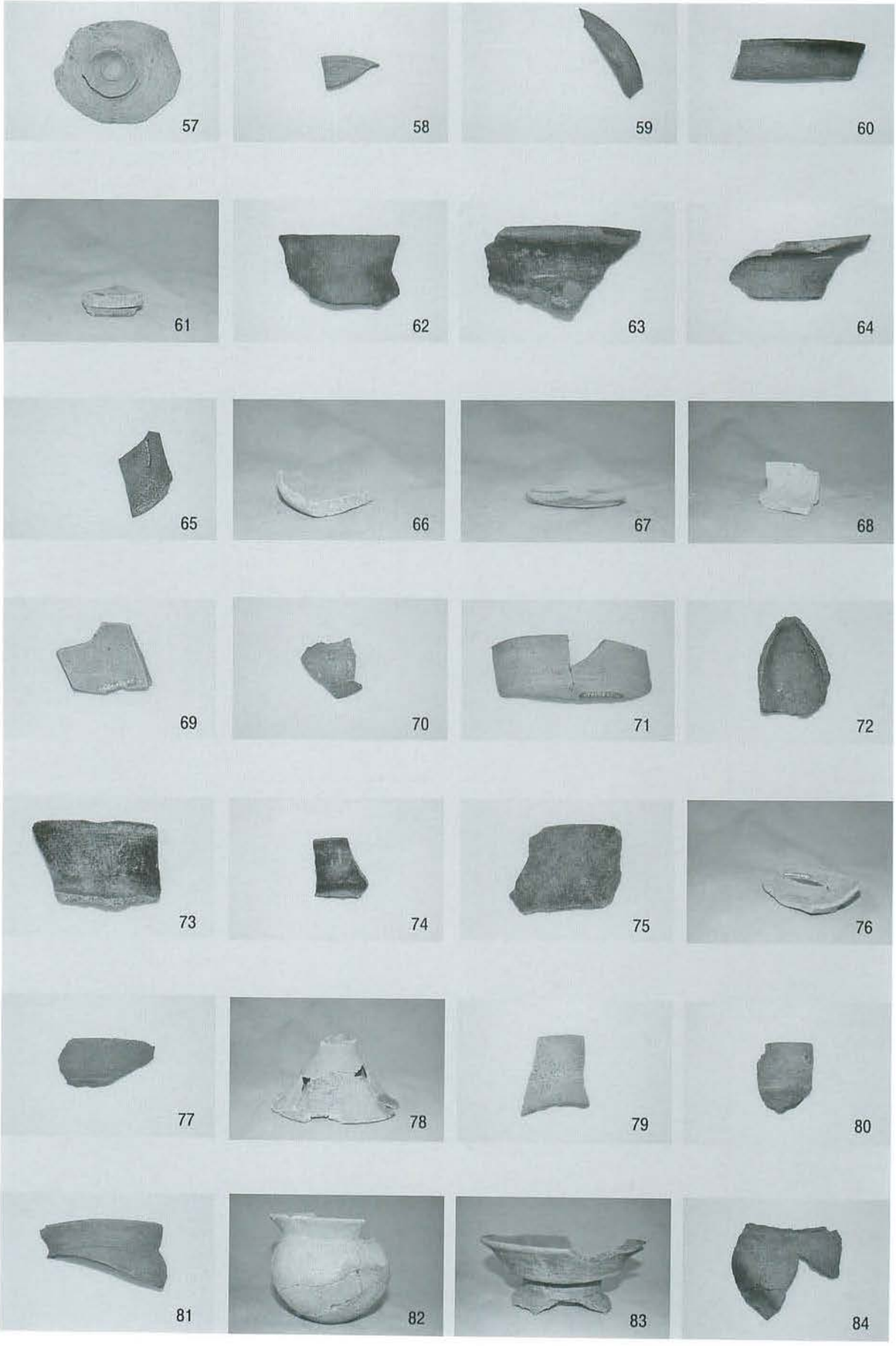
写真178　調査区遠景（北より）

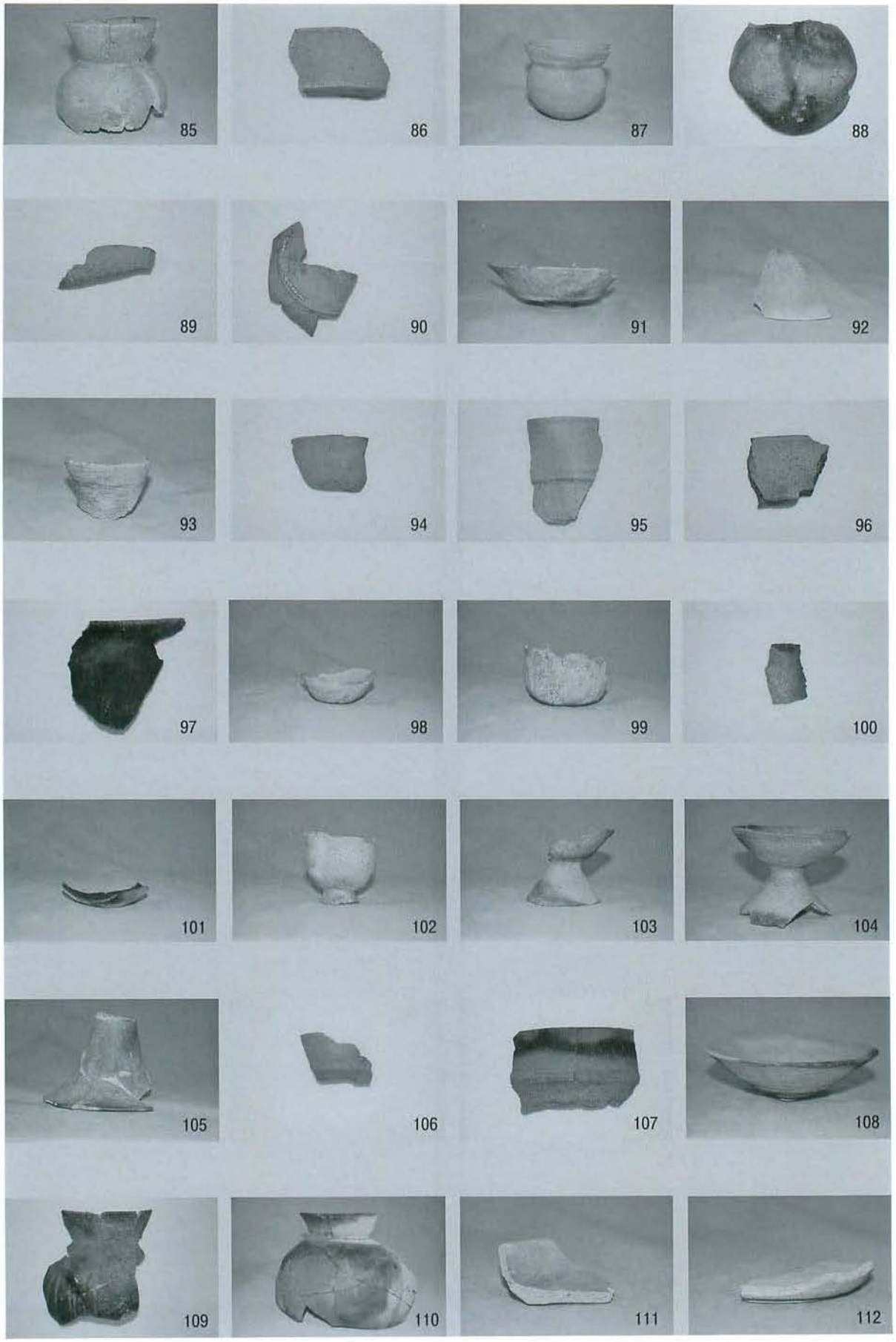
図版50　0712調査地点出土遺物 1



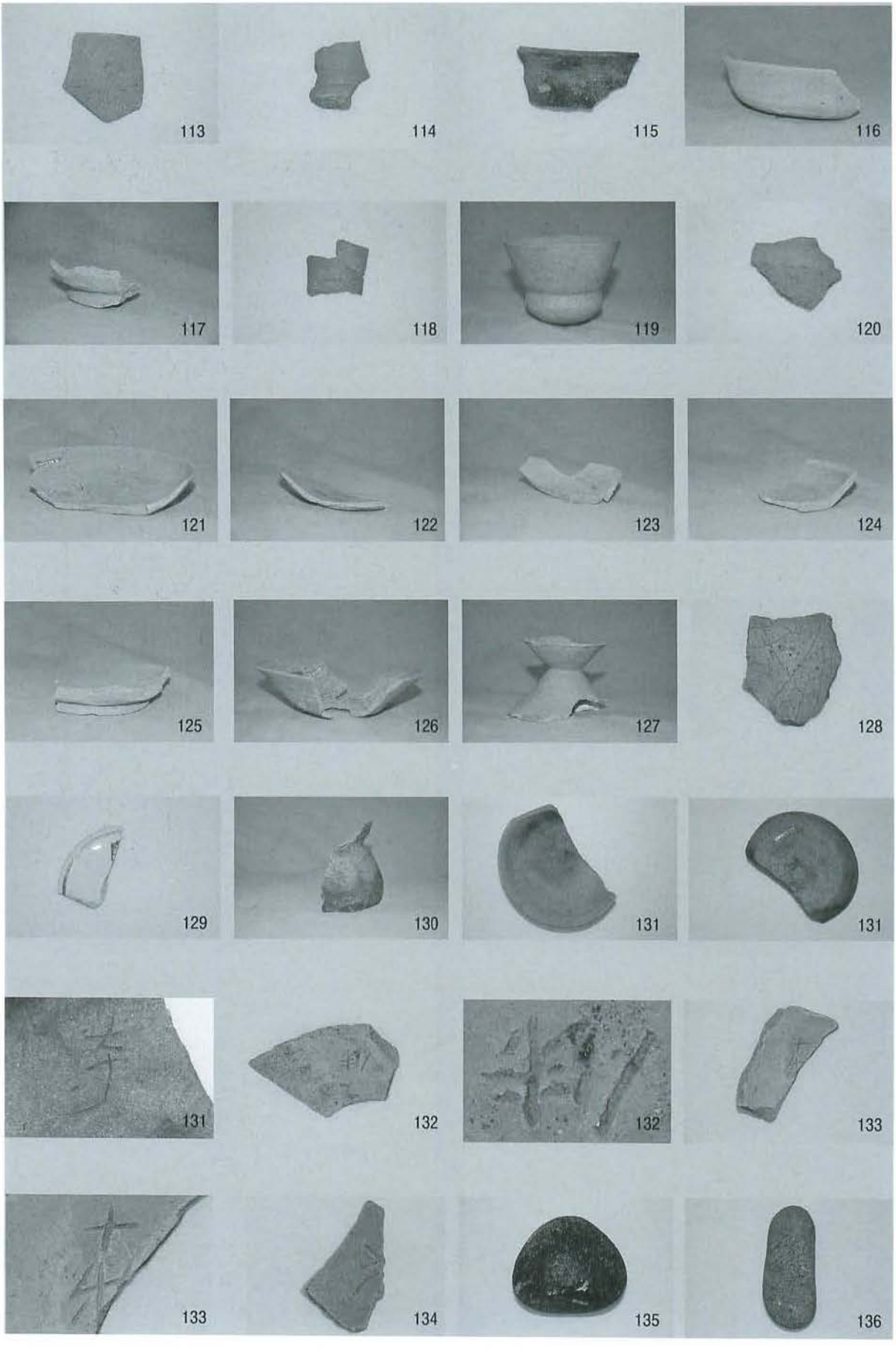

29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56

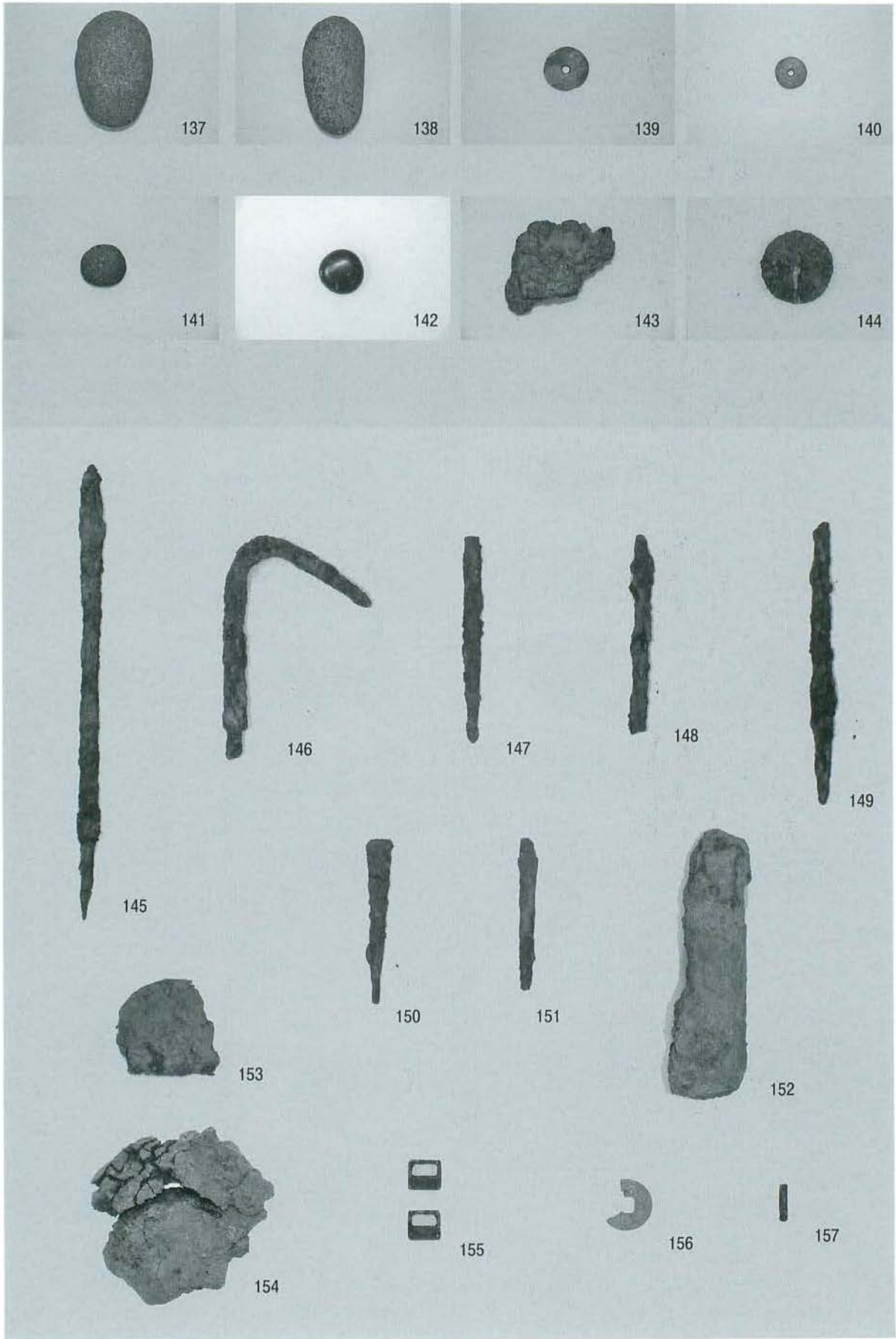
図版52　0712調査地点出土遺物３



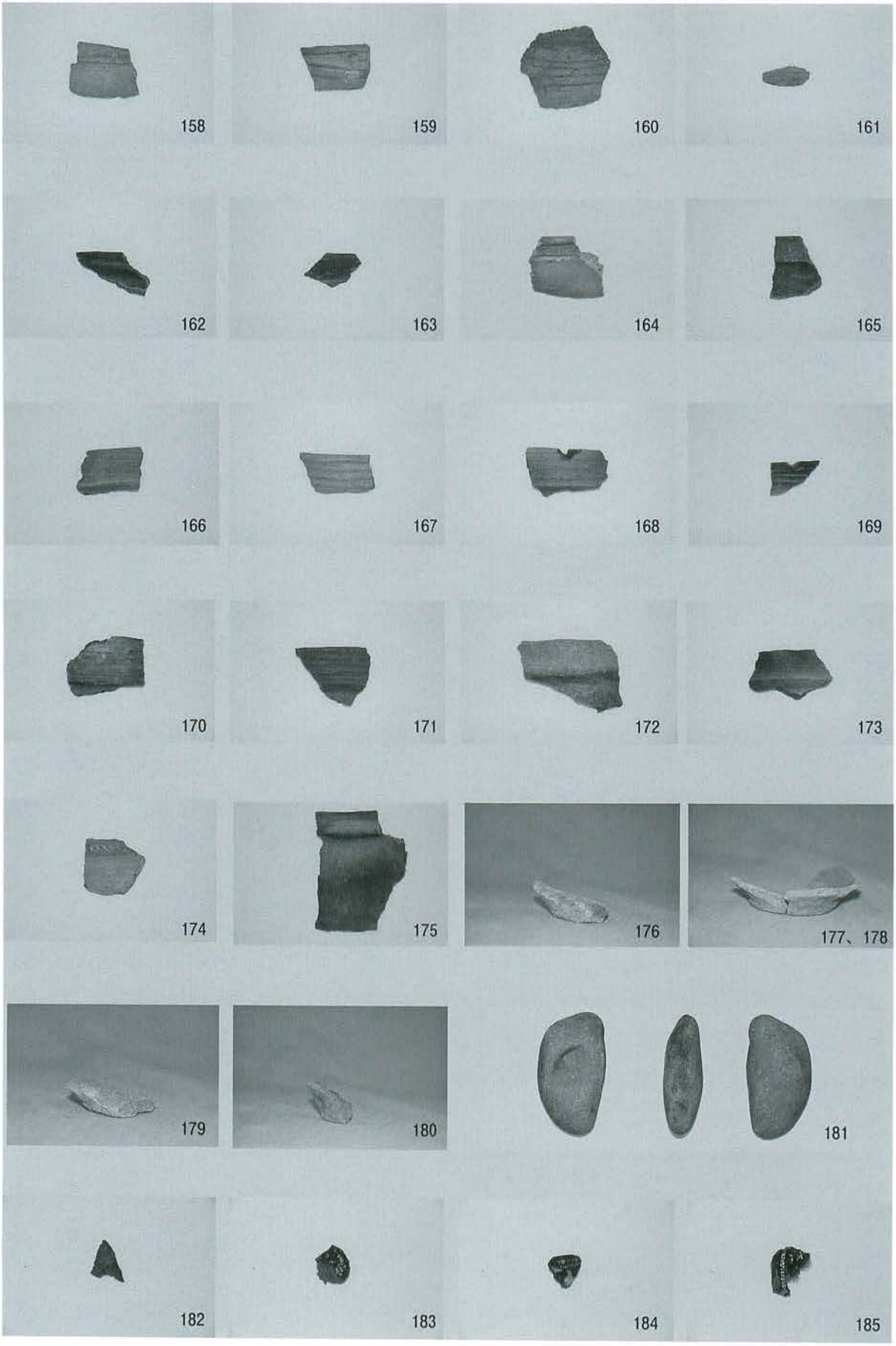

85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112

図版54　0712調査地点出土遺物 5




137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157

図版56　0712調査地点出土遺物７



186

187

188

189

190

191

192

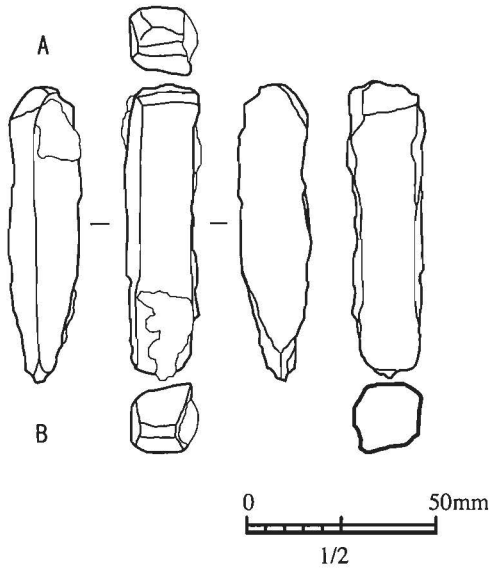
図版58　0712調査地点出土遺物９

附録　178号竪穴住居出土鑿形鉄製品（遺物番号152）保存処理後に判明した遺物の特性

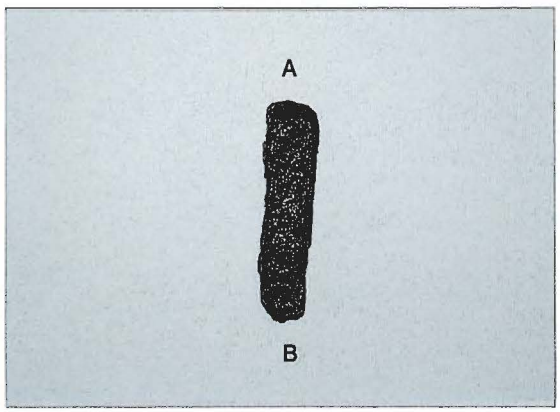
本報告書執筆後の平成20年12月に178号竪穴住居出土鑿形鉄製品（遺物番号152）を、保存処理過程において、手持ち電動グラインダーを使って錆を削り取ったところ、錆取り前に判断していた遺物の見解とは異なった見解に至ったため、附録としてその内容を記す。

新たに判明したことは、遺物の形状である。当初は、太い方の端（A）を先端部分であり使用部分であると考えていた。しかし、その逆端（B）に付着していた錆を除去したところ、そちらのほうが先端に行くにしたがって断面が薄くなってゆく形状をしており、刃部であると考えられた。一方、刃部と考えていたAは先が尖っておらず、刃部ではないことがわかった。全体的に見るとAが根元、Bが先側の鑿であることがわかった。よってこの遺物を鑿と判断する。（図62記載は保存処理前のもの）

保存処理後実測図



保存処理後写真



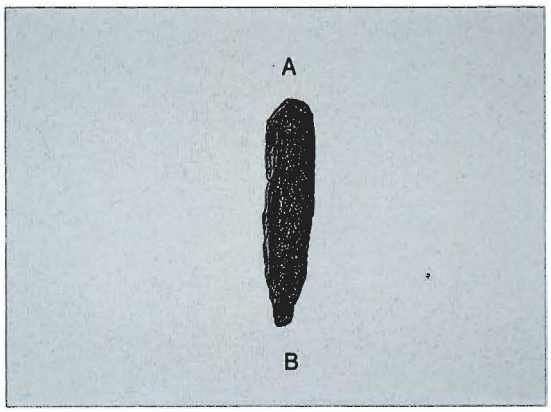


写真179　南調査区遺構検出状況（西より）

写真180　2号竪穴住居址検出状況（南西より）

写真181　2号竪穴住居址床面検出状況（南西より）

写真182　1号竪穴住居址床面検出状況（南西より）

写真183　南調査区完掘状況（東より）

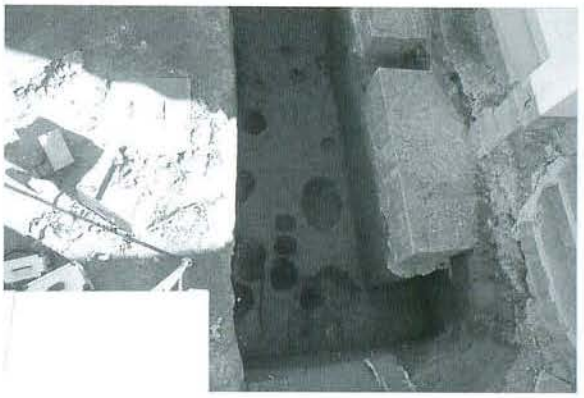


写真184　北調査区西側完掘状況（西より）

写真185　体育館内調査区完掘状況（南より）

写真186　中学校校舎内調査区西側試掘（南より）

図版60　0719調査地点

写真187　中学校校舎内調査区西側試掘（西より）

写真188　中学校校舎内調査区西側試掘（南より）

写真189　中学校校舎内調査区西側試掘（南より）

写真190　中学校校舎内調査区中央完掘状況（北より）

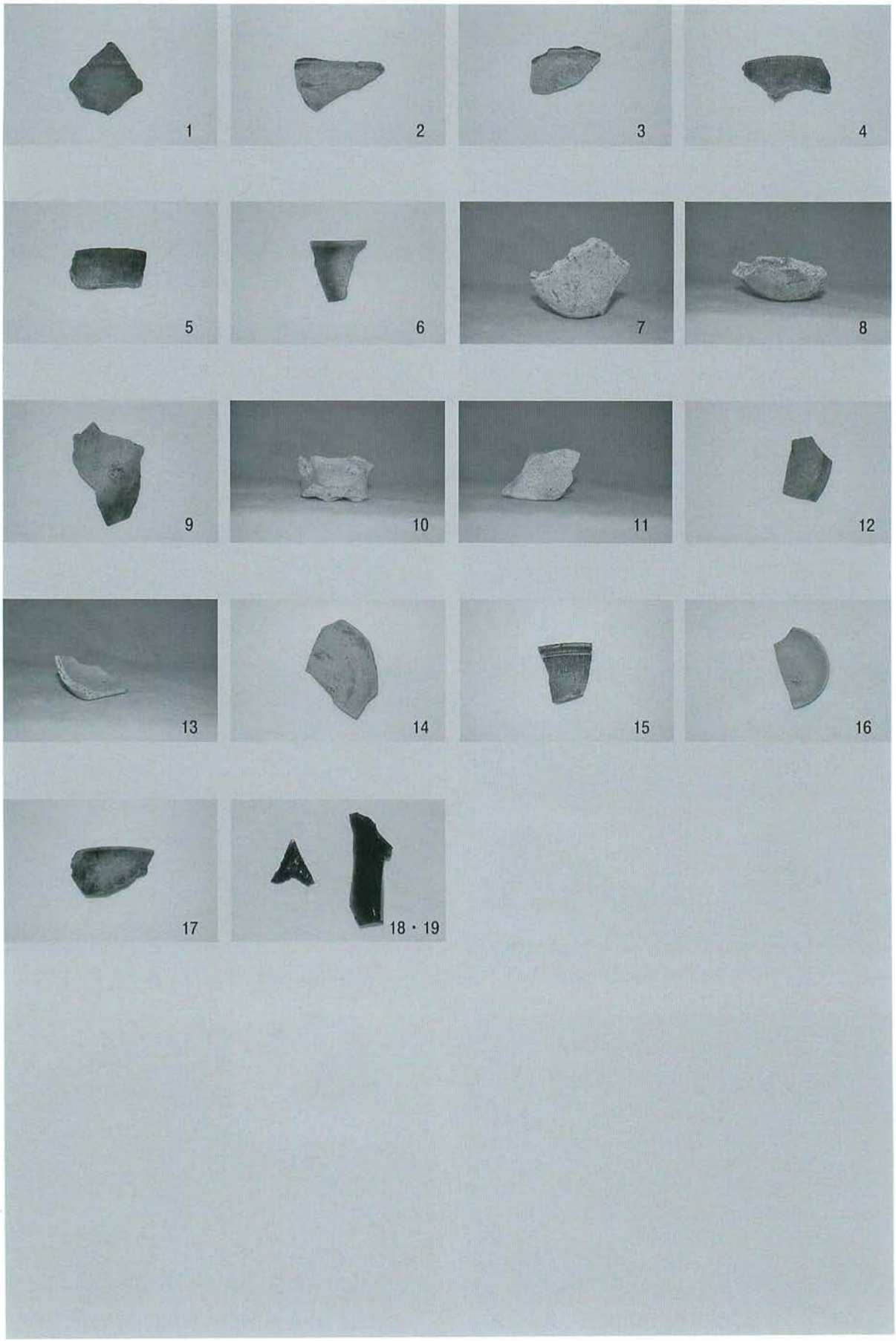
写真191　中学校校舎内調査区東側完掘状況（南より）

写真192　中学校校舎内調査区南側完掘状況（東より）

写真193　小学校校舎内調査区完掘状況（西より）

写真194　小学校校舎内調査区完掘状況（北西より）

図版61　0719調査地点出土遺物



図版62　0721調査地点

写真195　中庭調査区表土剥ぎ（東より）

写真196　中庭調査区調査風景１（東より）

写真197　中庭調査区調査風景２（西より）

写真198　１号土坑遺物検出状況（南東より）

写真199　３号土坑土層断面（南より）

写真200　52号土坑土層断面（南より）

写真201　中庭調査区南側完掘状況（東より）

写真202　中庭調査区東側完掘状況（南より）

写真203　中庭調査区東側完掘状況（東より）

写真204　中庭調査区中央部完掘状況 1（南より）

写真205　中庭調査区中央部完掘状況 2（北より）

写真206　中庭調査区西側完掘状況（東より）

写真207　体育館西側調査区調査風景（北より）

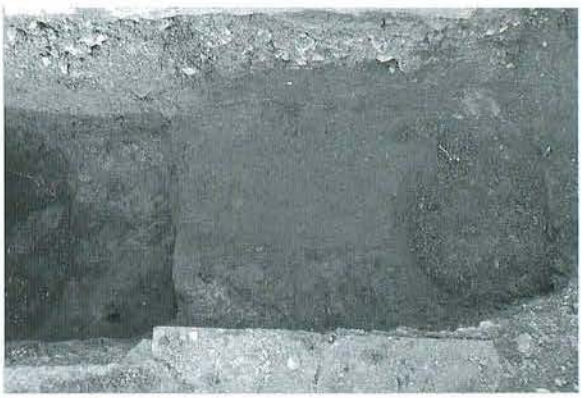


写真208　硬化面 1 検出状況（北より）

写真209　体育館西側調査区北側完掘状況（北より）

写真210　体育館西側調査区中央部完掘状況（北より）

図版64　0721調査地点

写真211　体育館西側調査区中央部完掘状況（南より）

写真212　体育館西側調査区南側完掘状況（西より）

写真213　構内中央道路調査区西側完掘状況１（西より）

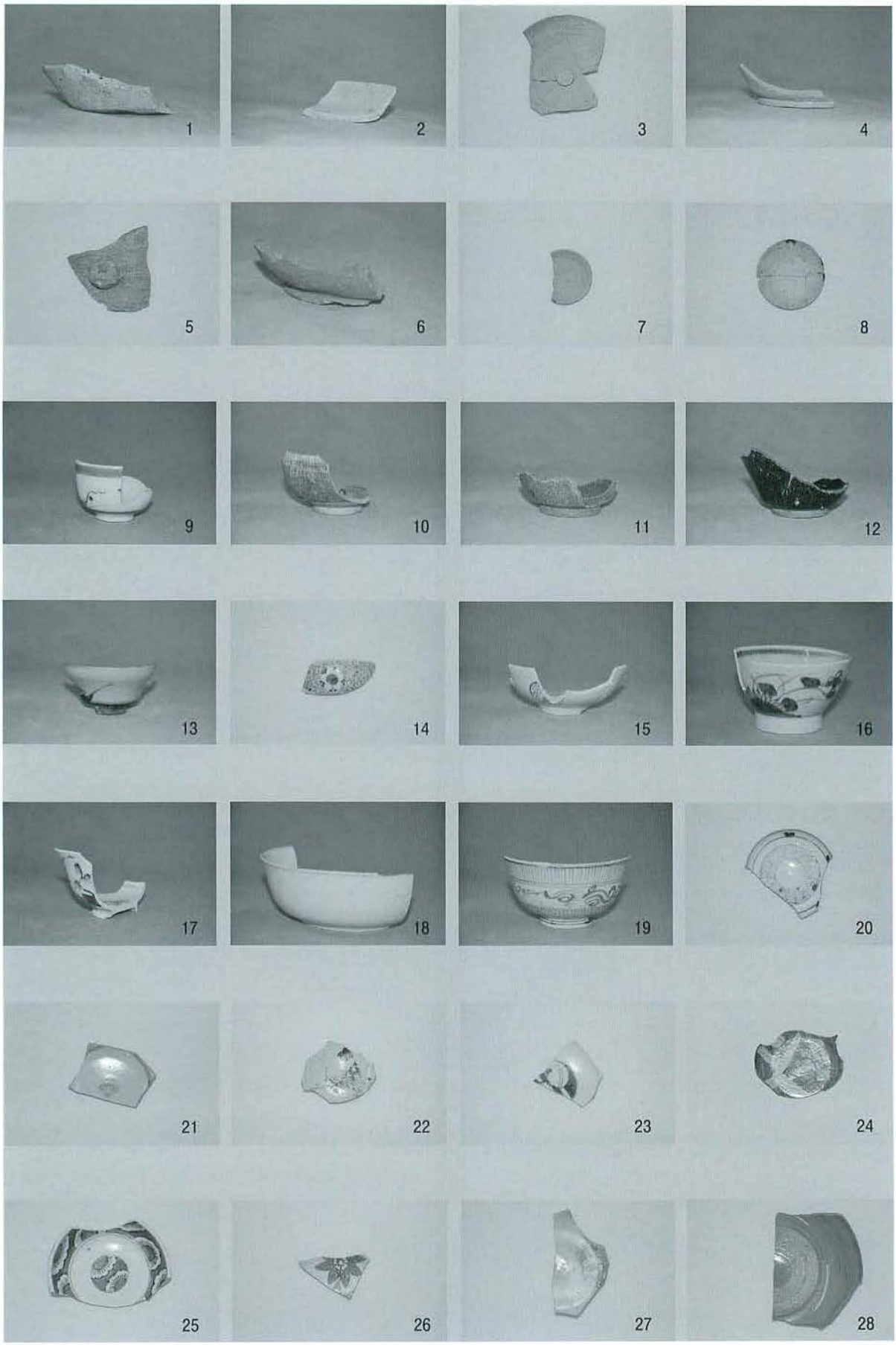
写真214　構内中央道路調査区西側完掘状況２（北より）

写真215　構内中央道路調査区東側完掘状況（西より）

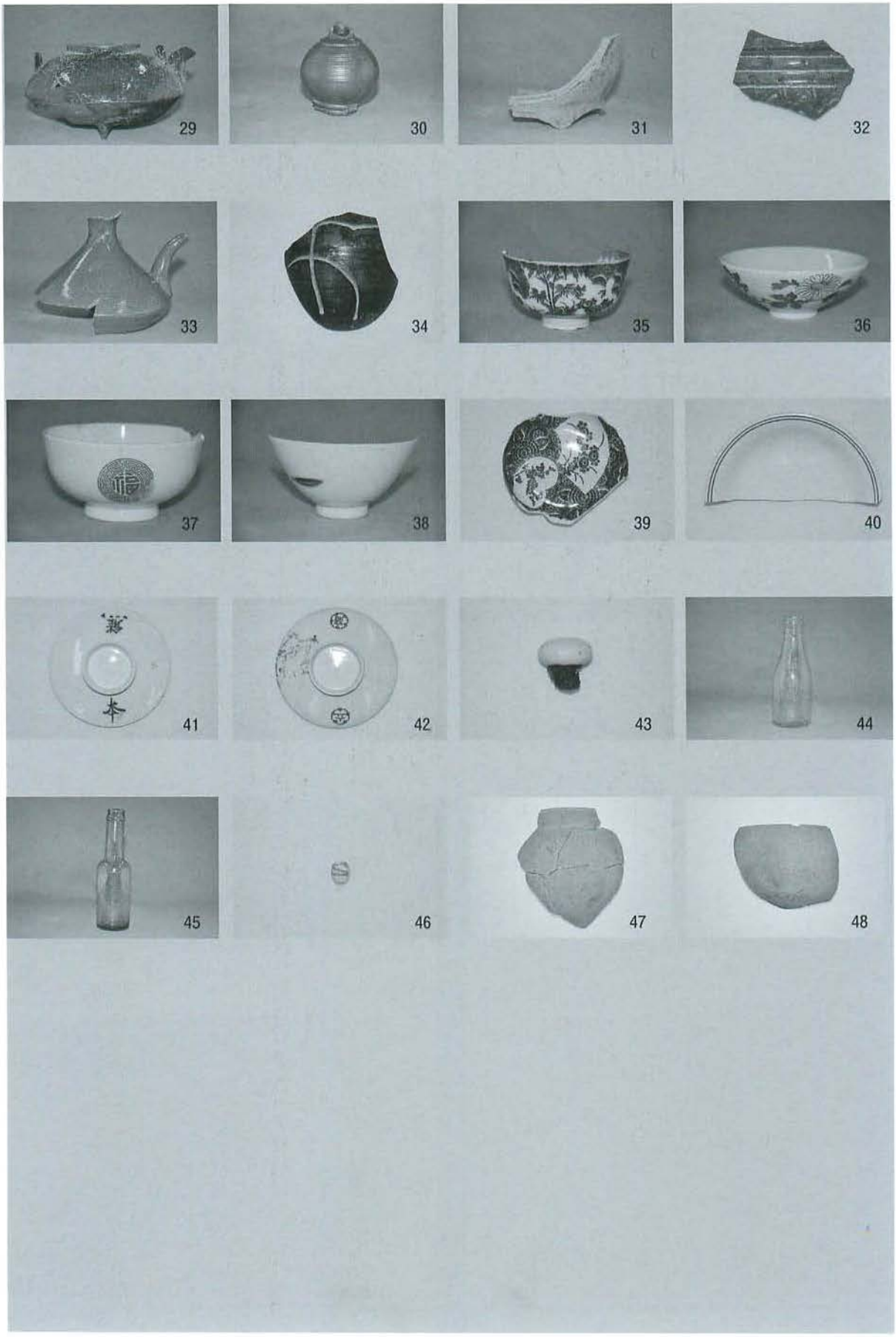
写真216　硬化面２遺物検出状況１（西より）

写真217　硬化面２遺物検出状況２（西より）

写真218　硬化面２検出状況（東より）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28

図版66　0721調査地点出土遺物２

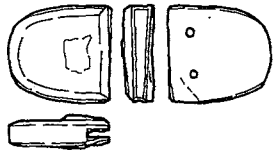


報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくこうないいせきはっくつちょうさほうこくⅤ
書名	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅴ
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査報告書
シリーズ号	Ⅴ
編著者名	小畑弘己・大坪志子・江頭俊介・中川木綿子
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒860－8555　熊本県熊本市黒髪２－39－１　　TEL.096－342－3832　FAX.096－342－3832
発行年月日	2008年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
黒髪町遺跡（くろかみまち） (9802地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 48' 57"	130° 43' 73"	19980925 ～ 19981106	575㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町遺跡（くろかみまち） (9810地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201	278	32° 48' 57"	130° 43' 73"	19990121 ～ 19990325	1,098㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄（ほんじょう）遺跡 (9801・9807・ 0712地点)	熊本県 熊本市 本荘	43201	285	32° 47' 73"	130° 42' 95"	19980728 ～19980910 19981028 ～19981120 20070827 ～20071025	972㎡ 175㎡ 589㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
京町台（きょうまちだい）遺跡 (0719・0721地点)	熊本県 熊本市 京町	43201	238	32° 49' 6"	130° 42' 14"	20071026 ～20071128 20071214 ～20071227	230㎡ 113㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒髪町遺跡 (9802地点)	集落址	縄文・弥生・ 近世	溝 7 ピット 多数 包含層	縄文早期・後期・晩期土器 縄文石器 弥生前期・中期土器 弥生石器 古代土師器	
黒髪町遺跡 (9810地点)	集落址 墓地	縄文・奈良 平安・中世・ 近世	竪穴住居址 26 溝 5 ピット 多数 土坑 2	縄文後期～晩期土器 縄文石器 古代土師器・須恵器・鉄器・土錘 中世磁器 近世陶磁器	
本庄遺跡 (9801地点)	集落址	縄文・奈良 平安・近世	竪穴住居址 3 掘立柱建物址 1 溝状遺構 10 土坑 1	縄文後期・晩期土器 縄文石器 古代土師器・須恵器・銅製品・瓦・土錘	
本庄遺跡 (9807地点)	集落址	縄文・奈良 平安・近世	道路 1 竪穴住居址 2 掘立柱建物址 7	縄文晩期土器 古代土師器・須恵器・瓦	
本庄遺跡 (0712地点)	集落址	縄文・奈良 平安・近世	竪穴住居址 19 溝 5 ピット 多数	縄文後期～晩期土器 縄文石器 古代土師器・須恵器・鉄器・銅製品 近世陶器	
京町台遺跡 (0719地点)	集落址	縄文・弥生 奈良・平安 近世・近代	竪穴住居址 2 溝 1 ピット 多数	縄文石器 弥生土器 古代土師器・須恵器 近世陶磁器	
京町台遺跡 (0721地点)	集落址	縄文・弥生 奈良・平安 近世・近代	竪穴住居址 2 溝 1 ピット 多数 土坑 3	縄文石器 弥生土器 古代土師器・須恵器 近世陶磁器 近代陶磁器	

熊本大学埋蔵文化財調査報告書　第５集
熊本大学構内遺跡発掘調査報告書Ⅴ
（1998・2007年度）

平成21年３月25日　印刷
平成21年３月31日　発行
編集・発行　熊本大学埋蔵文化財調査室
〒860－8555　熊本市黒髪２丁目39－１
TEL　096(342)3832　　FAX　096(342)3832
印　　刷　シモダ印刷株式会社